



医療法人社団 清和会

笠岡第一病院年度報

笠岡第一病院

健康管理センター

タカヤ
クリニック

介護老人保健施設

瀬戸いこい苑



「瀬戸の秋」池田清明（神内小学校蔵）

2023年度

医療法人社団 清和会 笠岡第一病院 年度報 2023年度

笠岡第一病院

健康管理センター

タカヤ クリニック

介護老人保健施設

瀬戸いこい苑

目 次

巻頭言

基本理念、基本方針、権利章典、個人情報保護

第1章 業績集	7
第2章 診療概要・統計	21
笠岡第一病院	23
1 診療部	23
2 人工透析センター	43
3 医療技術部	47
4 新規導入機材	62
5 看護部	63
6 医事課	74
7 病児保育室～すこやかキッズルーム～	75
【健康管理センター】	76
【タカヤ クリニック】	77
【瀬戸ライフサポートセンター】	78
1 瀬戸いこい苑	79
2 在宅療養支援センター	83
【法人事務局】	85
【健康増進クラブ ONE】	88
第3章 委員会報告	91
1 企画運営、2 合同運営、3 機能推進、4 医療・看護の質	94
5 医療技術、6 総合栄養支援（NST）、7 医療倫理、8 安全管理	106
9 労働安全衛生、10 タカヤ クリニック運営委員会	118
11 瀬戸いこい苑運営委員会	119
第4章 院内トピックス	121
1 池田清明ふるさとギャラリー、2 災害支援活動報告：JMATに参加して ..	123
3 臨床工学部の設立～CEセンター：Clinical Engineering Center～	131
4 日本医療機能評価機構審査にむけた取り組み	133
5 令和5年度岡山県保健衛生功労者表彰、6 業務推進発表大会	134
7 医師研修・学外実習受け入れ、8 子育て支援・ワーク・ライフ・バランス ..	135
9 地域での講演活動（出前講座）、10 プロジェクト	138
11 職員研修旅行、12 院内行事、13 若葉会、14 大忘年会	151
15 設備（アメニティ）・施設改善	157
資 料	159
1 組織図、2 職員数変遷、3 施設統計、4 時事問題の集約	161
5 福利厚生、6 病院概要、7 施設基準・施設認定	170

編集後記、年度報編集委員会メンバー



コロナ禍を振り返って

理 事 長 宮 島 厚 介

2023 年度もコロナ禍、緊張した病院運営でした。特に年度前半は事業所、学校、病院、介護施設など次々にクラスターが発生していましたが、しだいに報道も減り発生当初の未知のウイルス感はやわらぎました。しかし感染力はかなり強く、家庭に入ると次々に発症する状況でしたが、毒性はかなり軽減して治療の目途は立ってきました。毎年冬期に約1ヵ月流行していたインフルエンザも遷延し例年と様子が違っているようですが、今回のコロナウイルス感染症は疫学を研究されている方にとっては大変貴重な研究材料になったことでしょう。発生当初は人工呼吸器や ECMO 使用でも救えなかった命もあり、未知の分野と格闘し尊い命を落とされた医療人も多くいました。私たち人類は瞬く間に国境を越え行くウイルスの脅威をインターネットや国際報道を通じて日々見る機会を得ました。明らかにペスト流行の時代では考えられなかった出来事でした。今後、終息の過程を興味深く観察できそうです。

2024 年お正月には能登半島を中心に大地震が発生しました。頻回に度重なる災害国において、日頃の万全の対策など不可能に思われます。海に面し災害時の最高潮位から数メートルの位置にある当院は陸の孤島になる可能性が危惧されています。できるだけの備えをしながら、被害を最小限に留め、救援を待つことしかないようです。災害の備えに完璧はありません。何とか3日間持ちこたえ救助をまとうと対策委員会は検討しています。

3 年間のコロナ禍を顧みれば、多くの業種と同様に、2020 年～2022 年は診療収入の減少、対策にあたる器材の購入、ロシアのウクライナ侵攻と原油高で維持経費が急騰し大変厳しい状況でした。それにも増して病院職員は院内感染、家庭内感染と緊張状態が続きました。良く堪え忍んでくれたと感謝です。人命と立ち向かう医療人の使命を感じながらの日々でした。コロナ禍を甘く見るわけではありませんが、少々のことなら立ち向かえる勇気を私たちは身につけました。そして3年間傷つきましたが貴重な体験もしました。かけがえのない家族を仕事と両立しながらどのように守って行くか、大災害と重ね合わせてそれぞれが悩んだ1年だったと思います。

災害は繰り返されますが、私たちは新たな勇気を持って新たな年度を迎えます。2024 年度笠岡第一病院は大きく変革していきます。病院、診療所、介護施設とより緊密な連携が必要になりました。コロナ禍で単一施設の能力の限界を感じました。地域の医療・介護を支えるには施設間の連携が必須です。院内の地域医療連携室の強化、外部とのリモートカンファレンス・会議室の設置、救急対応など山積みです。また医師の働き方改革がスタートしますが、私たちは医療人すべての改革を目指します。IOT を駆使して一つ一つ丁寧に改革していきます。皆さまと手を携えて歩んで参ります。今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願い致します。



大きな分水嶺を迎えて

院長 橋詰 博行

2023年度は5月8日のコロナ第5類感染症移行を受けて、病院体制の見直しとポストコロナへの対策の年でした。5類に移行したといってもスタッフが罹患すればすぐに機能不全になる状態を抱えながらもコロナ収束が感じられました。ところが、文字通り油断できないものです。元旦のおとそ気分を裂くように全テレビ局から能登半島地震の速報が入ってきました。地震の後の津波も日本国中の皆さんが心配されたと思います。亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、今後の復興を願っております。私どももJMAT編成や支援物資・義援金などを通じて支援しました。

我が国の良いところは激甚災害に際しても共感し、ラグビー日本代表チームのように心を一つにしてまさに one team & our team の精神を発揮して対処するところでしょう。さらに私ども医療人はこういった災害に対しても、「圧倒的当事者意識」（幕末に開国をせまる諸外国に対抗する議定書を幕府に何度も出した吉田松陰の行動を評しての言葉）を持って対処することになります。岡山県民としても数年前の西日本豪雨での全国からのご支援も記憶に残っております。当院でもBCP（business continuity plan：事業継続計画）として南海トラフ巨大地震や病院の眼下に広がる海面上昇なども想定して準備しています。

1867年の明治維新から1945年の終戦まで78年、そしてその同じ78年後の2023年が昨年で、人口減少・コロナ禍の影響もあり、冠婚葬祭の変貌、リモートの普及、移動の制限などにみられるように大きく社会規範の変革があった年でした。さて、2024年は

団塊の世代がすべて75才以上の後期高齢者になる2025年を目標に2012年、2018年、2024年と6年毎の診療報酬・介護報酬同時改定を3度にわたって行う総仕上げの年に当たり、第8次医療計画と医師の働き方改革も始まる年です。

医療計画の基本方針については①急性期から慢性期までの一体的な提供体制構築、②疾病・事業横断的な体制構築、③5疾病・6事業及び在宅の仕組みの強化、④介護保険事業支援、の観点から改正が行われました。医療計画作成指針の見直しも行われ、医療圏・基準病床数の確定、地域医療構想の調整、新興感染症の追加で5疾病・6事業の重点化、外来・在宅医療計画の策定、医師確保の計画が主たる重点項目です。私どもの病院でもそれらをふまえた上で2024年2月には新手術棟着工、4月には総合診療科開設および医師の働き方改革への対応と準備をしているところです。2025年度末には玉島・笠岡バイパスの全線開通も控えており、交通の便が良くなったときの井笠地域にとどまらない当院のあり方について検討が必要です。

岡山大学的那須保友学長は大学の運営理念として松尾芭蕉由来の「不易流行」という言葉を掲げています。不易（変えてはならないもの）と流行（変えなければならないもの）を一体とした取り組みで、さらに常に「人」を中心とした組織改革が大切としています。私どもも地域医療の担い手としてこの理念にかなった取り組みを続けて参ります。

今後とも何卒ご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

（笠岡第一病院広報誌 瀬戸の風（No.75）より改変）

基本理念・基本方針

清和会

基本理念

1. 「豊かな健康」それが私たちの願いです。
2. 全人的視野に立ち、質の高い医療に取り組んでいきます。
3. 安全で適切な医療を提供します。
4. 明日を担う子供達の「子育て支援」から、充実した「高齢者福祉」まで見つめます。
5. 生活習慣の改善・疾病の予防を提案し健康で明るい家庭作りに役立ちます。

<瀬戸いこい苑>

1. 利用者の個性を尊重し、安全に配慮しながら生活機能の維持・向上に努めます。
2. 家族や地域の人々・関係機関と協力し、安心して自立した在宅生活を送れるように支援します。

2024年度基本方針

<笠岡第一病院>

1) 地域で担う役割

- ① 地域における災害医療、感染症パンデミック対応など積極的に尽力します。
- ② 「断らない救急」をモットーに地域で求められる医療の提供を担います。
- ③ 地域の保健・福祉・健康教育活動の参画実施に協力、参加します。また、地域医療の教育機関として臨床研修や体験学習にも対応します。
- ④ 健康診断部門を充実し、地域の人々の健康増進・予防医療に貢献します。

2) 安全で質の高い医療の提供

- ① 患者の皆様のニーズに対応する医療を目指します。
- ② 質の高い医療の提供するために、最新の機器、機材の導入を計画的に行います。又、遠隔診断や AI 診断など新しいツールの導入に取り組みます。

3) 職場環境の向上

- ① 職員一人ひとりのワークライフバランスに鑑み、人間性の向上と働きがいのある職場作りをめざします。
- ② 医療人として能力向上のための研修会の開催・参加を行います。
- ③ 働き方改革に対応する機器の導入、業務改善を各部門で検討実施していきます。

<健康管理センター>

- ① 医療・介護・福祉との連携を深め、地域の方々の健康寿命を延ばします。
- ② 受診者のニーズに合った健診を提供し、疾病の早期発見に努め、医療へとつなげていきます。
- ③ 知識・技術の向上に努め、精度・質の高い健診を目指します。

<タカヤ クリニック>

- ① 安心な透析医療環境を確保し、患者満足度の向上に努めます。
- ② 患者の皆様とご家族の立場に立って行動出来る医療人を目指します。
- ③ 透析医療の知識と技術の向上に努め、安全で質の高い医療・看護を提供します。

<瀬戸いこい苑>

- ① 利用者の尊厳と個別性を重視したケアを行います。
- ② 多職種が協働し、生活機能向上に努め、豊かで充実した施設生活を提供し、早期の在宅復帰を目指します。
- ③ 医療・介護・福祉機関と連携し、住み慣れた地域での生活が維持できるように支援します。
- ④ 質の高い介護サービスの提供の為に自己研鑽に努めます。

健康増進クラブONE

基本理念

1. 運動実践の場を通じて積極的な健康づくりを推進します。
2. 豊かなコミュニティを創造します。
3. 高い専門性と良質な指導力を備えた施設を目指します。

2024年度基本方針

- ① 医療・介護・福祉との連携を深め、医学的・科学的見地に基づいた疾病予防・介護予防・健康増進につながる運動実践の場を通じて、豊かな健康をサポートし健康寿命の延伸に貢献します。
- ② 感染予防及び拡散防止対策を講じた安心・安全な運動実践ならびに憩いの場を提供します。
- ③ 健康づくり・生きがいづくりを支援します。
- ④ 質の高いサービスを提供することで「高い満足度」を実現します。

患者の皆様の権利と責務



権 利

患者の皆様は、人格と個人の価値観を尊重され、以下の権利を有します。

- だれでも、どのような病気にかかった場合でも、良質な医療を公平に受ける権利があります。
- 個人としての尊厳を尊重される権利があります。
- 病気、検査、治療、見通し等に付いて、理解しやすい言葉や方法で、納得出来るまで十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 十分な説明と情報を受けた上で、治療方法等を自らの意思で選択あるいは拒否する権利があります。また、他医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を求めることができます。
- 自分の診療に関する記録等の情報の開示を求める権利があります。
- 診療の過程で得られた個人情報の秘密が守られ、病院内での私的な生活を可能な限り他人にさらされず、乱されない権利があります。

責 務

患者の皆様には、以下の責務がありますので遵守して下さい。

- 身体的・精神的状態やその変化を、速やかに、正確に伝えて頂く責務があります。
- 医療上の指示に従って頂く責務があります。
- 病院の快適な医療環境の維持に協力頂く責務があります。
- 病院内では、建物内外を問わず、禁酒、禁煙を守って頂く責務があります。

※上記の権利は保障されますが、医の倫理の原則に合致する場合は患者の皆様の心身状態及び法令に基き、制限や例外的な処置・治療を行う場合があります。

個人情報保護への取り組み

個人情報保護方針

当法人は、常日頃より患者の皆様の視点に立ち、質の高い医療の実現とより良い患者サービスの提供を目標として、診療業務を営んでおります。患者の皆様は健康状態に応じて迅速に的確な医療を提供させていただくためには、患者の皆様に関する様々な医療情報が必要です。

患者の皆様と確かな関係を築き上げ安心して医療サービスを受けていただくために患者さんの個人情報の安全管理は必須です。当法人では、下記の方針に基づき、医療情報の管理を行い、患者の皆様の個人情報保護に厳重な注意を払っております。

1) 個人情報の収集

当法人は、診療および病院の管理運営に必要な範囲に限り、患者の皆様の個人情報を収集いたします。その利用目的については、患者の皆様に予め明示いたします。また、その他の目的に個人情報を利用する場合は、利用目的を予めお知らせし、ご了解を得た上で実施します。

2) 個人情報の利用および第三者への提供

当法人は、以下の場合を除き患者の皆様の個人情報の利用および第三者への提供を行いません。

- 患者の皆様のご理解を得た場合
- 個人を識別あるいは特定できない状態に加工して利用する場合
- 法令等により提供を要求された場合

当法人は、個人情報を第三者へ提供する場合、その必要性を慎重に吟味し、出来る限り患者の皆様の個人情報を保護するように努めます。また、相手方に対し患者の皆様の個人情報が保護されるよう申し入れを行います。

3) 個人情報の適正管理

当法人は、患者の皆様の個人情報への不正アクセス、紛失、破壊、改ざん、及び漏洩等を防止し、安全で正確な管理に努めます。

4) 個人情報の確認・修正（開示等）

当法人は、患者の皆様の個人情報について患者の皆様が開示を求められた場合には、遅滞なく内容を確認し、当法人の「診療情報の提供等に関する指針」に従って対応します。また、事実でない等の理由で訂正を求められた場合にも、調査し適切に対応します。

5) 問い合わせの窓口

当法人の個人情報保護方針に関するご質問、お問合せおよび開示等への対応は、医事課でお受けいたします（☎0865-67-0211）。

6) 法令の遵守と個人情報保護の継続的改善

当法人は、個人情報保護に関する法律を遵守し、個人情報保護管理規程を制定するとともに個人情報保護管理のために責任者を置いて患者の皆様の個人情報の管理を行います。また、個人情報管理規程は適宜見直し、継続的に改善を図ります。

個人情報収集の目的と利用の範囲

1) 患者の皆様は健康の維持と回復に資するために利用します。

具体的な利用の範囲は次のとおりです。

- ① 診療等患者の皆様への安全な医療サービスを行う場合
- ② 患者の皆様は診療に関し、外部に医師等の意見、助言を求める場合
- ③ 他の保健・医療・福祉等の関係機関と連携する場合
- ④ ③の関係機関から照会（患者さんが同意されている場合）に対し回答する場合
- ⑤ 検体検査等を外部へ委託する場合
- ⑥ ご家族へ病状説明を行う場合
- ⑦ 医療向上のために利用する場合
 - 医師、看護師、その他当法人従事者、実習生及び研修生に対する教育や臨床研修のための利用
 - 臨床研究のためのデータ収集
 - 専門医、認定医制度への申請のための利用
 - 学会等の発表（個人を特定できないよう配慮する）
- ⑧ 公益目的のために利用する場合
 - 公益性の高い疫学調査等への協力
 - 医療行政等に関わる統計・調査
 - 保健所等の公的機関に対する保健医療及び公衆衛生上の報告
- ⑨ 事業者から委託を受けた健康診断等の結果を通知する場合

2) 病院の管理、運営に資するために利用します。

具体的な利用の範囲は次のとおりです。

- ① 医療保険に関する事務取り扱いをする場合
- ② 会計等経理の作業をする場合
- ③ 入退院等の病棟管理を行う場合
- ④ 医療業務の適正化のための外部監査機関の監査を受ける場合
- ⑤ 業務改善等のための基礎資料とする場合
- ⑥ 法令に基づく利用の場合
 - 行政機関による医療監視や医療指導監査への対応
 - 裁判所等の命令による情報提供
 - 感染予防法等法令に基づく情報提供
- ⑦ 医師賠償責任保険等に係る医療に関する専門団体や保険会社等への相談または届出を行う場合
- ⑧ その他患者の皆様への医療サービスの向上を図る場合

第1章 業績集

1. 学術論文

原田和博, 宮島厚介, 亀鷹孝行, 藤井美佐子: 透析患者のABI (足関節上腕血圧比), 握力およびその関連要因. 中国腎不全研究会誌 (CJRF) 32: 109-110, 2023

Y. Fujita, R. Tanabe: Diagnostic Ultrasound: On-Site Diagnosis of Type B Aortic Dissection During Cataract Surgery. A A Pract 18(2): e01745, 2024

Kensuke Fujii, Kazuma Yamakawa, Yuriko Takeda, Natusko Okuda, Akira Takasu, Fumihito Ono: Understanding the pathophysiology of acute critical illness: translational lessons from zebrafish models. Intensive Care Medicine Experimental 12(8), 2024
<https://doi.org/10.1186/s40635-024-002595-x>

Ryo Tanabe, Takashi Hongo, Takafumi Obara, Tsuyoshi Nojima, Atsunori Nakao, Jonathan Elmer, Hiromichi Naito, Tetsuya Yumoto: Treatment patterns and clinician stress related to care of out-of-hospital cardiac arrest patients with a do not attempt resuscitation order. Resuscitation Plus 16, 2023

2. 著書

田邊 綾: レジデントノート「地域から世界へ」. 羊土社 25(4): 644-645, 2023

3. 学会発表/座長

橋詰博行: 座長. 第96回日本整形外科学会学術総会, 2023年5月11日~14日

Hiroyuki Hashizume, Yoshiki Kosaka, Yasutaka Kadota, Nobuya Sasai, Taichi Saito, Keiichiro Nishida: Glomus tumor with long-standing fingertip pain: accurate localization using 3D-rendered MRI and minimally invasive surgical approach. 78th annual meeting of the american society for surgery of the hand, 2023年10月5日~7日

橋詰博行: 座長. 第29回日本最小侵襲整形外科学会, 2023年11月3日~4日

原田和博, 宮島厚介, 亀鷹孝行, 藤井美佐子: 透析患者のサルコペニアの状況 — 握力とその影響要因の検討 —.

第68回日本透析医学会学術集会・総会, 2023年6月17日

原田和博, 濱本純子, 水ノ上かおり: 新規発症1型糖尿病の3症例. 日本糖尿病学会第61回中国・四国地方会, 2023年10月28日

原田和博, 橋詰博行: 大腿骨骨折患者の服用薬剤の検討: 3年間の推移.

第44回日本臨床薬理学会学術総会, 2023年12月15日

原田和博: 座長: ベッドサイドの臨床薬理学.

第44回日本臨床薬理学会学術総会, 2023年12月15日

原田和博: 症例検討「下肢脱力で受診し, 血糖上昇, 肝障

害を指摘された症例」.

第44回日本臨床薬理学会学術総会, 2023年12月15日

藤田喜久: 大腿骨近位部骨折手術の術前心エコー検査にて診断した僧帽弁狭窄症の1例. 日本老年麻酔学会第36回学術集会, 2024年2月16日・17日

Y. Fujita, R. Tanabe: An onsite diagnosis of type B aortic dissection occurring during cataract surgery with POC sonography: A case report. 18th World congress of anaesthesiologists, 2024年3月3日~7日

小坂義樹, 橋詰博行, 河村 進, 渡部柴秀: 破傷風の治療方法. 第66回日本形成外科学会総会・学術集会, 2023年4月26日~28日

小坂義樹, 橋詰博行, 河村 進, 山崎 恵, 渡部柴秀: 陰圧閉鎖療法の経験. 第25回日本褥瘡学会学術集会, 2023年9月1日・2日

小坂義樹, 橋詰博行, 山崎広一, 門田康孝, 河村 進, 鈴木良典, 山崎 恵, 檜谷 興: リハビリテーションと栄養で褥瘡の予防と治療. 第24回日本褥瘡学会中国四国地方学術集会, 2024年3月17日

松前 大: 内シャント設置術における上肢静脈のトンネリングによる転位表在化の経験. 第64回日本脈管学会学術総会, 2023年10月26日~28日

笹井信也: 大腸CTに写実的ボリュームレンダリングを使うための予備調査. 日本消化管CT技術学会第21回総会・学術集会, 2023年7月15日

田邊 綾, 湯本哲也, 本郷貴識, 内藤宏道, 中尾篤典: 蘇生を希望しない院外心停止の診療に関する救急外来での実態調査: 多施設共同横断研究. 第51回日本救急医学会総会・学術集会, 2023年11月28日~30日

坂本隼一: 病院歯科における未病への取り組み.

第30回日本未病学会学術集会, 2023年12月16日・17日

坂本隼一: 緩和ケアチームとして歯科が関わった口腔がん終末期患者への食支援の一例. 第39回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 2024年2月15日・16日

玉井淑教, 中本由起, 黒木梨砂, 原 諄貴, 小見山ひと実, 藤井研介: 臨床工学技士が消化器内視鏡業務に携わって. 第33回日本臨床工学会, 2023年7月22日・23日 臨床工学部

水ノ上かおり: 糖尿病性腎症重症化予防の地域での取り組み (シンポジウム: 座長). 第28回日本糖尿病教育・看護学会, 2023年9月23日 看護部

水ノ上かおり: 血の道療法による静脈へのアプローチ (ワークショップ: 座長). 第28回日本糖尿病教育・看護学会, 2023年9月24日 看護部

4. 講演会/研究会発表/座長

橋詰博行: 新手術棟建築に向けて — 知能化医療システムの観点から —. 第137回知能化医療システム研究会, 2023年4月9日

橋詰博行: 医療 AI 元年に起こっていること. 第138回知能

化医療システム研究会, 2023年7月9日
橋詰博行: 座長. SS ユーザー会, 2023年8月19日
橋詰博行: Opening Remarks. 岡山透析アミロイドーシス講演会, 2023年8月31日
橋詰博行: ASSH from Canada (米国手外科学会報告). 第139回知能化医療システム研究会, 2023年10月22日
橋詰博行: 座長. 井笠地区リウマチ診療セミナー, 2023年11月13日
橋詰博行: 手肘の痛み: 診断と治療. 浅口医師会第489回研修会, 2023年11月22日
橋詰博行: 医療 AI 元年に起こったこと. 第1回復活無意識会, 2023年12月23日
橋詰博行: 無意識領域を開発して明日からの個人能力を高める. 第2回復活無意識会, 2024年1月27日
橋詰博行: 2023年総括と2024年に向けて. 第140回知能化医療システム研究会, 2024年1月28日
橋詰博行: 手・肘外傷後疼痛性疾患の系統的診断と治療. 第17回京大外傷研究会, 2024年2月3日
橋詰博行: 経皮吸収と腱鞘炎: ジクトル®テープの効果発現. 第3回無意識会, 2024年2月24日
橋詰博行: 経皮吸収と腱鞘炎: ジクトル®テープの効果発現. ジクトル®テープ 75mg 効能追加1周年記念講演会 in 岡山, 2024年2月26日
橋詰博行: 座長. 高齢者トータルケア web セミナー ~ 人生100年時代を考える ~, 2024年2月8日
阿曾沼裕彦: 座長. 心不全治療 Up to date 2023, 2023年5月11日
阿曾沼裕彦: 座長. 西部イブニングセミナー, 2023年10月12日
原田和博: 日常診療における腎性貧血のみかたと治療. 第12回美作 CKD ネットワーク学術講演会, 2023年4月27日
原田和博: 腎機能に配慮した薬物療法 — 糖尿病, 脂質異常症を中止に —. 井原医師会 WEB 学術講演会, 2023年5月9日
原田和博: HIF-PH 阻害薬の使用経験から腎性貧血を再考する — ダーブロックへの期待 —. 透析合併症セミナー in 福山, 2023年5月16日
原田和博: 座長. ベッドサイドの臨床薬理学 — ワークショップ2024 — (日本臨床薬理学会主催), 2023年6月3日
原田和博: 座長. 実地医家から始まる腎臓マネジメント, 2023年7月6日
原田和博: 座長. 岡山透析アミロイドーシス講演会, 2023年8月31日
原田和博, 宮島厚介, 亀鷹孝行, 藤井美佐子: 透析患者の BNP 値と予後および死亡原因との関連. 第108回岡山透析懇話会, 2023年9月2日
原田和博: 座長. 第5回井笠エリア CKD-NET, 2023年10月3日
原田和博: CKD-CVD 医療連携の推進 — 井笠 CKD ネット —. 令和5年度岡山県 CKD (慢性腎臓病)・CVD (心

血管疾患) 対策専門会議, 2023年10月10日
原田和博: 座長. 西部イブニングセミナー, 2023年10月12日
原田和博: 実臨床における経口 GLP-1 受容体作動薬の有用性. 笠岡医師会学術講演会, 2023年10月26日
原田和博: 座長. 第4回井笠浅口透析連携カンファレンス, 2023年11月21日
原田和博, 宮島厚介, 亀鷹孝行, 藤井美佐子: 透析患者の ABI (足関節上腕血圧比), 握力およびその関連要因. 第32回中国腎不全研究会, 2023年12月3日
原田和博: 座長. 第32回中国腎不全研究会, 2023年12月3日
原田和博: テナパノル塩酸塩による高リン血症治療薬. 第18回 NDH ネットワーク, 2023年12月20日
原田和博: 地域医療における CKD 診療. 岡山県栃の木会学術講演会, 2024年2月16日
原田和博: 高齢者の薬物投与方法. 2023臨床薬理学会学術委員会企画 e-learning 講座
小坂義樹, 橋詰博行, 山崎広一, 門田康孝: 上肢の小児骨折. 第18回上肢外科サマーセミナー in Kasaoka, 2023年7月29日
河村 進, 鈴木良典, 小坂義樹: 仙骨部結節性偽痛風の1例. 川崎医大形成外科 同門会, 2023年5月20日
河村 進, 小坂義樹, 鈴木良典: 仙骨部巨大偽痛風の1例. 第50回愛媛形成外科研修会, 2023年6月10日
河村 進, 小坂義樹, 鈴木良典: 長期透析患者に発症した結節性偽痛風の1例. 第33回備後形成外科医会, 2023年6月21日
河村 進: チーム医療とクリニカルパスの理解. 泌尿器, 下部消化器, 頭頸部がん領域の浮腫2023年度リンパ浮腫研修 E-LEARN プログラム, Part 1 e ラーニング日程: 2023年9月1日 (金) ~ 9月18日 (月)
笹井信也: DWIBS 法による MRI 乳がん検診1年間の成績. 第138回日本医学放射線学会中国・四国地方会, 2023年6月24日・25日
笹井信也: 写実的ボリュームレンダリングの実力. 第9回中四国スクリーニング CTC 研究会, 2023年10月14日
林 知子・湯本悠子: わかりやすい食物アレルギーの知識と緊急時の対応について・エビペン実習. アレルギーサークル「ハッピースマイル」浅口市医師会, 2023年9月17日
藤井研介: 外科救急連携プログラム説明会, 2023年7月26日
藤井研介: SNM 若手の会, 2023年9月1日
坂本隼一: 在宅食支援の実際 ~ とろみ付き炭酸飲料の使用経験 ~. 森永乳業クリニコオンデマンドセミナー, うちの栄養管理シリーズ, 配信期間2024年3月13日~2025年3月31日
馬場健人, 藤江祐輔, 亀鷹孝行, 原田和博: 洗浄剤の変更によるコスト変化の実際. 第32回中国腎不全研究会学術集会, 2023年12月3日 臨床工学部

小田裕基, 大森祐樹, 亀鷹孝行, 原田和博: ポケット LDF と超音波診断装置のシャント血流量の関係性. 第32回中国腎不全研究会学術集会, 2023年12月3日 臨床工学部
佐々木愛菜, 岡野直緒, 原田嵐真, 湯浅吉貴, 太田祐策, 松井宏子, 和田佳久: シャントマップ作成前後の穿刺評価および使用感のアンケート. 第32回中国腎不全研究会学術集会, 2023年12月3日 タカヤ クリニック
玉井淑教: 座長. 第32回中国腎不全研究会学術集会, 2023年12月3日 臨床工学部
山崎 恵: 当院の排尿自立支援の実際. 笠岡排尿ケアセミナー, 2023年8月30日 看護部
水ノ上かおり: インスリン自己注射と血糖自己測定・低血糖・シックデイ (講師). おかやま糖尿病サポーター認定研修会, 2023年11月26日 看護部
水ノ上かおり: 教育講演: isCGM を療養にうまく活用している2事例 (座長). 第11回糖尿病療養指導スキルアップミーティング, 2023年12月2日 看護部
藤井和恵・河本彩美・青木梨沙: A病棟における急変対応の実態調査に関する研究～急変事例を用いての経験年数別での現状把握～. 令和5年度岡山県看護協会井笠支部 看護研究発表会, 2024年2月24日 看護部
石部 豪: 地域健康づくり教室のポイント. 令和5年度ヘルスアップ推進会 研修会, 2023年9月1日 健康増進クラブ ONE
石部 豪: 健康づくりのための運動. 令和5年度笠岡市栄養教室, 2023年10月25日 健康増進クラブ ONE

5. 大学講義

原田和博: 臨床薬理学 プライマリケアの症例から学ぶ臨床薬理学. 大分大学 (医学部), 2023年9月6日
藤田喜久: 医学用語. 川崎医療福祉大学, 2023年4月13日より4回
藤田喜久: 医学概論. 川崎医療福祉大学, 2023年11月16日より3回
藤田喜久: 内科系総論. 川崎医療福祉大学, 2023年10月12日より3回
藤田喜久: 治療機器学詳論: 麻酔器関連モニター. 川崎医療福祉大学, 2023年11月10日
藤田喜久: 麻酔器講義及び実習. 川崎医療福祉大学, 2023年6月15日より5回

6. 主催学会・研究会

第18回上肢外科サマーセミナー in Kasaoka. 笠岡第一病院, 2023年7月29日
第2回笠岡 RA 超音波セミナー. 笠岡第一病院, 2023年9月2日
井笠地区リウマチ診療セミナー. 笠岡第一病院, 2023年11月13日
高齢者トータルケア web セミナー～人生100年時代を考

える～. 笠岡第一病院, 2024年2月8日

7. 資格取得

和田佳久: 日本腎臓学会 腎臓専門医. タカヤ クリニック, 2023年4月1日

8. 施設認定

日本がん治療認定機構 認定研修施設, 2023年4月1日

9. 掲載 (新聞など)

田邊 綾: 地域で自分らしく生きる医療を③アドバンス・ケア・プランニングー人生の最期について考えるー. 山陽新聞, 2023年4月3日
門田康孝: 地域で自分らしく生きる医療を④骨粗しょう症を知って, 骨折を予防していく!. 山陽新聞, 2023年4月20日
湯本悠子: 地域で自分らしく生きる医療を⑤子どもたちの心と体の健やかな成長に寄り添う社会を. 山陽新聞, 2023年5月16日
水野佳寿子: 地域で自分らしく生きる医療を⑥アトピー性皮膚炎治療の3本柱. 山陽新聞, 2023年6月5日
坂本隼一: 地域で自分らしく生きる医療を⑦地域の「食べる力」を引き出すためにー病院歯科としての取り組みー. 山陽新聞, 2023年6月19日
整形外科: 病院の実力*岡山編「骨折治療実績」. 読売新聞, 2023年4月23日
職場体験プロジェクト: 職場体験「わくわく・work・笠岡第一病院探検隊!!」. ビジネス情報, 2023年8月20日
海萌: あの人のおすすめランチ「海萌」. ビジネス情報, 2023年8月20日
池田清明ふるさとギャラリー: 池田清明ふるさとギャラリー開設. 中国新聞, 2023年10月31日
池田清明ふるさとギャラリー: 池田清明ふるさとギャラリー開設. ビジネス情報, 2023年11月10日
池田清明ふるさとギャラリー: 池田清明ふるさとギャラリー開設. 山陽新聞, 2023年11月20日
橋詰博行: 栄えある功労者表彰 へき地医療事業功労・県知事表彰. 岡山県病院協会病院だより, 2023年11月1日
山崎 恵: 医療現場のスペシャリストたち. 山陽新聞, 2024年3月4日
宮島裕子: 天神ワイド 朝 からだにいい話「子どもたちの間で流行っている感染症や病気」. RSK ラジオ, 2023年6月30日
宮島裕子: 天神ワイド 朝 からだにいい話「子どもが成人の脳へ発達する12歳ごろまでに、周りの大人が気を付けること」. RSK ラジオ, 2023年9月29日
宮島裕子: 天神ワイド 朝 からだにいい話「子どもたち

の間で流行っている感染症など」. RSK ラジオ,

2023年12月29日

宮島裕子: 天神ワイド 朝 からだにいい話「折れない心」
を育てましょう. RSK ラジオ, 2024年3月29日

10. 学校医

宮島厚介: 笠岡市立笠岡東中学校

宮島裕子: 和光みらい園

宮島裕子: 青空認定こども園

宮島裕子: 笠岡市立神内小学校

阿曾沼裕彦: 岡山県立笠岡工業高等学校

渡邊逸郎: ひまわり認定こども園

渡邊逸郎: あやめの杜認定こども園

渡邊逸郎: 笠岡市立大井小学校

渡邊逸郎: 笠岡市立北川小学校

渡邊逸郎: 笠岡市立吉田小学校

渡邊逸郎: 笠岡市立新山小学校

渡邊逸郎: 笠岡市立笠岡東中学校

渡邊逸郎: 笠岡市立新吉中学校

渡邊逸郎: 笠岡市立小北中学校

湯本悠子: 太陽の森認定こども園

湯本悠子: 笠岡市立中央小学校

11. 産業医

橋詰博行: 井原精機 笠岡工場

原田和博: 日本ケイテム 笠岡製作所

小坂義樹: 岡山県立笠岡工業高等学校

12. 院外活動

田邊 綾, 秋田三永子, 大島 渉: 令和6年能登半島地震
災害医療チーム (JMAT おかやま) 第1班派遣,

2024年1月31日～2月3日

藤井研介, 小見山ひと実, 玉井淑教: 令和6年能登半島地
震災害医療チーム (JMAT おかやま) 第2班派遣,

2024年2月3日～2月6日

橋詰博行: 70代の健康維持についてー人生100年時代へ
の挑戦ー. 第12回健康講座笑いヨガ免疫UP! 大会 in 岡
山, 2023年8月27日

宮島裕子: 心と体の健やかな成長を育む

1) 生活リズム「食べる・眠る・遊ぶ」

2) 心の発達とメディア接触の注意点. 井原市立木之子幼
稚園 子育て講座, 2023年6月6日

宮島裕子: 心と体の健やかな成長を育もう

1) 子どもの脳の発達の特性と基本的な生活リズム・生
活習慣の自立

2) メディア接触の注意点. 笠岡市立北川小学校,
2023年10月27日

宮島裕子: 心と体の健やかな成長を育む

1) 生活リズム「食べる・眠る・遊ぶ」

2) 心の発達とメディア接触の注意点. 井原市立出部幼稚
園 子育て講座, 2023年12月6日

宮島裕子: 「若い世代の子育て意識啓発事業」

… 高校生の君たちへ…

自立し社会人になる事とやがて親となり子どもを持
つことについて考えてみよう. 岡山県立笠岡商業高等学
校 (3年生3クラス), 2023年12月19日

宮島裕子: 「体と心の自分育て」

自分の成長を楽しみながら「折れない心」を育てまし
ょう. 笠岡市立神内小学校 学校保健委員会,

2024年3月6日

13. 表彰

橋詰博行: 令和5年度岡山県保健衛生功労者 (へき地医療
事業功労). 2023年10月26日

14. 出前講座

すこやかこどもプロジェクト: アナフィラキシー出現時
の対応 エピペンの使い方. 2024年2月28日 太陽の森
認定こども園

水ノ上かおり・三宅香織: 看護の出前講座.

2023年12月12日 岡山龍谷高等学校

地域で自分らしく生きる医療を

みなさん、ご自身やご家族の、理想の人生の最期について考えたことはありますか。自分の意思で治療を選択できなくなる前に、前もって患者さん、家族、医療従事者の間で、今後について話し合うプロセスをAdvance care planning（アドバンス・ケア・プランニング＝ACP）と言います。現在、国を挙げてACPが推奨されています。



たなべ・りょう 広島大学医学部卒業、岡山大学大学院博士号取得、同大学病院高度救命救急センターに所属し、笠岡第一病院にて救急医として勤務。

心臓や呼吸が止まった時、テレビドラマでは当たり前の

③ アドバンス・ケア・プランニング —人生の最期について考える—

笠岡第一病院救急科医師 田邊 綾

よつに心臓マッサージがなされ、気管にチューブが入り、強心薬の投与、電気ショックが行われます。こうした蘇生処置の結果、心臓は動き出し、回復し、ハッピーエンドを迎えます。現実はどうでしょうか。世界規模の研究では、病院の外で心臓が止まった患者さんのうち、心臓が再び動き出し、退院まで生存できる割合は9%と報告されています。この9%には寝たきりとなってしまった患者さんや、脳にダメージを負った患者さんも含まれるため、社会復帰できるまで回復できるのはもっと少ない割合です。

さらに、もとより高齢であったり、多数の病気を抱えていたりすると、その割合は一段と下がります。実際に、日本での研究では、75歳以上の患者さんが病院

患者さんの「もしもの時」をサポートする地域の体制



地域レベルで患者さんの今後について考え、サポートしています。もしもの時に備え、ご自身の望む医療、ケアについて、身近な人と話し合い、共有しましょう。

外で心停止し、1カ月後に介助なく生活できるまで回復する割合は1%程度であることが分かっています。心臓が止まってしまふ患者さんは、がんのため余命を宣告されていたり、病気のために入院を繰り返していたり、大病のため寝たきりとなってしまうことが多くあります。実際に、自分の家族が心臓が止まった時のことを想像すると、家族としては、「やれることは全部やってほしい」と思われる方も少なくないのではないのでしょうか。それは家族として当然の思いです。

しかし、蘇生処置を行うことは必ずしもいいことばかりではありません。心臓が止まった時の蘇生処置は、患者さんにかかり強い力が加わるため、肋骨や胸骨は折れ、肺や肝臓を傷つけることもありまふ。救命できたとしても、たぐさんの管がつながれ、目を覚ますことなく、寝たきりとなることも珍しくありません。

◇ 笠岡第一病院（086500211）

目の前で、突然患者さんの心臓が止まった時、われわれは蘇生処置を行います。時に助かる見込みがほとんどないにも関わらず、慌てた家族の強い希望で、身体の痩せ細った高齢の患者さんを1時間以上蘇生処置を続け、死亡を確定する頃には身体の形が変わってしまっていることも経験します。心臓が止まってしまふことは、患者さん本人に治療の希望を問うことはできないのです。

ACPは患者さんの自己決定権を尊重し、患者さん自身の将来への不安を軽減するだけではなく、選択を迫られる残された家族の負担も減らします。元気で話ができるうちに、本人、家族、かかりつけ病院の主治医と心臓が止まった時の対応を含め、今後の治療やケアの見通しについて、お話ししてみるのはいいか

（山陽新聞社提供）

かどた・やすたか 岡山大学医学部医学科卒業。岡山市立市民病院、津山中央病院などを経て2021年4月から現職。日本整形外科学会専門医、日本リウマチ学会専門医。医学博士。

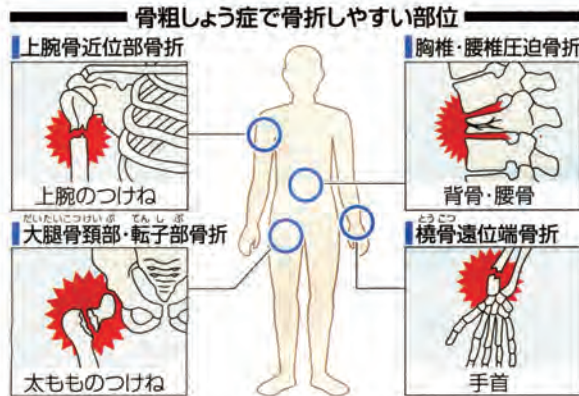


■骨粗しょう症とは
骨粗しょう症は、簡単に言う
と「骨が弱くなる」病気です。
「骨が弱くなる」ことは加齢
とともに生じる変化の一つであ
り、特に女性の場合、閉経後に女
性ホルモンの分泌が減少するこ
とで骨量が大きく減少します。
骨粗しょう症自体には何の症
状もありません。何が困るか
と言え、それは骨折をしやす
くなることです。骨折が生じると、
日常生活動作が制限され、骨折
が治癒した後も筋力が低下し
たり、歩行する力が弱くなった

地域で自分らしく生きる医療を

④ 骨粗しょう症を知って骨折予防！

笠岡第一病院整形外科医長 門田 康孝



■ 運動で骨密度アップ! かかと落とし運動 ■



目安は1日50~60回 ※できる範囲で

り、さまざまな障害をきたしま
す。骨折を起こさないために、
骨を弱くしない、予防が必要と
なってきます。

■治療
治療には運動療法、食事療法、
薬物療法があります。
運動療法ではウォーキング、

筋力トレーニングなどさまざま
な運動で骨密度の増強効果が認
められています。簡単に家でも
始められる代表的な運動にスク

ワットがあります。太ももの
筋肉を鍛え、骨密度の増加と
ともに転倒を予防する効果も
期待できます。また、骨に重
力の刺激を与える運動として
「かかと落とし運動」があり
ます。これも簡単な運動なの
で、運動経験のない方でも始
めやすい運動です。
食事療法ではバランスのと
れた食生活をするのが基本
ですが、骨を強くするという
点において、しっかりとって
ほしい栄養素があります。そ
れはカルシウム・ビタミンD、
ビタミンK、たんぱく質です。
それぞれを多く含む食品とし
ては、カルシウムは乳製品、
大豆製品、小魚などの魚介類、
▽ビタミンDはサケ、ブリな
どの魚類、干しシイタケ、キ
クラゲなど▽ビタミンKはブ
ロッコリーやホウレン草、小
松菜などの葉野菜、納豆な
ど▽たんぱく質は肉類、魚類、
大豆製品などが挙げられま
す。

薬物療法は現在、さまざま
な種類から選択できるよう
になりました。投与についても
週1回のもの、月1回のもの、
半年1回のものなど多くの選
択肢があります。どのような
薬を使うかは個々の骨粗し
う症の状況やライフスタイル
に合わせて、主治医の先生と
相談をする必要があります。
■当院では
骨粗しょう症の治療の目的
は骨折予防であり、一次予防
(骨折を起こしていない方の
予防)と二次予防(骨折を生
じてしまった方が再び骨折を
起こさないようにする予防)
があります。
当院では、一次予防の取り
組みとして、骨粗しょう症の
情報発信を広報紙や、動画配
信を通じて行い、二次予防に
ついては、骨折を治療してい
る患者さまに積極的に骨粗し
う症の治療介入を勧めてお
ります。
骨の変化はゆっくりである
ため、慌てる必要はありません
が、一度、自身の骨につい
て考えてみて、骨を強くする
生活習慣の一つでも取り入れ
てみてはいかがでしょうか。

笠岡第一病院(0865-0211)

(山陽新聞社提供)

地域で自分らしく生きる医療を

3年ぶりにマスク着用も緩和されて、新緑が目にも口にも、心にもおいしいゴールデンウィークを満喫された方々も多いことでしょう。

新入学や進級から1ヵ月経過したこの時期に、子どもたちに「ちょっとお疲れ症状」が現れてくることがあります。以前より「五月病」ともいわれる不定愁訴のなかでも腹痛、頭痛が続く場合は家族の皆さまの心配も強くなります。

腹痛は年齢別の好発疾患を想定しながら、問診・診察を行い迅速な検査・処置対応が必要となる腸重積症、虫垂炎、出血性胃腸



ゆもと・ゆうこ 香川医科大学卒業。国立病院機構岡山医療センター、岡山大学病院を経て2018年4月笠岡第一病院小児科医長。日本小児科学会小児科専門医・指導医、子どもの心相談医、地域総合小児医療認定医、ICD、新生児蘇生法インストラクター。

⑤ 子どもたちの心と体の健やかな成長に寄り添う社会を

笠岡第一病院小児科医長 湯本 悠子

炎、消化器潰瘍、腎路疾患などの器質的疾患を鑑別します。また、繰り返し長引く腹痛の中には機能的腹痛、反復性腹痛、

心因性腹痛等も含まれ、家庭環境や生活習慣、家族や友人、学校等の人間関係、子どもの性格、成長発達など広範囲で

長期間にわたる対応を要するケースもあります。受診時に「発症時期、痛みの部位・持続時間・頻度・曜日

や時間帯、食欲、嘔吐・下痢・便秘・発熱などの症状の有無、体重減少・頭痛・四肢痛などの合併、生育歴のメモや下痢便、血便などの持参や便の画像も大きな参考になります。コロナ禍以降、小児科外来診療では頭痛・腹痛や、だるい、

長時間のゲーム・スマホで朝起きられないなど、学校に行きにくい子どもの受診割合が増加してきています。「しよががないな、コロナじゃけえ」と、規制の多い生活や社会不安が長期にわたり、戸外で子どもたちが体を動かしてワクワク・ハラハラ・ドキドキ夢中で遊ぶ体験や、困ったことつらいことも含めて言葉で表現し、話し合い解決する経験等、成長発達に欠かせない大切な時間が削られてきたように思います。これらの経験はいずれも周囲の大人の温かいまなざしとゆとりある対応の環境の中で育まれます。

子どもの心と体の健やかな成長を願う地域の子どもや保護者の皆さま、日頃子どもたちに接する保育士や先生方に向けて、アレルギー、貧血、感染症などの疾患に加えて、食育・生活リズム（食・遊び・睡眠）、事故防止などの健康教室や出前講座を15年前より行っています。活動を通じて、子どもたちが「自身の身体と心に興味を持ち、自分の健康を自分で守る人」に成長されるようお願いを込めて、スタッフ一同協力して取り組んでいます。

笠岡第一病院（0865500211）



食育出前講座

「おいしく食べて、元気に遊び、よく眠る」エプロンシアター「うんちのはなし」



保育園事故予防・対応研修会

窒息児の対応・心肺蘇生法などを学んだ

（山陽新聞社提供）

地域で自分らしく生きる医療を

アトピー性皮膚炎とは、かゆみを伴う湿疹が良くなったり悪くなったりを繰り返す慢性的皮膚の病気です。患者数は年々増加しており、アレルギー疾患の発症にも大きく関係していることがわかってきています。

治療の基本は「スキンケア」「薬物治療」「悪化因子への対策」で、治療を行う上でこの3つの要素すべてが必要です。

■スキンケア

アトピー性皮膚炎の患者さんの肌は、本来皮膚が持つバリア機能（外界からのさまざまな刺激や乾燥などから



みずのかずこ 山口大学医学部卒業。岡山大学大学院修了。岡山大学病院、因島総合病院等を経て2017年より現職。日本皮膚科学会専門医。

⑥ アトピー性皮膚炎治療の3本柱

笠岡第一病院皮膚科医師 水野 佳寿子

■外用のポイント■

塗る量

成人の人さし指第1関節分の軟膏で手のひら二つ分の広さを塗りましょう

塗り方

✕ 擦りこむように塗る
患部がむき出し

○ のせるように塗る
患部にも薬がついている

薬を皮膚に擦り込まず皮膚にのせるように塗り、手のひらでやさしく広げましょう

塗る期間

✕ かゆくなったら塗る

○ かゆくなくても塗る

かゆみが治まってもすぐにやめないようにしましょう。皮膚の下では炎症は続いているのですぐに再発してしまいます

体の内部を保護する機能が弱くなり、アレルギーが侵入しやすい状態になっています。そのため、皮膚を清潔に保ち、潤いのある状態にするよう、しっかりと保湿をしてバリア機能を安定させることが大事になってきます。

治療の基本となるのはステロイド外用薬で、皮膚の炎症を抑える目的で使います。湿疹の程度や部位によって強さの異なるステロイド剤を使い分け

て塗ります。外用のポイント参照。ステロイド外用薬以外にもタクロリムス軟膏、デルゴシニブ軟膏、昨年からはジファミラスト軟膏が新たに使用可能となり、選択肢も増えています。

■悪化因子への対策

症状を悪化させる因子は年齢による違いや個人差がありますが、一般的には汗やダニ、ハウスダスト、カビ、ペットの毛、食べ物、ストレスなどが挙げられます。肌にあわないものは使用しない、こまめに掃除をする、汗をかいたらタオルでその都度拭き取るなど、皮膚にやさしい環境を整えることを意識して対策を行うことで症状の悪化を防ぎましょう。

アトピー性皮膚炎の患者さんの中には、かゆみのせいで眠れない、勉強や仕事に集中できない状態になるなど社会生活に支障をきたしたり、細菌・ウイルスの感染症の合併や、目の周りをこすことで目の疾患を引き起こす場合もあります。かゆみや湿疹で悩んでいる方は、ぜひ専門の医療機関を受診して相談をしてください。

1) 笠岡第一病院 (0865) 021

(山陽新聞社提供)

さかもと・しゅんいち 愛媛県愛光高校、岡山大学歯学部卒業。2013年より現職。歯学博士。日本補綴歯科学会専門医、日本老年歯科医学会専門医、日本臨床栄養代謝学会認定歯科医、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士。



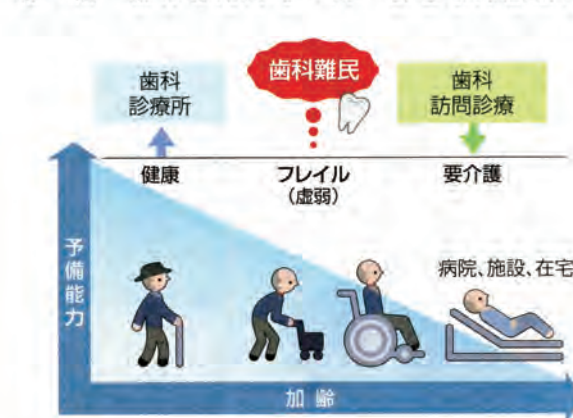
病院歯科とは20床以上の病床を持つ医療機関に併設されている歯科のことを指します。全国に8千以上ある病院の中で歯科が併設されている病院は15%程度にすぎません。病院

地域で自分らしく生きる医療を

⑦ 地域の「食べる力」を引き出すために —病院歯科としての取り組み—

笠岡第一病院歯科医長 坂本 隼一

歯科では、口腔領域の腫瘍や外傷など口腔外科疾患に特化した歯科の高度医療機関としての役割や、がん患者さんなどの医科の支援療法としての歯科治療など、一般的な歯科診療所とは異なる役割を担っています。



どさまざまな理由により、70代をピークに歯科外来受診率は低下します。通院が困難となった方への支援として歯科訪問診療の拡充が推進され、多くの高齢者施設では協力歯科医院が設置されるようになりました。

しかし、施設入所者への支援は行き届くようになつた一方で、ご自宅で生活されている高齢患者さんへの支援はまだ不十分な現状があります。その結果、歯科受診が途絶えてしまい歯周病やむし歯の進行により口腔内が崩壊してしまった方、入れ歯の不具合などに陥りながらも我慢しながら、あるいは無自覚で長年過ごされていた方を入院患者さんでは多く見かけます。多くの病院歯科では誤嚥性肺炎の予防としての入院患者さんの口腔衛生管理だけでなく、摂食嚥下チームや栄養サポートチームとして多職種と連携を図りながら、入院患者さんの口腔、嚥下機能、栄養状態の管理に携わっています。

病気を治すためにはお口からしっかり栄養をとることが重要です。口腔内が崩壊していると適切な栄養管理に支障をきたし病気の治癒を妨げます。入院時の歯科診療をきっかけに入院中に少しでも口腔内の状態を整え、患者さん個々の「食べる力」を引き出し、退院時に地域の適切な歯科医療機関につなぐ。

笠岡第一病院（0865-0211）。連載は今回で終わります。

（山陽新聞社提供）



入籍率の低減は健康増進
外国人に開門しよる川崎さん



刑罰回診で皮膚のケアをする山崎さん（右から2人目）を

[illegible]

人間の尊厳守る責任担ふ

[illegible]

■もう一役立ちたい

足跡・指印が鑑定可能なほど、
精細な足の指の模様・ストーク（人
工指紋、人工足紋など）、装飾
（厚や便の跡）の3つの分野
において、精緻な分析技術を提
供する。

山崎さんは、1980年、資格
を取得した。精進寺の土ま
つぱりとした専攻の指導を受け
ながら、「専門的な検案と知識
を身につけ、もっと現場に参
加したい」と、1982年に、

[illegible]

■地域でただ一人

幸而、井原、徳川市などの井原
 地域で、隠し、世に今隠れて
 面は三輪とよおさる。隠れた
 ケを愛むるわねとて、世に今
 紹介とよおさる。身は、身は
 引かぬまゝとて。

[illegible]

■影響く6段階

[illegible]

二、時局觀察



健康ガイド MEDICA (https://medicanews.jp/) でご覧いただけます。スマートフォンからはQRコードをご覧ください。

次回は3月19日付です。
過去のメデカ力掲載記事をはじめ、岡山県内主要病院の情報、医療・健康ニュースは山陽新聞社のホームページ「岡山の医療」

文と写真 二羽俊次

(山陽新聞社提供)

笠岡第一病院で職場体験 小中生が保護者の仕事知る 「コロナ禍で4年ぶり、15回目」



仕事の説明をする保護者と質問する子供たち

医療法人社団清和会笠岡第一病院（笠岡市横島一九四五、橋詰博之院長）は8月1日、職員の子供を対象とした職場体験「わくわく・ワーク 笠岡第一病院探検隊」を催した。

コロナ禍を挟んで四年ぶりとなる夏休みの恒例行事で、今年で一五回目。小一―中三の四一人が集まり、低学年グループと高学年グループに分かれて保護者から職場の話聞いた。



大学生が血圧測定などをサポート

同院の看護師や理学療法士、併設する高齢者施設の介護士、援専門員などが子供と共に登場し、写真を使って日ごろの働く姿を紹介。子供からは「仕事のやりがいや大変なところは？」などと質問が出た。保護者の活躍ぶりを伝えようと、職場の仲間から職員へのメッセージも読み上げられた。

また高学年グループは「なりきり医療人」と題し、白衣をまといさまざまな病院の仕事を体験。血圧測定やリフトを使ったベッドからの移動にチャレンジした。



移動介助用リフトも動かしたよ

麦茶を飲ませる食事介助では「喉に落ちるスピードをゆっくりにするため、とろみを付けてある。飲みやすいよう状態を整え、あごを引いて」と指導されながら、慎重な手つきでスプーンを口元へ運んだ。

検査室や薬局などで「医療技術者体験」も実施。リハビリテーションセンターでは体組成計で筋肉量などを調べ、機器を使ったりハビリを実践した。

放射線室ではCTやMRIなどさまざまな機器と検査法の説明を聞いた後、箱の中に入れた野菜をレントゲンで撮影した画像を見て何かを当てるクイズに挑んだ。

低学年グループは、簡易聴診器を作って互いの心音を聞くクイズに挑んだ。

管理栄養士の母親が給食センターの責任者を務める高田琴杜鼓さん（金浦中三年）は、「高齢者や病気の人に接する時の感覚が分かった。そういう人たちの栄養について、いろいろ考えている母はすごいと思う」と話した。



職員の指導で食事介助にチャレンジ

病院スタッフ一九人に加え、岡山大学医学部の授業で同院を実習先に選んだ同大三年の木下洋太朗さんと湯本有彩さんもボランティアで参加。子供たちをサポートした。

「地域の病院としては診療科目が幅広く、職場体験も新鮮な体験だった。将来の進路



互いの心音を聞く低学年の子ら

き、運動する前と後では心拍数が変わること学んだ。院内のスタンプラリーもあり、夏休みの一日を楽しんだ。

管理栄養士の母親が給食センターの責任者を務める高田琴杜鼓さん（金浦中三年）は、「高齢者や病気の人に接する時の感覚が分かった。そういう人たちの栄養について、いろいろ考えている母はすごいと思う」と話した。

病院スタッフ一九人に加え、岡山大学医学部の授業で同院を実習先に選んだ同大三年の木下洋太朗さんと湯本有彩さんもボランティアで参加。子供たちをサポートした。

「地域の病院としては診療科目が幅広く、職場体験も新鮮な体験だった。将来の進路

あの人の
おすすめ
ランチ



地中海料理 海萌 みなも
「ビーフシチュー」
(パンまたはライス付き) 八〇〇円

笠岡第一病院の二階にある院内レストラン「海萌」は2016年オープン。同院運営法人の理事長で医師の宮島厚介さんが「交流の場になれば」と設けた。お気に入りには、パンかライスが付くビーフシチュー。「化学調味料を使わずに手作りして、自然でやさしい味が楽しめる」。東京で欧州料理の経験を積んだ大本務料理長が、牛のバラ肉とスネ肉を赤ワインで六時間以上煮込み、香味野菜もふんだんに使って仕上げる。柔らかな肉と上品な口当たりのシチューは彩り豊かで、添えられたポテトグラタンも美味。グリーンサラダや「本日のスープ」も、それぞれ二〇〇円で追加できる(上の写真)。

「魚介やレモンなどできるだけ地産の食材を使い、素材の力を生かす」と大本料理長。欠かせないオリブオイルは特に良質な「エクストラバージン」を仕入れ、食べやすいよう調理に工夫を凝らす。

「本日のお肉ランチ・お魚ランチ」(各八〇〇円)や牛フィレステーキ(二二〇〇円)のほか、モーニングメニューもある。大きな窓から見えるのは瀬戸内海の景色。料理を一層引き立ててくれる。

ご紹介者



医療法人社団清和会 笠岡第一病院
理事長・医師

宮島 厚介さん

笠岡市横島1945
TEL.0865-67-0211

ティータイムは、地産レモンを使ったレアチーズケーキなど「本日のケーキ」(300円)や、わらびもち(200円)が登場する。中でも、アイスクリームとフルーツを添えたワッフルと飲み物のセット(500円)はオススメだ。

地中海料理 海萌

笠岡市横島1945(笠岡第一病院内)
☎0865-67-0376
◆営/モーニング9:00~11:00
ランチ11:00~14:30
ティータイム14:30~15:30
◆休/火・日曜、祝日
◆P/あり



第2章

診療概要・統計

笠岡第一病院

【健康管理センター】

【タカヤ クリニック】

【瀬戸ライフサポートセンター】

【法人事務局】

【健康増進クラブ ONE】

笠岡第一病院

1 診療部

一般内科

宮島 厚介

今年も発熱患者対応に追われましたが、未知のウイルスからなんとなく解りかけたコロナウイルス感染、秋からしだいに増加したインフルエンザ感染患者（今年は流行期が遷延した）の診療が日常診療に加わり外来患者数は増加しました。その診療カバーを前期・後期の研修医・専攻医が奔走しました。当院は外科系患

者をのぞいて内科と救急医が境なく、救急患者を皆が気にしながら日常診療をしています。内科外来と救急処置室が隣り合わせになっており、皆が救急室をのぞきながらの内科日常診療です。研修医と指導医が連携しながら救急対応しています。

循環器内科

部長 阿曾沼 裕彦

2023年度は倉敷中央病院から循環器内科専攻医（3ヵ月研修）を2人派遣していただきました。2024年度は1人派遣していただく予定です。循環器疾患を含め、いろいろな疾患を経験していただき、多少なりとも専攻医の先生方の Skill Up のお役にたてられたらと思います。

大変お世話になっております岡山大学循環器内科の教授 伊藤浩先生が退官され、後任として湯浅慎介先生が2023年12月1日付けをもって着任されました。大学との関係をますます深めて行き、地域の循環器疾患に対応して頑張っていきたいと思っています。

循環器内科外来

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	浦川 茂美	阿曾沼裕彦 浦川 茂美 (ペースメーカー外来)	村上 充 (不整脈)* 浦川 茂美	阿曾沼裕彦 (ペースメーカー外来)	浦川 茂美	中村 一文(心不全)** 黒田 和宏(心不全)*** 福田 能丈(心不全)****
午後	阿曾沼裕彦		阿曾沼裕彦			

*第1／第3水曜日、**第1／第2土曜日、***第3土曜日、****第4土曜日

呼吸器内科

部長 中村 淳一

昨年度と同様に常勤医1人で外来および入院患者の診療を行っています。

2023年度の入院患者総数は昨年度と比べると、344人（うち、呼吸器疾患は314人）と増加しています。新型コロナウイルス肺炎を除く肺炎患者が144人（呼吸器疾患の45.9%）で多くを占めるのは例年通りでした（表1）。

新型コロナウイルス感染症患者の診療体制は2023年5月8日から感染症法上5類に位置づけが変更となりましたが、当院では引き続き、外来で発熱患者の診療及びPCRや抗原検査の実施、入院は原則中等症患者を中心に対応しました。今年度の新型コロナウイルス感染症患者は第9波（2023年6月～11月）で43人、第10波（2023年12月～2024年3月）で36人、合計83人の入院がありました（表2・図）。

肺癌など悪性腫瘍の入院患者は12人でしたが、昨年

度と同様、ターミナルケア、緩和ケア目的の患者が多く占めました。肺癌の手術可能な症例や内科的に治療困難な自然気胸の症例は外科に紹介し、当院で手術を行っています。

その他に気管支喘息への吸入療法や慢性閉塞性肺疾患（COPD）の急性増悪、間質性肺炎による慢性呼吸不全患者に対する酸素療法などの治療も行っています。

専門外来の禁煙・睡眠時無呼吸外来は水曜日午後に行っています。新規の禁煙患者は6人、睡眠時無呼吸症候群の検査は外来または入院で実施し、今年度は20人で、CPAPの新規導入患者は4人でした（表3）。

今後、新型コロナウイルス感染症は通常の医療体制に移行の予定ですが、引き続き、新型コロナウイルス感染症の外来および入院での診療を継続すると共に、その他の呼吸器疾患に対する診療にも力を入れていく予定です。

表1 疾患別年次入院患者数 (人)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
かぜ症候群（インフルエンザを含む）	5	0	1	0	4
肺炎（急性気管支炎を含む）	203	125	128	101	144
COVID-19	0	4	49	88	83
肺結核・非結核性肺抗酸菌症	13	5	7	5	8
肺真菌症	2	0	0	0	0
慢性閉塞性肺疾患	9	9	9	6	4
気管支喘息	8	5	0	4	6
過敏性肺炎・好酸球性肺炎	0	1	0	0	0
薬剤性肺炎	0	0	1	1	1
間質性肺炎	8	12	5	4	10
サルコイドーシス	0	0	0	0	0
膠原病肺	1	2	1	1	2
肺癌	17	17	13	8	12
転移性肺腫瘍	3	4	1	0	0
肺良性腫瘍	0	0	0	0	0
肺血栓塞栓症	0	1	1	0	1
肺動脈性肺高血圧症	0	0	1	0	0
胸膜炎	6	3	5	10	2
膿胸	1	3	1	2	1
胸膜腫瘍	0	0	4	1	0
気胸	6	11	8	4	11
急性呼吸不全・ARDS	0	2	0	0	0
慢性呼吸不全	3	3	5	9	7
気管支拡張症	0	1	1	2	0
塵肺	1	1	4	0	1
過換気症候群	0	0	0	0	0
睡眠時無呼吸症候群	17	14	21	14	16
その他の呼吸器疾患	2	2	0	1	1
呼吸器疾患以外	33	43	23	28	30
合計	338	268	289	289	344

表2 COVID-19の入院患者数 (人)

	重症	中等症Ⅱ	中等症Ⅰ	軽症
2023年 4月	0	0	0	0
5月	0	0	0	0
6月	0	0	2	1
7月	0	3	2	1
8月	0	2	2	11
9月	0	3	2	7
10月	0	1	0	4
11月	0	0	1	1
12月	0	3	0	1
2024年 1月	0	4	3	5
2月	0	1	2	11
3月	0	0	1	5

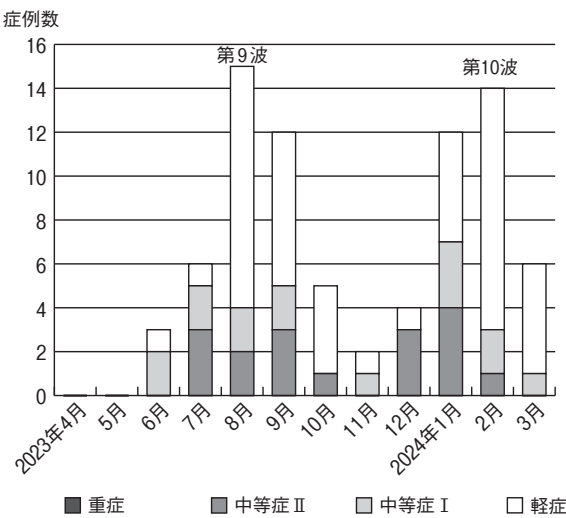


表3 専門外来 (人)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
禁煙外来	20	12	6	3	6
睡眠時無呼吸症候群（PSG検査）	17	16	20	20	20
睡眠時無呼吸症候群（CPAP新規導入）	9	4	13	4	4

消化器内科

西 隆司

消化器内科では、頻度の多い胃・十二指腸潰瘍、機能性胃腸症、逆流性食道炎、感染性胃腸炎、大腸ポリープ（粘膜切除術含む）、消化器癌や潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患を診療しています。主な関連病院は、川崎医科大学附属病院、倉敷中央病院、福山市民病院などです。

消化器内科が最も得意とする検査が内視鏡検査です。川崎医科大学附属病院 食道・胃腸内科などから内視鏡医が派遣され、病院にて週5回、健康管理センターにて週4回の定期検査と緊急検査に対応しています。

今後も、患者の皆様のニーズに対処できるよう疾患の早期発見、早期治療に努めてまいります。

外科

部長 小谷 一敏

部長 藤井 研介

外科は血管外科と連携して外来・入院・手術等の外科診療をしております。常勤医、麻酔科医、看護スタッフ等の数的な問題もあり、時間外や土日祝日の緊急手術対応は困難な場合があるため患者の皆様にはご迷惑をおかけしております。2021年度より血管外科、呼吸器外科、消化器外科が揃いましたので、当院で対応

可能な疾患については出来る限り対応させていただきます。対応困難な場合は近隣の病院（福山市民病院・川崎医科大学・倉敷中央病院等）へ紹介させていただいております。また、悪性疾患（肺がん、消化器がんなど）に対する化学療法や緩和治療も院内チームと共に行っています。

手術症例内訳

（例）

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
単径ヘルニア	27	10	24	18	25
虫垂炎	14	8	6	4	10
胃がん	2	2	2	5	3
大腸がん	10	2	11	8	11
胆石・胆嚢炎	6	8	10	13	17
呼吸器（肺がん・膿胸など）	5	4	8	10	12
その他	10	5	11	8	16

血管外科

部長 松前 大

2018年7月に赴任しまして、およそ6年が経過しました。下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術、下肢閉塞性動脈硬化症に対する血管内治療、末期腎不全に対する内シャント手術を中心に診療を行っています。2023年度において症例数は前年とほぼ同数でありましたが、まだ影響が残っているようです。コロナが収束した2024年度はさらに治療の質を高め洗練させ、症例数も増やしていきたいと考えております。

<下肢静脈瘤血管内治療>

レーザー焼灼カテーテルに細径タイプが導入され、大きな静脈瘤も穿刺で治療できるようになりました。ほぼ無傷で大きな静脈瘤を消すことができるようになりました。患者満足度がさらに高まっています。2023年度は計82例の血管内焼灼術を行いました。

<下肢閉塞性動脈硬化症に対する血管内治療>

高度な血管内治療を可能にするのは高精細な血管造影装置と優秀なスタッフが必要ですが、当院にはドイツシーメンス社製の最新型装置が導入されており、さ

らに阿曾沼医師、浦川医師という循環器内科医の協力もあり、盤石な体制であります。岡山、倉敷、福山などに出向かなくても難度の高い症例に対して血管内治療が可能となっております。2023年度は計42例の治療を行いました。

<内シャント設置術>

2023年度は27例の内シャント関連手術を経験しました。22年度からシャント瘤の形成術を新たに導入し、良い結果を得ております。できるだけ長く自家血管で穿刺を行えるように血管形成技術を磨いております。

当院血管外科の強みは血管内治療であります。血管内治療は低侵襲で高い治療効果があり、高齢者の多い下肢静脈瘤、下肢閉塞性動脈硬化症患者さんには適した治療法であります。この強みを活かして引き続き井笠地区の患者さんのお役に立ちたいと心から念じております。また透析シャントをできるだけ長く自家血管で維持できるよう工夫と研鑽を続けていきたいと考えております。

整形外科

部長 小坂 義樹

2023年度は橋詰博行院長および山崎広一医師、門田康孝医師と私の常勤医4名体制で今までの手外科中心だけでなく、外傷を含めた整形外科一般の外来・入院診療および手術を担当させていただきました。非常勤医師としてリウマチ外科外来に岡山大学病院運動器疼痛センター 教授 西田圭一郎医師、関節外科外来に川崎医科大学整形外科 教授 難波良文医師、同 菊岡亮介医師に専門外来を担っていただきました。

2023年度は総手術件数1,430件（内、上肢手術1,318件・下肢手術112件）を施行しました。当院では上肢手術を数多く行っており、特に弾発指・手根管症候群に対する低侵襲手術はその大きな割合を占めています。また、2022年1月の試験期間を含めて4月からは大腿骨近位部骨折例に対し、受傷後48時間以内に手術

を終了し（緊急整復固定加算、緊急挿入加算）、翌日から歩行訓練を中心にリハビリテーションを行っています。井笠・備後地区だけでなく、岡山・倉敷地区を中心とした近隣医療圏、また、遠方からの紹介を多数いただいております。

笠岡第一病院には小児科の常勤が勤務しており、2024年4月からは小坂が小児整形外科認定医に認定され、発育性股関節形成不全症を初めとする小児整形外科も頑張ります。

高齢社会にあたり、整形外科のニーズは年々高まっており、地域医療の一助になればと考えております。これからも運動器疾患の治療に努め、基幹病院を目指す病院として役割を果たしていく所存です。

1) 上肢手術

病 名	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
弾発指（腱鞘ガングリオン含む）	920	996	800	925	755
手根管症候群	263	248	233	279	212
橈尺骨遠位端骨折	25	16	29	37	44
肘部管症候群	31	19	12	16	42
抜釘	11	30	15	13	33
骨軟部腫瘍・腫瘍・ガングリオン	15	24	35	35	31
ケルバン腱鞘炎	39	57	45	36	27
中手・指節骨骨折・指交叉	13	12	13	28	27
OA（指・手・肘；ムーカスシスト・ロッキング・関節内遊離体を含む）	42	33	38	24	27
デュプイトラン拘縮	4	18	13	13	18
伸筋腱損傷（腱性マレット指・ボタン穴変形・伸筋腱脱臼含む）・皮下断裂	14	18	8	14	17
TFCC 損傷・DRUJ 障害・尺骨突き上げ症候群	10	10	15	10	15
関節拘縮・フォルクマン拘縮	9	12	6	10	9
屈筋腱損傷・皮下断裂・腱癒着	12	10	5	9	6
上腕骨骨幹部骨折・上腕骨遠位端骨折・肘脱臼骨折・肘靱帯損傷	3	0	5	4	6
上肢絞扼性神経障害（手根管・肘部管を除く）	2	6	3	7	5
上腕骨近位端骨折・肩脱臼・肩脱臼骨折、反復性肩関節脱臼・不安定肩、 肩鎖関節骨折・肩甲骨烏口突起骨折	8	6	6	6	5
RA 手・肘・肩関節	2	1	1	4	5
肩インピンジメント症候群・肩腱板損傷・石灰沈着腱板炎	6	0	3	1	5
強剛母指	0	3	2	1	5
化膿性腱鞘炎・化膿性関節炎・腱滑膜炎・骨髓炎・蜂窩織炎	1	0	4	7	4
神経損傷・麻痺・断端神経腫・カウザルギー・母指対立障害・神経脱臼	11	5	1	5	4
鎖骨骨折（遠位端骨折を含む）	6	6	3	10	3
橈尺骨骨幹部・近位端骨折	3	1	4	4	3
母指 CM 関節症（STT 関節症含む）	21	41	20	21	2
指靱帯・掌側板損傷・脱臼	10	0	2	4	2
舟状骨骨折・偽関節・壊死（プライザー病）、キーンベック病・月状骨陳旧性 脱臼・有鉤骨鉤骨折・CM 関節脱臼骨折	4	8	1	2	2
上腕骨外側上顆炎（弾発肘を含む）・内側上顆炎	4	2	0	2	2
異物，創処置，熱傷，咬傷，壊死	4	1	0	1	2
その他	0	3	0	0	0
手術件数総計	1,493	1,586	1,322	1,528	1,318
症例数	1,107	1,204	996	1,120	993

2) 下肢手術

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
大腿骨転子部骨折（転子下骨折を含む）	28	19	33	34	36
大腿骨頸部骨折（人工骨頭）	26	15	12	15	20
大腿骨頸部骨折（骨接合術）	0	6	8	19	14
骨・軟部腫瘍，ガングリオン，感染，創傷	9	6	19	6	11
膝蓋骨骨折・脱臼	3	2	2	2	7
足関節果部骨折・足関節脱臼骨折・脛腓骨遠位端骨折・遠位脛腓靱帯損傷・腓骨（骨幹部）骨折	10	8	5	10	6
抜釘	0	7	2	5	6
踵骨骨折	2	0	0	0	4
大腿骨遠位部骨折	1	2	0	1	2
アキレス腱断裂	1	1	1	3	1
切断・壊死	4	11	4	1	1
脛骨プラトー骨折・膝関節内離裂骨折・腓骨近位端骨折	5	0	4	1	1
関節リウマチ	1	0	1	1	1
脛骨骨幹部骨折	0	0	0	1	1
足部骨折	4	1	0	0	1
褥瘡	92	22	0	22	0
大腿骨骨幹部骨折	2	3	2	0	0
膝靱帯損傷，半月損傷，内障，OA，関節内遊離体	2	0	0	0	0
THA・TKA	0	1	0	0	0
その他	1	1	0	0	0
手術件数総計	191	105	93	121	112

3) 手術件数総数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
上肢	1,493	1,586	1,322	1,528	1,318
下肢	191	105	93	121	112
総数	1,684	1,691	1,415	1,649	1,430

泌尿器科

部長 古川 洋二

2023年度は4月から、川崎医科大学からの派遣として鶴井極己医師との2人体制で外来・入院診療、手術を行っています。

2023年度外来患者数は延べ9,129名（初診621名、紹介率36.4%）で、入院患者数は延べ1,920名、平均在院日数8.8日で、昨年の比較では増加しています。その多くはDPCによる保険請求を行い、在院期間はⅠ期26件、Ⅱ期71件、Ⅲ期48件、Ⅲ期越え3件で高齢者の緊急入院の増加に伴いⅢ期の患者数が増えています。出来高請求は6月より前立腺生検が対象となり増加し

ています。入院患者は前立腺生検目的の他、難治性の尿路感染症、手術目的の尿路結石症、ターミナルケアを含めた尿路悪性腫瘍が多くを占めています。

2023年度の手術件数は131件と増加しました。主な手術は前立腺生検61例、経尿道的尿路結石採石術27例、経尿道的膀胱腫瘍切除術13例でした。コロナ禍で学会参加および報告が滞っていましたが、日本泌尿器科学会専門医教育施設の維持ができ、学会活動の再開を行っています。

形成外科

部長 河村 進

外来診療は月曜日が鈴木良典医師、火曜から土曜日は河村が担当しました。手術は月曜、木曜の午後に行い日帰りの小手術も積極的に行っています。対象疾患は顔面外傷、顔面骨折、熱傷、褥瘡、皮膚腫瘍（良性、悪性）、皮膚潰瘍（特に下腿潰瘍）、下肢リンパ浮腫、足趾壊死の治療など幅広い診療を行い、その中でも、リンパ浮腫の治療は専門的な知識と技術を有する理学療法士、看護師と共同で保存的治療（リンパドレ

ナージ、圧迫療法）を中心に行っています。またフットケア（下腿皮膚潰瘍、足趾潰瘍、足趾壊死、足爪変形など）も重症下肢虚血症例を血管外科と共同で専門的な治療を行っています。

症例の統計：2023年度の入院患者総数は44名で年間手術数は全身麻酔症例（10例）ブロック麻酔・伝達麻酔症例（4例）局所麻酔症例（240例）計254例でした。

小児科

部長 寺田 喜平

2023年度は、前年同様に常勤医師4名、非常勤医師5名の体制でした。2024年度の外来スケジュール（4月から）は、表1に記載の通りです。非常勤の予定に多少変化があります。専門外来は、続けてアレルギー、小児循環器、食育・肥満、乳幼児発達、小児神経・発達、予防接種を行っています。

県南西部地域での入院可能な病院が減少するなか、福山市における小児科拠点病院の変化などからも、当院小児科の重要性が増していると考えています。医療圏は他院からの地域別紹介患者（表2）からもわかるように、近隣の浅口市や井原市、加えて倉敷市や福山市、岡山市からの退院後の逆紹介などもあります。コロナ禍の影響で外来と入院患者数（表3・4）が減少していましたが、2023年は2019年比で127%と増加しています。しかしながら、入院患者数は最も多い2019

年比で2023年は63%とまだ元には戻っていません。これまでコロナによる行動制限やマスク着用によって感染症は減少していましたが、逆に2023年度は5類に変更後、再びコロナや溶連菌、アデノウイルス、インフルエンザ感染の流行（図）が増加したため、外来数が急増したと考えられます。また、これまで予防接種・乳児健診・紹介件数（表5）は減少傾向にありましたが、2023年からはいずれも増加に転じています。

地域の活動としては、リモートによる講演活動、小児科・食育スタッフ連携で子ども健康教室・出前講座などを実施していました。コロナ感染が抑制された後は、これまで同様に看護師、管理栄養士、公認心理師、臨床検査科、リハビリテーション科などとも連携して活動幅を広げ、地域から信頼され、愛される小児科になれるよう努力したいと考えています。

表1 外来スケジュール（2024年4月～）

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	9時～12時	宮島 裕子 原 成未	寺田 喜平 小原 隆史 若林 尚子	湯本 悠子 原 成未 大石 智洋	寺田 喜平 宮島 裕子	原 成未 若林 尚子 半澤 愛	寺田 喜平 (第1・2・4 3(偶数月)) 原 成未 (第1・3・5) 宮島 裕子 (第2・3(奇数月)) 湯本 悠子 (第4・5)
	専門外来	湯本 悠子 (発達・アレルギー)					赤池 洋人 (第1・3) (小児神経・発達) 林 知子 (第2・4) (アレルギー)
午後	2時～5時	原 成未 尾内 一信 (第2・4)	原 成未 若林 尚子 (4時まで)	寺田 喜平 (2時～4時予防接種) 宮島 裕子	原 成未 栄徳 隆裕	寺田 喜平 若林 尚子 (4時まで)	
	専門外来	湯本 悠子 (アレルギー)	湯本 悠子 (発達・健診)		湯本 悠子 (2時～成長発達 3時～アレルギー)	宮島 裕子 (肥満・OD)	

(常勤) 部長 寺田喜平・部長 湯本悠子・宮島裕子・原 成未
(非常勤) 赤池洋人・栄徳隆裕・尾内一信・大石智洋・小原隆史・林 知子・半澤 愛・若林尚子(五十音順)

表2 地域別紹介患者数(人)

	合計
笠岡市	39
井原市	15
浅口市	23
里庄町	0
倉敷市	17
岡山市	3
県内(上記以外)	1
福山市	13
県外(福山市以外)	2
合計	113

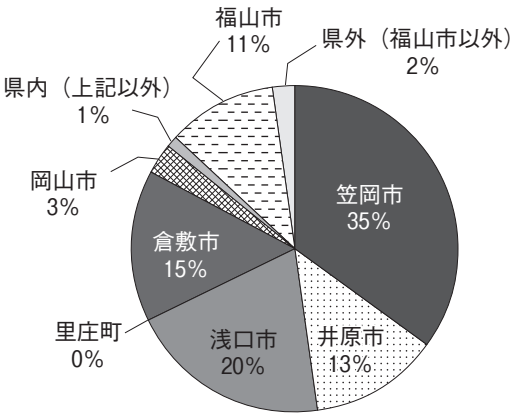


表3 過去5年外来患者数(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019年度	1,651	1,479	1,853	1,896	1,776	1,904	1,707	1,524	1,816	1,464	1,434	1,358	19,862
2020年度	1,053	755	1,078	1,153	1,162	1,082	1,335	1,156	1,277	995	1,063	1,389	13,498
2021年度	1,657	1,453	1,510	1,627	1,515	1,179	1,327	1,495	1,512	1,440	1,195	1,460	17,370
2022年度	1,431	1,340	1,459	1,643	1,967	1,732	1,766	1,805	2,190	1,544	1,646	1,909	20,432
2023年度	1,826	2,127	2,101	2,310	2,088	2,078	2,093	2,400	2,214	1,933	2,091	1,967	25,228

表4 過去5年入院患者数（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019年度	42	50	43	34	41	48	35	29	27	33	21	26	429
2020年度	20	22	18	24	22	26	22	20	22	14	16	21	247
2021年度	27	20	37	35	23	22	14	13	21	16	11	18	257
2022年度	16	5	21	21	26	26	16	15	14	10	13	10	193
2023年度	29	31	35	31	38	16	15	20	14	12	17	13	271

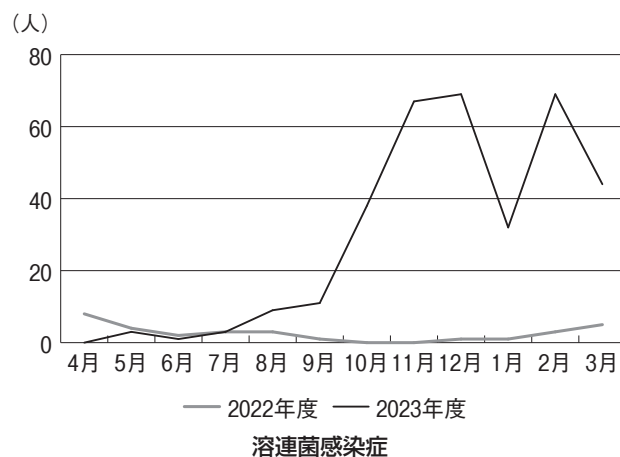
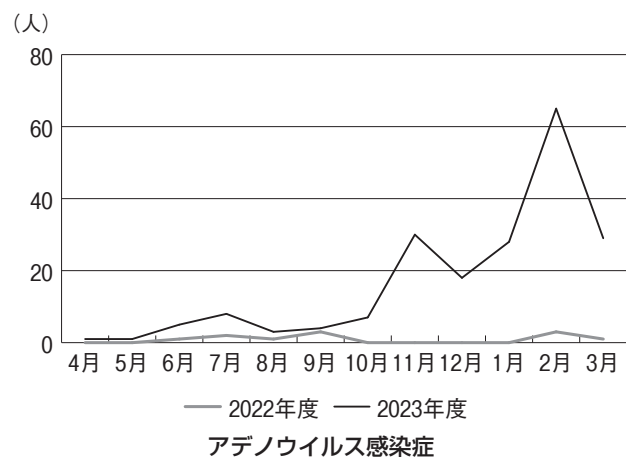
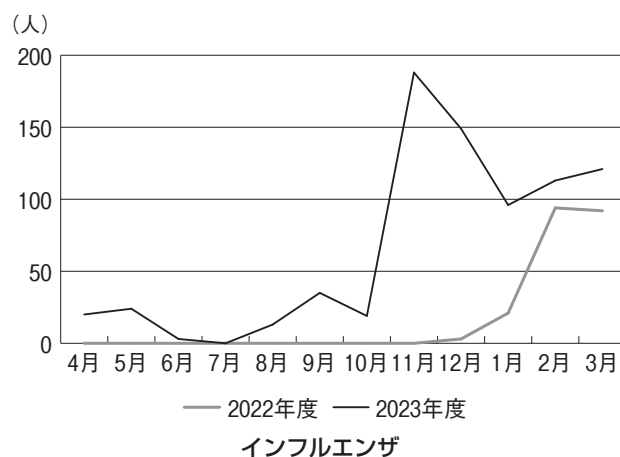
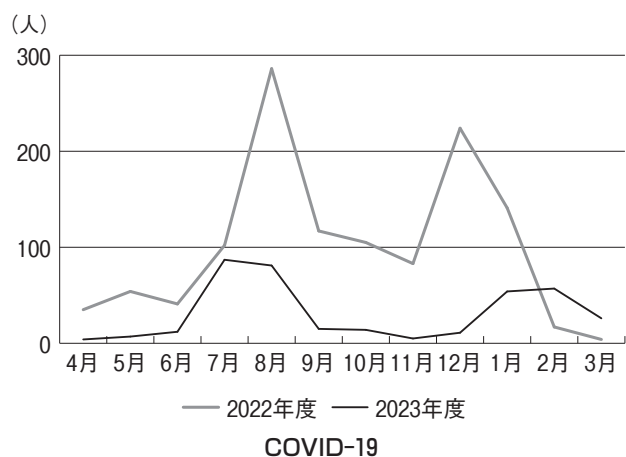


図 感染症発生状況

表5 予防接種・乳児健診・紹介件数の推移（人）

	予防接種	乳児健診	他院より紹介患者数
2019年度	3,550	193	134
2020年度	4,330	223	113
2021年度	3,575	225	98
2022年度	3,053	198	100
2023年度	3,154	211	113

（予防接種数統計 P.61参照）

皮膚科

水野 佳寿子

引き続き岡山大学皮膚科より派遣された非常勤医師で診療を担当させていただきます。

月・水・金・土曜日の午前に診療を行っています。常勤医師が不在ですので入院加療や手術が必要な患者につきましては、他科や他病院と連携しながら診療を進めています。

当科の特徴としましては、今や皮膚科診療に欠かせなくなった診断機器であるダーマスコプと生検により診断精度が向上しております。

治療面では大型のナローバンド UVB 機器が従来より使用可能で、尋常性白斑や乾癬・紅斑症に積極的に使用しています。また治療抵抗性の疣贅に対しては凍結療法に加えてモノクロール酢酸による化学的焼灼も併用し効果をあげています。

さまざまな制約はございますが、笠岡地区の皮膚科診療に貢献ができるよう努めて参りますので、些細なことでもご相談いただければ幸いです。

眼科

医長 渡邊 逸郎

当科を受診される患者の多くは高血圧、糖尿病、透視導入されている方が多く、眼底疾患を伴っている場合があります。早期発見できるように検査、診療を行っています。

眼底疾患の中でも硝子体注射の適応となる糖尿病黄斑浮腫、網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫、加齢黄斑変性症には非侵襲的かつ造影剤不要の光干渉断層血管撮影が有効です。

当院での硝子体注射は手術室にて施行している為、患者にはご負担をかけてしまい大変申し訳ありません。

当科では一般診療に加えて各種レーザー治療、硝子体注射、白内障手術を主に行っています。

常勤医師1名、看護師1名、視能訓練士2名と少数ではありますが、スタッフ一同これからも地域医療の一助になれるよう貢献していきたいと思っております。

救急科

田邊 綾

救急科は、救急科非常勤医師、他科医師と連携し、主に重症患者対応および外来のサポートを行っています。当院は2次救急指定医療機関であり、地域の救急医療を支える重要な役割を担っています。

2023年度は岡山大学病院救命救急科より山本隼亮先生がいらっしゃられ、救急対応に尽力頂きました。専攻医の活躍に加え、多職種、他科協力のもと、救急搬送受け入れ数は昨年同様、1,000件を超えました。救急診療を地域で行うにあたり、救急隊、看護師、他科医師、研修医など多職種の連携も不可欠でした。地域での救急診療の連携をより強固にするための取り組みである、ミニ Medical Control 検討会を今年度も継続して行いました。ミニ MC 検討会では、井笠地域の救急隊、医師、看護師、そのほか医療スタッフを対象

とし、重症患者の対応について、病院前の状況、院内での診療経過を双方向から共有し合いました。互いに情報共有しあう事で、活発な議論が行われ、地域全体の救急診療能力の向上につながりました。それに加え、今年度は数年ぶりに笠岡第一病院で ICLS コースを開催しました。受講生18名、インストラクター19名と病院内外より一堂に会し、蘇生術を学びました。受講生、インストラクターともに満足度が高く、今後も当科を中心に継続していきたい取り組みです。

来年度より岡山大学病院救命救急科萩原万瀧先生が当科常勤医師として着任されます。地域全体の救急レベルの向上に向け、当科もよりパワーアップしていくことと思っております。

麻 醉 科

部長 藤田 喜久

岡山県南西部の井笠地区地域において、全身麻酔下の手術医療を常時提供できる唯一の施設として、手術室のスタッフとともにチーム医療で取り組んでいます。麻酔科ではとくに2点を重要と考えています。第一は大多数を占める80歳以上の高齢者に対する麻酔です。手術室全職種がチームワークで支える手術中のケア、麻酔方法では神経ブロック等を積極的に併用することで術中、術後の鎮痛をはかり麻酔からの速やかな覚醒と術後の回復を行っています。第二は緊急患者への積極的な対応です。緊急患者とくに小児がわざわざ遠方の病院に搬送されることなく、この地域で手術を受けられることで、笠岡第一病院の地域救急センターとしての役割にも貢献できていると考えています。

2023年度は一時期、手術室看護師の休職や退職が重なり、手術室看護師の減少がありましたが、看護部門のリーダーシップと各部署より協力があり、多くの臨床工学技士が手術室に加わりました。今後、手術室で

は全スタッフが一層タスクシェアリングをすすめ、チーム力を増強し、またそれぞれが専門性をさらに高めて周術期管理チーム（手術看護認定看護師、周術期管理チーム制度による認定など）へと発展していくことが期待されています。

・実績

2023年度の麻酔科管理件数は375例で、2020年度189例、2021年度278例、2022年度325例と比べて順調に増加しています。科別の内訳をみるとやはり整形外科、泌尿器科、外科が大部分を占めていました（麻酔法および手術部位別分類、表1 A、B参照）。

引き続き川崎医科大学麻酔・集中治療科から医師支援（表2参照）を受けています。

・麻酔関連備品等の更新

2024年度には手術室は新棟に移動することが予定されており、新環境で手術件数も大幅な増加が予想されます。

表1 A 麻酔科管理手術症例の麻酔法別内訳（2023年4月1日～2024年3月31日）

【麻酔法分類】			
A. 全身麻酔（吸入）	111	F. 硬膜外麻酔	0
B. 全身麻酔（TIVA）	3	G. 脊髄くも膜下麻酔	62
C. 全身麻酔（吸入）＋硬・脊、伝麻	185	H. 伝達麻酔	9
D. 全身麻酔（TIVA）＋硬・脊、伝麻	3	X. その他	2
E. 脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔（CSEA）	0	合計	375

表1 B 麻酔科管理手術症例の部位別内訳（2023年4月1日～2024年3月31日）

【手術部位分類】			
10. 開頭	0	40. 頭頸部・咽喉頭	4
15. 開胸	12	45. 胸壁・腹壁・会陰	84
20. 心臓・大血管	0	50. 脊椎	1
25. 開胸＋開腹	0	55. 四肢（含：末梢血管）	147
30. 開腹（除：帝王切開）	127	99. その他	0
35. 帝王切開	0	合計	375

表2 非常勤麻酔科医師名
（2023年4月1日～2024年3月31日）

曜日	非常勤医師名
月	日根野谷一
火	山本雅子
水	福永彩子／小田亜希子
木	森田善仁
金	石井祐季／松本綾奈

放射線科

部長 笹井 信也

2023年1月から12月の画像診断報告書はCT 4,872件、MR 1,836件（2022年はそれぞれ4,741件、2,194件）でした。院外からの画像診断紹介はCT 135件、MR 257件でした。MR 検査では全体の14%が地域の医療機関からの検査依頼であり、地域での有効利用が着実に行われています。MR 検査の院内外での活用を目標にしており、2024年度もさらに活動を続けてまいります。

痛くない乳がん検診は158件と引き続き多くの方に利用されています。今年度は11月のピンクリボン月間

に笠岡市と医師会、市内の検診施設とともに啓蒙活動を行いました。2024年度は大腸がん検診も含めてがん検診を地域と協力してさらに進めていきたいと思えます。

2024年度は手術支援画像に取り組んでまいります。支援には画像撮影から作成までに高いレベルが必要で、放射線科スタッフと術者と協同して進めていきます。2024年度オープンする新手術棟で行われる高度な手技にも応えられると考えています。

(画像診断センター P.53参照)

糖尿病内分泌内科

浜本 純子

毎週火・水・金曜日と第3土曜日に診察をさせていただきます。

糖尿病治療の主体は、食事・運動療法ですが、それらが実行できない場合、内服薬やインスリン等の治療を行っても、良好なコントロールを達成する事は困難です。そのため、外来指導のみで食事療法が改善できず、血糖コントロールが改善しない方に対して糖尿病教育・治療方針の見直しのための入院(約1～2週間)

を行っております。

今後も医師だけでなく看護師、管理栄養士、健康運動指導士、薬剤師といった職種のスタッフが、一丸となって患者の皆様と一緒に糖尿病治療に取り組んでいきたいと考えております。今後も、血糖コントロールが改善しない症例がありましたらご紹介いただければと思います。

腎臓内科

角谷 裕之

毎週木曜日の午前・午後に腎臓内科外来をさせていただきます。

末期腎不全による透析患者の世界的な増加から慢性腎臓病の疾患概念が提唱され、腎臓病の早期発見・早期介入が課題となっています。わが国の血液透析患者は34万人といわれており、その原因第一位は糖尿病性腎症です。また、喫煙、高血圧症、脂質異常症、肥満といった因子からなる腎硬化症も増加の一途をたどっており、慢性腎臓病は生活習慣病の延長線上にあると

いうことができます。

腎臓病は心疾患や糖尿病などと関連が深く、他科の先生方や地域医療を担う先生方との連携が重要となっております。これからも窓口の広い腎臓内科を目指して診療に取り組んでまいりますので、検尿異常や腎機能障害など、お気軽にご相談いただけましたら幸いです。

(人工透析センター P.43参照)

肝臓内科

医長 森元 裕貴

毎週月・金曜日に、予約制外来にて診療を行っております。

当院は、国の肝炎治療特別促進事業における肝炎一次医療機関に指定されております。これを受け、岡山県内在住のB型肝炎ウイルスやC型肝炎ウイルスに感染した患者さんに対し、医療費公費負担制度を利用した抗ウイルス治療を行っております。

ウイルス性肝炎を始めとする慢性肝疾患に合併する

肝発癌に対し、血液検査と画像検査を併用した早期発見に取り組んでおります。発癌が認められた場合は、治療可能な高次医療機関へ紹介を行っております。

原因不詳の肝機能障害に対する診療も行っております。必要に応じて、高次医療機関への肝生検目的の紹介も行いながら、適確な診断に基づく治療方針立案を心がけております。

神経内科

柚木 太淳

神経内科は2012年10月に新たに開設されました。現在は第1～4土曜日に外来診療を行っております。病院の広報や院内からのご紹介により、おかげさまで開設以来外来患者数が急激に伸びてきており、この地域の神経内科診療の需要が非常に高いことを実感しております。外来患者の疾患としては、認知症、パーキンソン病、ALS、末梢神経障害など幅広く診療を行って

おります。特に最近では大学病院以外の福山から倉敷地域の病院からの紹介も増えており適宜岡山大学病院と連携を取りながら診療を行っております。

限られた時間ではありますが、今後も地域の患者さんのお役に立てるよう笠岡の神経内科の中心施設として努力していく所存です。

脳神経外科

八木 謙次

笠岡第一病院の脳神経外科は、笠岡地区にある脳神経外科を標榜する二つの病院の一つとして、地域の人々の脳神経疾患にかかわる診療に当たっています。

担当医師は、脳卒中の急性期から脳腫瘍、脊髄疾患など脳神経疾患全般にわたり、幅広い分野の診療を行っています。また、80列のマルチスライスCTや3テスラーと1.5テスラーのMRIを有し、より詳細な画像診断が可能となっています。

❖ 手足のしびれ・痛み

手足の痛みやしびれの原因は脳、脊髄、末梢神経（手足を走る神経の異常）などどここの部位からの異常でも起こり得ます。神経症状を詳細に確認することで、どこに病変があるか診断できます。そしてMRIなどの画像検査も行います。①脳卒中や脳腫瘍などの脳病変②頸椎や腰椎の椎間板ヘルニアなどの脊髄病変③手足の末梢神経障害など包括的に神経全般を評価し、治療を行います。当院整形外科や川崎医科大学附属病院脳神経外科とも連携しています。

❖ 歩行障害

脳や脊髄などの異常が原因となっていることがあります。神経症状を確認し、さらにMRIなどを行い、

原因を特定します。専門的治療や手術により、症状が改善する可能性があります。

❖ 頭痛

頭痛の原因はさまざまです。片頭痛や筋緊張性頭痛といわれる良性の頭痛が多いです。しかしながら、脳腫瘍、脳出血、くも膜下出血などの病気によっても頭痛はおこります。まず頭痛の原因となる異常がないかをMRIやCTなどでチェックします。異常があれば専門治療ができる連携病院へ紹介いたします。また良性頭痛であった場合は、薬物治療を行います。

❖ めまい

めまいは、三半規管の障害からくることが多く耳鼻科での治療が必要である場合が多いです。しかし時に脳卒中や脳腫瘍などが原因となっていることもあります。MRIやCTなどを用いてチェックします。

❖ 病気ではありませんが・・・

脳ドックも行っています。笠岡市の節目ドックを利用される方が多いようです。全身の人間ドックと一緒にされる方もいらっしゃいますが、脳ドックのみの簡易脳ドックも可能です。

乳腺甲状腺外科

野村 長久

乳癌は、女性の悪性腫瘍で最も多く、最近の統計では日本において、1年間に約9.5万人発症しております。女性の癌による死因では乳癌は第4位であり、早期発見できれば、決して予後が悪い疾患ではありません。

乳腺疾患は乳癌だけでなく、乳腺症、線維腺腫、乳頭腫などの良性疾患や乳腺炎、乳輪下膿瘍などの炎症性疾患などもあります。当科においては、マンモグラフィ、超音波、MRIなど検査機器が充実しており、検診から精密検査まで幅広く診察しております。

当科では、甲状腺疾患も診察しております。甲状腺疾患は、甲状腺癌や良性腫瘍など腫瘍性疾患とバセドウ病、橋本病などの機能性疾患に大別されます。

甲状腺疾患の多くは、専門的な診断・治療が必要で、手術療法、薬物療法、放射線療法など適切に行っております。

手術が必要な場合は、専門機関にご紹介いたしますので、お困りのことがございましたら、遠慮なく受診していただければ幸いです。

リウマチ内科

小出 侑佳

リウマチ内科は川崎医科大学リウマチ・膠原病学教室より非常勤の派遣をさせて頂き診療を行っております。2023年度からは、前任の赤木貴彦医師から引き継ぎの上、毎週金曜（小出侑佳）、月1回水曜（守田吉孝医師、辻尚子医師）、月2回土曜（平野紘康医師）で診療に当たらせて頂きました。

2023年度の診察した患者数は252名（延べ1,282名）で、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、全身性強皮症、血管炎、リウマチ性多発筋痛症といった幅広い疾患の診療をさせて頂きました。また前年度に引き

続き、近隣の病院から多数の患者さんを紹介して頂きました。

2024年度からは、毎週金曜の担当医が、小出から山田雅智医師に交代となります。月2回水曜（辻医師）、月2回土曜（平野医師）にも専門外来を継続させていただきます。笠岡地区にお住まいのリウマチ・膠原病疾患をお持ちの患者さんが安心して通院して頂くためにも、大学病院と変わらない質の高い医療を提供できるよう精進していきます。引き続きご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

歯 科

医長 坂本 隼一

歯科では、むし歯、歯周病、ほてつ治療（入れ歯や被せ物の治療）を中心に口腔粘膜疾患や顎関節症など幅広く治療を行っています。また病院歯科の特徴を生かし、一般歯科診療所では対応が困難な有病者の歯科治療や、周術期の口腔機能管理、入院患者・関連施設入所者の口腔ケア（お口の衛生管理）や口腔機能管理（入れ歯、噛み合わせの調整による食べる機能の回復など）にも力を入れて取り組んでいます。今年度からは嚥下の精密な検査（嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査）を歯科が担当することとなりました。他職種と連携を図りながら適切な食形態や環境、リハビリテーションの提案を行っています。

院内での取り組みとして、口腔自立度の高い患者を除くすべての入院患者を対象に入院時のお口の状態の簡易スクリーニングを行っています。口腔環境が劣悪な患者や咀嚼機能障害を有する患者を抽出し、早期に

歯科が介入することで入院期間中の口腔内に起因する有害事象（誤嚥性肺炎、歯牙の脱落・破折による誤飲など）の予防や、栄養管理の一環としての口腔機能管理、経口摂取の支援を行っています。

また、歯科では多職種でのチーム医療連携にも力を入れています。院内 NST や関連施設での摂食カンファレンス、ミールラウンド（食事観察）では歯科の専門知識を生かし多職種連携のもと患者・入所者個々の状態に合わせた口腔管理、栄養管理に取り組んでいます。さらに、糖尿病チームやがんチーム医療においては、口腔領域の専門科としての立場から糖尿病療養指導、がん口腔支持療法にも携わっています。

常勤歯科医師1名、非常勤歯科医師1名、歯科衛生士3名の少人数の部署ですが、“お口から体の健康を守る”をモットーに患者の皆様へ質の高い医療を提供できるようスタッフ一同日々邁進していく所存です。

診療情報管理室

科長 原田 真由美

1) 医局秘書

原田 真由美

医局秘書は、医師の診療に関する事務作業負担を軽減し、病院全体の業務を最適化することを目的とし、医師が本来の業務である医療行為に専念できるように、協働する医療チームの一員として医師の指示のもと事務的な業務を支援しています。

主な業務は、医師スケジュール管理、学会や研究会などのイベントや行事の運営支援、カンファレンスの準備や資料作成、学会や講演会資料の作成、医局診療委員会や各種会議の資料準備や議事録作成、手術症例・研究業績・臨床研究データなど診療に関するデータの収集やデータ処理、文献検索、蔵書管理、さらに院外や他部署との医師との円滑な情報共有や連携を図る役割も担っています。また、臨床研修病院として初期研修医、専攻医、医学部学生の臨床実習受け入れのサポートや事務的な管理など幅広い業務を行っています。

2024年4月より医師の働き方改革が施行されるにあたり、医師の業務負担の軽減を目的に推進されている取り組みであるタスクシフト・タスクシェアの強化が求められています。その一翼を担う医局秘書として、2023年度は、専門性の向上と業務範囲拡大を目標に、環境の変化に対応して新しい業務や知識を身につけ、また、効率的かつ迅速に業務が遂行できるよう他部署との協力を得ながら業務分担や業務の効率化を図りました。

2024年度も医療従事者がそれぞれの専門性を活かして協同することで、医師の負担を軽減し、さらに医療の質と生産性の向上に繋がるよう、医師のサポート役として業務の効率化や情報の流れの最適化など業務改善に取り組むとともに、自己のスキルや意識を高めて参ります。

2) DPC・病歴管理

田中 千穂

DPC・病歴管理室では、国際疾病分類（ICD）による病名のコーディングや、病歴管理、退院患者の入院診療録の量的・質的点検、退院時要約（サマリ）の確認、各同意書の管理、「労働と看護の質向上の為にデータベース事業」のデータ抽出、厚生労働省へのデータ提出などを行っています。また、蓄積したデータを基に、疾病統計や手術統計など様々な統計資料を作成し、全職員が閲覧できるように院内ホームページ上に公表し、臨床・研究・経営等の指標として役立てるよう努めています。さらに院外ホームページを活用し、笠岡第一病院指標として診断群分類別患者数・手術等、当院の特徴や急性期医療の現状を地域の皆様に公開しています。今後も適切な診療データの統計作成・活用ができるよう医師や看護師との連携を図りながら、日々のコーディングや病歴管理に努めて参ります。

1. 退院患者数比較（表1・2，図1・2）

退院患者数は2,697名、月平均は224.8名で昨年度より2.6%増加しました。2023年度は2022年度に比べ専攻医の在籍した月が延べ9ヵ月分少なかったため、内科の患者数も減少しましたが、呼吸器内科、小児科は、肺炎等およびインフルエンザ・ウイルス肺炎が大幅に増え、患者数も増加しました。

2. 平均在院日数比較（表3・4，図3・4）

平均在院日数は14.6日と昨年度と比べて0.7日延びましたが、全体としては大きな変動はみられませんでした。呼吸器内科は高齢者の肺炎患者が多く形成外科は難治性疾患が多いため在院日数が長期化し、眼科の白内障手術、小児科の急性期疾患、食物アレルギー検査などが在院日数の短縮に繋がっています。

3. DPC 頻発症例（表5）

2023年度退院症例をもとに頻発症例の検討を行いました。昨年同様、「上肢末梢神経麻痺、手根管手術等」の症例数が最も多く、全症例の7.1%を占めています。次いで2022年度の頻発症例5位までには入っていなかった肺炎等が2位となり、5位の人口の高齢化に伴う誤嚥性肺炎と合わせると、呼吸器系疾患が全症例の8.9%を占めています。第3位には透析患者の診療を行っているため「慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全」が4.4%、「心不全」が4.3%を占めました。

表1 科別退院患者数比較（人）

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
内 科	451	469	327	378	266
循環器内科	284	247	242 ^{*6}	232	242
肝臓内科	47	52	28	24	36
呼吸器内科	326	267	303 ^{*6}	267	323
整形外科	682	664	599 ^{*6}	647	640
脳神経外科	97	87	55	— ^{*4}	—
泌尿器科	226	104	182	199	214
小児科	433	242	258 ^{*6}	193	280
形成外科	—	—	—	33 ^{*5}	50
眼 科	145	96	87	83	85
外 科	93	66	268 ^{*2}	297	323
ペインクリニック内科	2	— ^{*1}	—	—	—
血管外科	223	167	125 ^{*6}	124	113
救急科	—	—	44 ^{*3}	151	125
合 計	3,009	2,461	2,518 ^{*6}	2,628	2,697

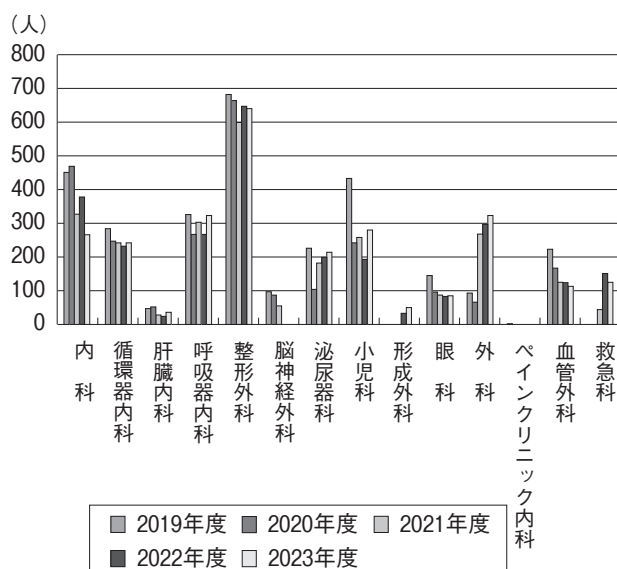
*¹2020年4月より非常勤*²2021年4月より増員*³2021年10月より新設*⁴2022年4月より退職*⁵2022年4月より常勤*⁶2021年度報ではそれぞれ上から239, 302, 598, 255, 267, 124, 43, 2,507と誤植

図1 科別退院患者数比較

表2 月別退院患者数比較（人）

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
4 月	254	232	228	232	214
5 月	266	198	188	196	232
6 月	256	198	209	243	248
7 月	259	207	231	231	244
8 月	266	202	201	242	252
9 月	272	201	194	225	204
10月	250	224	198	240	202
11月	257	203	196	227	215
12月	250	239	238	222	238
1 月	211	159	212	140	197
2 月	230	183	202	195	216
3 月	238	215	221 [*]	235	235
合 計	3,009	2,461	2,518 [*]	2,628	2,697
平 均	250.8	205.1	209.8 [*]	219.0	224.8

*2021年度報ではそれぞれ上から210, 2,507, 208.9と誤植

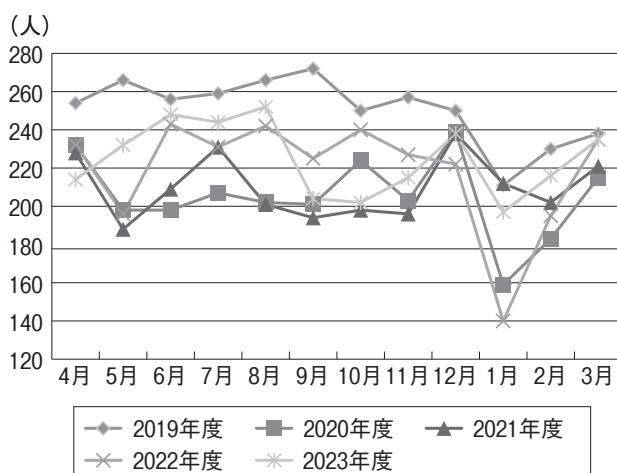


図2 月別退院患者数比較

表3 科別平均在院日数比較（日）

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
内 科	16.4	16.2	18.0	18.6	19.2
循環器内科	14.4	18.7	15.6	14.6	16.2
肝臓内科	22.6	25.2	46.3	28.1	15.5
呼吸器内科	27.4	27.9	22.8	26.2	26.0
整形外科	17.1	13.7	17.2	15.7	17.5
脳神経外科	25.9	27.2	32.4	— ^{*4}	—
泌尿器科	10.2	10.1	10.6	9.1	8.8
小児科	2.8	1.7	1.9	2.0	2.5
形成外科	—	—	—	23.3 ^{*5}	21.8
眼 科	1.0	1.0	1.0	1.2	1.0
外 科	11.5	15.7	13.9 ^{*2}	11.8	12.9
ペインクリニック内科	29.0	1.0 ^{*1}	—	—	—
血管外科	2.5	9.4	6.3	6.2	5.9
救急科	—	—	14.8 ^{*3}	13.9	15.2
全科	13.5	14.2	14.4	13.9	14.6

*1 2020年4月より非常勤

*2 2021年4月より増員

*3 2021年10月より新設

*4 2022年4月より退職

*5 2022年4月より常勤

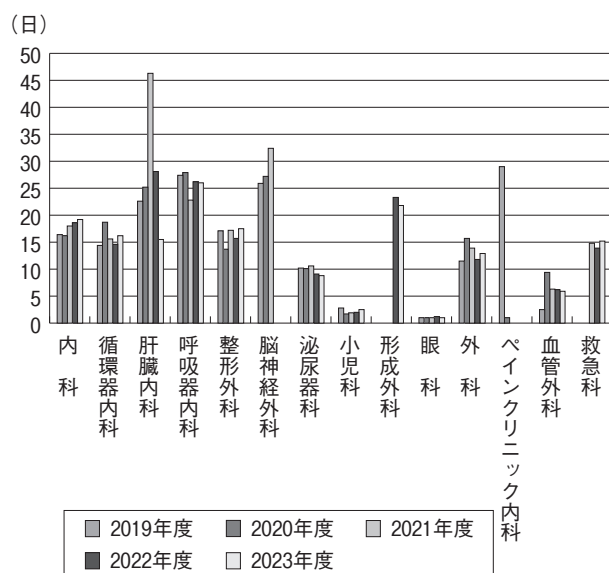


図3 科別平均在院日数比較

表4 月別平均在院日数比較（日）

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
4 月	12.9	13.9	14.2	12.8	15.1
5 月	13.2	14.5	15.2	15.2	14.0
6 月	12.3	13.6	13.6	11.8	12.9
7 月	11.9	13.7	13.4	13.7	13.6
8 月	12.8	12.8	15.1	12.5	13.3
9 月	12.4	13.8	14.4	13.2	16.0
10月	14.5	12.5	15.1	13.0	16.0
11月	13.1	14.8	14.5	12.6	15.0
12月	14.6	14.1	14.0	13.4	14.0
1 月	15.9	17.6	14.6	21.5	16.5
2 月	14.9	15.1	13.7	15.0	14.7
3 月	14.8	14.2	14.5	14.9	14.5
年 間	14.1	13.5	14.4	13.9	14.6

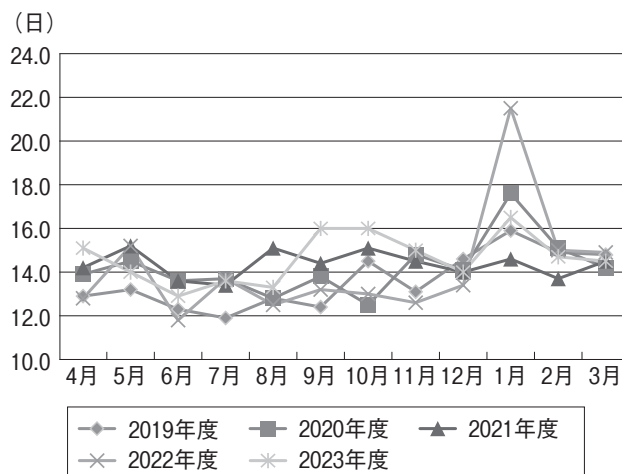


図4 月別平均在院日数比較

表5 DPC 頻発症例

診断群分類番号	名 称	件数	比率	平均入院日数
070160	上肢末梢神経麻痺	192	7.1%	1.5
040080	肺炎等	141	5.2%	19.2
110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	119	4.4%	11.1
050130	心不全	115	4.3%	26.3
040081	誤嚥性肺炎	100	3.7%	30.2

地域医療連携室

副科長 看護師 田上 絹代

地域医療連携室は、「自院と他院をつなぐ部署」といわれています。

地域医療連携室の人員は、室長（看護部長兼務）、専任看護師1名、入退院支援看護師1名、社会福祉士（MSW）4名、事務員3名です。業務内容は、前方支援と後方支援があります。前方支援は、事務員が携わる他院からの検査予約・診療予約・受診予約・診療情報提供書を含む書類の管理・保管と看護師が携わる他院からの転院相談および転院の受け入れ調整・予定入院患者の書類管理・緊急入院患者のベッド確保など行います。後方支援は、入退院支援看護師と社会福祉士が携わる入院患者の入退院支援を中心に、外来からの介護保険関連や生活支援相談・他施設からの受診相談など行います。

地域医療連携室2023年度目標は

多職種連携を強化し、シームレスな支援を行い在宅医療へつなぐ

1. 入退院支援システムを有効活用し、一週間以内家族面談を月に20件する。
2. 入退院支援部門と病棟担当 MSW が連携を行い、月に10件入退院支援加算1算定する。
3. 転院受け入れ決定後、8日以内に転院調整をする。
4. 紹介患者の確実な情報を聴き取り、円滑な受診につなげる。

を重点に取り組みました。

まずは、前方支援の報告です。

2023年度の紹介件数（表1）は、他院・他施設から3,114件、当院からの紹介件数は2,737件です。全体的に2022年度より紹介件数及び逆紹介件数は増加しています。

検査依頼件数（表2）は、MRIが240件、CT127件です。検査依頼件数は、右肩上がりに増加しています。

2023年度転院相談件数（表3）は249件です。転院受け入れ件数は155件です。転院相談の中には、当日転院受け入れ相談もあり、早急に受け入れ体制を整える事案もありました。転院相談を受ける際、当院からの紹介の有無を確認しますが、その紹介の有無に関わらず「笠岡第一病院を希望」の言葉・思いを尊重し転院調整を行っています。転院交渉時には、当院が急性期の病院であることを説明させて頂き、今後の方向性の確認や長期の入院は難しい事、地域包括ケア病棟は60日の入院制限がある事を承諾して頂き、退院を見据えた働きかけができ円滑な退院支援に繋がっています。

転院相談を受け転院日までにかかった日数（表4）は、当院から紹介ありは7.3日、紹介なしは9.5日でした。2022年度より受け入れ日数が伸びた背景には、患者背景が複雑化し退院支援に難渋する等が要因と考えられます。2023年度後期は、転院相談が多くベッド確保が出来ず対応困難に至るケースもありました。転院相談の30%が対応困難になっています。限られた病床のなかで、緊急入院や転院受け入れを円滑に対応する為には、入院時から患者・家族の意向や医師の治療方針などチームで情報共有しながら的確な時期に的確な退院支援をと考えます。

表1 2023年度紹介件数（件）

	内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	肝臓内科	糖尿病内分泌内科	腎臓内科	神経内科	リウマチ内科	人工透析センター	タカヤクリニック	小児科	外科	整形外科	形成外科	脳神経外科	泌尿器科	血管外科	心臓血管外科	皮膚科	眼科	乳腺甲状腺外科	歯科	救急科	脳卒中内科	リハビリテーション科	健診科	放射線科	MR安全管理	依頼検査	総計
他施設より	279	287	123	43	52	45	27	19	40	18	6	113	121	925	117	17	183	68	5	59	28	39	17	84	5	12	0	/	/	382	3,114
当院より	331	369	104	45	64	44	23	32	19	51	242	208	147	290	49	43	123	12	28	16	90	27	40	188	2	0	5	0	145	/	2,737

表2 依頼検査件数（件）

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
MRI	198	165	197	220	240
CT	145	131	98	120	127
骨塩定量	6	15	9	18	15
総数	349	311	304	358	382

表3 転入院相談件数（件）

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
転院相談件数	250	221	217	233	249
受け入れ件数	194	165	165	185	174

表4 転入院受け入れ日数（日）

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
当院から紹介した患者（日数）	7.9	6.9	6.8	6.8	7.3
その他の患者（日数）	9.2	7.3	8.6	9.3	9.5
当院とその他の平均日数	8.4	7.1	7.4	8.0	8.7

表5 2023年度平均入院患者数・在院日数・ベッド利用率

	2023年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2024年 1月	2月	3月	平均
平均入院患者数(人)	103.8	106.4	107.0	109.2	106.8	107.5	105.1	108.2	104.4	108.0	110.0	107.0	107.0
在院日数(日)	15.1	14.0	12.9	13.6	13.3	16.0	16.0	15.0	14.0	16.5	14.7	14.5	14.6
利用率(%)	70.1	71.9	72.3	73.8	72.1	72.7	71.0	73.1	70.5	73.0	74.3	72.5	72.3

次に、後方支援の報告です。

2023年度の相談支援件数は5,737件（外来66件、入院5,671件）でした（表6）。入院、外来ともに前年度に比べ相談件数が増加しています。2023年度は、社会福祉士の配置を一般病棟、地域包括ケア病棟、外来にそれぞれ配置出来た結果、外来対応件数が2022年度に比べ2倍程度増加しています。

退院支援介入した患者の退院先内訳（表7）は、自

宅へ退院した患者が最も多く、次いで医療機関、介護保険施設でした。介護保険施設に退院される患者数が若干増えています。高齢世帯や単身世帯が増え、癌のターミナル患者の受け入れなどが増加していることもあり、当院での看取り患者数も増加しています。地域の状況を考えてと今以上に当院での看取り患者数が増加することが考えられます。

2022年9月から入退院支援加算1の算定を開始し、

2023年度は164件算定することができました（図）。目標に掲げた毎月の家族面談件数や入退院支援加算件数目標達成に向け取り組んだ結果といえます。又、入退院支援システムを導入したため、患者、家族との面談状況が可視化でき、入退院支援の進捗状況が把握しやすくなりました。COVID-19感染症が5類に移行したことで制限が緩和され、退院前自宅訪問を再開しています。自宅訪問を行い、家屋状況を直接確認しながらリハビリの専門職からアドバイスを行い、危険な箇所を具体的に指導することが出来るようになりました。今後も、多職種連携の強化を図り退院支援ができるよう入退院システムを有効に活用していきたいと考えています。

2024年度は診療報酬、介護報酬、障害福祉サービス等報酬の同時改定があり、障害者福祉施設との連携が求められています。そして、2025年度には団塊の世代が後期高齢者になり、2030年には高齢者の数が減少していくことが予想されています。最近では身寄りがない方や複雑な家族背景の方が多く、行政機関との連携が必須な事例も増加しています。

これからは、患者・家族のニーズが多様化し、医療機関だけの支援解決が難しく、地域全体で患者を支援する事が重要になると考えられます。その為、院内連携や院外・地域連携をとりながら、患者・家族の思いに寄り添い、その人らしい生活を目指した支援を行っていききたいと思います。

表6 外来患者・入院患者の相談支援件数（件）

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来	55	183	82	25	66
入院	3,035	4,492	4,354	5,017	5,671
合計	3,090	4,675	4,436	5,042	5,737

表7 後方支援：退院先内訳（年度推移）（人）

年度 退院先	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
在宅	288	218	266	356	392
医療機関	78	73	108	115	125
福祉施設	52	48	52	57	60
介護保険施設	104	86	82	134	163
その他	86	69	90	91	111
合 計	608	494	598	753	851

注1）在宅は、退院後ショートステイ、小規模多機能、宅老所の利用を含む。

注2）福祉施設は、有料老人ホーム、養護老人ホーム、グループホーム、ケアハウス、サービス付高齢者向け住宅、障害者支援施設とする。

注3）介護保険施設は、介護老人福祉施設、介護老人保健施設とする。

注4）その他は、死亡とする。

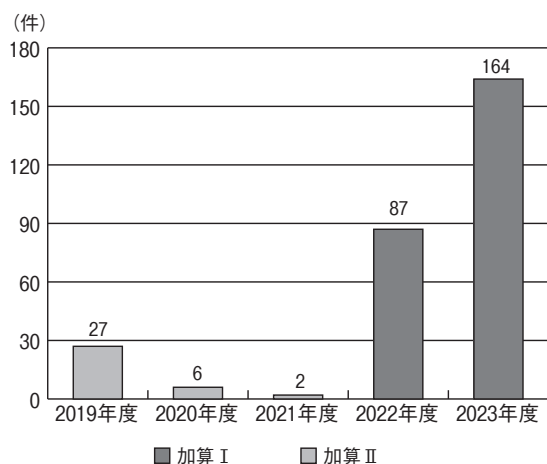


図 入退院支援加算 I・II 算定件数

2 人工透析センター

透析統括部長 原田 和博
副看護師長 藤井美佐子
科長 亀鷹 孝行

1. 概要

当院は笠岡市唯一の維持透析施設であり、タカヤクリニックとともに笠岡市、井原市をはじめ、周辺地域の血液透析治療に携わっています。透析患者の全国平均年齢は69.7歳と高齢化が進み、人工透析センター、タカヤクリニックの両施設の2023年末平均年齢は70.4歳と全国平均を上回っています（表1）。高齢化によって独居生活や福祉サービスを利用しながらの生活・通院となり、様々な調整が必要になっているのが現状です。しかしながら、ここ数年の透析導入傾向として高齢での透析導入が多く、導入後の日常生活動作低下、家庭事情から通院が困難となり、療養型施設への他施設転院が増加しています。透析件数は人工透析センター、タカヤクリニックとも昨年度と比べわずかに減少となりました。2020年度をピークに微減しています。日本透析医学会調査に基づく全国慢性透析療法を受けている全国患者総数は2021年まで緩徐に増加傾向でしたが、2022年末は前年比約2,000人の減少に転じています。透析患者数の将来予測に合致する患者数の変化を認めたことになり、このことは笠岡第一病院・タカヤクリニックにも今後、年間透析件数に反映されてくると考えられます（図1）。全国的に透析期間年数は長期化する傾向にありますが、当院では高齢透析導入患者が多く、透析期間5年未満が人工透析センター、タカヤクリニックとも約5割近くに達しています（表2）。透析患者主要原疾患として、糖尿病性腎症、慢性糸球体腎炎、腎硬化症の割合が高く、全国と同じ傾向です（図2）。透析患者の診療は内科原田医師を中心に、川崎医科大学附属病院の腎臓内科医師も行っています。患者さんの身体的・社会的状況を考慮しながら至適透析治療を目指しており、日本透析医学会で定められている診療・治療ガイドラインの遵守は全国値と比べ当院透析データは良好な結果が示されています（表3・4・5）。

2. バスキュラーアクセス（シャント）管理

バスキュラーアクセス（シャント）（以下VA）は透析治療を続ける上で大変重要な維持管理の一つであり生命予後にも大きく関わります。特にVA関連トラブルは多く、透析穿刺前の見る、聴く、触るといった理学的所見で異常が疑われる時はVAエコー検査を実施してVA機能維持や早期異常発見に努めています。2023年度はVAエコーの機能評価ができるスタッフを増員し重点的にVAエコー検査を行いました

た（図3）。また、VA造設初回穿刺やVA穿刺困難な血管にはエコー下穿刺を積極的に実践しています。VAエコー下穿刺は透析開始時の穿刺困難による穿刺ミスを減らし、患者さんにとって穿刺時の苦痛、ストレスの軽減に繋がっています。VA機能が低下した場合は循環器内科阿曾沼裕彦医師、浦川茂美医師と連携してVA血管造影（DSA）やVA狭窄に対しての経皮的血管形成術（PTA）を施行し早急に対応しています。VA機能の低下症例やPTAでの修復が困難なVA閉塞に対しては、血管外科松前大医師にVA再造設を依頼しています。

3. スタッフの役割

慢性腎臓病を患い治療を受けている患者さんの病状が進行（末期腎不全）していくと、最終的に血液透析、腹膜透析、腎移植、保存的腎臓療法などの治療選択の決断をしなければならない時期がやってきます。わが国では血液透析治療が第一選択となるのが現状ですが、患者さんにとっては医師から説明を受けても将来への不安・葛藤で容易に決断できるものではありません。外来部門と連携し人工透析センター所属の看護師を中心に血液透析導入を控えている患者さんに血液透析の説明、指導を行っています。人工透析センターで透析治療現場も見学していただくことでスムーズに透析導入に移行できるよう導入プログラムを構築しています。また、透析患者さんの高齢化と糖尿病による足のトラブルも増加しており、定期的に足の観察を行うことで足トラブルの回避をはかり、爪処置やスキンケアを行い感染防止等に努めています。一方、患者さんによっては「人生の最終段階の医療」として、腎代替療法を選択せず保存的腎臓療法を選択されるケースもあります。この場合、患者本人だけでなく家族や医療ケアチームと一緒にアドバンス・ケア・プランニング（人生会議）を考える必要があります。アドバンス・ケア・プランニングには家族内の状況・環境でそれぞれ思いがありますが患者さんにとって一番よい選択ができるように取り組んでいます。

人工透析センターには多くの臨床工学技士が配属していますが、透析業務だけでなくカテーテル検査、人工呼吸器の装着離脱・定期点検、医療機器管理、睡眠時無呼吸検査や内視鏡業務など業務範囲を拡大しています。2024年2月から臨床工学技士が毎週月曜日・水曜日・金曜日に夜間当直業務を行うようになりました。今後は病院のニーズに応えられる専門的な知識・

操作能力が求められており、医師の働き方改革に向け、各自が臨床工学技士の業務範囲追加に伴う厚生労働大臣指定の研修にも参加し、医療に貢献、活躍できるよう日々、研鑽をつんでいます。

透析アシスタントは、患者さんのベッド・車椅子などの移乗、センター内の環境整備、物品搬送など円滑に透析治療するための準備に貢献しています。医師事務作業補助者は医師カルテ、検査、投薬の代行入力を行い、医師業務負担軽減に努めています。クラークは診療報酬や各種保険制度が活用できるよう各種書類手続きの援助をしています。

4. 新型コロナウイルス感染症（以下 COVID-19）対策

2023年度は昨年度より COVID-19感染透析患者は増加しました（表6）。陽性者、感染疑い症例および濃厚接触者には透析隔離室で透析を施行しました。感染者が多い期間中は透析隔離室での透析が困難となり感染防止の確保に苦労しましたが、部署内で検討して柔軟に乗り越えることができました。2023年5月8日から季節性インフルエンザ等と同様の分類である5類へ扱いが変更されました。5類へ変更後も透析患者は健常者と比べ感染リスクは高く、重症化する可能性があり、関連学会から構成される新型コロナウイルス対策合同委員会規定の透析隔離期間（発症日を0日として7日目まで経過し、かつ、症状軽快から24時間経過するまで）を徹底しました。透析治療は同室内で大人数が同一時間帯の透析を受ける感染リスクの高い環境であり、患者、スタッフの入室前体温測定、手指消毒の徹底、透析開始前の待ち時間・開始時間帯の分散を

図り、密を避けた感染対策を従来通り継続していく方針です。

5. 透析開始時間の変更

2024年より施行される「働き方改革」推進の法律により、部署内でも医師・透析スタッフの勤務の見直しが必要になりました。医療・介護施設は慢性的人材不足です。この様な状況下、この改革推進のため長時間の勤務が困難な状態となってきたため、2024年2月1日より透析開始時間を午前7時30分から8時00分、午後は12時10分から12時40分と透析開始時間を変更しました。人工透析センター稼働時間の短縮、労務時間の短縮にご協力願うこととなりました。良質な透析医療の提供を行うことで地域の皆さまに貢献し、安定かつ安心して治療を受けていただける体制に努めていきます。

6. 最後に

近年の国際情勢、経済により物価上昇を招き、医療材料の高騰、安定供給の新たな問題にも対処していかなければならない状況となっています。コストを抑えた高機能な器材の見直し、また、COVID-19拡大によって、2022年度同様、集団栄養指導・運動療法などの行事開催ができなかったことは残念ですが、何よりもCOVID-19透析患者のクラスター発生もなく例年通りの透析業務実績を残せたことに感謝致します。2024年度も患者の皆さんに安全な透析治療を提供するとともに、個々に合わせた医療・看護を提供できるように取り組んでいきます。

表1 患者平均年齢

平均年齢	2023年末人工透析センター（歳）	2023年末タカヤクリニック（歳）	2023年末両施設平均（歳）	2021年末全国平均年齢（歳）
男性	69.4	69.9	69.7	68.9
女性	72.3	71.1	71.7	71.3
平均	70.4	70.4	70.4	69.7

表2 透析期間別患者割合

透析年数	2023年末人工透析センター（%）	2023年末タカヤクリニック（%）	2023年末両施設（%）	2021年末全国透析年数割合（%）
5年未満	45.3	48.1	46.7	47.2
5～10年	26.2	32.1	29.2	25.3
10～15年	12.8	13.6	13.2	12.3
15～20年	4.1	4.9	4.5	6.5
20～25年	4.7	1.2	3.0	3.9
25年以上	7.0	0.0	3.5	4.7

表3 2016年版 慢性腎臓病患者における腎性貧血治療のガイドライン 透析会誌49(2)：89-158、2016

		人工透析センター (%)	タカヤ クリニック (%)	2021年末全国値 (%)
HD 患者透析前ヘモグロビン濃度	10～12 g/dL の患者の割合	75.4	75.0	62.9

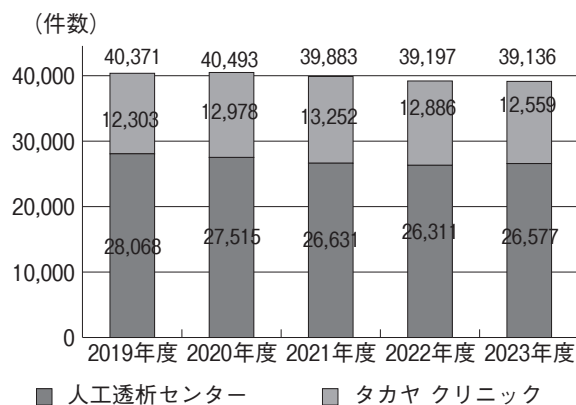


図1 透析件数

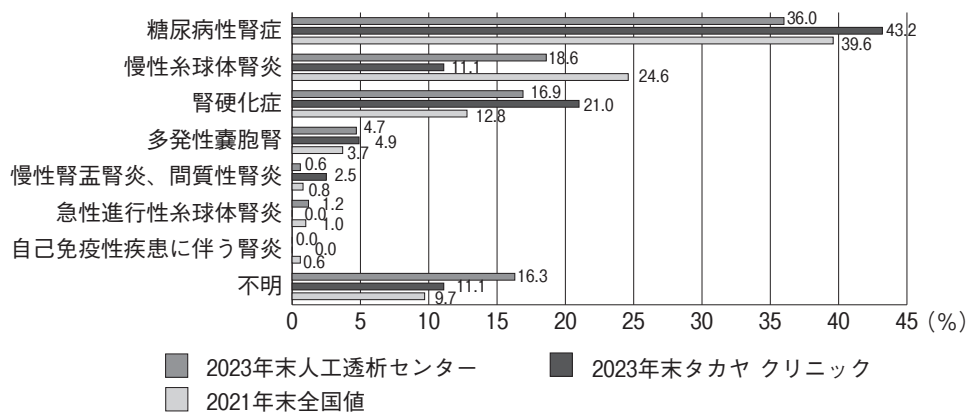


図2 2023年末 透析患者主要原疾患

表4 慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン 透析会誌45(4)：301-356、2012

		2023年末人工透析 センター (%)	2023年末タカヤ クリニック (%)	2021年末全国値 (%)
透析前リン濃度	3.5～6.0 mg/dL の患者の割合	79.7	87.7	66.5
透析前補正カルシウム濃度	8.4～10.0 mg/dL の患者の割合	88.4	93.8	80.4
intact PTH	60～240 pg/mL の患者の割合	76.7	72.8	64.5
リン、補正カルシウム濃度達成	上記リン、カルシウム濃度いずれも達成した割合	70.3	84.0	54.5
リン、補正カルシウム濃度、PTH 達成	上記リン、カルシウム、PTH すべて達成した割合	55.2	64.2	37.4

表5 維持血液透析ガイドライン 透析会誌46(7)：587-632、2013

		2023年末人工透析 センター (%)	2023年末タカヤ クリニック (%)	2021年末全国値 (%)
single pool Kt/V (Kt/Vsp)	1.2以上の患者の割合	97.0	95.5	87.9
透析時間	4時間以上の患者の割合	94.7	89.6	88.3
最大透析間隔日の体重増加	6%未満の患者の割合	92.4	94.0	86.7

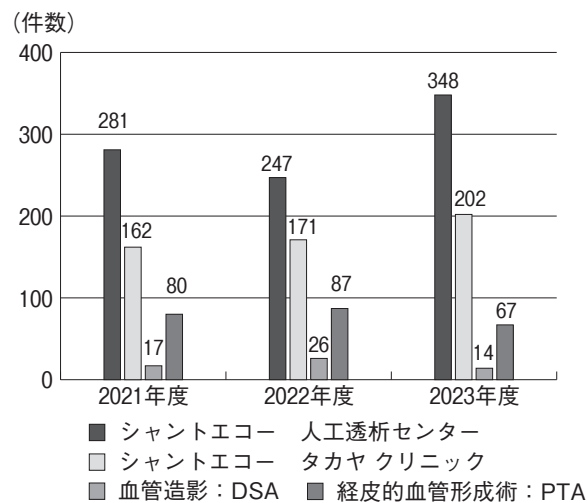


図3 シャント処置件数（人工透析センター）

表6 COVID-19感染者数

	2021年度	2022年度	2023年度
人工透析センター	4	27	34
タカヤ クリニック	0	12	12

3 医療技術部

薬剤管理科

科長 垣木 由子

2023年度の薬剤管理科は、11月に薬剤師1名入職しましたが、12月に薬剤師1名退職となり、結局人数は変わらず、薬剤師7名（うち非常勤1名）、アシスタント1名の合計8名です。人員構成が変わったことで部署内がこれまでとは少し違う雰囲気になったように感じますが、これも良い変化と前向きに捉えています。新入職員含め各自が得意分野を見つけ、それぞれ協力し合って頑張っています。

業務内容は入院調剤・服薬指導、無菌調剤・抗癌剤混注業務、病棟薬剤業務、DI業務、医薬品管理業務、外来業務、TDM（治療薬物モニタリング）業務等を行っています（表）。今まで同様入院患者に対する業務を主に行っていますが、最近は外来患者に対する業務依頼も増えてきています。これからは病院薬剤師が外来患者に関わることが求められるはずです。先を見据え人員増や各自の個性を活かした業務の割り振りを考えていきたいと思っています。

2023年度の部署目標は【部署内の業務改善をする】

としていました。『ムリ（無理）をなくす』『ムラ（斑）をなくす』『ムダ（無駄）をなくす』の視点から自分たちの業務を振り返り、業務改善をしていきたいと考えていました。しかし、目の前の業務に追われ考える余裕がなかったと反省しています。『ムリ（無理）をなくす』『ムラ（斑）をなくす』『ムダ（無駄）をなくす』この視点は今後も持ち続けたいと思います。

2024年度の部署目標は【患者さんのもとに行く回数を増やす】【薬剤師・多職種・調剤薬局との連携を意識した業務をする】としました。2023年10月に受審した病院機能評価で薬剤師の病棟業務のさらなる拡充を指摘され、十分な評価を受けなかったことが非常に悔しかったです。貢献度のアピール不足が一因と痛感しましたので、どうすれば薬剤師の活躍をもっと示すことができるか模索したいと思っています。またチームの一員として存在感を示し、調剤薬局とは相互に薬剤情報提供書を活用し、入院・外来と切れ目のない薬物治療に貢献していきたいと思っています。

表 2023年度業務報告

	外来 処方箋数 (枚)	院外 処方箋数 (枚)	入院						無菌製剤混注		介護老人 保健施設 処方箋数 (枚)	外来 注射箋数 (枚)
			処方箋数 (枚)	注射箋数 (枚)	服薬 指導件数 (件)	退院時服薬 指導件数 (件)	医薬品鑑別 報告件数 (件)	退院時薬剤 情報連携加算 (件)	IVH (件)	抗癌剤 (件)		
4月	202	7,737	2,183	2,159	302	127	150	3	55	12	123	988
5月	208	7,960	2,194	2,319	336	125	174	1	48	27	70	1,206
6月	193	7,810	2,354	2,337	346	146	175	4	24	26	102	1,272
7月	217	8,366	2,255	2,663	331	154	173	2	24	31	82	1,214
8月	202	8,432	2,087	2,723	331	145	159	2	34	20	91	1,353
9月	223	8,079	2,042	2,640	291	119	138	0	26	25	82	1,199
10月	219	7,943	2,034	2,549	303	117	156	1	26	20	90	1,191
11月	216	8,309	2,108	2,957	310	109	155	2	18	12	89	1,123
12月	198	8,598	2,244	2,497	318	129	168	4	3	14	108	1,108
1月	190	7,923	2,210	2,286	316	106	170	0	28	11	104	1,147
2月	161	7,866	2,193	2,106	325	110	162	1	66	12	109	1,029
3月	195	7,874	2,402	2,311	343	145	186	4	12	19	100	990

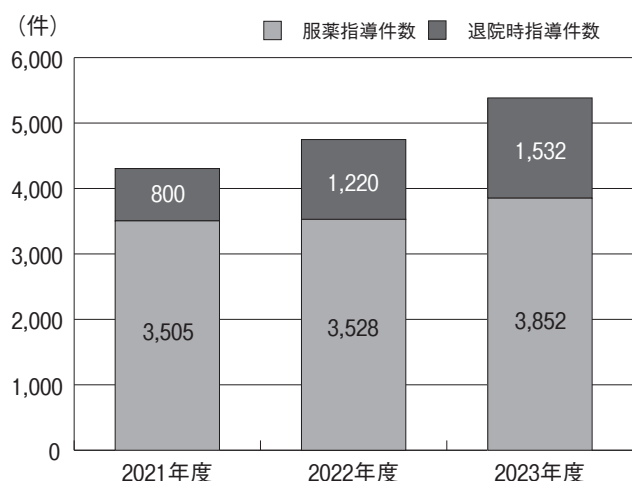


図1 服薬指導件数・退院時指導件数推移

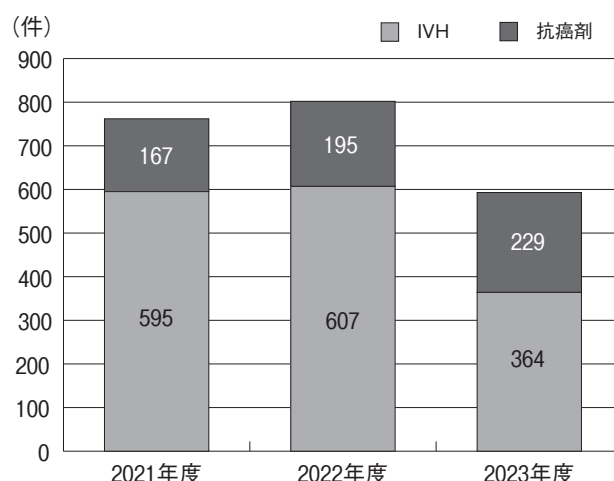


図2 無菌製剤混注業務件数推移

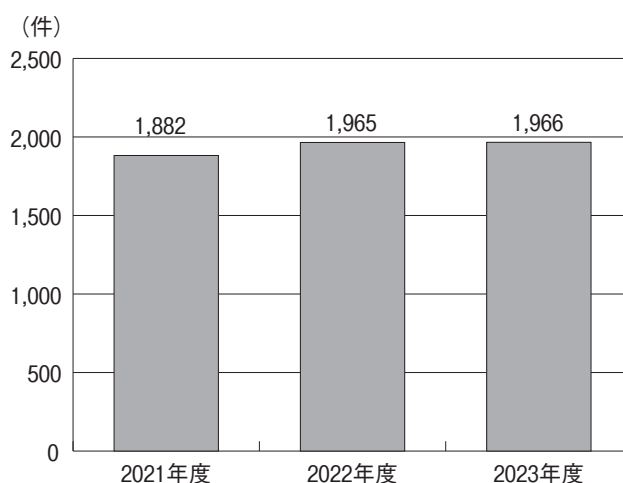


図3 医薬品識別報告件数

2023年度の服薬指導件数及び退院時指導件数は、前年、前々年度と右肩上がりに増加しています（図1）。

病棟薬剤師達がとても活躍してくれており、この度の病院機能評価において服薬指導件数の多さに関しては十分評価をして頂きました。

無菌製剤混注業務の件数は、高カロリー輸液等を混注するクリーンベンチでの業務は前年度と比べ大幅に減少し、逆に抗癌剤等を混注する安全キャビネットを使用する業務は約1.2倍増加しました（図2）。混注業務は継続することに加え、これからは薬剤師によるがん化学療法の患者への指導、副作用モニタリング等が必須になると思われ、無菌製剤に関する業務はますます重要になると考えています。

医薬品識別報告の件数は前年度と比べほぼ変わりませんでした（図3）。持参薬を確認し、その情報から患者の状況把握と処方提案、ポリファーマシーに繋がっています。

プロトコルに基づく薬物治療管理に関する規定

薬物治療の質の向上、副作用軽減等安全性や経済性の確保、医師等の業務負担軽減、薬剤師業務の円滑化を目的として、医師との協働でプロトコル（議定書）を作成しました。処方の修正や代行入力一部等を行い、今のところ特に問題なく運用出来ています。タスクシフト／タスクシェアに貢献していると思います。

栄養管理科

科長 高田 尚子

2023年度の栄養管理科は、病院 管理栄養士4.5名、瀬戸いこい苑 管理栄養士1.5名、給食センター 管理栄養士2名、調理師11名、調理員2名、時短調理師1名、パート調理師2名、パート調理員1名の構成となっています。

今年度は管理栄養士の退職者が2名、調理師欠員の状態が長く続き、厳しい一年でしたが、年度の終わりには給食センターに新しい職員を迎えることができ、調理師の育児休業取得者も復帰しました。

・栄養管理

入院患者の皆様に対しては、栄養指導、栄養管理計画に加えてNST委員会、褥瘡対策委員会、糖尿病サポートチームによる医師を中心とした専門職で構成するチームによって評価を行い、適切なアセスメントを行っています。

昨年度より立ち上げられた「がんチームプロジェクト」の3分野（化学療法、緩和ケア、患者家族支援）に参加し、多職種で勉強会、症例検討を行っています。栄養指導をはじめ、栄養管理に役立てています。

瀬戸いこい苑では、栄養マネジメント強化加算を算定しています。入所者ごとの栄養状態、嗜好等を踏まえた週3回の食事の調整等を実施し「ケアの質の向上に向けた科学的介護システム（LIFE）」へ登録を行い、厚生労働省へデータ提出を行っています。

・栄養指導

栄養指導では、新人の管理栄養士が指導できる病態を増やせるよう、教育を行いながら取り組んでいます。また、既成の指導媒体を活用して、効率化を図り、視覚的にも分かりやすいもので説明をするようにしています。摂食・嚥下障害や低栄養など指導できる内容が増えてきているため、対応できるよう情報収集をしています。

2023年度の栄養指導件数（算定分）を図に示します。

・食事の提供

今年度もコロナ患者の皆様への食事の提供は、デイスポのお弁当食器を使用し対応しました。配膳前の食事内容のチェックや弁当容器の袋詰めなどに時間を要しましたが、感染が拡大することなく食事の提供ができました。

また、昨年の鳥インフルエンザの影響により鶏肉や卵の供給が減少していましたが、少しずつ供給量も増えてきました。材料の高騰が続く中、献立作成には苦慮していますが、患者の皆様、職員に喜ばれる食事の提供を目指し、管理栄養士と調理師で協力し、今後も取り組んでいきます。

・業務改善

管理栄養士と調理師で「常食・職員食」「料理マスタ登録」「手作りおやつ」をテーマにチームを作り、業務改善を行っています。

調理工程の分かりにくい料理に関しては、調理工程表と盛り付けの写真を登録し、新しく入職した職員が理解しやすいように工夫をしています。できるだけ多くの盛り付け図を写真に撮り、まとめました。今後も短時間で業務が習得できるよう取り組んでいきます。

週1回の献立改善ミーティングに若手調理師も参加することで、自分のこととして改善点を捉えることができるようになり、スタッフ全員の意識向上に繋がっています。

小児と施設の利用者を対象に、月1回手作りおやつの提供を行っており、好評です。

・その他

今年度の日本医療機能評価受審にて、0レベルのインシデントの数の把握と内容の分析、検討が必要であることがあげられました。今まではインシデントをヒヤリハット（レベル0）と区別していませんでしたが、医療安全委員会を中心に、記入方法や用紙を検討し、取り組みを開始しました。今後もインシデントレポートを積極的に記載し、対策を検討、実践し、アクシデントを未然に防げるよう努めていきます。

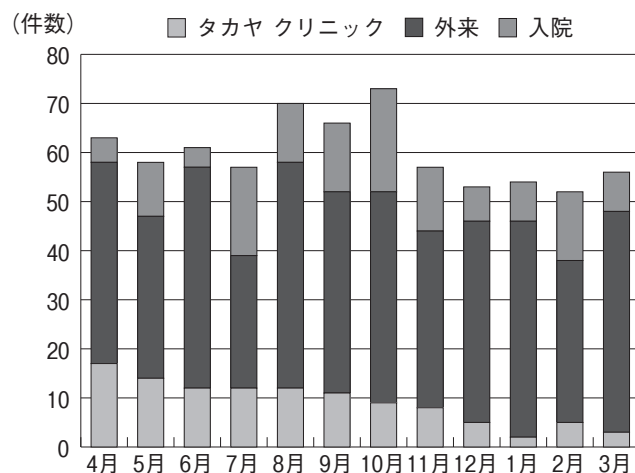


図 2023年度 栄養指導件数

臨床検査科

科長 高松 邦樹
副科長 妹尾 美沙

本年は新型コロナウイルス PCR 検査依頼も少なく
なり 4 月 1 日より PCR 検査は院内測定のみになりま
した。また 5 月には新型コロナウイルス感染症が感染
症法上 5 類感染症に移行になったため当院での検体搬
送・処理および報告体制などが見直され抗原迅速検査
が主流となりました。機器については2024年 3 月末に
多項目自動血球分析装置の更新によりシスメックス社
XR2000 (写真 1) が稼働しました。また外来採血室・
各病棟・人工透析センターおよびタカヤ クリニック
にテクノメディカ社の採血管準備装置 BC-ROBO7 型
が2024年 4 月以降に導入予定です。臨床検査科の人員
は 4 月より新卒者 1 名が入職し14名(内パート職 2 名)
でスタートし、安定した 1 年になりました。今後もタ
スク・シフト/シェア研修参加などスタッフの業務拡大
・知識向上・手技の習得に努めるとともに検査項目
の見直しを行い、臨床のニーズにそった検査項目・機
器の導入更新等を行いたいと考えます。また、病院機
能評価更新受審に際し外来看護部門・放射線科のご協
力を頂き、備中保健所立入検査においても指摘事項は
なく終わることが出来ました。



写真 1 シスメックス社 XR2000

I 検体検査

1. 院内検査項目総数 (図表 1)

院内検査総数は昨年度比で2.0%減少でした。内訳
は生化学検査で3.0%減、免疫検査で3.4%増、血液検
査で0.2%増、一般検査で6.4%増、糖質関連検査で0.4
%減、凝固検査で9.2%減となりました。

2. 病理・細胞診件数 (図表 2)

病理は、昨年度比で2.4%増、細胞診は1.3%減でした。

3. 院内微生物迅速総数と細菌培養件数 (図表 3)

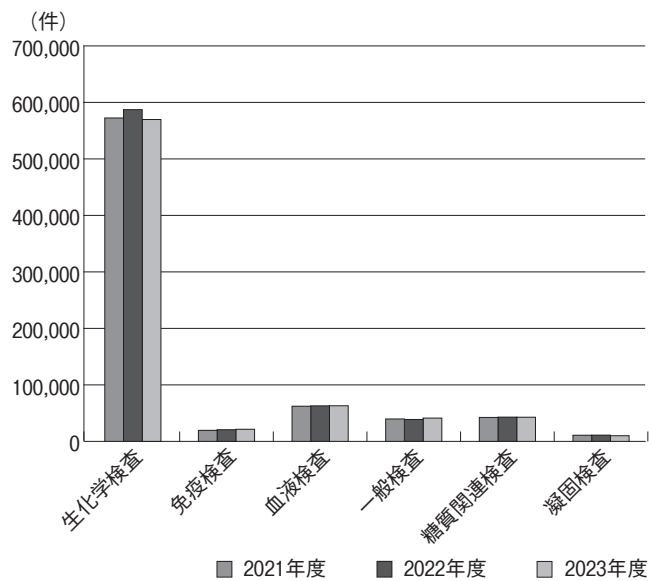
院内微生物迅速検査総数は、昨年度比で108.0%の
増加でした。9 月から A 群β 溶連菌抗原迅速検査 (依
頼件数1,738件) とアデノウイルス抗原迅速検査 (依
頼件数1,385件) が著増しました。インフルエンザの
検査も 9 月から著増しており、9 月頃からインフルエ
ンザ A 陽性者が増えはじめ 1 月からインフルエンザ B
陽性者も認められるようになりました。陽性率は11
月40.8%、12月36.8%、1月24.2%、2月19.4%、3月
23.8%と推移しました。

培養件数の内訳は、呼吸器系で33.5%増、消化器系
で3.5%増、泌尿器系で12.6%減、血液穿刺で17.1%減、
その他の材料で19.8%増でした。抗酸菌検査で50.3%
減でした。

4. 新型コロナウイルス検査 (図表 4)

院内 RT-PCR 検査実績は806件でした。抗原検査は
5,105件でした。5 月の感染症法上 5 類感染症に移行
とともに抗原検査が主流となったため、PCR の検査
は減少し抗原の検査が著増しました。

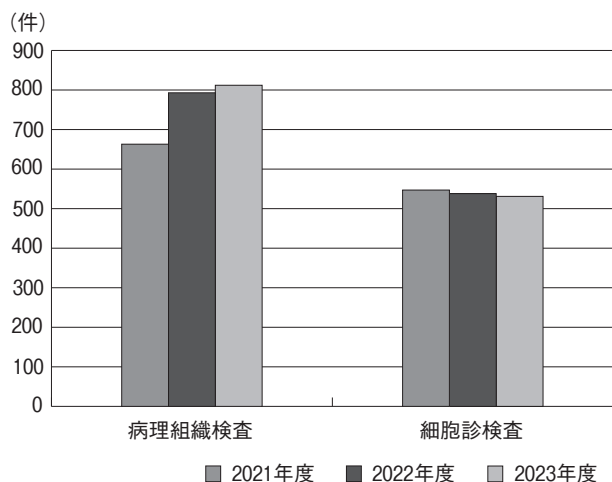
図表 1 院内検査項目総数



	2021年度	2022年度	2023年度	
			件数	前年度比 (増減%)
生化学検査	572,447	587,235	569,727	−3.0
免疫検査	19,550	20,735	21,443	3.4
血液検査	62,244	62,952	63,072	0.2
一般検査	39,685	38,771	41,233	6.4
糖質関連検査	42,391	42,940	42,761	−0.4
凝固検査	10,892	11,049	10,031	−9.2

図表2 病理・細胞診件数

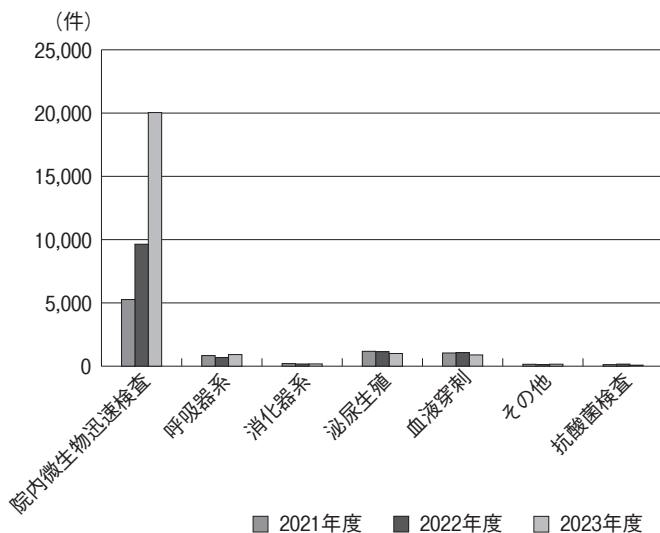
(件)



	2021年度	2022年度	2023年度	
			件数	前年度比 (増減%)
病理組織検査	663	793	812	2.4
細胞診検査	547	538	531	-1.3

図表3 院内微生物迅速総数と細菌培養件数

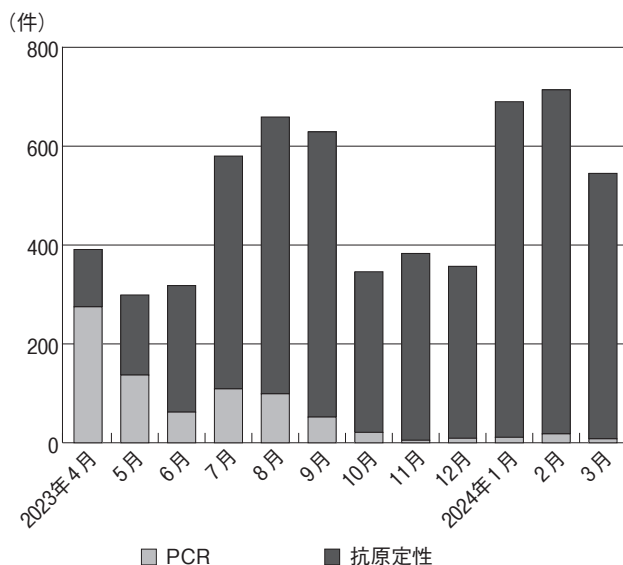
(件)



	2021年度	2022年度	2023年度	
			件数	前年度比 (増減%)
院内微生物迅速検査	5,266	9,637	20,042	108.0
呼吸器系	836	687	917	33.5
消化器系	202	173	179	3.5
泌尿生殖	1,175	1,148	1,003	-12.6
血液穿刺	1,043	1,073	889	-17.1
その他	150	131	157	19.8
抗酸菌検査	120	163	81	-50.3

図表4 新型コロナウイルス検査件数

(件)



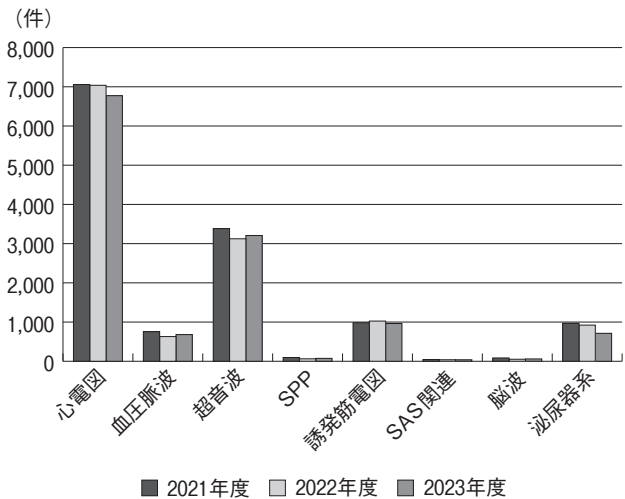
	PCR	抗原定性	合計	陽性率 (%)
2023年4月	275	116	391	3.8
5月	137	162	299	7.7
6月	62	256	318	16.4
7月	109	471	580	33.6
8月	99	560	659	36.3
9月	52	577	629	31.5
10月	21	325	346	11.3
11月	5	378	383	6.3
12月	9	348	357	11.5
2024年1月	11	679	690	25.2
2月	18	696	714	24.9
3月	8	537	545	17.2
総数	806	5,105	5,911	18.8

Ⅱ 生理機能検査（図表5・図表6）

2023年度は人員的にはスタッフ育成の成果（特にエコー検査習得）、育児休業からの復帰により近年もっとも充実した1年となりました。新型コロナウイルス感染症も5類移行となりましたが、実業務においては変わらず感染予防対策を継続して行っています。機器については2023年8月に血圧脈波検査装置（VaSera

VS-2500システム）が新しく更新されました（写真2）。他部署連携では、健康管理センターへのエコー技師派遣や、糖尿病患者のグルコースモニター（リブレ）装着など、他職種業務への協力を少しずつ始めています。各自の実績としては、超音波検査技師認定試験やタスクシフト・シェア講習会へ参加し、新たに専門資格を取得し技術、知識の習得に努めました。

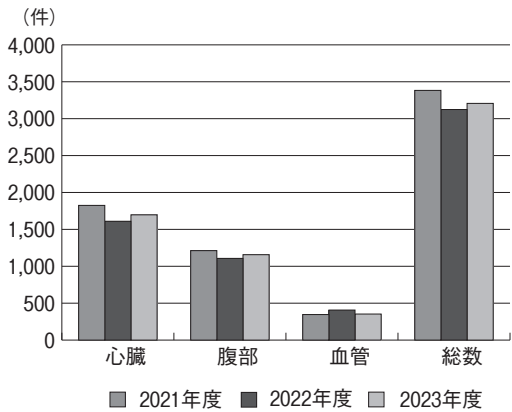
図表5 生理機能検査件数推移



(件)

	2021年度	2022年度	2023年度	
			件数	前年度比(%)
心電図	7,057	7,038	6,773	-3.8
血圧脈波	755	630	680	7.9
超音波	3,383	3,124	3,207	2.7
SPP	95	63	74	17.5
誘発筋電図	982	1,025	963	-6.0
SAS関連	45	39	39	0.0
脳波	85	52	60	15.4
泌尿器系	970	922	713	-22.7

図表6 超音波検査件数内訳



(件)

	2021年度	2022年度	2023年度	
			件数	前年度比(%)
心臓	1,825	1,610	1,697	5.4
腹部	1,212	1,107	1,157	4.5
血管	346	407	353	-13.3
総数	3,383	3,124	3,207	2.7



写真2 血圧脈波装置 VaSera VS-2500システム

画像診断センター

科長 小橋 高郎
科長 安村 直樹

【はじめに】

2023年度は5月に新型コロナウイルスが第5類に分類されたことで、世の中の変化に併せて病院内の体制も大きく変化した1年でした。約3年間継続した緊張感がやや緩和され、一時の慌ただしさが過去のもののようになってきましたが、それでも患者さんは継続的に来院され、そのたびに気を引き締めながら対応してきました。

2023年度は老朽化した装置の更新（外科用イメージ装置・骨密度測定装置）やMRIへの最新ソフト導入といったイベントがあり、各担当者が装置の性能を引き出すための努力が求められました。

病院機能評価の更新の年にあたり、画像診断センターの役割を見直すよい機会となった2023年度を振り返ります。

【2023年度のまとめ】

1. 新しいMRI装置への最新ソフト導入

2021年に設置されたMRI装置（Philips社製 Ingenia 1.5T）に新しいソフトが導入されました。SmartSpeedという高速化と高画質化を実現する技術で、AIを用いることで撮影の時間短縮と高画質化を両立させることが可能なソフトです。このソフトの導入に併せて整形外科用の専用コイルも使用が始まり、検査効率の向上に向けて施行錯誤を繰り返しています。以下に示すDiffusionを活用した検査にも活かされています。

2. CT・MRIを活用した健康診断

『痛くない乳がん検診』『全身MRI検診』の件数は以下のとおりです。乳がん検診の件数はほぼ横ばいですが、全身検診の件数がやや減少しています。一方で検診以外の全身MRI検査は79件で、MRIを使用した全身検査という位置づけが定着しています。

『痛くない乳がん検診』 158件

『全身MRI検診』 95件

2023年度に開始した『心臓MRI検診』と『大腸CT検診』の受診件数は少なく今後の啓発活動・広報活動を検討してゆきたいと考えています。

3. 装置の更新

導入以来10年以上が経過し、故障が頻発するようになった装置が更新されました。

・外科用イメージ装置：COREVISION SD（富士フイルムメディカル 図1）

FPD（フラットパネルディスプレイ）を搭載し、富士フイルムメディカルの画像処理技術が搭載された装置で、指先の細かい情報から大腿骨頸部といった大きな部位まできれいな透視画像が提供さ

れています。

・骨密度測定装置：HOLOGIC Horizon（図2）

増加しつつある骨粗鬆症の検査を行う装置です。従来の装置から検出器やX線管球が更新されています。紙によるアナログ管理からDICOM対応のPACS管理が可能となりました。

4. STAT画像報告

2010年に厚生労働省からの通達で診療放射線技師による『画像診断における読影の補助』が記載されました。この通達を発展させたかたちで、STAT画像報告についてのガイドラインが発表されました。STAT画像報告は、画像診断において診療放射線技師が撮影後の画像初見を医師に伝え、迅速な診断・治療に結びつけることを目的としています。資料の作成や医局内での周知をすすめると同時に、我々の画像を読み取る力をつけるための勉強会を放射線専門医とはじめました。部署として力を蓄えるよい機会と考えています。

5. MR安全管理について

2022年に設置された『MR安全管理委員会』は様々な課題を抱えつつも、関連部署の理解と協力を得て順調に稼動しています。一方で近年さまざまな生体測定デバイスが開発され、特に血糖値を測定する装置（グルコースセンサー）や体外除細動装置に関しての対策に時間を割くこととなりました。

上記も含め、MR安全管理についてのアクシデント・インシデント報告も増加し、医師への周知や実際に問診をとっている外来スタッフとの連携がますます重要になってきています。

6. ピンクリボン月間の活動

従来、10月のピンクリボン月間（乳がんの早期発見・治療に対するキャンペーン）期間中に啓発活動を行っていましたが、コロナ禍の数期間は活動を休止していました。2023年度は活動を再開し、啓発ポスターを作成して当院の特徴である『痛くない乳がん検診』の案内も含めて院内各所に掲示しました（図3 1-3）。

7. 検査数の推移

各部門の検査数の前年比を示します（表1）。新型コロナウイルスの影響をうけつつも、全体的な検査数はほぼ横ばいとなっています。当院の特長を活かした大腸CTも順調に推移し、様々な機会に啓発を続けつつ検査効率や画質の向上に努めています。

【最後に】

2023年は専用管理ソフトを使用してCTと血管造影

検査の被ばく線量管理を本格的に開始しました。新しい診断参考レベル（2020版）を適用し、データの蓄積と分析を定期的の実施しています。また様々な分野にAIが導入され、胸部単純撮影のAI解析は病院にとって不可欠なものとなっていますし、被ばく線量低減や画質向上の観点からも今後ますます発展することが

予想されます。さらに、胸部単純撮影画像から簡便に骨密度を計測できるソフトや新世代の3次元画像表示技術の導入も検討を開始しました。
今後も新しい技術が投入されることが予想され、常に最新の情報を収集して、安全で侵襲性の少ない検査の実施を心がけてゆきたいと考えています。



図1 外科用イメージ装置

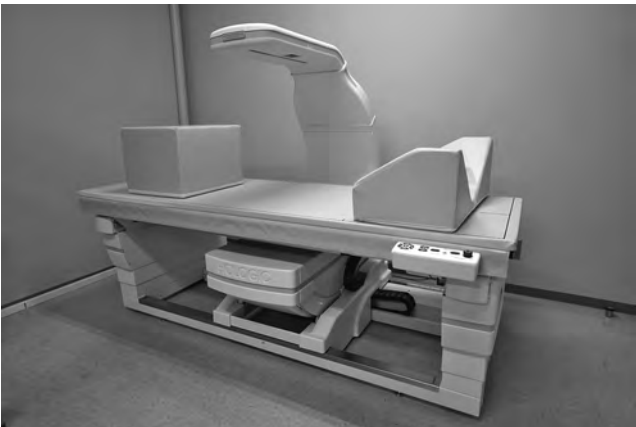


図2 骨密度測定装置

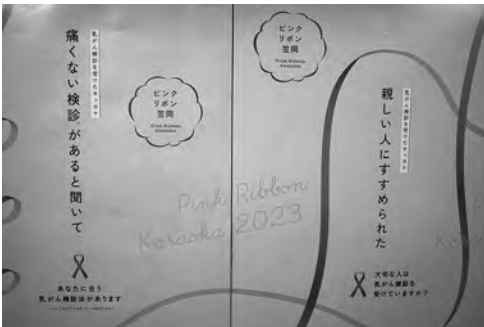


図3 1-3 ピンクリボン啓発ポスター

表1 各検査の前年度比（健康管理センター タカヤ クリニックを含む）

	2022年度	2023年度	前年度比(%)
一般撮影系	25,822	25,943	100
CT 検査	4,765	5,046	106
MRI 検査	2,180	2,125	97
乳腺撮影	850	889	104
造影検査	935	868	93
骨密度測定	470	511	109

リハビリテーションセンター

2023年度はCOVID-19も5類に変更となり日常生活においては、以前のような平穏な日々を徐々に取り戻してまいりました。しかしながら病院においては重症化リスクは軽減したものの、依然感染者数も多く加えてインフルエンザも感染拡大するなど、まだまだ緊張の続く一年でした。徐々に面会制限が緩和され御家族の方に患者さんの現状を見ていただく機会も増え退院支援もある程度スムーズに行えるようになってまいりました。このコロナ禍で制限のある中で知恵を絞りながら行ってきた取り組みも今後の業務に活かしていきたいと考えております。

業務においては4月より週1回半日ではありますが、リハビリテーション科研修医の医師を迎えました。我々にとって初めての経験だったため、手探りでのスタートとなりましたが、新規リハビリ患者の診察や病棟への回診などを行って頂き、専門的な見地からアドバイスをもらい、安心・安全なリハビリテーションの提供に繋げることが出来たと思います。来年度も新たな研修医を迎えます。共に成長していければ良いと考

リハビリテーション科 科長 高橋 正弘

えています。

また、10月には日本医療機能評価機構の再受審を受けました。5年ぶりの受審のため、再度マニュアルの見直しや業務の見直しを行い万全の準備で望んだつもりでしたが、残念ながら結果は初めてB判定となりました。計画書の内容が不十分と指摘を受けました。この結果を真摯に受け止め計画書の内容を再度見直していきたいと考えています。

今年度は働きやすい職場づくりを目標に新人教育の見直しや職場環境の改善など取り組みましたが、退職者が続いてしまいました。しっかりと話し合いの場を持ち改善策を話し合っただけでしたが、その流れを止めることは困難でした。来年度の診療報酬改定ではリハビリテーション科の果たす役割は多くなり、それにより診療報酬の上昇も見込めます。新たな新戦力も加わってくれます。非常に厳しい状況ではありますが、新しい力も借りながらこの難局を乗り越えていきたいと考えています。

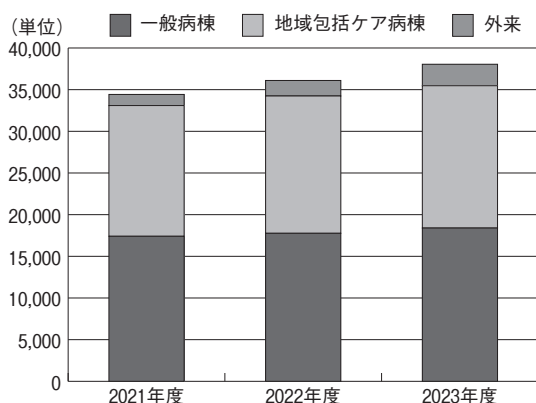


図1 理学療法実施単位数

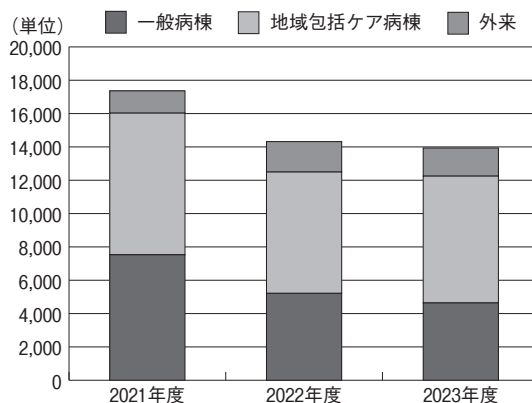


図2 作業療法実施単位数

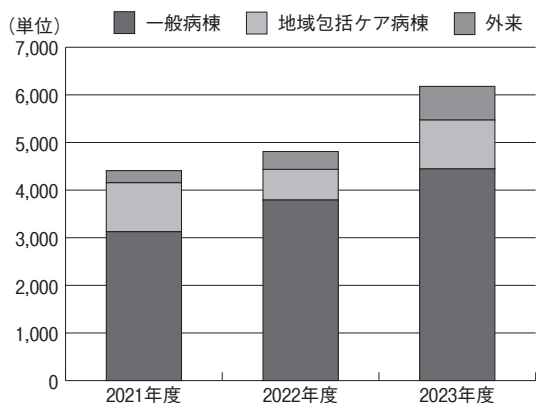


図3 言語療法実施単位数

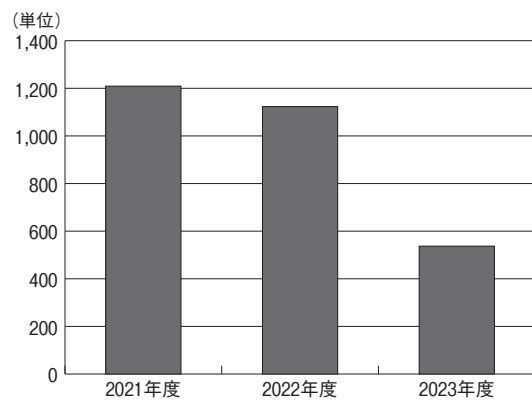


図4 摂食機能療法実施単位数

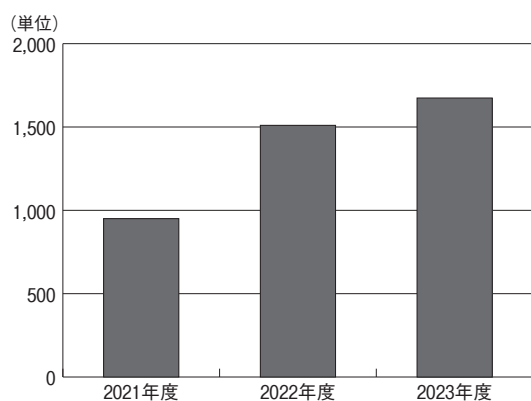


図5 訪問リハビリ実施単位数

公認心理師

はじめに

2022年度から常勤1名体制となっていた公認心理師ですが、2023年度には新たな職員を迎え、再び常勤2名体制が実現しました。新入職員の指導や教育については、自分自身の未熟さから、試行錯誤の毎日で迷いや不安もありますが、周囲の方々や新入職員の前向きな姿勢に支えられ、やり甲斐と喜びを感じることができています。常勤2名体制となったことで、今後、公認心理師による対応可能な業務が増え、患者の皆様や当院の職員の方々のお役に立つことができれば、大変嬉しく思います。

心理検査

心理検査は、当院の公認心理師の主たる業務の1つです。心理検査には、疾患のスクリーニングを目的としたものから、性格や知能のアセスメントを目的としたものまで様々な種類がありますが、当院で実施可能な心理検査は、表に示した22種類となっています。

心理検査の実施件数は、2021年度から減少傾向となっていますが（図1）、2023年度には外来・入院ともに実施件数が増加しており、この点についてはやはり、公認心理師が2名体制となったことが大きく影響しているように思います。1名体制の際には、患者の皆様のご希望に応じた日時で心理検査の実施が困難な場合も多く、予約の延期やお断りをせざるを得ない状況が生じていました。今後は、そのような状況が比較的少なくなることが予想されます。また、2名体制となることのメリットは、実施件数を伸ばすことだけではありません。2名体制となることで、心理検査結果について公認心理師同士で議論する機会を設けることができ、心理検査結果の精度を高めることも可能となりました。引き続き、心理検査の量・質ともに高められるよう、尽力していきたいと思っています。

リーダー 福永 実加

心理カウンセリング

心理カウンセリングも、心理検査と同様に当院の公認心理師の主たる業務の1つです。心理カウンセリングは、患者の皆様と話をすることが中心となりますが、その目的は、患者の皆様の心理・社会的な問題の評価や精神的な苦痛の緩和、自己決定支援、思考や行動の変容、危機介入など様々です。

心理カウンセリングの実施件数も、2021年度から減少傾向となっていますが（図2）、2023年度にはわずかに増加しています。心理カウンセリングについては、そのスキルの習得に時間を要することが多く、当院では依頼科も多様化しつつあるため、2名体制となっても心理検査ほどには実施件数の伸びを期待することが難しい状況にあります。しかし、2名体制となることで、小児科では親子同時介入が再び可能となり、患者の皆様様の心理・社会的な問題の評価をより正確に行うことができるようになるなど、心理カウンセリングの質の向上を実感することができています。引き続き、新入職員の方の指導・教育に力を入れ、対応可能な心理カウンセリングを増やしていくことが、今後の課題となりそうです。

職員のメンタルヘルスに関連した業務

2022年度には、職員のメンタルヘルスに関連した業務として、ストレスチェックの実施や集団分析、職員の方への個別の面談対応、新入職員を対象としたストレスマネジメント研修、看護部を対象としたメンタルヘルス研修に取り組んできました。

2023年度からは、それらに加え、新たに新人交流会（7月）や入職前の職員の方々を対象としたストレスマネジメント研修（3月）、労働安全衛生委員会の取り組みの一貫としてハラスメント防止研修（動画作成）を担当させて頂いています。

上記のように、患者の皆様だけでなく、当院で共に働く職員の方にも、公認心理師として何かの役に立つ

機会を与えて頂けるということは、働く上での大きなやりがいとなっています。今後も引き続き、職員のメ

ンタルヘルスに関連した業務の充実に向けて、検討を重ねていきたいと思っています。

表 当院で実施可能な心理検査

分類	名称
人格検査	SCT TEG II P-Fスタディ バウムテスト S-HTP
知能検査	WPPSI-III WISC-IV WAIS-IV
発達検査	新版K式発達検査 津守式乳幼児精神発達検査
気分評価検査	SDS CES-D DSRS-C STAI CMAS IES-R
認知機能検査	長谷川式知能評価スケール MMSE ベンダーゲシュタルトテスト MOCA-J
前頭葉機能検査	FAB
その他の検査	PARS-TR

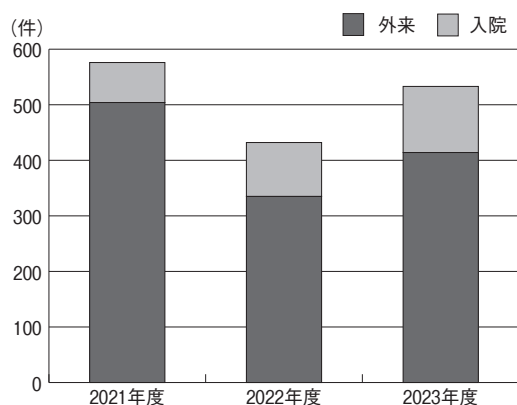


図1 心理検査実施件数推移

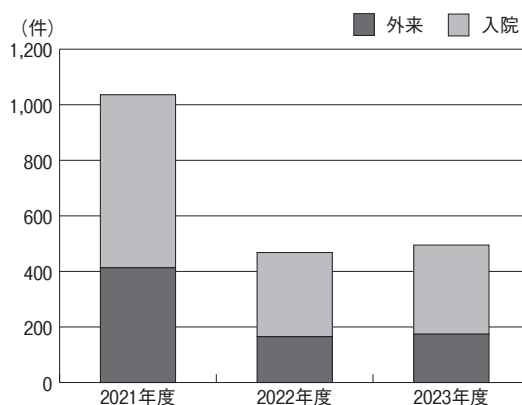


図2 心理カウンセリング実施件数推移

笠岡手外科・上肢外科センター

センター長 橋詰 博行

手外科・上肢外科センターは玄関西側に2017年3月開設したオーシャンビュー外来で専門性を生かした診療をしています。2023年度も含めて過去4年間に亘るコロナ禍一色の中でも地域医療としての役割を果たすべく手術を続けてまいりました。

入院が制限される中で外来手術や日帰り手術の意義も見直されました。手術室の曝露リスクを減じながら手術数を維持する必要性が問われた4年間が過ぎました。県外の方でも院内に入る前に午前中にPCR検査をして、午後術前検査、翌日手術という体制で日帰り手術を継続しました。過去5年間の手外科・上肢外科手術例は2019年度1,493例（1,107人）、2020年度は1,587例（1,204人）、2021年度は1,322例（996人）、2022年度1,528例（1,120人）、2023年度1,318例（993人）でした。コロナ真っ盛りの2020年度に過去最高の手術症例であ

ったことは感染曝露を避けつつ手術に特化できたことと、そういった環境下でも可能な外来・日帰り手術が増加したことによります。

2023年度手外科・上肢外科関連の学術業績は海外・全国学会発表1、地方会・講演発表4でした。第18回上肢外科サマーセミナー in Kasaokaは7月29日、コロナの第4波と第5波の間隙を縫って、強力な感染対策の元、対面で行われました（表）。特別講演に東京医科歯科大学 システム発生・再生医学分野 教授・スクリプス研究所 浅原弘嗣先生と、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 展開医療科学講座 形成再建外科学 教授 田中克己先生をお招きし、活発な討論が行われました。セミナー後の懇親会も浅原・田中教授を交えて辻与旅館でコロナ以前と変わらず行われました。全出席者は35人でした。

表 第18回 上肢外科サマーセミナー in Kasaoka（2023年7月29日）

I	はじめに	笠岡第一病院 院長 橋詰 博行
II	基調講演	午後1時30分～2時30分 座長 橋詰 博行 人工知能（AI）の歴史と手外科領域におけるAI研究 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 生体機能再生・再建学講座 整形外科 講師 中原 龍一 先生
III	一般演題	午後2時40分～4時50分 座長 名越 充 先生 (1) 反復性肘関節脱臼に対して靱帯再建・修復および鉤状突起の骨接合術を行った1例 岡山済生会総合病院 整形外科 沖田 駿治 先生 (2) ハンドルを握った状態の正面衝突事故で発生した手指・手関節の皮下断裂の2例 岡山赤十字病院 整形外科 竹下 歩 先生 (3) 先天性橈骨癒合症に対し術中CTナビゲーション支援下橈骨分離術を行った1例 岡山大学病院 整形外科 古谷 友希 先生 (4) 上肢の小児骨折 笠岡第一病院 整形外科 部長 小坂 義樹 (5) 肩鎖関節周囲の手術に必要な解剖学的知識 尾道市立市民病院 整形外科 迫間 巧将 先生
IV	特別講演	(1) 午後5時～6時 座長 橋詰 博行 手外科と運動能力を左右する腱の遺伝子 東京医科歯科大学 システム発生・再生医学分野 教授 スクリプス研究所 浅原 弘嗣 先生 (2) 午後6時～7時 座長 小坂 義樹 Orthoplastic Hand Surgery を目指して 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 展開医療科学講座 形成再建外科学 教授 田中 克己 先生
VII	終わりに	笠岡第一病院 院長 橋詰 博行

内視鏡センター

西 隆司

2008年4月に内視鏡室から内視鏡センターと改名し、充実した医療を提供しております。当内視鏡センターでは安全かつ苦痛の少ない内視鏡検査を効率よく実現できるように努めております。通常、当院では鎮静を行わず検査を行っていますが、鎮静の必要性がある場合は鎮静下にて検査を行っており、その際は自動監視装置を設置し、血圧、脈拍、血中酸素飽和度など、患者のモニタリングを行い、安全で楽な内視鏡検査の提供を心掛けています。上部消化管内視鏡検査の施行中は患者用モニターを通じて、自身の胃の中を見ることが可能です。上部消化管内視鏡検査では食道、胃、十二指腸疾患に対する内視鏡診断、内視鏡的胃瘻造設術など行っています。栄養サポートチーム（NST）の活動とともに胃瘻造設に付随する内視鏡検査も増加しつつあります。泌尿器科領域では膀胱鏡検査も実施しております。

当内視鏡センターは消化管内視鏡検査用の検査室と泌尿器科用の内視鏡検査室の2室を併設しております。

消化器科の内視鏡検査システムは上部消化管内視鏡スコープ5本（経口内視鏡2本、経鼻内視鏡3本）、下部消化管内視鏡のスコープ2本（すべて可変式スコープ）を使用し、2018年度、光源波長を変えられる最新型のオリンパス社製 EVIS-LUSERA-ELITE 内視鏡装置を導入し、早期癌の発見に寄与しています。

内視鏡検査の安全性を高める上で、内視鏡の洗浄・消毒について重点を置き、日本消化器内視鏡学会及び日本消化器内視鏡技師会の内視鏡の洗浄・消毒に関するガイドラインを参考にしてマニュアルを作成しました。オリンパス社製の OER-4 内視鏡洗浄装置を2台使用し、現在消化器内視鏡技師が洗浄・消毒を行っております。

表 2023年度 検査件数

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
上部消化管検査件数（病院）	47	49	50	52	35	37	58	47	40	39	38	60	552
上部消化管検査件数（健康管理センター）	81	83	111	126	124	123	122	113	94	86	86	45	1,194
下部消化管検査件数	20	20	20	16	28	22	32	32	26	23	19	20	278
膀胱鏡検査件数（ステントを含む）	26	36	38	20	25	27	33	27	28	24	20	33	337
止血術	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	1	5
異物摘出術	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
胃瘻造設術	1	3	3	0	1	1	0	0	0	0	1	1	11
ボタン交換	2	1	1	4	0	1	1	0	0	0	0	1	11
大腸ポリペクトミー	7	5	2	5	5	3	4	5	4	3	2	7	52
上部消化管ステント挿入	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
下部消化管ステント挿入	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1

予防接種センター

センター長 寺田 喜平

毎週火曜日午後に海外渡航ワクチンおよび一般ワクチン外来をしています。渡航ワクチンは海外から個人輸入して接種し、接種後は接種証明書の発行を行っています。一般ワクチン外来としては、带状疱疹予防ワクチン、そして十分な説明後に子宮頸がんワクチンの接種、また医療系学校への入学時ワクチン接種なども実施しています。

昨年度の実績は、海外渡航ワクチン外来の受診者数（表1）はコロナ禍の影響は減少し、のべ110名となっています。また带状疱疹予防ワクチン外来の受診者数（表2）は、有効性の高いワクチンが発売となったので、増加傾向でしたが、高額のため接種数は落ち着いてきました。また子宮頸がんワクチンも2022年から急増し、2023年度も83本となっています。

渡航用の接種ワクチンでは、狂犬病ワクチンが最も多く、輸入ワクチン（表3）の中では腸チフス、つぎにHA+HB ワクチンが多くなっています。

問題点は、企業からは産業医の指示によって接種に來られますが、ほとんど接種状況を確認していません。とくに、ムンプスに対する予防が不十分と思われます。また我が国では高齢化に伴い、带状疱疹は毎年2%ずつ増加し、带状疱疹後神経痛で悩む方が増加しています。高額のため補助金で助成する必要があると思われます。

さらに子宮頸がん予防ワクチンが定期接種化されるようになりましたが、中止していた時代の24歳未満女性の意識の低いことも問題です。

表1 海外渡航ワクチン外来

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	合計
延べ人数	85	159	88	73	133	110	648
受診者数	41	88	44	38	61	58	330

表2 带状疱疹予防ワクチン外来

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	合計
延べ人数	50	17	5	26	56	35	189
受診者数	34	16	4	14	30	19	117

表3 輸入ワクチン接種数

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	合計
【輸入】狂犬病（Verorab）	39	77	33	1			150
狂犬病（RABIPUR）			14	37	70	60	181
【輸入】HA+HB ワクチン（Twinrix Adult）	30	45	25	16	17	27	160
【輸入】腸チフス（Typhim Vi）	32	72	36	27	49	56	272
【輸入】コレラ経口ワクチン（Dukoral Oral）	26	16	3	5	4	0	54
【輸入】MMR ワクチン（Priorix）	7	30	13	11	19	19	99
【輸入】A型肝炎（Havrix）	3	17	6	5	18	8	57

予防接種数統計

(件)

	2021年度	2022年度	2023年度
四混	380 (379)	338 (336)	377 (375)
三混	1 (0)	4 (1)	2 (0)
二混	55 (53)	57 (51)	55 (54)
MR (麻疹風疹混合)	228 (181)	203 (187)	202 (180)
麻疹	0 (0)	0 (0)	0 (0)
風疹	0 (0)	0 (0)	0 (0)
ポリオ	4 (0)	2 (0)	4 (0)
BCG	102 (102)	74 (74)	101 (101)
日本脳炎	308 (263)	405 (354)	365 (326)
アクトヒブ	383 (383)	334 (334)	347 (347)
プレベナー	381 (381)	336 (335)	344 (344)
水痘	226 (219)	189 (178)	180 (167)
おたふくかぜ	148 (134)	219 (206)	226 (211)
A型肝炎	1 (0)	1 (0)	0 (0)
B型肝炎	353 (298)	326 (235)	314 (305)
ロタウイルスワクチン	185 (185)	167 (167)	181 (181)
シナジス	46 (46)	42 (42)	66 (66)
子宮頸がんワクチン	44 (11)	106 (1)	85 (25)
破傷風	6 (0)	17 (0)	21 (0)
ニューモバックス	103	82	107
インフルエンザ	3,640 (870)	3,114 (549)	2,380 (472)
出張予防接種事業 (インフルエンザ)	810	735	668
新型コロナウイルス	12,556 (60)	7,212 (352)	3,370 (31)
合計	19,960 (3,566)	13,963 (3,402)	9,395 (3,185)

() は小児科

2023年度 職員予防接種数

(件)

B型肝炎	52
インフルエンザ	402
新型コロナウイルス	429

4 新規導入機材

友國 雅也・浅尾 昌彦

当院では“医療の質の向上”“医療安全”“患者さんの診療環境の改善”を目的として施設、機材の新設・更新をしています。2023年度は下表の機材の新設・更新を行いました。

購入日	品名	規格	数量	メーカー名	業者名	設置部署
2023年5月23日	超音波画像診断装置 SONIMAGE MX1	AAK8	1	コニカミノルタ	カワニシ	形成外科
5月29日	超音波診断装置 Aplio a450	CUS-AA450/J5	1	キャノンメディカルシステムズ	キャノンメディカルシステムズ	泌尿器科
6月2日	バリアフリースケール	AD-6107R	1	エーアンドデー	西日本メディカルリンク	3階病棟
7月26日	ハイローストレッチャー	KK-728	1	パラマウントベッド	西日本メディカルリンク	手術室
7月28日	イメージング・アームボード	08-065-13	1	ミズホ	カワニシ	手術室
7月31日	移動型X線透視診断装置 COREVISION SD 200V	16594572	1	富士フイルムメディカル	富士フイルムメディカル	放射線科
8月30日	電動診察台	EX-CS7WN ES16	1	タカラベルモント	小西医療器	内視鏡センター
8月31日	血圧脈波検査装置	VS-2000A	1	フクダ電子	フクダ電子	健康管理センター
8月31日	血圧脈波検査装置	VS-2500A	1	フクダ電子	フクダ電子	生理機能検査室
10月16日	眼科用手術台メプロ5	DR-150-ES23	1	タカラベルモント	カワニシ	手術室
10月18日	パルスオキシメーター マイティサット マルチN	59-133	2	ニプロ	カワニシ	外来
10月30日	一酸化炭素ガス 分析装置	MICRO CO	1	フクダ電子	フクダ電子	外来
10月31日	SCD700 シリーズ コントローラー	295257	12	コヴィディエン	カワニシ	手術室
11月24日	検査顕微鏡	BX43F	1	エビデント	ティーエスアルフレッサ	皮膚科
11月28日	AED ハートスタートFR3	861304e	1	フィリップス	フクダ電子	外来
11月28日	AED ハートスタートFR3	861304e	1	フィリップス	フクダ電子	健康増進クラブONE
12月7日	血液凝固測定器 アクタライクミニⅡ	5755	1	JMS	カワニシ	血管造影室
12月9日	多用途透析監視装置	DCS-200Si	11	日機装	日機装	人工透析センター
12月16日	多人数用透析液供給装置	DAB-50Si	1	日機装	日機装	タカヤ クリニック
12月16日	透析用水作製装置	MIE752-HI-10+NJ	1	日機装	日機装	タカヤ クリニック
12月26日	解析付心電計	FCP-8300	1	フクダ電子	フクダ電子	人工透析センター
12月26日	マイクロクライメイト ビッグセル アイズセット	CR-750 10750000	2	ケーブル	小西医療器	看護部
12月26日	スモールチェンジ ラグーナセット	CR-700 10700000	3	ケーブル	小西医療器	看護部
2024年1月30日	無散瞳眼底カメラ	TRC-NW500	1	トプコン	カワニシ	健康管理センター
1月30日	眼底カメラ	TRC-50DX	1	トプコン	カワニシ	眼科
1月31日	眼科部門システム MediusPlus		1	ビーライン	カワニシ	眼科
2月6日	コードレスバイク BFR	BG8920	1	セノー	小西医療器	リハビリテーションセンター
2月27日	ベッドバンウオッシャー NINJYO1610	AJ-FD1610	1	モレーンコーポレーション	カワニシ	泌尿器科

COREVISION SD200V

整形外科汎用Cアームで手術中に患者内部の骨、臓器、血管などの状況を、正確に、素早く画像として描出するオールインワンデザインの移動式X線動画システムです。コンパクトな装置に、画像処理機能を備え、低線量と高画質を両立しました。

MediusPlus

眼科部門に特化した電子カルテシステム。

眼科用手術台メプロ5

眼科用手術台。手術者の姿勢をとりやすく改良されています。

5 看護部

看護部目標

看護部長 中尾 留美

看護部は2023年度、

1. 患者のニーズに応じた入退院支援システムの構築
2. 業務の標準化を図り、安心・安全な質の高い看護の提供（日本医療機能評価受審の視点）
3. 生き生き働き続けられる職場環境作りを方針として取り組みました。

1. 患者のニーズに応じた入退院支援システムの構築

団塊の世代が75歳を迎える2025年を分岐点とし、地域包括ケアシステムの構築が進められています。当院でも入退院支援システムの構築に注力しています。2022年度多職種連携強化ツールとして入退院システムを導入検討し、1年の準備期間を経て今年度より運用開始となりました。システムの運用は、入退院支援チームメンバーが中心となり基本操作マニュアルの作成、運用上の問題点の把握や調整を行い、各々の役割の明確化を図っています。支援の必要が多い地域包括ケア病棟ではシステムを活用し、支援介入のタイミングと意識的に多職種と関わりを持つ仕組み作りを行い順調な運用ができています。急性期病棟はベッドの回転が速いという特徴により、退院支援カンファレンスのタイミングが計れない症例が多くありました。システム導入による流れや期限の可視化と、チームの働きかけにより初回カンファレンスの定期開催が可能となりました。しかしその後の支援介入のタイミングや多職種連携の図り方、加算関連以外の患者の支援が残り残されている現状が浮き彫りとなりました。今後の課題と考えます。会議では支援が必要な患者にシームレスな支援介入方法について前向きに討議しています。外来も入院前から情報収集を記録に残す取り組みや退院後のシームレスな連携の実現に向け、小集団活動で取り組みました。少しずつですが連携の和が広がっていることをうれしく思います。今後も課題への取り組みや退院支援ナースの役割・育成の実現に向けて取り組んでいきたいと考えています。

2. 業務の標準化を図り、安心・安全な質の高い看護の提供（日本医療機能評価受審の視点）

(1) 業務の標準化

①委員会・職種別マニュアルの整備と遵守

10月に日本医療機能評価を受審しました。受審は業務振り返りの良い機会ととらえて1年前より準備を進めてきました。マニュアルの整備と遵守は、院内の基準統一を図ることが求められています。看護部は毎年整備を行っていますが、部門だけにとどまらず、院内の文書管理一元化が必須となります。機

能評価準備委員会では文書管理ツールを作成し運用を開始しました。最新の規定やマニュアルを登録する事で、所在不明や作成者不明のマニュアル等の検索が容易となり連携がとりやすくなったと感じます。今後も現状に沿う基準マニュアルの整備と遵守に努めてまいります。

②医療安全風土の醸成

看護部は医療安全への意識は高く毎年部署目標に挙げています。インシデント報告も活発に行う風土が定着し、今年度のアクシデント件数は減少しています。医療安全管理者を中心とし粘り強く委員の者が解決策の検討、部署内での啓蒙により周知徹底の働きかけを行っています。外来・入院患者数の増加の中でのアクシデント減少は、風土の醸成と現場力の高さを感じます。

③感染予防対策の遵守と応援体制の構築

コロナ禍となり4年目です。新型コロナウイルス感染症の入院は5階病棟陰圧室へ収容していますが、他階でも入院後当感染症を発症する事案もありました。その際には直ちに隔離・ゾーニングを開始できており、感染予防対策の遵守・定着がうかがえます。また、陰圧室満床時には、感染症発生病棟で対応をせざるを得ない経験もしました。基準通りに行かない状況時や他の感染症等においても、標準予防策を実施し感染拡大もなく終息となっています。

(2) 業務の効率化

①タスクシフト／シェアの内容整備

タスクシフト／シェアの視点より、中材業務(2020年)、ベッドメイク・退院後の清掃業務(2021年)は外部委託しています。今年度は入院セットの書類手続きや物品補充を外部委託しました。看護師及び病棟アシスタントが患者に向き合う看護の時間が確保できるようになったと実感しています。また近年、救急搬送件数の増加、特に夜間救急搬送件数が顕著です。そのため11月から臨床工学技士の当直応援体制が開始となりました。現在週3回稼働しています。業務範囲内で可能な救急対応や院内医療機器トラブル時の緊急対応を担っており、看護師が看護業務や患者対応に集中できる環境へ協力をいただいています。

②重複業務整備③スマートベッドの内容整備

計画的実施に至っていません。課題を挙げ取り組んで参ります。

3. 生き生き働き続けられる職場環境作り

急性期の病院看護部として地域に貢献できる看護師

の育成を目指しています。地域がら高齢者・認知症患者の増加、救急搬送件数の増加、緊急入院の増加、終末期患者が増加している現状です。

(1) 離職率の低下

コロナ禍で感染予防対策の遵守の定着は喜ばしい事ですが、遵守のために業務量は増加しており、5類になっても装備は軽装になった実感がありません。コロナウイルス感染症流行拡大期には職員罹患者が欠員となり、現場は患者負担を最低限にとどめるよう勤務調整に苦慮しています。今年度、離職率は12.6%と上昇、退職者の三分の一は入職1年程度の職員でした。コロナ禍の業務量の増加やストレス過多が大きな要因と考えます。一方、喜びごととしてはコロナ禍ベビーブームがあります。最大で11名のスタッフ（約1割）が育児休業期間を経て、随時時短勤務で復帰をしています。常勤勤務者への負担増加が懸念されますが、業務改善や他職種協働によるタスクシフト／シェアの取り組みを継続していきます。組織は勤務形態見直しを進めています。勤務時間の創設や拡充により働きやすい環境が整い離職防止に繋がればと思います。看護の質を保ちつつ柔軟な働き方を目指して参ります。

(2) 定着に向けた教育体制

教育体制の中で生涯学習・キャリア形成支援は大切です。この度、「中小規模病院における看護師のキャリア開発」をテーマとした研究参加に大手前大学客員教授・認定管理看護師・笹谷孝子先生より依頼があ

り、よい機会ととらえ参加を表明しました。対象は管理者と中堅（3年）以上、1年を通し年3回（計6回）の研修を行いました。研究のため参加は自由ですが、約三分の一のスタッフが参加しています。1回目の研修ではキャリア形成と支援を学び、2回目からはポートフォリオ作成と発表会を行いました。作成は大変ではありましたが発表会の体験を通し、頑張った自分を褒め・向き合い・振り返る機会となりました。また他者の発表を聴くことで頑張りを共感・評価し合うことで、一緒に働く仲間としての絆が深まり、次なる目標に向けて一歩踏み出す勇気をもらえたと感じる、有意義な時間を過ごしました。活用については検討が必要ですが、看護の質の向上に向けたツールの一つとなればと考えています。

来年度は診療報酬・介護報酬の同時改定の年となります。また、新手術棟が着工し完成を控えています。課題は色々ありますが、地域に根ざした急性期の病院の看護師として役割と自覚をもち邁進して参ります。

【来年度目標】

1. 倫理観を高め、安全・安心で質の高い看護の提供（医療チームの強化）
2. タスクシフト／シェアを促進し、他職種と協働できる業務構築
3. 生き生き働き続けられる職場環境作り

看護記録検討委員会

委員長 稲村 美穂

看護記録検討委員会は看護記録の充実を図り、看護実践の評価や質の向上、患者の皆様に提供するケアの根拠となるよう看護記録のあり方について検討しています。病棟、外来、手術室、人工透析センターの看護師10名で構成し、委員会は月一回開催しています。

2023年度の活動内容

1. 研修会の開催
 - 1) 院外「評価者及び院内指導者研修オンラインセミナー」2名受講
 - 2) 新卒看護師・中途採用看護師対象 院内研修
・看護記録の必要性、注意点について
・看護過程・NANDA-I 看護診断について
2. 看護記録の質の向上について
 - 1) 患者参画型看護計画の実施
 - 2) 一般病棟用の重症度、医療・看護必要度の質的監査
 - 3) 看護ワークシートの改善
 - 4) 看護記録の質的監査に向けた準備
 - 5) 病院機能評価受審準備

2023年度は、看護師の業務負担の軽減に向け看護ワークシートの改善に取り組みました。看護ワークシートは、看護師の「業務の予定表」として活用していま

すが、カルテ記載との重複や活用方法に個人差があるなど問題がありました。システム担当者と連携し看護ワークシートに反映される看護情報の整理を行い、使いやすいものに改良しました。看護したことの証明や看護実践の内容を共有するのはカルテに記載されている看護記録からであり、看護ワークシートはメモとして活用するよう啓蒙を続けています。まだ試作の段階ですが引き続き改良を進め、業務遂行に役立つものになりたいと考えています。

当院の看護部では看護記録の質的監査は実施したことがなく、その準備として看護記録検討委員会のメンバー3名が看護記録監査について院外研修を受講しました。記録の監査は、「看護記録方法の適切性」や「看護実践の妥当性」を評価することで看護実践能力を高めることができます。記録の良し悪しを判断し「読める、わかる、伝わる、納得できる」記録を目指すことで看護の質を高めることにつながります。そのためのシステムの構築も今後の大きな課題と感じています。

10月の病院機能評価受審では、委員会メンバーが各部署で記録の注意点について啓蒙し、看護記録や看護計画の確認を行いました。ケアプロセス症例とカルテレビュー審査を中心に看護部全体が一つとなり準備を行い受審に臨みました。審査で受けた指摘事項を中心に改善を進め、今後も看護記録の質の向上を目指して活動していきます。

看護業務検討委員会

委員長 藤井 美佐子

看護業務検討委員会は看護業務の見直しと改善を図り、業務の標準化することを目的としています。各部署から10名のメンバーで構成し、委員会は月1回開催しています。委員会では各部署から新たなマニュアル作成の依頼や、既存マニュアル内容の変更依頼など活発な意見が飛び交っています。

今年度も全マニュアル見直しを行いました。また、病院では文書管理の一元化を目的に新たに院内ホームページ上に文書管理ページが設けられました。最新の

看護業務マニュアルをアップでき、職員であればいつでも誰でも閲覧が可能となりました。看護部以外の他部署でも容易に閲覧できることで、処置・検査が今まで以上にスムーズにできるようになると思います。

2024年度も患者の皆様には安全で安心な質の高い看護の提供ができるよう、看護部全体が統一した看護が出来るためのマニュアル作成に取り組んでいきたいと思っています。

看護部教育委員会

委員長 水ノ上 かおり

看護部教育委員会は、1. 現任教育 2. 新人教育 3. 看護研究 の3つを柱に看護職員への生涯学習を行い看護の質向上を目指しています。

1. 現任教育

【看護職員一般研修】

日 時：2023年8月1日～8月31日（視聴期間）

e-ラーニングによる研修

テーマ：アンガーマネジメント

今年度も、e-ラーニングシステムを活用し研修を行いました。対象者は、看護師だけでなく、保健師、診療アシスタント、病棟アシスタント、臨床工学技士としています。

「怒り」をマネジメントすることは、良好なコミュニケーションを保つこと、安全な医療を行うために重

要な要素となります。怒りの感情と上手く付き合うためにアンガーマネジメントを学びました。

終了後のアンケートでは、「怒りの正体を知る」「～すべきはそれぞれ違う」「まあ許せるゾーンを広げる」などの考え方が参考になったという感想が多かったです。

【医師によるスキルアップ勉強会】

2021年度から医師の協力もあり、定期的な勉強会を開催しています。20分程ですが、ポイントを絞った講義は大変分かりやすく、疑問点を詳しく教えて下さり有意義な勉強会となっています。勉強会はビデオ撮影をし、後日院内メールで配信するので参加できない人も視聴することができます。

2023年度	医師	内容
2023年5月19日	門田 康孝	開放創、動物咬創について
7月12日	寺田 喜平	予防接種の意義（子宮頸癌、带状疱疹、海外渡航ワクチン、注射の痛みを軽減させる方法）
10月27日	田邊 綾	ナースレクチャー！画像の見方
11月24日	田邊 綾	SBAR～急変が起きたときに医師に状況を簡潔に伝えるには～
2024年3月6日	藤井 研介	がん化学療法について

2. 新人教育

【1年目】

今年度は5名の新卒看護師が入職し、各病棟に配属になりました。当院の新人研修は1年を通して看護技術、多重課題などの集合研修を行います。研修講師は中堅看護師や他部署担当者（薬剤管理科・臨床検査科・画像診断センター・栄養管理科など）が担っています。入職後は定期的にプリセプティの会、プリセプ

ターの会を行い、技術だけでなく精神面のフォローもしながら新人看護師とプリセプターの成長を見守ります。また、憧れる先輩に1日ついて学ぶ「シャドー研修」と、逆にプリセプターが新卒看護師をそっと見守る「逆シャドー研修」を取り入れ、実際の行動を振り返る学習も行っています。先輩看護師と1日を共に過ごすことで優先順位を考えた業務の進め方を知り、具体的な流れが分かるので実りの多い研修です。

項目	時期	内容
看護部オリエンテーション	4月1日	看護部の教育システムを知る。
BLS研修	4月	BLSを学び、演習を行う。
技術研修	4月～7月	看護技術習得のための技術研修。
プリセプティの会	入職後2・4・7・9・12カ月後	各時期での技術習得の進捗状況の確認。困りごとや悩み事の共有。先輩からの助言。
プリセプターの会	入職後2・4・7・9・12カ月後	プリセプター同士の情報交換の場。
多重課題研修	9月	シナリオを用いて、ケアの優先順位を考える。
シャドー研修	8月	1日先輩について看護実践、スケジュールの立て方や優先順位の考え方を学ぶ。
逆シャドー研修	1月	プリセプターが新人看護師に1日ついて看護実践力を確認しフィードバックする。

【2年目研修】

2年目になると自立した看護実践が求められます。挿管介助、フィジカルアセスメント、メンタルヘルス研修などを行い、中間評価や年度末評価では課題レポートを記載し助言を受けます。岡山県看護協会の研修も活用し、院外研修でグループワークを経験します。7月は新人のプリセプティの会に参加し、各自の1年目の時の体験談を話す時間を設けています。学習への

取り組み方、リフレッシュの仕方、先輩や患者の皆様との関わり方など、新人看護師には大変参考になったようです。そして、年度末にはそれぞれが受け持った方の中から1名選び、看護実践をまとめる事例発表会があり、2年間の新人教育の区切りとなります。発表会ではそれぞれの成長を見ることができると共に、3年目への課題を明確にすることができます。3年目以降は各部署やチーム全体で見守っていきます。

開催月	内容
4月	2年目の目標設定、リーダーシップ・メンバーシップを学ぶ
6月	気管内挿管介助と救急対応
7月	(岡山県看護協会オンライン研修) 急変に気付く～あなただったらどうする？～
9月	中間評価
10月	メンタルヘルス研修（公認心理師）
11月	フィジカルアセスメント
2月	事例発表会
3月	1年間の振り返りと3年目の課題を考える

3. 看護研究

【第24回院内看護研究発表会】

日時：2023年6月27日（火）午後1時30分～2時30分
参加人数：38名
6月28日～7月26日 動画配信
視聴人数：94名

《演題》

- 1) デイパートナーシップナーシングシステムを用いた人材育成
4階病棟 高森 博規
- 2) A病棟における急変対応の実態調査に関する研究～急変事例を用いての現状の把握～
5階病棟 河本 彩美

今年度はスタッフの育成に関連する課題に取り組んだ2演題であり、関心の高い内容でした。終了後のアンケートではそれぞれの演題に質問やコメントが多数あり、どの部署でも試してみたい興味深い内容であったようです。

院外講師として、以前より川崎医療短期大学看護学科 准教授の掛屋純子先生に年2回の対面とメールのやりとりでご指導いただいています。4月に講師の交代があったため、講評は同看護学科 准教授の福武まゆみ先生に依頼し、良かった点や改善点などを詳しくご指導いただき大変勉強になりました。

また、2題のうち岡山県看護協会井笠支部看護研究発表会で5階病棟の演題を発表しました。今後も臨床に活かせる看護研究を継続していきたいと思います。

【令和5年度岡山県看護協会井笠支部看護研究発表会】

日時：2024年2月24日（土）

笠岡市保健センター：ギャラクシーホール

《演題》

- A病棟における急変対応の実態調査に関する研究
～急変事例を用いての経験年数別での現状把握～
5階病棟 藤井 和恵

外 来

副看護師長 道廣 奈々

外来は、内科・外科系・小児科で23診療科（各科専門外来19科）・救急部門・血管カテーテル部門・内視鏡センターがあります。2023年度外来スタッフ構成は、看護師26名（常勤11名・非常勤15名）、診療アシスタント15名（医師事務補助者常勤5名・非常勤3名、診療アシスタント常勤4名・非常勤3名）、内視鏡アシスタント1名、小児科外来スタッフは、看護師常勤5名、診療アシスタント3名（医師事務補助者常勤1名、非常勤1名、診療アシスタント1名）、病児保育士3名の計53名でスタートしました。

2023年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類となりました。ここ数年で培った知識を活かしつつ、新型コロナウイルス感染症だけでなくインフルエンザを含む流行感染症の対応に追われる毎日となりました。病院を受診される患者の皆様には安全に診療が受けられ、院内待機時間が長くないようスタッフ間で情報伝達と共有を行い対応しています。

2023年度の外来受診者数は100,227名（対前年比－0.85%）、救急搬送受入れ件数は1,143件（対前年比＋3.9%）でした。夜間救急対応は、医師・看護師と診療放射線技師に加え、臨床工学技士が当直業務を開始し、更に積極的な受入れを行っています。救急担当医との救急症例のふり返りは、メディカルコントロール検討会の場で討議し研鑽を重ねています。今後も、二次救急病院としての役割を遂行できるよう取り組みたいと考えています。

外来の目標は以下の2つをあげました。

目標：1. 入退院支援システムを有効活用し患者が安心し療養生活が送れる体制を構築する

- 1) 入退院支援システムを有効活用 2) 看護師介入の必要な患者の対応

〔実施方法〕入退院支援システムを活用し、退院後に外来診療時に必要な情報共有を行う

- (1) 入院前看護介入の必要な患者の対応
 - ①外来受診時がん患者、ターミナル期の患者、社会的支援の必要な患者などの病状説明時は看護師が立ち会い看護記録に残す。
 - ②外来朝のミニカンファレンス時に情報共有する。
 - ③早期に相談員などへ介入を依頼し、支援に繋げる。
- (2) 入院スクリーニングシート入力
 - ①入退院支援システムについて運用内容確認、理解する。
 - ②入退院支援システム運用にあわせ、7日以上予定入院患者、緊急入院患者に対し退院困難な要因入力を実施。
 - ③年度末緊急入院も全員入力出来るようになる。

- (3) 退院後管理の活用

- ①退院後管理に上げる内容と診療科別コメントの情報共有を検討。
- ②病棟との連携を図り、退院後管理を活用する。
- ③専門科カンファレンスを活用し連携漏れを把握する。
- ④訪問診療聞き取りシートを活用し、相談員・病棟看護師との連携を図る。

今年度導入された入退院支援システム活用の一環で、外来が入退院支援に関われるよう3グループに分け、目標を定め定期的に検討し活動しました。(1)については、定期的にグループカンファレンスを開きベッドコントロール検討会の情報を共有しました。インフォームドコンセントの看護記録には介護申請の状況・介護度・ケアマネジャーの介入を合わせて記載し、毎週木曜日に朝の部署カンファレンスで看護介入が必要な患者を共有する取り組みを開始しました。(2)については、新システムに準じスタッフが入力内容について理解しているか確認、入院時の情報を意識して入力出来るようになりました。(3)については、病棟と外来の連携に着目し、新システムの退院後管理を利用し、入院中の患者の皆様が退院後、継続した支援が必要な場合に速やかに外来と連携でき、情報共有する仕組み作りに取り組んでいます。(1)(3)については、来年度も引き続き継続し取り組む課題としました。

目標：2. 中央問診の活用

- 1) 中央問診の活用 2) 部署勉強会の実施

〔実施方法〕相談窓口として中央問診を活用

- (1)『受診のすすめ』相談件数をデータ化、受診のすすめ等の相談から受診につなげる。
- (2) 説明コーナーの配置を見直し円滑な業務を行う。
- (3) 院内トリアージ業務、ラウンド業務の継続。

- 1) 昨年度に引き続き今年度は、中央問診の活用の定着を目指し取り組みました。

(1)については、外来フロアに設置している受診のすすめチェックシートを活用していただき受診相談に繋がるよう強化月間を設け活動しました。しかし用紙は手にするものの、相談には繋がらない結果となりました。また、相談を受けていても問診トリアージ業務に追われ、記載漏れが生じ、相談件数の正確な現状把握ができませんでした。普段から受診前電話相談も多く、受診に至る情報はトリアージ看護師に伝達しています。直接来院の受診相談も医事課から看護師へ相談があり、受診に確実に繋がっています。患者の皆様が安心して受診していただける環境作りはできていると

考えています。(2)については、一部実施していた中央問診での動画説明は、オープンスペースであり、個人情報保護の観点より中止としました。説明業務全般を説明コーナーに集約する事でスタッフの動線も整理でき、また、安全に説明を受けていただく環境が整い業務が円滑にできるようになりました。(3)については昨年に引き続き、定期的なラウンドを実施し、受診前の患者の皆様の安全確保に努めています。

2) 年間を通し計画的な勉強会を開催し、統一したレベルで患者対応出来るようになる。

年9回の勉強会開催を計画し、8回実施しました。外来は、非常勤看護師が約半数のため、半日勤務者も参加できるよう月2回、同じ内容で実施しています。参加率は50～80%ですが、勉強会は看護師全員で担当を分け準備をしており、それぞれのスキルアップに繋がっていると考えています。各スタッフが、外来の煩雑な業務の中、研鑽を積み部署目標に向い邁進する姿は、いつも頼もしく思っています。今後も地域の皆様の安心した診療の場となれるよう努力して参ります。

外来検査・治療件数

(件)

	救急 搬送	整形外科	形成外科		眼科	泌尿器	血管外科		カテー テル 検査・ 治療	内視鏡						禁煙外来	
		手術出し	手術出し	外来 手術	手術出し	手術出し	手術出し	外来 手術		上部	下部	EMR	膀胱	気管支	PEG	初診	成功者
2022年度	1,100	661	153	84	171	5	2	1	146	582	341	57	383	1	13	0**	0
2023年度	1,143	562	162	97	99*	1	1	8	154	554	280	52	337	0	15	8	2

*手術出し要件変更

**初診制限あり

<小児科外来>

今年度の小児科外来部署目標として、①小児科全体で一つのプロジェクトを確立する、②診療業務において個々のスキルアップを目指し誰もが対応できる体制を作る、の2つを掲げ、1年間取り組みました。

新型コロナウイルス感染症の発生から3年以上が経過し、小児科医及び小児科外来スタッフ一同、子ども達の健やかな成長をサポートしていきたいと願い、今までの活動を再編成し、「すこやかこどもプロジェクト」を発足しました。各専門科において診療内容の「見える化」を目指し、アレルギーや小児発達、予防接種や虐待対応などの勉強会を開催、専門分野に関する個々のスキルアップにも努めました。また、小児科外来待合に熱中症や絵本の効果、こどもの事故や禁煙などの掲示をし、保護者への啓蒙活動を行いました。

<外来セクレタリー・診療アシスタント>

外来セクレタリー部門では急性期医療の中で勤務医の労働環境の改善に向け「医師事務作業補助業務を適性に行い、医師の負担軽減に努める」という目標のもと常に業務の見直し・効率化を図っています。業務内容は多岐に渡り、煩雑な中で常に緊張感を持ちながら業務を行っていますが、10月以降スタッフ減員の影響もあり、業務の安全性を高めることや、効率を重視した業務構築が更に必要だと感じています。前年度より継続して月1回ミーティングを実施し、新規採用薬や検査の注意点、インシデント・アクシデントなどの情報共有を適宜行い業務の統一性・安全性に繋げています。

アシスタント部門では、中央問診カウンター、内科フロアにアシスタントを配置し、積極的に問診・検査

副科長 水田 智恵子

さらに、新型コロナウイルス感染症減少に伴い、健康増進クラブ ONE 主体で定期的な親子活動が再開しました。9月には寺田喜平医師による、こども健康教室「日本でこれから心配な感染症は？世界と比較して遅れているワクチンは何？」を当院にて開催しました。2月には近隣保育園の保育士対象に湯本悠子医師による、エピペン講習の出前講座を行うことができました。今後はこどもの生活習慣の改善を目指した、新たな出前講座も検討しています。次年度も、井笠や浅口地域における専門外来の充実、他部署との連携による応援体制の構築を図り、保護者の皆様と共に、こども達に寄り添った医療を提供できるよう尽力していきたいと思っています。

副科長 東山 裕美

待ちや体調不良の方など困っている方々への声掛けを行い、誰もが相談しやすい雰囲気を中心掛け、皆様の困った時の拠り所として大きな役割を果たしています。同時に新人を含めた内科アシスタントのサポートや指導を行う事で、皆が安心して患者優先の業務に取り組む事が出来ています。室温や環境にも目を配り、快適な受診環境の提供や、待ち時間状況の発信など安心して受診できる環境作りに努めています。現在リーダーを中心にベテランスタッフで担っている中央問診カウンターの検査案内業務ですが高度で複雑化しており、司令塔の役割を果たせる日替わりリーダーとなるスタッフの配置が出来るように、現在中堅および15年以上のベテランアシスタントを対象とし対応できるスタッフの育成に取り組んでいます。

小児科では部署目標をもとに新規「すこやかこどもプロジェクト」を発足し、医師と常に意見交換を行いながら診療現場のみならず院内外の活動に、看護師・保育士・アシスタントが職種を超え全員が関わりを持てる体制作りに向け邁進しています。

2023年4月これまでと形を変え『外来セクレタリー・診療アシスタント会議』を発足しました。業務検討・改善、情報共有を行う上で発言しやすい雰囲気を心掛けながら、誰もが忌憚なく意見交換出来る場となればと願っています。

これまで積み上げてきたアシスタント業務ですが、非常に複雑となり、新人だけでなく教育を司るベテラ

ンも大きな負担となっています。まずは土台となる部門全体の基礎力の向上を目指しながら、個人の特性やレベルに合わせて無理のない配置と育成を心掛け、個々の評価をしながら今後の新人育成にも役立てていきたいと考えています。

来年度の総合診療科新設に向けて外来診療のパフォーマンスの向上を目指し、医師・看護師・アシスタントが各々のタスクの棲み分けを行いながら、それぞれが自分の業務に集中できる環境を整えることが最善と考えています。全員が笑顔で頑張れるチーム作り、そして働き方の満足度アップを目指して頑張りたいと思います。

副科長 川崎 理恵

＜手術室・中央材料室＞

手術室は、整形外科、眼科、形成外科、泌尿器科、血管外科、外科、循環器内科の計7診療科の手術を行っています。スタッフは看護師6名、臨床工学技士3名、アシスタント1名で構成しています。育休・産休・退職に伴う減員はあったものの、手術スケジュールの見直し、臨床工学技士とのタスクシェア、人工透析センター・外来からの応援体制で安全に運用を行うことができました。

手術件数は1,877件で前年比93.5%、全身麻酔は306件で前年比102%となりました。今後も“断らない手術室”をモットーに安心・安全な手術が提供できるように励んで参ります。

今年度は部署目標に「患者に寄り添い、安心・安全な手術看護を提供する」を掲げ、

1. 災害対策の強化
 2. 働きやすい環境づくり
- の2つについて取り組みました。

1. 災害対策の強化

今年度は特にME機器に重点をおいて災害対策の強化に取り組みました。近年医療機器の進歩は目覚ましく、特に手術室では、内視鏡手術に代表される低侵襲手術の普及に伴い多くの医療機器が使用されています。当院においても多くの医療機器があるため、バッテリー搭載の医療機器の一覧を作成し、バッテリー稼働時間、連絡先等が一目でわかるようにしました。また、医療機器のトリアージタグを作成し、災害時に、誰でも一目で使用の可否がわかるようにしました。

2. 働きやすい環境づくり

(1) 終礼の実施

翌日の手術室で使用する器材・薬剤の確認を行うことで、翌日の業務をより効率的に進められるようになりました。また、業務の進捗状況をシェアすることで日々の業務に良い影響を与えることができています。

(2) 臨床工学技士とのタスクシェア

臨床工学技士の増員、看護師の減員に伴い業務内容の見直しを行いました。外科をはじめとした手術の直接助産業務を臨床工学技士とタスクシェアすることでスコピスト業務確立が行えました。また、医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフトシェアの取り組みとして、全身麻酔における薬剤のピッキング・挿管の準備が行えるようにマニュアルの整備を行いました。今後は、挿管の介助にも取り組んで参ります。

(3) 入退室の見直し

上肢伝達麻酔時、今まではベッドでの帰室でしたが、医師の助言もあり、車椅子での退室へ変更しました。患者、スタッフの負担を減らす移動となり病棟・手術室共に業務改善に繋がっていると感じています。また整形外科の外来手術について入室方法を見直しました。待合を外来から手術前室へ変更することで、よりスムーズに手術が行え、患者の待ち時間軽減につながっています。

2024年度は新手術棟が竣工予定です。新しい環境へ変わっても患者の皆様へ安全・安心な医療を提供する思いは変わりません。今後も患者に寄り添ったサポートができるようスタッフ一同、日々研鑽して参ります。

3 階病棟

科長 松村 由美子

2023年度3階病棟は、看護師19名、看護アシスタント4名、病棟クラーク1名でスタートしましたが産休・育休、離職などで人員不足が続き他階からの応援態勢でのりきることが出来ました。当病棟では、緊急入院、急性期（術前・術後を含む）、終末期、小児科など多種多様の患者の受け入れを行っており、人員不足やスタッフの入れ替わりがある中で看護の質を落とさない業務改善、質の高い看護の提供を念頭に置き部署目標を「専門性を高め、質の高い看護・ケアの提供を行う」という重点目標のもと以下の二つについて取り組みました。

1. 専門的知識・技術の向上に努め質の高い看護サービスを提供する

- (1) 毎月部署勉強会を行いひとり1回は講師を務め自己研鑽する
- (2) 小児科教育プログラムの改定を行い小児科未経験者はプログラムを終了する
- (3) 小児科勉強会を定期的に行なう
- (4) 食物経口負荷試験の担当者を増やす

3階病棟は小児科を含む病棟です。小児は症状悪化により急変や重症のリスクをはらんでいるため、的確な対応が求められます。現場は育児休業や離職、異動により小児科未経験看護師が41%をしめており、コロナ禍より小児患者の入院は減少しています。どのようにすれば小児科看護の質を維持できるのか、病棟の課題として取り組むこととしました。部署内で小児看護への疑問・質問・不安項目について意見を求め、目標を設定し、達成に向けた計画を立案しました。項目は小児科に関する手技や急変時対応などが多くありました。そこで小児科の知識習得には小児科外来実施の定期勉強会への参加、不安な手技の技術習得には、経験者が講師となり勉強会を計画・実施をしました。小児ICLSや急変事対応は、救急委員が中心となりシミュレーションを行い、そこに小児科医師も加わってもらう事で技術指導も受ける事ができました。しかし、これだけで充分とは思っていません。今後は導入しているeラーニングの活用や研修参加などの自己研鑽を勧め、一人ひとりが自信を持ち小児科看護を行なっていくよう今後も継続した教育体制の構築や人材育成、業務の定着に取り組んでいきたいと考えます。

2. 業務の5Sを行い無駄な業務削除を行う

- (1) 安全性を考慮しシンプルなオペレーションの追及
- (2) 考えて行動するスタッフの育成

煩雑な業務が多いため、効率的に仕事をすすめる事が出来るよう業務の見直し・改善が必要であると挙げた5つの項目（整理・整頓・清掃・清潔・躰）につ

いて小集団活動として取り組みました。

- ①小児科入院時の必要準備物についての取り組み：小児科の入院は成人の入院に比べ必要な準備物が多く、慣れないスタッフにとって負担の一つでした。統一した準備が出来るよう可視化する事で誰もが事前準備が出来るようになりました。
- ②薬剤師による入院中の薬の説明・指導：小児の入院時の内服薬説明は看護師が行っていましたが、タスクシフト／シェアの視点から専門である薬剤師に入院中の薬の説明や服薬指導をいただく事で保護者の安心に繋がり、安全で効果的な薬物療法を提供することが出来ました。
- ③緊急入院時の手技と機器の扱いに関して：緊急入院時には、動脈ライン確保のようにたまにしかない処置があります。既存のマニュアルだけでは、いざという時出来るか不安と言った声があり、練習キットを用いてのトレーニング、臨床工学技士による機器取り扱いを学び、各自の自信へと繋げることが出来ました。
- ④上肢伝達麻酔術後の搬送：術後の搬送は麻酔の種類や患者の状態により異なりますが、当院での上肢伝達麻酔術後の迎えはベッドでの搬送、看護師2名での対応が基準でした。しかし、術後の安静度は自由となっていることを受けケースに応じた対応が望ましいと考え、手術室運営委員会への提案を行った結果、車椅子での迎えが許可されました。結果的に業務の削減、時間短縮といった業務改善に繋がりました。
- ⑤入院時オリエンテーションと入院記録進行表の作成：入院時のオリエンテーションには、時間を要しており、説明にも個人差がみられたため、室内に掲示されている入院生活に関するリーフレットの見直し・活用を行い統一した説明を心掛けました。また入院受け入れ時は入力業務が多く、手分けをして入力を行っています。そのため進行具合の確認が必要でした。そこで入院記録進行表を作成し、チェックボックスに入力者がチェックをいれる事で入力完了が一目で分るようになりました。また、新しく入職したスタッフに入院記録進行表を使用してもらうことでカルテ入力漏れを防ぎ、入力の進行状況が分るなど効率的に活用できています。

今後も煩雑な業務のなか、常に何ができるかを考え、多職種連携や業務の見直しを行い安心安全な看護が提供できるよう精進してまいります。

2024年度は、育児休業明けのスタッフも順次復帰予定です。働き方改革を視野に入れ働きやすい職場作りを目指していきたいと思ひます。

4 階病棟

副看護師長 柏原 寛子

地域包括ケア病棟の役割を担う4階病棟は、看護職員32名、病棟クラーク2名で構成しています。多職種との連携を密に行い、患者の皆様の在宅復帰を見据えた退院支援や安心安全な療養生活を送っていただけるよう日々の看護実践に取り組んできました。

2023年度、病棟重点目標を「倫理的感性と看護実践能力の高い人材を育成し、安全で質の高い看護を実践する」とし、部署目標を以下の3つあげました。病棟スタッフは3つの目標に対し、各目標の活動の中心になるよう小集団にわかれて目標に取り組めました。

1. 患者に応じた安全対策を行い入院患者の転倒・転落を防止する。

- (1) 転倒・転落防止フローチャート、対策解除基準を作成し、安全な療養環境整備に活用する。
- (2) 転倒転落対策における倫理的問題を事例検討会で話し合い、倫理的感性を養う。

指標 ①転倒転落発生率が前年度より0.2%減少できる。

②事例検討会を定期的に開催することができる。

2022年度、転倒転落防止対策に関する環境整備や意識向上に取り組みながらも転倒転落レベル3a、3b事例の発生がありました。このことを踏まえ、2023年度も安全・安心な看護の提供を徹底するべく医療安全に関する目標に取り組むことにしました。同時に病棟重点目標である、倫理的感性の高い人材育成を意識し、転倒転落予防対策における倫理的問題にも注視し行動計画を立案しました。その中で転倒転落予防チームは、経験値や感性の異なるスタッフ間でも判断基準が一定となるよう転倒転落防止フローチャートや転倒転落予防対策の解除基準を作成しました。また転倒転落予防カンファレンスの看護記録時に使用するワードパレットを作成し見落としがないよう工夫を行いました。試行錯誤を繰り返しながら転倒転落予防ツールを作成することで、スタッフから「基準ができたことで一貫性が出てきた、カンファレンスが活発に行えた。」と肯定的な意見を聞くことが出来ました。しかし、指標である「転倒転落発生率が前年度より0.2%減少できる」に対し転倒転落発生率0.6%と発生率が増加という結果となり目標達成とはなりません。一方で転倒転落アクシデントに関する事例検討会は年2回開催することができました。一人ひとりが対策を講じることで生じる倫理的問題を真剣に考え、安全を守ることと患者の皆様の尊厳を守ることへの葛藤を感じながら意見交換を行いました。今後も作成したツールを活用し患者の皆様に応じた環境調整を継続しながら転倒転落アクシデント対策を検討し安全な療養生活を送っていただけるよう取り組んでいきたいと思ひます。

2. 患者・家族が安心して退院できる退院支援を実践する。

- (1) 看護師主体の退院カンファレンスや事例検討会を開催し患者・家族の意思決定支援を行うことができる。
- (2) 退院支援チェックリストの活用を継続し、退院支援実践力の向上をはかる。

指標 ①退院ケアカンファレンスの開催数が前年度より0.3%アップする。

②退院支援チェックリストの活用を継続し、退院支援実践力の向上をはかる。

2023年度は入退院支援システムが導入され、多職種がシステムを活用することで情報共有しやすくなり、チームでの退院支援が円滑に行えるようになりました。看護師によっては主体的に退院ケアカンファレンスに活用し、特に「今後の方針」へカンファレンス内容を記載することで退院支援の進捗状況を明示するなど活発なカンファレンスにつながっていました。事例検討会では、実際の退院支援事例を通して、ジョンソンの4分割法を利用し誰と連携して、どんな支援が必要だったか検討しました。年3回開催した事例検討会の最終の検討会では、看護の専門職として何ができるかを整理して考えることまででき、また24時間患者の皆様のそばにいる看護師が必要な情報を得て、ご家族や多職種へ橋渡し連携する役割があることを再認識しました。結果、評価指標の「退院ケアカンファレンスの開催数が前年度より0.3%アップする」は開催数3.0%と大幅増加となり目標達成することができました。一方の「年度末の退院支援チェックリスト⑧と⑬の項目で病棟看護師の8割以上が出来たと回答することができる」では⑧退院後の生活状況のイメージを患者や家族と共有できているかに対し、できたと答えた看護師は52%、⑬退院支援ケアカンファレンスの必要性をアセスメントし本人・家族へ指導できているかに対しても、できたと答えた看護師は52%と8割以上にはとどきませんでした。しかし、半数以上の看護師ができたことと答えたことから、退院ケアカンファレンスや事例検討会を通して意識や実践力の向上につながっていると考えられました。今後もシステムを活用しながら多職種と連携を密に行い、患者・家族の皆様が安心して退院後の生活が送れる退院支援を目指していきたいと考えています。

3. 急性期にも対応できる人材育成を行い、安全で質の高い看護を提供する。

- (1) 急変時の対応研修を継続し、急変対応スキルの向上をはかる。

指標 ①年度末のチェックリストで病棟看護師の全員が出来たと評価を受けることができる。

2022年度に急変時の対応に際し、苦手意識を克服しスキルを身につけたいと考え目標設定しました。しかし、苦手意識の克服にいたらなかったという課題を踏まえ、2023年度も継続して取り組みました。急変対応に必要な看護技術の復習や病棟で発生した急変対応事例の検討を行いながら年度初めと年度末に急変対応シミュレーション研修を行い知識・技術の定着を確認しました。結果として指標の「年度末のチェックリストで病棟看護師の全員が出来たと評価を受けることができる」に対し、全員が「できる～大体できる」と答えることができ目標達成することができました。定期的に行うことで自信にもつながるとの声も多く聞かれ、今後も何らかの形で継続していく必要性を感じています。

2023年度も病棟目標達成に向かって小集団となり活

動を行いました。病棟重点目標である倫理的感性と看護実践力の向上を拠り所としながら各々が意見を出し合い特色を出しました。スタッフ一人ひとりが主体的に活動することでチームとしての結束力も高まったように感じました。特に新型コロナウイルス感染症対策では突発的な出来事に対しても、誰ひとりとして対応に遅れることなく自分の役割を理解し忠実に対応することができました。そして、何より24時間、患者の皆様そばに居ることのできる看護師だからこそ、できることは何かを考えながらベッドサイドに立つ、ということを再認識することができました。2024年度、診療報酬改定、働き方改革と医療を取り巻く環境も刻々と変化します。患者の皆様にとっての最善を考えながら、地域包括ケア病棟の看護師として求められる役割をしっかりと遂行できるよう、病棟職員一丸となり決意を新たにに取り組んでいきたいと思ひます。

5 階病棟

看護師長 稲村 美穂

5階病棟は看護師（パート2名含む）23名、看護アシスタント4名、病棟クラーク1名で構成しています。急性期や手術・検査を受ける患者の皆様をはじめ、近年では終末期の患者の皆様も増えており、最期を迎えるための支援として看護を提供しています。

2023年度の病床稼働率は76.8%、在院日数は15.1日でした。2020年の新型コロナウイルス感染症の受け入以降病床稼働率は60%台で推移していましたが2023年度は70%台に上昇しています。

2023年度の部署目標は、「患者に安心・満足していただける看護を実践する」という重点目標のもと以下の二つについて取り組みました。

1. 安心・安全で信頼される看護の提供を目指す。

- 1) インシデント報告によりリスク感性を高める。
- 2) アクシデントの共有と再発防止。

2023年4月から2024年3月までのインシデント報告件数は366件で、昨年度の635件と比較すると半数近く減少しています。従来のメモ形式による報告からパソコンへの入力に変更したことや忙しさのため記入するタイミングを逃したことで、また、毎月の件数や内容の共有が不十分であったことが報告件数減少の要因として考えられます。今後は、インシデント報告の必要性を再度周知し、報告方法の見直しや報告内容の共有を図りアクシデント防止に役立てていきます。

アクシデント件数は今年度36件で、昨年度と比較し3件減少し大きな変化はありませんでした。内訳では全体の半数が薬剤関連であり、内服薬に関するものが12件で63%になります。行動要因は確認不足が最も多く、次に多いのが思い込みでした。アクシデントレポ

ートは昨年同様ファイルによる閲覧で共有し、閲覧の呼びかけも積極的に行いました。看護業務の中でも内服管理は複雑で多くの時間を費やします。指さし・声出し確認の徹底、ダブルチェックの見直しを検討し、誤薬アクシデントを1件でも減らすことを目標に今後も活動していきます。

2. 個別性を重視した質の高い看護を提供する。

- 1) 申し送りを削減することでベッドサイドにいく時間を増やす。
- 2) 良いチームワークを発揮し、患者さまが満足できる看護を実践する。

看護ワークシートの活用を進め、申し送りに必要な看護情報はワークシートに記載しました。看護情報の修正は毎週日曜日を中心に行い、ベッドサイドで患者の皆様とのコミュニケーションを増やすよう努めました。アンケート調査では看護師の半数が思うようにベッドサイドに行くことができなかった、申し送りの削減ができていないと回答しました。その理由として、急性期の多忙な看護業務や人員不足があげられました。ベッドサイドに行く時間が増えないことに対し多くの看護師がジレンマを感じ、コミュニケーションの大切さを痛感しています。退院時のアンケートでは患者の皆様から感謝の気持ちや労いのお言葉を多くいただき、看護職員同士の連絡や伝達についても、8割以上の患者の皆様が「出来ていた」と回答しました。これだけでは患者の皆様が満足できる看護が提供できたとは言えません。今後も業務改善や時間の使い方を工夫するなど取り組みを続け、患者の皆様と過ごす時間を大切にしたいと思ひます。

少子高齢化や新型コロナウイルス感染症の影響により、看護のあり方が年々変化しています。「住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられること」が重要であり、それに伴うシステムの整備が進んでいます。看

護師のスキルアップや多職種連携を強化し、より一層患者の皆様、そしてご家族の方を支援する看護サービスの提供に努めてまいります。

6 医 事 課

課長 今本 奈美江

医事課は、外来医事担当20名（うち非常勤3名含む）・病棟クラーク4名・病歴（DPC）担当3名で構成されています。業務は、診療報酬請求業務、受付・電話対応、病棟クラーク業務、各種請求業務（自賠責や労災請求、介護保険請求、予防接種請求等）、コーディング業務、統計業務、一般事務（診療情報開示、生活保護意見書作成等）など、幅広く行っています。

4月、オンライン資格確認システムを導入いたしました。マイナンバーカードの普及が進まない状況ではありましたが、受付の際、患者の皆様には積極的な声かけを行うことにより、全国的な利用率が5%弱で推移する中、当院は13%程度を維持しています。患者の皆様の同意に基づき、特定健診情報・他院の診療／薬剤情報を取得し、有効活用することにより、質の高い医療を提供することが目的ではありますが、積極的な活用はまだこれからと思われます。また、保険証をご提示いただく際、混雑時には並んでお待ちいただくこともありましたが、受付カウンターにあるカードリーダー（図）にマイナンバーカードを認証いただくこ

とで保険証原本の提示が不要となり、待ち時間の減少に繋がりました。さらに、入院時など支払いが高額になる場合、「限度額認定証」の手続きに役所までご足労いただいていたましたが、病院で確認できるようになったため、患者の皆様・ご家族にとっても便利になったと思われます。まだまだ浸透していくには時間がかかると思いますが、粘り強く啓蒙していきたいと思えます。

5月、新型コロナウイルス感染症が5類へと移行しましたが、まだまだ不安に思われる方は多くいらっしゃいます。感染対策を遵守し、患者の皆様・ご家族に安心してご来院いただけるよう意識しながら、笑顔ある温かい対応を心がけて参ります。

来年度は診療報酬改定があります。新型コロナウイルスの特例対応がなくなり本来の算定方法に戻ります。また今後は、介護連携や在宅、医科歯科連携など、院内／院外での連携が大事になってきます。新たな点数や加算をしっかりと習得し、確実に算定に結びつけていくことを目標に掲げ努力して参ります。



図

7 病児保育室～すこやかキッズルーム～

保育士 高森 彩乃・岡本 万波
看護師 渡邊 瑞穂

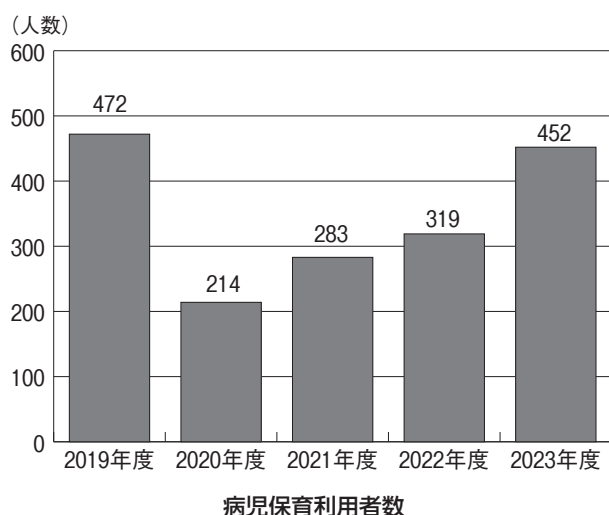
2007年に笠岡市の委託を受け開設された病児保育室～すこやかキッズルーム～も16年目を迎え感染症対応に明け暮れた1年でしたが、幸い院内感染や事故なく運営できました。

病児保育は、病気または病気回復期のため集団生活が困難で保護者が仕事または病気、その他の諸事情により家庭で看護できない保育児、児童をお預かりし保育する施設です。岡山県内在住の生後6ヵ月～小学6年生までの保育園児、学童を対象に小児科宮島裕子医師、保育士3名、小児科看護師、薬剤管理科、栄養管理科、医事課など多くの部署の協力のもとに運営されており、発足以来大きな事故なく保育業務が行えています。

2023年度の利用人数は452名で昨年に比べ約130人増加しました。引き続き新型コロナウイルス感染予防対策を講じた対応が求められ、医師指示により入室前検査として発熱者に新型コロナ抗原検査を施行し保育室内での感染防止に務め、安全な環境で保育を行うことができました。予約時や受け入れ時の聞き取りを重点的に行い保育室の消毒を徹底し環境を整えました。2023年度は、晩夏よりA型インフルエンザ、コロナ感染第8波に始まり、秋は溶連菌感染症、アデノウイル

ス感染症が加わり、初冬よりノロウイルス感染症、B型インフルエンザ、冬にコロナ感染症第9波と様々な感染症が混在するケースも多く保育室入室前の診察時にも感染防止に苦慮する日々が続きました。幸い保育室内での感染発生事例はなく、スタッフも体調管理に留意しながら手洗い、うがい、手指消毒、マスク、フェイスシールドなど基本的な感染対策と担当看護師・医師への頻回の病状報告や病態に応じた診察および指示対応の中でも子ども達と家庭的な雰囲気の中で過ごせるよう努めました。

小児科入院中の子ども達のQOLの向上を目的とした〔心のおやつ：病棟保育〕も9年目を迎えました。入院という非日常的な空間で過ごす子ども達と保護者は、多くの不安やストレスが生じます。少しでもリラックスできる場を提供できるよう病状回復時期に保育士が病室へ訪問し遊びを提供しています。パズルや絵本、カードゲーム、折り紙、お絵描きなど、個々の年齢や興味、発達に合わせた遊びを取り入れベッド上でも安静に楽しんでもらえるよう工夫しています。今後ともスタッフ一同、日々研鑽し、子どもや保護者に寄り添ったサポートができるよう頑張りたいと思います。



【健康管理センター】

副科長 田口 浩子

健康管理センターでは、人間ドックや各種健診、特定保健指導を実施しています。

特定保健指導では、保健師がプランを立て、管理栄養士による栄養指導や健康運動指導士による運動支援を受けられます。2023年度は動機づけ支援10名、積極的支援2名で徐々に利用者が増えてきています。管理栄養士や健康増進クラブ ONE と連携を取り、利用者の方に専門的な指導の提供が行えるようより一層努めていきたいと考えています。

2023年度は、4,157名の方に当センターを利用して頂きました（図1）。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけ変更に伴い中止をしていた検査を

全て再開し、受診者の方に充実した検査を提供出来ました。また、上部消化管内視鏡検査が週4日から週5日に増え、臨床検査科からの応援態勢が始まり腹部超音波検査の受入れ人数を拡大させることが出来ました。受診者の方にとっては日程の選択肢が広がったと考えております（図2）。全身MR検診・痛くない乳がん検診は遠方からも継続受診をされる方もおり、がん検診の1つとして定着してきました（図3）。

今後とも社会情勢やニーズに対応しながら、受診者の方にとって有益な健診となるよう引き続き努めていきたいと思っています。

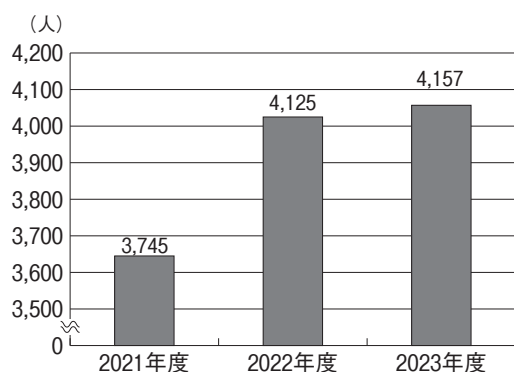


図1 総受診者数

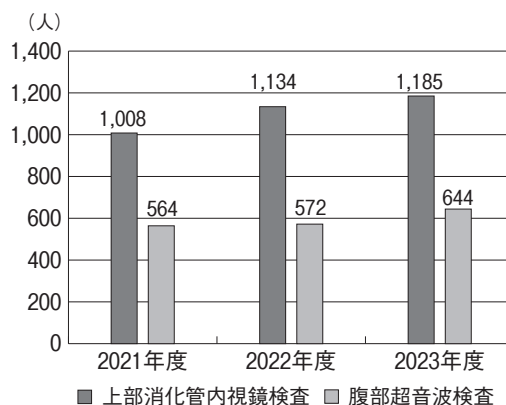


図2 検査件数

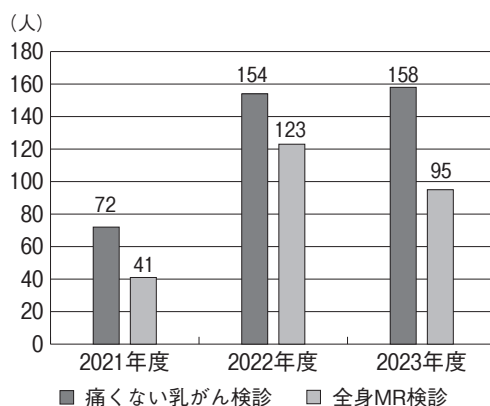


図3 MR検診件数

【タカヤ クリニック】

所長 和田 佳久

2023年度は、常勤医師1名と、非常勤医師として川崎医科大学附属病院腎臓・高血圧内科から藤本荘八医師、頼 聖凱医師、立川理絵医師、高須将伸医師が診療支援に来ていただき、透析診療を行っております。

バスキュラー・アクセスの管理には定期的なエコー検査で評価を行い、シャント機能低下時には笠岡第一病院、重井医学研究所附属病院、川崎医科大学附属病院、倉敷中央病院、福山市民病院、福山循環器病院へ加療についてご相談させていただいております。また笠岡第一病院とは、循環器内科 浦川茂美医師、血管外科 松前 大医師と毎週金曜日にシャントカンファレンスを行い、シャントPTA および血行再建など治療方針について相談しています。

2023年度は、総患者数が85名、転入が11名、転出が

8名であり、3名の増加となっております。転入者数は増加しており、地域におけるニーズは依然大きい事が分かります。平均年齢は70.04歳と2022年の全国平均である69.78歳と同様の結果であり、依然高齢者の方が多く、今後とも血液透析治療だけではなく併存疾患のリスクマネジメントが重要と考えられます。

最後に、2022年度から所長に和田佳久が着任していましたが、2年間の任期を終え退任します。至らぬ点が多々あったとは存じますが、皆様のおかげで無事退任を迎えることができました。この場を借りて感謝申し上げます。2024年度からは以前と同じように非常勤医師としてタカヤ クリニックに来院しますので、どうか今後とも宜しく願い申し上げます。

総患者数：85名（2024年 3 月18日時点）

平均年齢：70.04歳	
月水金クール	44名
火木土クール	41名

男女比（2024年 3 月18日時点）

	男性	女性
患者数	49名	36名
男女比	1.4	1
平均年齢	70.1歳	70.0歳

転入（2024年 3 月18日時点）

転入元内訳	
笠岡第一病院	5名
川崎医科大学附属病院	3名
倉敷中央病院	1名
中国中央病院	1名
福山市民病院	1名

転出（2024年 3 月18日時点）

転出内容内訳（8名）	
死亡	5名
転医	3名
死亡原因内訳	
心不全	2名
急性心筋梗塞	1名
敗血症	1名
誤嚥性肺炎	1名

【瀬戸ライフサポートセンター】

宮島 厚介

コロナ禍、入所・通所の利用者の方からコロナ感染者は時に見受けられる程度に減少していきました。幸い厳密な対応でクラスター発生になる事もなく切り抜けました。病院感染症対策チームとの連携の賜物と思っています。病院では高齢者の肺炎（主に誤嚥性肺炎）症例が頻回に救急搬送されています。老人施設からの入院例は退院再入所になりますが、身体機能がますます

低下した病後高齢者の収容施設が井笠地域では不足しています。医療依存度の高い要介護者の受け入れにサポートセンターの施設が協力しました。病院からも頼りになるセンターでした。今後も進む高齢化社会において、医療・介護の連携はますます重要な機能です。IOT を駆使して地域へサポートしていきます。



5階	イベントホール	屋上リハビリ広場
4階	瀬戸内荘ショートステイ【16床：併設型・従来型個室】 特別養護老人ホーム 瀬戸内荘【30床：多床室（4床室×5、2床室×3）・従来型個室4】 ユニット型地域密着型特別養護老人ホーム 海 【20床：ユニット型個室】	
3階	介護老人保健施設 瀬戸いこい苑【70床：多床室（4床室×13）、従来型個室18】	
2階	瀬戸内荘 デイサービスセンター 瀬戸内荘 居宅介護支援事業所 ケアマネサロン	瀬戸いこい苑 通所リハビリテーションセンター 訪問看護ステーション 瀬戸いこい苑 笠岡第一病院いこい指定居宅介護支援事業所
1階	給食センター 職員食堂 ベッド・マットコントロールセンター 図書室・研修室	

瀬戸ライフサポートセンター図面

1 瀬戸いこい苑

入所介護科

副施設長 矢木 晋
看護師長 神原 玲子
介護科長 青木 周子

介護老人保健施設瀬戸いこい苑は、笠岡第一病院、特別養護老人ホーム瀬戸内荘と共に地域包括ケアシステムの中心的役割を担っています。

2023年度のスタッフは、経験ある介護士2名・看護師1名の入職があり、医師3名、看護師13名、介護福祉士19名、理学療法士1名、作業療法士1名、言語聴覚士1名、管理栄養士1.5名、薬剤師1名、介護支援専門員1名、支援相談員1名、事務員1名の多職種で構成しています。

2023年度の平均介護度3.70（昨年度3.66）、在宅復帰率は34.2%（昨年度40.4%）、ベッド稼働率は90.9%（昨年度91.2%）でした。ショート利用者が入院を期に入所となったり、コロナ感染拡大期はショートの受け入れを一時的に中止した等の影響が稼働率低下に繋がりました。

所定疾患

副施設長を中心に病院併設の特徴を活かし、循環器内科・整形外科・泌尿器科・糖尿病・内分泌内科等の専門診療科を定期的に受診し健康管理・維持に努めています。所定疾患算定数は70件（昨年57件）で、12.2%増となりました。誤嚥性肺炎・尿路感染症・うっ血性心不全等を繰り返すなど年々治療に時間を要しています。2023年度は総胆管結石で緊急手術を行う症例が3件ありました。またこれら以外にも、急性心筋梗塞・吐血・腸閉塞・転倒による骨折等で関連病院へ31名が入院しました。身体機能の低下、合併症等で年々健康を維持していく難しさを感じています。

看取り看護体制

2023年度は機能低下で食事摂取困難、癌ターミナル期等で酸素吸入・輸液管理・喀痰吸引等、定時的に観察が必要な方が常に5～6名いました。2023年度の看取り看護では17名（昨年度19名）の方をお見送りしました。統計では4月、10月と季節の変わり目に多く亡くなられました。

近年、在宅医療緩和ケア ACP（Advance Care Planning）の考え方が注目されており、利用者の意志を十分に確認出来ないまま、家族の思いに寄りそう形で看取り看護を行っていましたが、研修会に参加することで、利用者の思いを知ることが重要と感じました。

2024年度は人生の最期にどうありたいかを話し合うきっかけ作りになる言葉が書いてある「人生カード」を用いて、普段の生活の中で構えずにゲーム感覚で利

用者の思いを確認する機会を作りたいと考えています。このゲームを経て、利用者・家族の思いに寄り添い、最期の時間を後悔する事なく過ごして頂きたいと考えます。

LIFE (Long-term care Information system For Evidence)

2021年8月より LIFE を導入して2年が経過しました。当初はデータ入力に時間を要していましたが、徐々に理解し、短時間でスムーズにデータ入力が行えるようになりました。事業所別フィードバックでは、全国と比較すると瀬戸いこい苑の介護度・医療依存度共に高い事が示されており、在宅復帰支援が難しい事を示しています。また、病院併設の施設の強みとして栄養管理・口腔衛生・褥瘡対策では対応が早く、悪化する事なく経過されている事が示されていました。フィードバックの内容を読み解き、瀬戸いこい苑の評価・分析をすることで、強みと弱みが表面化し、今後の業務改善にとっても重要と理解し、私たちが出来ていない部分を強化していく必要があると感じました。

介護報酬改定

2024年4月介護報酬改定があり、改定率は1.59%増と言われています。その概要は人口構造や社会経済状況の変化を踏まえ、大きく4項目上げられています。

1. 「地域包括ケアシステムの深化・推進」
2. 「自立支援・重度化防止に向けた対応」
3. 「良質な介護サービスの効率的な提供に向けた働きやすい職場作り」
4. 「制度の安定性・持続可能性の確保」

多職種連携の視点から、リハビリテーション・個別機能訓練、口腔管理、栄養管理に係る一体的計画書の見直しが行われます。また、介護の質の向上の観点から、排せつ支援加算、褥瘡マネジメント加算が見直しされ、自立支援に向けた取組が追加されました。私達の日々の看護・介護ケアを見直し、利用者一人ひとりの自立に向けた取組を多職種で意見交換を行い、介護の質を高めることが求められています。瀬戸いこい苑では、病院併設にて他職種連携が図りやすい環境にあります。上項目で述べた LIFE のフィードバックを参考に、円滑な連携を図り、自立支援に取組を行っていく予定です。

また、介護ロボットや ICT 等テクノロジーの活用、業務の効率化、生産性の向上・働きやすい環境作りで

は、利用者の安全、介護サービスの質の確保、職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会を設置することが義務付けられました。瀬戸いこい苑では以前より見守りセンサーや情報共有のためのインカム、腰痛対策に移乗用リフトを導入しており、利用者や職員に安全・安心なケアが提供出来る、働きやすい環境が整っています。今後は、負担軽減を検討し働きやすい職場を作る為の委員会を設け、更に安全で安心なサービスを提供できるように業務改善を行っていく予定です。

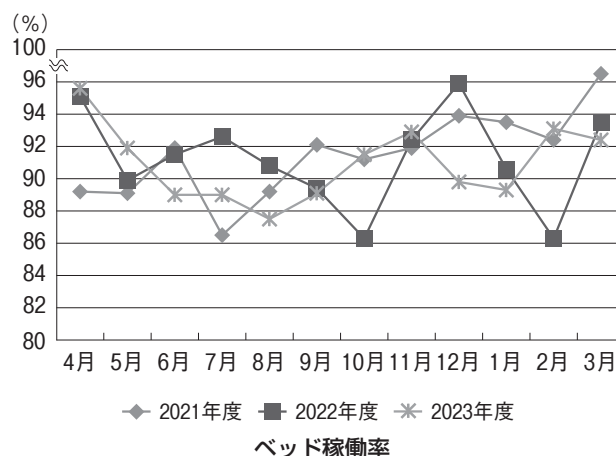
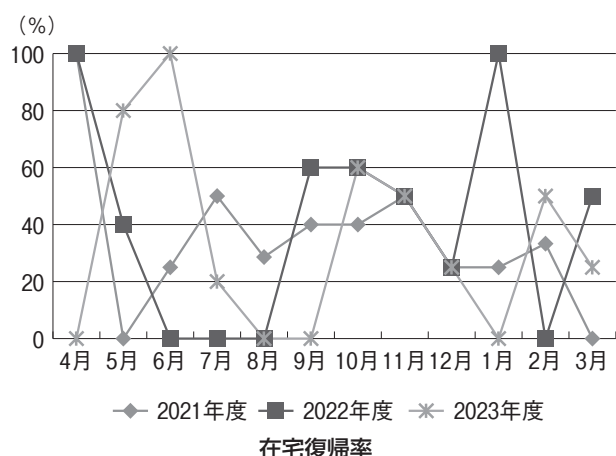
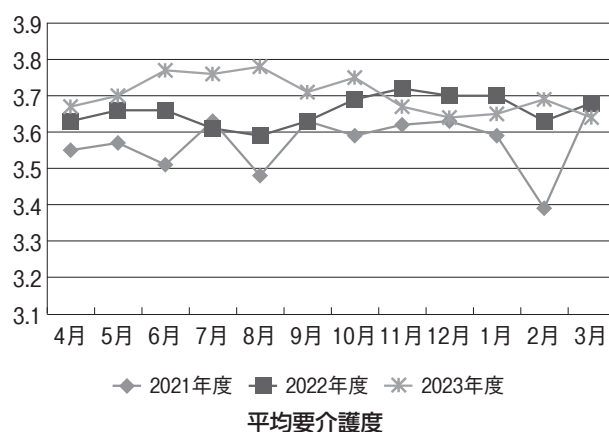
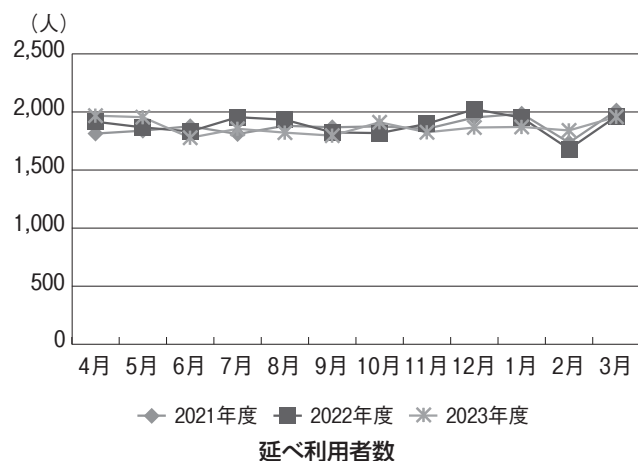
最後に高齢者虐待防止に向けた施策の充実、取組の強化が求められています。利用者の人権擁護、虐待防止を推進し、虐待発生時の対応、再発を防止するための措置を講じ、施設におけるストレス対策を含むハラスメント等のストレス対策に関する研修の実施や、相談窓口についての周知を図ることが重要とされています。今後も研修会を通して感情のコントロール、医療

従事者としての規律ある行動、ストレスの軽減等を学び、高齢者虐待防止に努めていく予定です。

まとめ

高齢化社会の中で介護者不在、介護力低下により在宅生活が難しく、施設での生活を余儀なくされる状況が増えています。

入院後在宅復帰を目指しリハビリ目的で、瀬戸いこい苑に入所されますが、家族背景や住宅環境の問題や介護者の身体的理由で在宅復帰できず、在所日数が増加しています。本来の介護老人保健施設の役割、機能が果たせない状況です。多くの課題のなかで、地域の地域包括ケアシステムの中で地域に密着し根ざした施設、地域の皆様に期待され貢献できる施設創りを目指し、多職種協働して今後も取り組んでいきたいと考えます。



通所リハビリテーション

リーダー 藤澤 恭子

通所リハビリテーションは、瀬戸ライフサポートセンター 2階にあり、開放的なフロアで海の見える景色の良い恵まれた環境でサービス提供させていただいています。介護保険のサービスですが医療系のサービスに分類され、医師の指示のもと在宅における自立支援を目的に、病状安定期においてリハビリを中心とした日帰りサービスを行っています。主なサービスは送迎・リハビリ訓練・入浴・食事等です。利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送ることが出来るよう、リハビリにより心身機能の維持・回復を図っています。

理学療法士1名・看護師1名・介護福祉士5名（パート1名）で構成されています。

2023年度は、23名の新規利用者を受入れ、終了者は17名でした。前年度と比較し、新規利用者数が増えました。また、積極的に重度の要介護者を受け入れ、介護3～5の利用者が年度末には48.3%と例年よりも割合が高く、平均介護度は「2.4」でした（図）。52歳～95歳までの幅広い年齢の方が利用され、脳疾患の利用者が1番多いですが、若年層ではALSや脊髄小脳変性症など、難病疾患に指定されている利用者もおられ、例年に増して50代・60代の利用者が増えています。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実人数	50	46	45	48	49	53	52	56	57	57	59	59
稼働日数	20	20	22	20	22	20	21	20	21	19	19	20
総数	326	317	347	344	394	367	382	389	397	372	397	432
要支援1	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1
要支援2	1	1	1	1	2	2	3	3	3	2	2	2
介護度	2.34	2.4	2.34	2.34	2.38	2.41	2.34	2.32	2.32	2.36	2.45	2.5
要介護1	9	8	9	11	10	11	11	12	12	12	12	11
要介護2	21	18	17	17	17	18	17	19	19	19	18	18
要介護3	11	11	11	10	11	11	12	13	15	16	17	17
要介護4	4	4	3	5	5	7	6	6	7	6	7	8
要介護5	2	2	2	2	2	2	1	1	0	1	2	2
申請中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	47	43	42	45	45	49	47	51	53	54	56	56
問い合わせ	2	2	3	2	3	3	2	6	2	2	0	5
新規	1	0	2	3	1	3	2	3	3	2	2	1
入院(入所)	7	6	7	6	3	4	4	5	5	2	2	1
再開	1	1	0	1	1	1	1	1	1	2	0	1
回数増減	1	1	1	1	1	0	1	0	1	2	0	0
終了	2	3	3	1	0	2	1	0	1	3	1	0

図 利用者統計

入浴介助加算Ⅱ算定開始

2023年5月より、入浴介助加算Ⅱの算定を始めました。2023年の介護保険改定時に、入浴介助加算がⅠ（40単位）とⅡ（60単位）の2つにわかれしました。

入浴介助加算Ⅰは、入浴中の利用者の観察を含む介助を行う場合に算定でき、入浴介助加算Ⅱは、利用者が居宅において、自身または家族若しくは居宅で入浴介助を行う事が想定される訪問介護等の介助によって入浴が出来るようになる事を目的に援助を行い、入浴計画に基づき、個浴その他の利用者の居宅の状況に近い環境にて入浴介助を行うと算定できます。

当通所リハビリテーションでは、ミスト入浴装置を導入しています。機械浴であるため、居宅に近い環境にて入浴援助ができないと思い、改定後も入浴介助加算Ⅰを算定していました。しかし機械浴であっても、自立して入浴することができるように必要な設備を備える、多職種で連携し、個別の入浴計画を作成、定期的に評価をし、細かく記録に残す、入浴介助用の椅子や手すりを設置するなど、居宅で想定できる福祉用具を活用し、自宅の浴室に環境に近い状況で援助を行う事で入浴介助加算Ⅱが算定できるとわかり、算定する事としました。

算定開始より、入浴に関わる一連の動作を自分で出来るようになる為にはどうアプローチしていけばいいのか、介護度が高く介助量の多い利用者に対しても、安全安楽に入浴介助を行う為にはどのようにすればいいのかなど多職種で話し合い、職員自身からもたくさんの意見や助言を出せるようになりました。また、利用者自身も、自分で出来る事が喜びに変わり、自宅でも入浴出来る様になった方もおられました。家族に対しても、自宅で入浴介助をされている方もおり、入浴用の椅子や道具など提案する事もできました。

前年度より、入浴介助の回数は3,209回から2,728回と481回減りましたが、入浴介助加算Ⅱを算定する事で、31,540円の増収にもつなげる事ができました。今後も、自立支援に向け取り組んでいきたいと考えています。

認知症短期集中リハビリテーション実施加算算定開始

瀬戸いこい苑の副施設長である、矢木医師が「認知症短期集中リハビリテーション研修」を終了した事により、2023年11月より認知症短期集中リハビリテーション実施加算が算定可能となりました。利用開始から3ヵ月間、週2回の利用が可能で、認知症の中核症状（記憶障害）の改善や周辺症状（徘徊、興奮、せん妄）などの改善に有効と言われています。

リハビリプログラムに、運動療法・学習療法・回想法・現実見当識訓練・日常生活動作訓練などを組み、アプローチしていきます。現段階で、対象者が1名しかおらず、その方のみの実施ではありますが、退院後より認知症に特化したリハビリを実施する事により、認知機能の改善がありました。身の回りの事など、自分で行えるようになり、在宅での日常生活が安定したように思います。来年度も、積極的に認知症短期集中リハビリテーションに取り組んでいき、症例を増やしていきたいと考えています。

最後に、今年度も職員・利用者ともに数名のコロナウイルスの罹患者は出てしまいましたが、感染予防を心掛けたことで、事業所内でのクラスター発生はなく、例年通りの運営ができたことに感謝します。

来年度は、介護報酬改定により通所リハビリテーションの概念の変化や新たな加算の新設がなされています。今後も他職種、他事業所との連携を図り利用者、家族が安心してサービスを利用できるよう体制作りに励んでいきます。その人らしい暮らしの再構築と支援に携われるように努め、また、地域住民からも信頼される立場として地域にも貢献できる通所リハビリテーションを提供していき、質の高い事業所を目指し励んでいきたいと考えています。

2 在宅療養支援センター

居宅介護支援事業所

科長 新居 美早

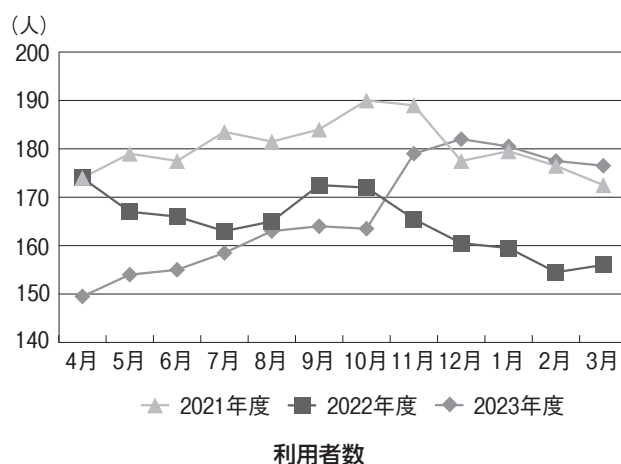
居宅介護支援事業所では、6名の介護支援専門員（基礎資格：准看護師1名、社会福祉士2名、介護福祉士3名）がケアマネジメント業務を行っています。内4名が主任介護支援専門員です。中重度や支援困難ケースへの積極的対応や、専門性の高い人材の確保、質の高いケアマネジメントを実施していることが評価される、特定事業所加算Ⅱも引き続き算定しています。

2023年度は160件を超える新規相談がありました。可能な限り担当させていただき、要介護者が居宅において、その能力に応じ自立した日常生活を送ることが

できるよう支援を行っています。

ケアマネジメントにおいては、病院や行政等の関係機関、サービス事業所、地域の方々等との連携は欠かせません。法人内外の多職種との事例検討会や研修会にも積極的に参加することにより個人・事業所のスキルアップとともに、連携体制の強化に努めています。

今後も利用者や家族に専門性を持って寄り添い、望む暮らしの実現に向けて支援できる事業所でありたいと思います。



訪問看護ステーション

副科長 田中 麻美

2023年5月より管理者交代となり新体制となりました。短い移行と教育期間での交代となりましたが、事業所運営状況の把握と業務改善に取り組んでまいりました。昨年度は看護師6名（常勤4名、非常勤2名）から、2023年度は看護師3名（常勤3名）となり慢性的な人員不足の中での業務改善となりました。

改善内容としては①人員減少にともない訪問スケジュール調整を図りました。利用者宅への移動時間短縮を目指し、可能な範囲で訪問日時の変更を依頼し調整を行いました。②受け持ち制からチーム制へのシフトチェンジを行いました。長きにわたり受け持ち制で訪問を行い、一貫した関わりを提供できる・安心感を得られやすい・やりがいや達成感が感じられる・得意分野を活かした訪問看護ができるなどのメリットはありますが、同時に重症度の高い利用者が偏る・看護師により提供する看護の質に差が出る・休みが取得しにくい・オンコール時の対応が把握しにくいなどの課題が多く、職員の心理的負担や離職にも繋がりました。そこで、チーム制を取り入れることで、担当者以外の看護師も同行訪問や代行訪問を行いました。主担当以外の利用者からのオンコール対応への不安の軽減を図り、利用者の状態変化に伴う指示変更など情報共有しチーム全体で関わりを持つことができました。また、手順書などの作成や定期的なカンファレンスを設けることでフィードバックを行い、看護の質の向上を目指しました。③他事業所との連携強化を図りました。残念なことに人員減少にともない利用者の訪問が困難となったケースが幾つかありましたが、利用者を他ステーションに移行し、切れ目のない支援協力が行えるよ

う情報提供や同行訪問を行い対応しました。他ステーションとの連携強化を図ることで、重症度の高い利用者への頻回訪問などの依頼は2カ所からのステーションで支援していくことで情報共有を行い協働するよう努めました。

訪問看護では、「介護保険」を適用する場合と「医療保険」を適用する場合がありますが、近年では、がんターミナルや難病など「医療保険」を適用するケースが多くなっています。国では2025年を目途に高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを最期まで継続できるよう、地域包括ケアシステムの構築を目指しています。地域包括ケアシステムの構築に向けて、訪問看護師の役割や期待は更に大きくなっていくと予測されます。訪問看護ステーションの運営には看護師含め、職員の安定的な確保が必須となります。今後は人員確保が大きな課題となる中で、働きやすい職場環境を目指し職員間でのコミュニケーションを図りながら目的意識を持って協力し合えるよう努めていきたいと思っています。

また、厚生労働省が進める在宅医療・介護連携の推進として、「医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域における医療・介護の関係機関が連携して、包括的かつ継続的な在宅医療・介護を提供することが重要」とされています。これにより、より一層、他職種や他事業所間での連携強化が必要となることから、連携ツールを利用しながらコミュニケーションを図り協働していけるよう取り組んでまいりたいと思っています。

【法人事務局】

法人事務局長 赤迫 圭太

法人事務局は男性6名、女性6名の部署です。加えて、クリーンキープ課・売店・レストラン「海萌」も事実上運営しています。

業務内容は以下の通りです。

1. 医療法人社団清和会のガバナンス管理
 - ・法令で定められた国、県、市等への届出・報告
 - ・社員総会、理事会、評議員会等の運営管理
 - ・経営管理
2. 人事・労務関係
 - ・職員の採用、退職外職員の人事労務に関する事項の全て
3. 会計管理
 - ・法人全体の経理処理
 - ・給与処理、福利厚生等の届出等を含む処理
4. 総務管理
 - ・設備に係る営繕業務
 - ・医療機器、医療材料、一般器具物品の購入管理
 - ・社宅・駐車場の管理運営
5. システム関係
 - ・電子カルテ、PC 機器・ソフト面の管理
6. その他
 - ・各種イベントの対応
 - ・廃棄物管理 等

2023年度を通して見ると2022年度に引き続き、4年目となる新型コロナウイルス感染症対策の影響・対応が中心の活動となりました。我が国では2023年5月8日から、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが2類から5類に変更となったものの、依然として続く外来発症者や感染者の入院要請、ワクチン接種、また院内での発生等、法人事務局としてはこれらの業務全般にわたる対応に時間を費やしました。

対外的な面では、令和6年能登半島地震による被災に伴い厚生労働省からの要請を受け、いち早く当院のモバイルクリニックを能登の被災地へ移動させています。また、岡山県医師会からの依頼により、日本医師会災害医療チーム（JMAT）として、当院から2つの医療チームを被災地に派遣しましたので、職員派遣に伴う物資や装備等のサポートを行いました。10月には多数の地域の皆さまにご参加いただき、「池田清明ふるさとギャラリー」お披露目会を開催いたしました。

講演会や記念ピアノコンサート、待合ロビーにて展示作品を前にして池田画伯からのご説明など、貴重な体験とより身近な親しみのある会となりました。

設備面では、手術棟増築計画により2024年11月末の竣工を目指し、関係機関への許認可事務や登記事務を進め、2月に増築工事着工となりました。また、災害時における病院機能の継続や招集職員確保のため、安否確認システムを導入しました。1階発熱外来と2階ラウンジへのパーテーション設置や1階絵画掲示用パネルの設置、病棟掲示板の増設、デジタルサイネージの購入により、院内環境の整備を図りました。物品面では医療精度の向上と業務の効率化を進め、形成外科と泌尿器科に超音波画像診断装置を、放射線科に移動型X線透視診断装置を整備しました。人工透析センターとタカヤ クリニックでは、多用途透析監視装置や多人数用透析液供給装置、透析用水作製装置を更新しました。また、眼科では、眼科部門に特化した電子カルテシステムを導入しました。

設備・物品以外では、清和会の最大イベントである「業務推進発表大会」を昨年度に続き実施し、充実した発表大会となりました。清和会社員総会と職場体験プロジェクトも再開となりました。また、新入職員のメンタル不調やそれに伴う離職を予防する対策の一つとして、初めて新入職員交流会を企画し健康増進クラブ ONE で開催しました。

福利厚生面では、4月から9月にかけて職場単位での新人歓迎会・職場懇親会、11月に清和会大忘年会、11月から2月にかけて国内限定の職員研修旅行などが、アフターコロナの状況を注視しながら復活しています。

続いて経営面ですが、2022年度と比較して、外来患者数で一日あたり17.5人増加、入院稼働率4.7ポイント増加となり、コロナ発症前の2019年度と比較すれば、外来収益・入院収益共に回復傾向となっています。しかし、対前年度医業収益の増加額を、物価上昇による医業費用の増加額が上回っており、医業収益全体では回復にはほど遠い状況です。今後も引続き抑制された状況が予想されますが、安定した経営基盤に立ち地域の中核病院として役目を果たすには、今まで以上の経営努力と効率的な業務運営が必要となります。職員一同が一致協力して頑張っていきたいと思います。

クリーンキープ課

法人事務局 友國 雅也

クリーンキープ課には11名のスタッフが在籍しており病院、施設内の清潔な環境を維持し、患者の皆様の安全と健康を守るために活動をしています。主な役割は患者の皆様、利用者の皆様の使用される病室や居室、共有スペースの日常的な清掃や消毒を行うことです。感染症の予防には特に注意を払い、適切な衛生プロトコルに従い作業を行っております。今年、当院では新たにワックスをかける床洗浄機を導入し、清掃業務をより効率的に行えるようになりました。これにより床面の保護や美観維持が向上し、患者の皆様や利用

者の皆様により快適な環境を提供できるものと期待しております。さらに清掃範囲を従来の病室の一部から全面的な病室の清掃に拡大しました。これにより、より徹底した清潔環境を確保し、感染症の予防に対する取り組みを強化することが可能になったと考えております。今後もクリーンキープ課では専門的な技術や知識の習得に努め、新たな機器を積極的に導入して業務の効率化を図りながら、患者の皆様や利用者の皆様の安全と健康を守るために全力を尽くしてまいります。

売 店

リーダー 原田 佳織

ニューヤマザキデイリーストア笠岡第一病院店は、院内の売店として平日は午前8時30分から午後5時、土日祝日は午前9時30分から午後2時30分まで営業しています。一般的なコンビニ商品はもちろんのこと、病院内の売店という特性を活かして、療養生活に必要な医療介護関連商品、成分調整食品、各種日用品など病院ならではのニーズに沿った豊富な商品ラインナップを取り揃えています。また、公共料金などの支払いやクレジットカード・電子マネー決済、宅配便の取り扱いなど暮らしに役立つ便利な機能とサービスも提供しています。

2023年度は、品揃えと陳列方法を見直し、分かりやすく買いやすい売り場づくりと食品ロス削減に取り組みました。売場を常にチェックし、商品の品出しや前出しを行い、同時に各商品の売れ行きや曜日ごとの診

療科目から発注量を予測するなど品揃えのバランスを考慮した無駄のない適切な在庫管理に努めています。また、商品が探しやすいようにカテゴリ別に配置したり、定期的に商品の補充や環境整備を行いストレスなく買い物を楽しめるよう努めています。

さらに、法人事務局との協力により、「売店おすすめ商品の紹介」を院内へ掲示するなど、季節の新商品や選りすぐりの商品を紹介しています。これらの取り組みが購買意欲につながっていると考えています。

2024年度もコミュニケーションを大切に、適切な発注・在庫管理と品切れ・過剰在庫・廃棄ロスを削減できるように、最適な品揃えで、求められる商品が適時に提供できる仕組み作りを構築し、患者の皆様をはじめ利用者の皆様の利便性向上に貢献していきたいと考えています。

地中海料理 海萌

料理長 大本 務

『地中海料理 海萌（みなも）』の店内の開放的な大きな窓からは、向かい岸の神島の四季折々の景色や船が行き交う瀬戸内海を一望しながら、落ち着いた景色の中で食事を味わっていただくことができます。

地産地消を心がけて化学調味料を使わない素材の力を活かしたり、一般のご利用者だけでなく患者の皆様にも多くご利用いただいていることから、食べやすく工夫を施したりして、皆様の口福（こうふく）につながるよう、よりよい料理を提供できるよう日々努めております。

2023年度、引き続き食材の値上がりが続いています。特に地中海料理に欠かせないオリーブオイルは、産地の不作もあり、格段の値上がりとなり一段と厳しい状況です。開店以来のメニュー価格を変えることなく、さらに創意工夫して続けていきたいと思っています。

コロナウイルス感染症も5類に移行し、面会・お見舞いも緩和され、お陰様でお客様も増えています。さらに多くの方にご利用いただけますようスタッフ一同、力を合わせてお待ち申し上げます。

【メニューの一例】

モーニングセット（400円）

※パンは①クロワッサン②バゲット③トーストから選択



お肉のランチ《ライス 又は パン付》（800円） 「ビーフハンバーグ」



本日のデザート（300円） 「海萌ティラミス」



【健康増進クラブ ONE】

社長 石部 豪

1. 厚生労働大臣認定 運動型健康増進施設の運営

健康増進のための有酸素運動および筋力強化等の補強運動を安全かつ適切に行うことのできる施設です。また、2023年度は次のような取り組みを行いました。

(1) 元気キッズ教室

【8月5日から 毎月第1・3土曜日開催】

小児科外来と提携し、特に運動に対して苦手意識があり消極的になりやすい5歳～10歳の子どもを対象に、楽しく遊びながら体の使い方が身につくような教室としています。また、管理栄養士、小児科看護師による専門的な学びの回も行いました。今後も定期的な開催としていきたいと思えます。



(2) ミニ講話

整形外科医 橋詰博行院長との提携により「のばそう！健康寿命ーコロナ後再出発ー」と題して、幅広いテーマでの講話と運動指導をおこなう会を今年度も開催しました。

最終回ではヘルスアドバイザー ラッセル・デーモン氏の特別講演も頂きました。

ミニ講話スケジュール

日時		テーマ
8 / 3 (木)	午前11時～ 11時40分	運動の効用
8 / 10 (木)		スマートエイジング
8 / 24 (木)		無意識の力と生活習慣
8 / 31 (木)	午前11時～12時	外国人講師とのつどい

(3) 新入職員交流会・ONE 体験会【7月20日開催】

新入職員のメンタルヘルスの不調や、それに伴う離職を予防するための対策の一つとして初めて企画、開催いたしました。運動レクリエーションやリハビリテーション科 臨床心理士・公認心理師の講話で新入職員同士、積極的な対話が行われ、有意義な時間となったと期待しています。「普段は同期の人と話す機会がないのでこういう機会があって良かった。」「部署の中で新人は自分一人なので今日は繋がりができた気がした。」という声も聞かれました。

2. 人間ドック受診者の体力測定・運動指導

健康管理センターでの人間ドックを受けられた方の受診者特典として、体力測定ならびに運動指導の提供を行っています。測定、指導を目的に受診される方もおられ、受診者の運動習慣を考えるきっかけとなるよう今後も継続していきます。

3. 通所型サービスC受託事業

対象の方に身体機能の維持を目的とした、短期間の集中的なプログラムを実施する笠岡市の委託事業です。リハビリテーション科との連携、ご協力を頂き業務委託受けております。

4. 健活企業への特典事業

全国健康保険協会岡山支部が運営する「晴れの国から『健活企業』応援プロジェクト」で「健活企業」宣言をした事業所の健康増進対策をサポートするもので、施設の体験や入会時の割引など特典事業の協力を行っています。

5. 厚生労働科学研究事業

慶應義塾大学スポーツ医学研究センターが実施する「運動施設における運動前アセスメントの運用可能性の調査および運動中の有害事象に関する前向き調査」への参加、協力を行うことで、安全、安心な運動環境の構築に貢献します。

	2023年									2024年				(人)
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
1日平均利用者数	92.4	93.6	94.7	99.4	83.0	91.8	93.6	88.7	84.6	90.5	92.7	94.2	91.6	
月平均利用者数種別内訳														
ひと月会員														
(一般)	211	304	334	264	224	218	264	197	202	189	187	204	233.2	
(70歳以上)	705	607	754	777	692	734	703	695	695	651	659	722	699.5	
回数券会員														
(一般)	130	168	200	202	142	173	204	185	190	174	170	197	177.9	
(70歳以上)	509	589	569	551	564	528	588	538	534	570	636	677	571.1	
(中学生以下)	13	8	9	15	14	12	14	11	15	12	13	18	12.8	
(体験利用10)									8	3	9	4	6.0	
パワープレート														
(パワープレート (5))	72	151	131	159	129	138	96	102	67	66	68	92	105.9	
(パワープレート (10))						19	22	26	35	40	30	41	30.4	
(パワープレート (15))	245	259	313	279	242	237	260	216	211	205	204	215	240.5	
(パワープレート (30))	6	4	2	3	2	2	2	3	4	2	3	2	2.9	
リラクゼーションカプセル	4	2	1	3			3		2	12	8	2	4.1	
パーソナルトレーニング														
(30)	157	144	143	141	143	136	144	153	146	152	141	173	147.8	
(60)		8	5	6	5	6	6	4	6	5	3	8	5.6	
1デイ会員		2						1	1				1.3	
総計	2,052	2,246	2,461	2,484	2,157	2,203	2,340	2,131	2,116	2,081	2,131	2,355	2,229.8	

第 3 章

委員会報告

医療法人社団 清和会 委員会組織図

(2024年 3月31日現在)



1 企画運営委員会

委員長 宮島 厚介

企画運営委員会は委員会組織の中では合同運営委員会の上位にあり、法人全体の方向性を議論しています。2023年度は「医師の働き方」を橋詰院長から提言され議論しました。またコロナ禍での運営状況など事務局

長から毎月報告がなされ、ほぼ経営は安定してきた状況の説明がありました。法人運営の方向性を示していただけるよう議論を重ねます。

2 合同運営委員会

委員長 橋詰 博行

時間外の委員会活動を減らす方針で、当合同運営委員会から率先して毎月第3水曜日午後5時開始を続けております。各科（課）科長・副科長等部署の代表者、各種委員会委員長が集まり、①企画運営委員会の決議事項の伝達、②企画運営委員会への提案、③各種委員会の審議事項及び決議事項の伝達、④各部署間の連携調整、⑤各部署職員からの意見の集約、⑥病院への要望の調整、⑦法人からの事務的な連絡事項の伝達、の7項目が議題の中心です。

2021年度から開始した部署発表も継続して行っています。

合同運営委員会の下、すべての委員会は①機能推進、②医療・看護の質、③医療技術、④総合栄養支援、⑤医療倫理、⑥安全管理、⑦労働安全衛生・その他、の7グループに分けられ活動しています（p.93（委員会組織図）参照）。新規の委員会もこの図に当てはめます。委員会の造設や委員の交代に際して時期を失せず迅速に対応してゆきます。

新しい発表方法も取り入れ、決定事項の伝達と周知徹底に加えて各部署や委員会からの要望を討議できる場所として運営したいと考えています。

3 機能推進

医局診療委員会

医局長 中村 淳一

医療レベルの向上と患者の皆様への医療サービスの改善を目的として開かれる、医師を中心とした委員会です。常勤医全員に加えて法人事務局長、看護部長、診療情報管理室、地域医療連携室のスタッフなども参加した上で、毎月第4水曜日の診療前の午前7時30分から1時間の予定で討議をおこなっています。

また、毎朝、午前8時30分（金曜日のみ8時）から朝カンファレンスを開催しています。その場では当直

帯に入院した患者の主治医の決定、手術予定の患者の術前の検討に加え、重症患者や診断、治療について相談する必要がある症例や死亡患者の症例検討などを毎回、熱心な討議をおこなっています。

これからも、笠岡第一病院としてどのように地域に貢献してゆけるか、医局診療委員会として知恵を絞りつつ活動して参ります。

医師研修管理委員会

委員長 橋詰 博行

2016年に発足した医師研修管理委員会は専攻医・初期研修医の受け入れをスムーズに行い、またステューデントドクターや医学部学生の受け入れ体制の検討も行っています。

当院は臨床研修病院指定施設、日本外科学会外科専門医制度修練施設、日本整形外科学会専門医研修施設、日本泌尿器科学会専門医教育施設、日本リハビリテーション医学会研修施設、日本麻酔科学会麻酔科認定病院、日本リウマチ学会教育施設、日本手外科学会専門医研修施設、日本臨床薬理学会専門医研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設としてその維持に努めています。

岡山大学、川崎医科大学、倉敷中央病院、岡山赤十字病院の4基幹研修施設と連携して内科・小児科・整形外科・泌尿器科・眼科・救急科・リハビリテーション科・総合診療科の8基本領域において基幹施設の定める後期研修・専攻医の研修プログラムに沿って研修医を受け入れています。各科における新専門医プログラムについては表のごとく各科毎に専門研修プログラム作成にかかわっていただいています。

当院で研修医の方々に何が提供できるのかを自問しつつ、今後とも受け入れの体制をしっかりと作ってゆきたいと思います。

表 各科新専門医プログラム研修担当医

基幹研修施設 基本領域	岡山大学病院	川崎医科大学附属病院	倉敷中央病院	岡山赤十字病院	担当医	指導医
内科	岡山大学病院内科 専門医研修プログラム		倉敷中央病院内科 専門研修プログラム	岡山赤十字病院内科 専門研修プログラム	原田 和博	原田 和博
小児科	岡山大学病院小児科 専攻医プログラム	川崎医科大学附属病院 小児科専門 研修プログラム			寺田 喜平 湯本 悠子	寺田 喜平 湯本 悠子
整形外科	岡山大学整形外科 専門研修プログラム				橋詰 博行	橋詰 博行 小坂 義樹
泌尿器科		川崎医科大学附属病院 泌尿器科専門 研修プログラム			古川 洋二	古川 洋二
眼科		川崎医科大学附属病院 眼科専門 研修プログラム Ver.1			渡邊 逸郎	渡邊 逸郎
救急科	岡山大学病院救急科 専門研修プログラム		倉敷中央病院救急科 専門研修プログラム		阿曾沼裕彦	阿曾沼裕彦
リハビリ テーション科	岡山大学病院リハビリ テーション科専門研修 プログラム				橋詰 博行	橋詰 博行

基幹研修施設 基本領域	岡山大学病院	川崎医科大学附属病院	倉敷中央病院	岡山赤十字病院	担当医	指導医
総合診療科	岡山大学病院 総合診療専門医研修 プログラム	川崎医科大学附属病院 総合診療専門研修 プログラム	倉敷中央病院 備中総合診療専門研修 プログラム		橋詰 博行	橋詰 博行 中村 淳一 森元 裕貴

診療録管理運用委員会

委員長 河村 進

診療録管理委員会は各部署（医局、看護部、臨床検査科、リハビリテーション科、薬剤管理科、人工透析センター、栄養管理科、放射線科、診療情報管理室、医事課、医事課クラーク、瀬戸いこい苑、法人事務局）からの委員構成で、月1回開催しています。文書関連では各診療科の説明文書や同意書などの内容更新管理・スキャンによる保存登録管理を、診療録管理については診療情報管理士が中心に医師の診療記録内容の監査を行っており、不備があれば指導と改善を求めています。今後は看護師・その他のメディカルスタッフ

の診療録記載の監査も行う予定です。2023年度の年間の監査数は計80件でした。また診療を行うための根幹となる電子カルテシステムの管理も行っています。システムの不備に対しては迅速な改善を行っています。より使いやすい電子カルテシステムを目指してシステムベンダーとの連絡を密にして運用方法を検討しています。大規模災害で電子カルテシステムと画像システム、薬剤管理システム、検査システムなど医療情報システム全般が使用できなくなったことを想定して、災害時の紙カルテ運用も検討を進めます。

クリティカルパス（クリニカルパス）委員会

委員長 河村 進

クリティカルパス委員会では、各診療科の定型的な入院治療を効率的かつ根拠に基づいた最良の医療を行えるよう診療行程に即したオーダー内容を設定したパスを作成しています。現在運用しているパス数は146で、全体のパス適用率は54.8%でした。パスの適用率の限界は約50%と言われておりますが、それを上回る高い適用率を確保できています。適応数総計は1,447症例でパス適応数が多いのは、1. 手根管症候群（日

帰り）パス167例、2. 細菌性肺炎パス109例、3. 誤嚥性肺炎パス102例でした。委員会では更新された診療ガイドラインに準じた診療行為の内容更新や医師の交代による指示変更などの変更作業を行っています。2024年度も新規パス作成・改定、長期間使用されていないパスの削除作業を継続します。また数年間お休みしていたパス大会を開催し、パス委員のクリニカルパス学会総会での発表・参加を積極的に行う予定です。

診療報酬適正管理委員会

委員長 古川 洋二

本委員会はDPC委員会との同日の毎月第4月曜日に開催しています。メンバーは医師、医事課職員、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、看護師、リハビリテーション科の多職種で構成しています。2023年5月より新型コロナウイルス感染症が5類となり、同時に様々な規制が緩和され、入院・外来患者数およびレセプト総枚数はいずれも徐々に増加しています。査定率は国保、社保ともに0.3%前後で多少のバラツキ

があるものの大きな変動はなく推移しています、査定は処方内容に関するものが多く委員会で再検討を行い、審査内容に疑義がある場合は再審査請求を行っています。今後も医事課との連携を密にして査定率の減少に努めます。2024年度は点数改正が予定されており、迅速な算定が出来るように、コスト意識を持って業務を行っています。

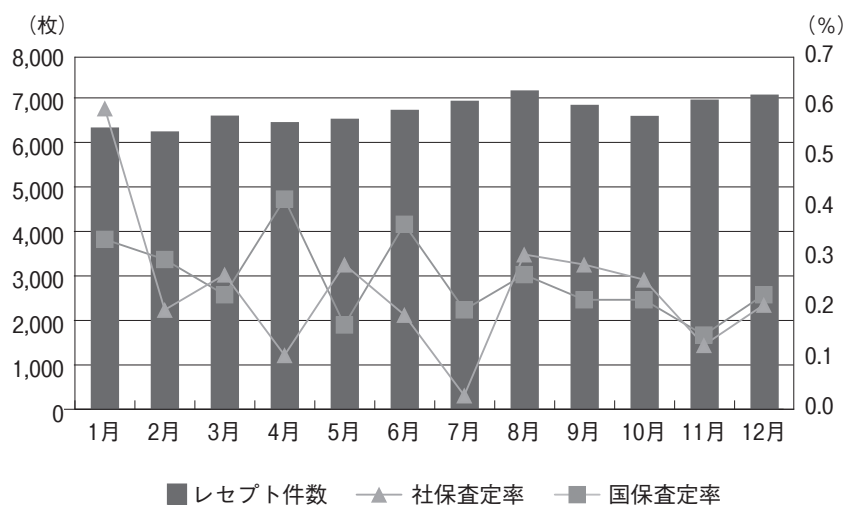


図1 2023年処方箋枚数・査定率

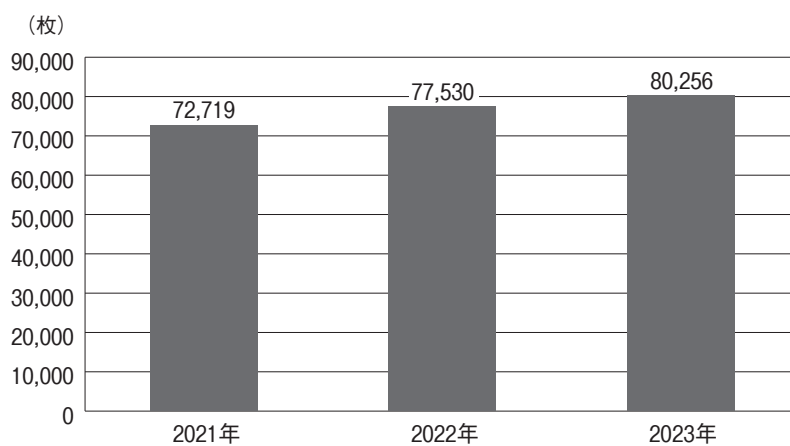


図2 処方箋枚数

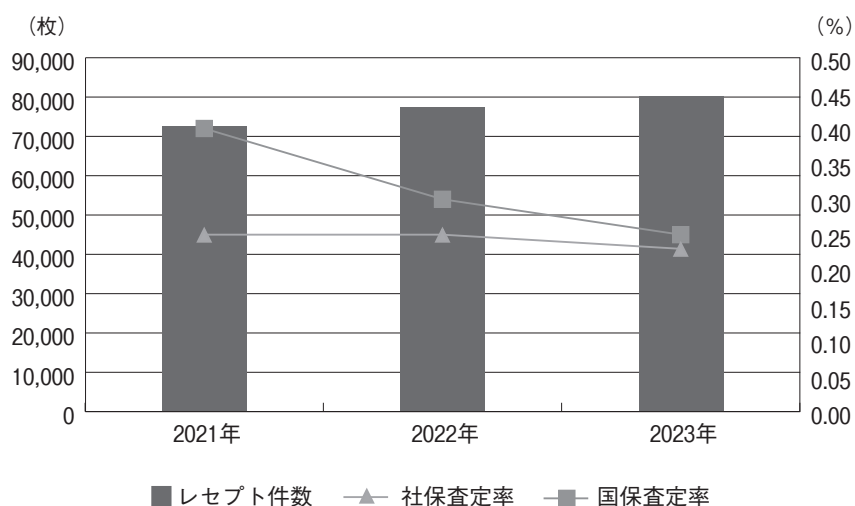


図3 3年間の処方箋枚数と査定率の推移

DPC 委員会

委員長 古川 洋二

当委員会はDPC対象病院の要件である「適切なコーディングに関する委員会の設置」に基づき、奇数月の第4月曜日に開催しています。構成メンバーは医師、薬剤師、医事課、診療情報管理士とし、審議に必要な場合はそれぞれ部署の責任者を交え、活発な討議を行っています。また、月毎の症例検討では、DPC／PDPS傷病名コーディングテキストを用いて適切な診断群分類を決定し、公正な請求に努めています。

医療機関別係数では、DPC標準病院群の基礎係数は

1.0395（2022年度1.0395）、機能評価係数Ⅰは0.1452（2022年度0.1452）、機能評価係数Ⅱは0.0859（2022年度0.0861）で、2022年度より0.0002低い係数となりました。機能評価係数Ⅱでは全国平均と比較し効率性係数が高くなっています。円滑な運営を行うため、入・退院サイクルの改善を目的とした地域包括ケア病棟への転棟基準の作成や情報共有を目的としたパソコン上での見える化の導入など多くの職員が当院の入院状況を把握できるようにしました。

表 厚生労働省提出データ件数の推移

	2021年度	2022年度	2023年度
様式1	3,064	3,453	3,496
Eファイル	319,787	340,043	373,395
Fファイル	781,372	814,277	860,897
Dファイル	152,582	169,676	201,417

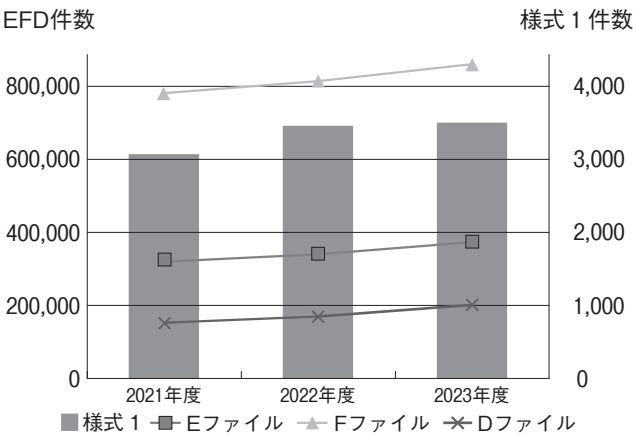


図 厚生労働省提出データ件数の推移

2023年度全国平均比較

項目	2023年度	2023年度 全国平均	全国平均 との差
保険診療係数	0.01762	0.01760	0.00002
効率性係数	0.02356	0.01657	0.00699
複雑性係数	0.01110	0.01907	-0.00797
カバー率係数	0.00464	0.01223	-0.00759
救急医療係数	0.02216	0.01692	0.00524
地域医療係数	0.00684	0.01369	-0.00685
①体制評価係数	0.00481	0.00720	-0.00239
②定量評価係数(小児)	0.00131	0.00307	-0.00176
③定量評価係数(小児以外)	0.00072	0.00343	-0.00271
合計	0.0859	0.0953	-0.0094

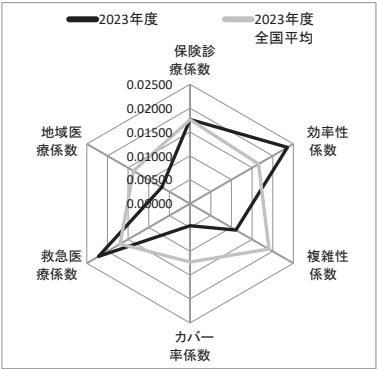


図 機能評価係数Ⅱに関して

薬事委員会

委員長 原田 和博

薬事委員会は、隔月の第2金曜日に開催し、医師、薬剤師、外来・各病棟看護師、臨床検査技師で、新規採用医薬品や採用中止薬情報、医薬品の安全情報や問題点等を話し合っています。

また、生物由来製剤の院内使用状況の検討と適正使用の啓発を行っています。疑問点や不明点は事前に処方医へ確認しており、2023年度も適応に関する問題点、使用による副作用は認められませんでした。

厚生労働省や各製薬会社等からの情報は薬事委員を通じて各部署に伝達し、また各部署からの医薬品に関する問題点等の情報もこの委員会に集結します。

全職員対象の医薬品に関連した研修会の開催は必須ですが、2023年度は10月23日から約1ヵ月間e-ラー

ニングを使って「安全管理が必要な医薬品」についての研修を行いました。ハイリスク薬の存在や注意すべき点について理解できたと思います。

2023年度の新規採用医薬品数は昨年と同じ約40品目、後発品への変更も約10品目行いました。今後も後発品発売の情報を得た時は随時検討していきたいと思っています。医薬品による副作用情報の集約数は20件で昨年より増加しました。特に重篤なものはありませんでしたが、引き続き把握に努めていきたいと思っています。

2023年10月に病院機能評価を受審し、院内でのハイリスク薬の規定、選定の不備、採用薬の多さ等厳しい指摘も受けました。これらを真摯に受け止め、能動的に行動する委員会にしていきたいと思っています。

輸血委員会

委員長 原田 和博

本委員会は医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師を中心に2ヵ月に1回、第2金曜日に薬事委員会と合同で開催しており、輸血の現状報告を中心に議論しています。2023年度の輸血使用数は、照射赤血球液412単位、新鮮凍結血漿は16単位、照射濃厚血小板170単位（2022年度は各々444単位、2単位、70単位）でした。輸血に関連する副作用の報告および不適切と判断される輸

血症例はありませんでした。2023年度は初めての試みとして、全職員対象の輸血勉強会ではe-ラーニングを用いて開催しました。内容は、「輸血時の副作用」「輸血の管理と実施」でした。看護部にとっては基本的な操作の復習となり、また、輸血に関わらない部署にとっては他部署の業務を知る良い機会になりました。

医療連携委員会

委員長 橋詰 博行

医療連携委員会は、医療・介護・福祉のシームレスな連携について一年の計画を立案するため、5月と11月の年2回開催しています。「地域連携診療計画加算」の届出をし、地域連携パスの検討も本委員会で行っております。地域連携パスでは、倉敷中央病院と心不全・心筋梗塞・誤嚥性肺炎の地域連携パスを継続しています。癌パス（大腸癌、胃癌、乳癌、肝癌、肺癌、肺腺癌、前立腺癌）は、「がん治療連携指導料」として届出をし、倉敷中央病院・川崎医科大学附属病院・福山市民病院・福山医療センターと連携しています。在宅

療養支援診療所（礪川内科医院）との連携は、毎月1回患者の情報交換を行い密な連携を継続しています。

2023年度は、新型コロナウイルス感染症が5類へ変更となり、57件の近隣医療機関への挨拶回りを行いました。その際、脳神経外科領域の患者情報提供にコミュニケーションアプリ「Join」のご紹介をさせて頂き、7件の患者相談を行いその内4件が救急搬送に繋がりました。今後は、Joinが病院内や外部との連携のツールとして積極的に活用され、連携強化に繋がることを期待します。

4 医療・看護の質

病床管理運営委員会

委員長 阿曾沼 裕彦

病床管理運営委員会は、病棟・病床の円滑かつ機能的な運営を図るため、毎月審議をしています。

2023年度は、5月8日に新型コロナウイルス感染症が2類から5類へ引き下げられ、アフターコロナへの移行の年となりました。県からの入院要請もなくなり、これまでと大幅に変わることを受け、当委員会では小児科の入院も想定した受け入れ体制を再検討しました。いかなる入院にも対応できるよう、外来・病棟が一丸となって準備しています。

また年間を通して、一般病棟がひっ迫した状態が続き、ベッドコントロールも常に苦慮しています。そこで、特別室の利用基準についても見直しを行いました。昨今、特別室を希望される患者さんは減少しており、また地域包括ケア病棟内にあるため、対象となる疾患も限られています。利用基準を明確に設定すること

で、各師長の権限のもと転棟もスムーズに行うことができ、空き病床を有効に利用し、より効率のよいベッドコントロールを行うことができました。また、急性期での救急患者の受け入れや、地域包括ケア病棟での退院支援など、患者の皆様へよりよい医療の提供に繋がったと考えます。

さらに、慢性化した看護部のマンパワー不足にも対策を講じてきました。各病棟担当医師が、毎日の病棟スタッフ・入院患者の状況を把握し、毎朝のカンファレンスにて病院全体で入院可能病床を情報共有しています。少しでも現場の声を拾い上げ、業務の負担軽減になるよう検討を重ねています。

今後も様々な課題に取り組み、地域の皆様が安心して、よりよい医療が受けられるよう、引き続き活動していきます。

救急委員会

委員長 阿曾沼 裕彦

救急受け入れ依頼は増加していますが、病床の都合でお断りすること多いのが現状です。原因として高齢者が多いことにより、受け入れ先の確保に時間がかかっていることが考えられます。これは全国的な問題だと思います。地域連携を深め、早期離床・早期リハビリを心がけています。

独自の活動として、より良い救急搬送のため互いに自己研鑽できるよう定期的に笠岡地区消防組合と症例検討会を実施し定着してきました。2024年度も継続して行きたいと思います。その他コメディカルBLSを2日間で実施、看護師は急変対応の実践を行いました。

3月には当院にてICLSを開催し沢山のスタッフが受講することが出来ました。新たに臨床工学技士の夜勤体制を構築し症例の振り返りや技術習得を行いレベルアップを目指しています。

2021年4月から3年間勤務していただきました救急科 田邊 綾医師に代わり、岡山大学救急科から萩原万瀧医師が4月より着任します。また2024年度は倉敷中央病院から救急科専攻医1名が当院で3ヵ月研修の予定です。引き続き多くの救急患者を受入れ、地域の救急医療に取り組んでいきたいと思っています。



救急搬送件数年度比較

外来委員会

委員長 今本 奈美江

外来委員会は、医局（整形外科・小児科・循環器内科・歯科）、看護部、薬剤管理科、栄養管理科、臨床検査科、リハビリテーション科、放射線科、法人事務局、地域医療連携室、人工透析センター、医事課、診療アシスタント、健康管理センターのメンバーで構成され、奇数月の第4水曜日に開催しています。さまざまな職種から外来部門全体を見渡し、患者の皆様が安心・安全にご来院いただけるよう検討を重ねています。

5月、新型コロナウイルスが5類に移行することに伴い、感染対策を遵守しながら、流行前の日常的な運用に戻していくよう努め、案内方法や待合の変更、適正な掲示物への貼り替え、消毒等の清掃回数の見直しなどを行い、現在に至ります。感染面では特に問題なく業務が遂行できていると思われます。

10月に病院機能評価受審を控え、当委員会では「来院した患者が円滑に診察を受けることができる」、「外来診療を適切に行っている」という項目が該当しました。初めて当院に来院された患者の皆様が迷ったり、

不安に思うことのないよう、案内図や説明文を再度見直し、職員の意識づけも強化しました。また、外来診療を適切に行うため、採血業務の検体の取扱いや、化学療法時の流れなど細部まで確認し、問題はありませんでした。正しい方法の再確認の機会となりました。幸い、受審時に大きな指摘を受けることはありませんでしたが、待ち時間の調査が特定の診療科でしか行われていなかったことが課題として残りました。2024年度は、どういった方法や間隔で待ち時間調査を行うか話し合い、実行に移していくことにより、待ち時間の短縮に繋げていくことを目標に掲げたいと考えています。

外来部門は、患者の皆様が受付をしてから、診察、精算が済むまでの間、多くの職種の人が関わります。職員一人ひとりが、患者の皆様へ寄り添った対応を行えるよう共通認識を持ち、業務が遂行できるよう努めて参ります。

職員研修委員会

委員長 中尾 留美

職員研修委員会は、

1. 職員の研修計画を立案・推進し、職員の質の向上や一人ひとりの向学心を養い学習環境を整える。
2. 所有する図書の管理を行い、職員の向学心を養い学習環境を整える。

ことに取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症発生より4年目となりました。昨年度までは思うように研修ができない状況でしたが、新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い、概ね院内の集団研修が可能となりました。

1. 職員研修委員会では委員会の目的を果たすべく、年間計画を職員宛に配信し病院職員として必要な研修の実施、診療報酬加算要件に必要な研修の実施を計画的に、自主的に行うよう呼びかけています。それぞれの主催者は研修方法を選択し実施していま

す。コロナ禍に導入したeラーニング教育システムも研修方法の選択肢のひとつとして活用が定着してきています。職員の全体研修は集団研修実施が15件（前年度11件）であり、そのうちeラーニング教育システム活用は6件（前年度3件）と積極的な活動となりました。2023年度は災害関連やACPがトピックスとして職員への働きかけがなされています。自己研鑽としてのeラーニング教育システム活用は図1・2の通りです。今後も学習できる環境を整え職員の自己研鑽、質の向上に努めていきたいと思っています。

2. 24時間使用できる図書室は、職員更衣室に近く利便性も良い静かな環境であり、職員の自己研鑽に欠かせない場所となっています。新規購入39冊、購読雑誌は毎年見直し、各部署の研鑽に役立つ雑誌を目指しています。

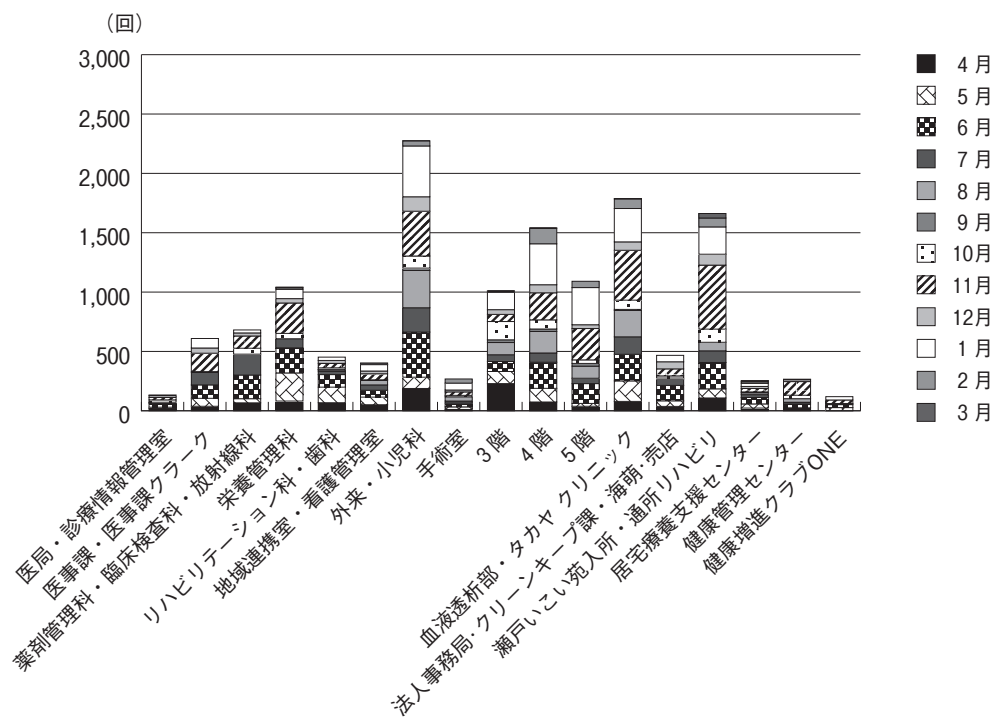


図1 e-ラーニング部署別視聴回数

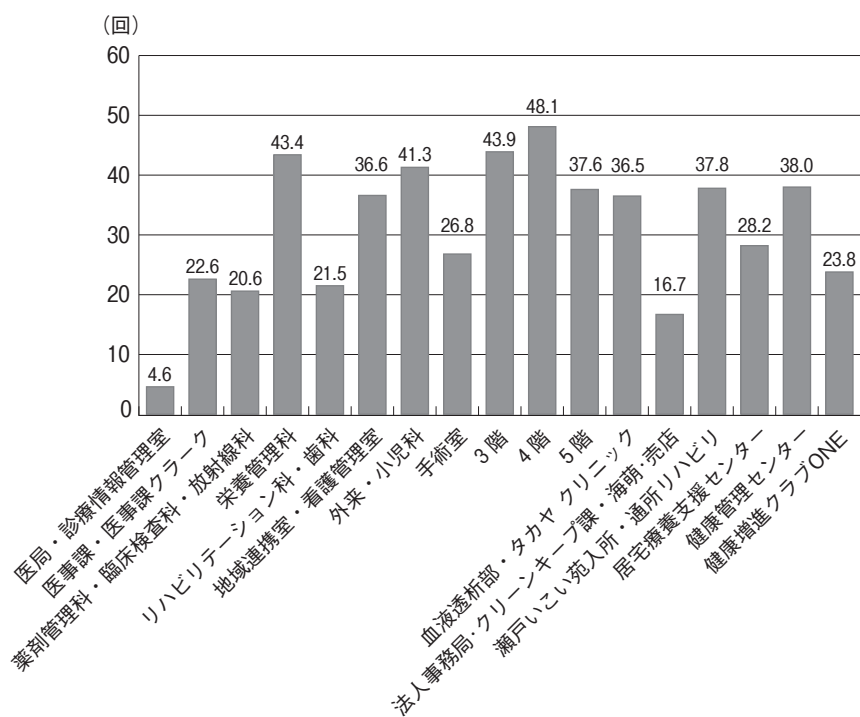


図2 e-ラーニング1人当たり平均視聴回数

サービス向上委員会

委員長 宮島 裕子

1. 広報誌『瀬戸の風』

広報誌「瀬戸の風」は2003年より①地域・患者の皆様方へ「豊かな健康」の理念に基づいた疾病予防・治療の情報提供 ②当院の方向性や院内での出来事、業務状況・実績の報告 ③医療機関との連携の強化 ④職員間のコミュニケーション、自己啓発の4点を主旨に「ためになる・わかりやすい・読みやすい」広報誌を目指し毎回すべてを手作りで年3回発行（発行部数：3,000部）しています。発行2.5ヵ月前に様々な視点から意見を出し合い掲載項目を決定する編集会議を行い、取材班、校正班、編集班の3グループに分かれ作業を開始します。企画から、原稿依頼・取材、レイアウト、原稿チェック・校正と、内容や文字の大きさ、配色など毎回細かく検討し知恵と工夫を織り交ぜた委員会スタッフ手作りの広報誌です。

新型コロナウイルス感染症が3年以上にわたったコロナ時代が一応の終わりを迎え、2023年5月より5類に移行後より徐々に、平時に戻りつつある中、院内行事も少しずつ再開し、明るい話題も多く提供できるようになりました。2023年度から「病院探訪」と題して来院の皆様に安全で心安まる環境を提供したいと職員の知恵と工夫の数々をシリーズとして掲載するなど新たなコーナーも始めました。引き続き当院の広報活動のみならず、地域の皆様への啓発、読者を引きつけ、生活において役に立つ情報をお知らせできるよう特徴ある紙面づくりに努めて参ります。

2. 健やかライフ メンバーズ 健康教室・おうちで健康教室（YouTube 配信）

地域の皆様の健康作りに役立つように2004年より「健やかライフ メンバーズ健康教室」を開催しておりましたが、2020年1月より新型コロナウイルス感染拡大防止のためやむなく中止し、代わりに2020年12月よりYouTubeによる「おうちで健康教室」を開設しました。制限の多い中家庭で過ごされる方の健康増進と気分転換のお役に立てればと定期的に健康情報の動画配信を行って参りました。2023年6月までに43本の動画を作成し、その動画はYouTube配信だけでなく、院内のテレビを利用して内科待合、2階ロビー、健康管理センター、病室、人工透析センター、健康増進クラブ ONE でも配信しています。

健康教室の開催形態は、YouTube配信のメリットも多くありますが、地域の皆様と対面で、実技や質疑応答などお互いに触れ合ってこそ得られるもの多く、感染防止対策を講じながら2023年7月より3年半ぶりとなる対面での健康教室を再開しました。参加された方からも「久しぶりにみんなに会えてとても楽しかった」「再開を心待ちにしていました」など嬉しい声をたくさんいただきました。今後も予防医学・健康に関する知識を広めるため健康教室の開催など、健康に暮らす知識や工夫を地域の皆様とともに考え、健康で生き生きと生活できるよう地域医療をともに守り育てていきたいと願っています。

◆健やかライフ メンバーズ おうちで健康教室（YouTube 配信）

2023年度実績（2020年12月～2023年6月）

No	配信月	テーマ	講師	
29	2023年4月	訪問看護を知っていますか？	訪問看護ステーション	三原由記子
30	2023年5月	高齢者のおしっこ学	泌尿器科	古川 洋二
31-1	2023年6月	慢性腎臓病（CKD：Chronic kidney Disease）をご存知ですか？	タカヤ クリニック	和田 佳久
31-2		慢性腎臓病（CKD）が進行した状態、末期腎不全になってしまったら	タカヤ クリニック	松井 宏子

おうちで健康教室



二次元
バーコード
より視聴
いただけます。

◆健やかライフ メンバーズ健康教室 2023年度実績（2023年7月から再開）

No	開催日	テーマ	講師	参加者
116	2023年7月26日 午後1時30分～2時30分	健康づくりのための運動新常識	健康運動指導士 石部 豪	70
		実践 エクササイズ	健康運動指導士 石部 豪	
117	2023年8月19日 午後1時30分～2時30分	もしかすると睡眠時無呼吸症候群かも？	臨床工学技士 浅尾 昌彦 臨床工学技士 馬場 健人	31
118	2023年9月20日 午後1時30分～2時30分	日本でこれから心配な感染症は？ 世界と比較して遅れているワクチンは何？	予防接種センター・小児科 寺田 喜平	42
119	2023年11月15日 午後1時30分～2時30分	正しく知ろう 糖尿病のコト	糖尿病内分泌内科 浜本 純子	34
		そうだったのか？！ 食生活の見直しと改善のポイント	管理栄養士 笠原萌々華	
120	2023年12月20日 午後1時30分～2時30分	おしりの疾患	外科 藤井 研介	40
121	2024年3月27日 午後1時30分～2時30分	下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術 「大きな静脈瘤も無傷で消えます」	血管外科 松前 大	37

3. がんき通信・健康レシピ作成

患者や来院の皆様向けのパンフレットを随時作成・提供しています。病気の解説、疾病予防のアドバイスや日常生活での注意点、また病気と上手に付き合っていくための工夫や、当院が導入した新しい治療法や医療機器など、疾病や健康増進についてのお役立ち情報を掲載した「がんき通信」および、管理栄養士による健康アップに役立つ食事や特に注目して欲しい栄養素

や素材などをテーマにした季節に合ったレシピ「健康レシピ・健康まめ知識」です。今年度もがんき通信5種類、健康レシピ3種類を追加し、全部でがんき通信64種類、健康レシピ・健康まめ知識54種類となりました。また、健康まめ知識の一つとして、「骨盤底筋体操」の動画も作成し、YouTubeで配信しています。今後も外来部門と協力し種類・内容の充実を図り、患者の皆様へのニーズに沿った情報発信を行って参ります。

◆がんき通信



◆健康まめ知識「骨盤底筋体操」YouTube 配信



4. 「第12回 患者の皆様の声」アンケート実施

定期的に実施している「患者の皆様の声」アンケートを2024年3月に外来患者および健康管理センター、健康増進クラブONE利用者を対象に行いました。このアンケートは患者の皆様の意見を参考に当院の評価、満足度を把握し、問題点の改善や満足度の向上に役立てることを目的に行っています。職員の対応、医師からの説明、診療内容、待ち時間、設備・環境面など幅広い内容で率直な意見の収集に努め、外来患者950名、健康管理センター60名、健康増進クラブONE利用者107名より回答が得られました。

ただいまの原稿作成時点では集計を終えたばかりで、今後分析・検討・改善と進める予定です。詳しくは2024年度に報告させていただきます。どうぞご了承

のほどよろしく申し上げます。

5. 患者サービスについて

サービス向上委員会では定期的に患者サービス全般について検討しています。定例会議では、活発に意見を出し合い、改善できることは各担当部署に検討・実践を依頼して対応するなど医療サービスの質向上を図っています。また、継続的に患者の皆様の声や、職員の気づきを収集できるように「患者サービス」入力用のファイルを活用し迅速な対応に努めています。これからの意見や要望に注意を払い、医療サービスの質改善に向けた対応策の検討、実施など、よりご満足いただける病院を目指して活動して参ります。

看護部運営委員会

看護部運営委員会は、看護の質の向上と看護部の活性化を目的に取り組んでいます。部署での現況の問題点を把握しながら問題解決の協議や日々の看護の振り返り、その問題提起や提案を各部署の責任者が前向きに検討する場となっています。新型コロナウイルス感染症が5月より5類となり、従来向き合うべき課題について取り組むことができるようになったと感じています。

2023年度は、1) 新型コロナウイルス感染症5類移行に伴う部門の体制構築と感染拡大期職員欠員状況下の応援体制、感染予防対策の周知徹底について、2) 患者動向と適正な人員配置、3) 人材育成、4) 他職種協働、5) 日本医療機能評価受審準備についてなどを主な話題とし方向性を図りました。2) の人員配置では昨年度より育児休業取得の看護師が最大11名とな

看護部長 中尾 留美

り、人員には苦慮しましたが、協力し合いなんとか乗り切りました。5) 4年に一度の日本医療機能評価受審は日頃の業務を振り返るよい機会となりました。他の委員会と連携しながら、曖昧な部分を連動するよう丁寧に見直し準備したことは大きな成果です。いざというときには委員会を中心にまとまる現場力を感じました。また、記録のあり方を通し、大切にすべき臨床倫理について学びを深める機会ともなりました。受審後は委員会を中心に管理者研修を行い、反省や課題、役割を意識した関わり方なども振り返りました。責任者がよき手本となれるよう日頃の取り組みの姿勢や周知徹底をはかる大切さを共有することができました。これらの経験を活かし看護の質の向上に励んで参りたいと思います。また、今後も看護部の活性化と成長につなげ結果の出せる委員会を目指して参ります。

5 医療技術

手術室運営委員会

委員長 古川 洋二

当委員会は、より安全な手術の提供と効率的な手術室運用を目的とし、各科・各部署との連携体制の構築、周術期管理の見直しや討議・検討を中心として隔月の第1月曜日に外科系・循環器内科・麻酔科医師、手術室看護師・臨床工学技士に加え外来・病棟看護師を含む総勢20名で開催しています。

2023年度は手術室スタッフの人員不足もあり他部署

からの応援体制を取り入れ、臨床工学技士を含めた全員で協力し安全で精度の高い手術が行えました。2024年末に竣工予定である手術新棟に向けてスムーズな運営が行えるように検討を重ねています。

今後も患者さんの安全を第一に手術に関わるすべてのスタッフで連携・協力し、手術室運営を行っていきたいと思います。

手術件数

(件)

	手術室									外来				血管造影室		
	泌尿器科	外科	血管外科	整形外科	眼科	循環器内科	形成外科	ペインクリニック内科	計	形成外科	整形外科	皮膚科	計	循環器内科	血管外科	計
2019年度	120	82	168	1,207	175	16	1	2	1,771	121	101	1	223	149	85	234
2020年度	71	48	98	1,285	178	11	1	0	1,692	76	24	0	100	100	83	183
2021年度	97	108	84	1,083	192	16	3	1	1,584	90	31	0	121	130	58	188
2022年度	126	99	115	1,217	170	11	163	0	1,901	85	22	0	107	92	36	128
2023年度	131	114	91	1,100	179	8	160	0	1,783	94	0	0	94	112	47	159

医療機器管理委員会

委員長 中村 淳一

医療機器管理委員会は3ヵ月に1度、毎年6月、9月、12月、3月に開催しています。透析機器安全管理委員会も同時に開催しています。

院内の医療機器は一括して臨床工学部が中央管理しています。院内医療機器の点検整備の評価と医療機器の新規購入及び更新時の適性評価を行っています。

使用頻度の高い輸液ポンプ、患者モニター、使用に際し細心の注意の必要な人工呼吸器・除細動器に関しては毎年、看護師向けに講習を実施しています。

医療機器のエンドユーザーは患者さんです。患者さんに安心して治療を受けて貰えるように医療機器を適性に整備していきます。

透析機器安全管理委員会

委員長 原田 和博

本委員会は人工透析業務における透析設備・透析機器に関連した安全管理、及び品質管理を目的とし、医療機器管理委員会と同時開催で運用されています。水処理装置や透析機器の定期点検・メンテナンスを人工透析センター所属の臨床工学技士が実施し、安全な透析治療が行えるよう努めています。

2007年に人工透析センターが移設され16年が経過しました。透析関連装置全般に使用時間が多くなり定期保守点検スケジュールを遵守しています。多用途透析装置は2023年12月に11台更新し血液透析濾過にも対応できる台数が増えました。

超音波診断装置はバスキュラーアクセス（以下VA）の機能評価やVA穿刺困難症例に使用していま

す。2022年末、超音波診断装置の機器更新により操作性やモニター解像度が向上し多くのスタッフがエコー下穿刺を実践しています（しかしながら、手技の熟練度の差も生じているため正確かつ安全な操作やVA感染対策も求められています。）。

透析用水質検査に関しては特定の多用途透析用監視装置から生菌数の基準値を超える箇所がありましたが関連装置間の消毒工程・洗浄剤濃度の調整を実施した結果、基準値内を維持しています。また、透析用水の残留塩素濃度測定を日本透析医学会ガイドラインに沿って、透析施行前に実施して水質保持に努めています。

今後、限られた人員、コストなどを考慮し、機器のシステム、メンテナンス方法も従来の考えを見直して

いく必要があり、操作・管理者も機器操作に関連した医療知識・対応力が要求されます。透析は原則週3回の治療が必須であり安定した治療が求められますが、2023年9月にタカヤクリニックで機器トラブルによって透析開始時間が遅れるトラブルが発生しました。機器トラブルの早期発見、透析遅延を回避するため透析関連装置にトラブルが発生した際に臨床工学技士が迅速な対応を行えるよう登録された端末に警報通知メールが送信されるシステムを導入しました。物価高に

対しても予め機器部品を数年単位で一括購入することで消耗部品などの価格上昇や部品の品薄、在庫切れで計画通り機器点検、部品交換ができない事態を回避できると考えられます。定期交換作業も今まではメーカーに依頼していましたが、今後、臨床工学技士が作業を実施することで作業交換工賃の抑制が可能となります。機器の性能に頼るだけでなく、運用管理を徹底して患者さんに応じた適性で安全な透析治療を提供することにスタッフが連携し取り組んでいます。

タカヤ透析機器安全管理委員会

委員長 原田 和博

本委員会は3ヵ月毎に医療機器管理委員会と透析機器安全管理委員会と同時開催で運用されています。透析機器の安全管理・品質管理を目的としており、人工透析センター所属の臨床工学技士（CE）が透析機器の点検や水質管理を行っています。

機器管理では、警報があればその日の機器担当が全員に院内メールで情報共有を行い、対応が必要な場合はCEが速やかに部品等の交換を行っております。

また、2023年12月には水処理装置と多人数用供給装置の更新を行いました。水処理装置では透析用水を貯めるタンク以降からでないと洗浄が出来ませんでした。今回の装置からはタンクより前の膜から洗浄が出来るようになりました。さらに多人数供給装置や個人用透析装置の枝分かれしている部分の洗浄も可能にな

り、より清浄化された透析液を作製することが出来ます。

多人数供給装置では新たにSI連携というものが可能になり、同じSIシリーズ（多人数供給装置と患者監視装置）を連携することで、消毒用薬液の使用量を約57%削減することが出来ました。今後透析液溶解装置をSIシリーズにすると透析液の使用量も削減することも可能になります。

これを機に水質管理も一部見直して、従来は残留塩素や軟水化の確認を週1回しか行っていませんでしたが、毎日始業前に残留塩素や軟水化を確認し、より清潔で安全な透析治療が提供出来るように努めていきます。

透析委員会

委員長 原田 和博

医師、看護師、臨床工学技士、臨床検査技師、管理栄養士、診療放射線技師、法人事務局、医事課、タカヤクリニックと合同で2ヵ月に1回、委員会を開催しています。透析患者の皆様に安心して治療を受けていただく為、チーム医療を円滑に行い、サービス向上を目的として審議を行っています。

血管の評価・協議を行っています。シャントエコー件数は年間348件でした。

- ② シャントPTA（経皮的血管形成術）に対応しました。シャントPTA件数は年間71件でした。
- ③ 穿刺困難なシャントに対し、エコー下穿刺を行っています。

2023年度の主な審議内容

【行事の企画開催】

- ① 透析について学ぼう会
昨年に引き続きコロナウイルスが流行したことで中止となりました。毎年恒例となりつつある透析について学ぼう会ですが、来年はWEBや院内放送で企画できないか検討しています。

【ブラッドアクセス管理について】

- ① 人工透析センターのベッドサイドで臨床工学技士がエコーを使用し、シャントトラブルの早期発見につとめ、シャントカンファレンスにてシャント

【装置メンテナンス管理について】

- ① 4月20日
水処理装置オーバーホール
- ② 5月9日
溶解装置装置オーバーホール
- ③ 12月9日、12月10日
患者監視装置11台更新
- ④ 2月11日
溶解装置装置オーバーホール
- ⑤ 2月24日、2月25日
水処理装置オーバーホール

【その他】

- ① 隔離用の陰圧 TENT や個室を使用し、コロナ陽性者48名（笠岡第一病院36名、タカヤ クリニック12名）の隔離透析を行いました。
- ② 腹水濾過濃縮再静注法に対応しました。対応件数は1件でした。
- ③ ポケット LDF（レーザー血流計）を運用し、下肢状態の考察に役立てています。測定件数は年間

163件でした。

- ④ Inbody（体組成測定）を運用し DW（ドライウエイト）の考察に役立てています。測定件数は年間71件でした。
- ⑤ 定期採血の結果をもとに管理栄養士による栄養指導を適宜行っています。
- ⑥ 透析導入クリティカルパスと同意書の運用を開始しました。

臨床検査精度管理委員会

委員長 小谷 一敏

この委員会では機器のトラブル回数や耐久年数などの把握を行い新規機器検討と血清、血球、溶液を用いた内部精度管理を行い、現状を把握する事で精度の維持と機器の管理を行っています。また試薬メーカー主催の精度管理、岡山県クロスチェック研究会、岡山県臨床検査技師会、および日本医師会の外部精度管理で正確度を把握し、外部の新しい情報を取り入れながら精度の向上および測定方法の標準化を目指しています。外部精度管理の点数評価では、岡山県医師会・臨

床検査技師会精度管理は、全て○評価でした。日本医師会精度管理が99.0点（昨年98.0点）と昨年に比べて高くなりました。新規機器として多項目自動血球分析装置 XR-2000（シスメックス）を導入し順調に稼働しています。古い機器もあり機器の更新も検討中ですが、内部精度管理、外部精度管理の充実を図り迅速で正確な検査結果を送信できる様、努めて行きたいと思っています。

放射線診療委員会

委員長 笹井 信也

MR 安全管理委員会と医療放射線安全管理委員会の活動により本委員会活動は停止中です。

委員長 宮島 裕子

様にげんき通信「食中毒～加熱・冷却を過信せず～」合わせて入院患者の皆様には「食中毒の予防に関するお願い」を配布し、食中毒予防の啓発を行いました。

病院給食において食物アレルギーの除去食品は厳重に施行しなければなりません。年々対応例が増加傾向にあり、禁忌入力、食事箋入力の徹底、調理の際の除去に細心の注意をしています。今年度は外来看護師委員を中心に入院時の食事指示箋の食物アレルギー項目記載の再検討を行いました。特に入院時外来での食物アレルギー聞き取りについて、申し送り用紙を検討更新し、外来→入院→栄養管理科の連携において主治医・担当スタッフに食物アレルギー関連業務の再確認を徹底しました。引き続き、医師・看護師との連携を深めていきます。

また、他施設の病院給食アレルギー対応の状況について、文献検索など情報収集を行い委員会で検討しました。今後もさらに見直しを図ってまいります。

褥瘡対策委員会

【参加部署】医局、看護部、薬剤管理科、栄養管理科、医事課クラーク、瀬戸いこい苑

当委員会は毎月1回（第3木曜日）に開催し、各部署の褥瘡発生状況、褥瘡有病率、褥瘡推定発生率、耐圧分散寝具の使用状況、院内発生患者の分析を行っています。褥瘡回診も多職種参加でより効果的な褥瘡治療が行えるように症例ごとの検討を行っています。また各職種が持ち回りでテーマを決めて褥瘡関連のミニレクチャーを行うことでより深い知識の共有が行えています。

【対策結果】2023年度の寝たきり患者率は76.0% 褥瘡有病率2.7% 褥瘡院内発生率1.0% 褥瘡新規発生率は0.4%と寝たきり高齢患者さんが多いのですが良い褥瘡管理が行えています。

NST 委員会

NST（Nutrition Support Team）委員会は、2005年に発足した委員会です。医師・歯科医師・管理栄養士・看護師・薬剤師・言語聴覚士・歯科衛生士・医事科職員など、幅広い職種でメンバーを構成しております。

入院患者に対し、病棟看護師が身長・体重・体重減少率の測定と主観的包括的評価（SGA）を行い、管理栄養士が栄養管理計画書を作成しております。これらの情報から、各患者さんの栄養状態をA（問題なし～軽度低下）／B（中等度低下）／C（高度低下）の3ランクに分類し、このうちB・Cランクの患者さん

事故防止強化としてアクシデント発生起点、分析、今後の防止策など委員会でその都度具体的に検討し再発防止に努めています。

外科医師より外来診察での魚骨が喉頭や食道に刺さる症例が多いとの情報をいただき、入院中のみならず家庭生活でも注意喚起を促すポスターを作成して掲示しました。

・病院機能評価受審

病院機能評価受審にあたり、委員会として栄養関連の項目を担当しました。委員が外来、入院部門と揃っていることを活かし、多方面から内容を検討しました。

栄養管理委員会での決定事項やその他の業務上の取り決めを、院内ホームページに最新情報を提供し各部署で確認をお願いしています。

今後もより良い栄養管理が行えるよう栄養管理委員会を中心に検討を重ねたいと思います。

委員長 河村 進

【研修会】

全職員対象の研修会（集合＋動画配信）

『DESIGN-R と症例検討会』

参加者：379名（集合92名、動画視聴379名）

症例を基に多職種で褥瘡評価や発生原因、予防対策の話がありました。

アンケート結果では、約86%が「よく理解できた、まあまあ理解できた」との回答でした。

【物品購入】

・高機能マットレス 5台ラグーナ

ラグーナ（体位変換機能付きマットレス）3台

ビッグセル IS（アイズ）2台

【褥瘡・創傷回診】 毎週木曜日に実施

委員長 森元 裕貴

について、月2回のミーティングでの検討をもとに栄養状態の改善に必要な介入を行っております。病棟で直接食事の様子を観察し効果的な介入策を探る「ミールラウンド」を定期的に行うとともに、主治医・病棟スタッフからの相談にも適宜対応しております。また学会参加や講演会の聴講、新規栄養剤や嚥下補助食品の集団試食、患者さんの栄養評価法の再検討なども行っております。

治療の根幹をなす栄養療法の質を高めるべく、今後もメンバー全員で頑張っていきます。

7 医療倫理

個人情報保護委員会

委員長 橋詰 博行

患者・来院者・職員の個人情報保護のため、取扱い状況の確認及び見直し、取決めづくりまた全体研修会や強化月間活動を通じて職員全員に注意喚起の徹底に努めています。

2023年度は、以下の活動を行いました。

【主な活動内容及び今後の対応】

- 1) 研究、学会等外部での発表用資料作成のための持ち出しに対する適正運用管理の許可実績（7件）
- 2) 個人情報を含む書類等の適切な廃棄処理：年2回合計2,100kg。
- 3) 日本医療機能評価受審に際して、関係マニュアル及び取扱内容見直し、院内掲示物状況の確認および妥当性の検討をしました。
- 4) 全体研修実施：12月～1月「SNSの危ない使い方

～こんな投稿していませんか」をテーマとして全職員がe-ラーニングを利用した動画視聴により、日常業務及び生活に即した内容を研修しました。個人情報保護の重要性を認識し更なる危機意識を促し徹底を図りました。

5) 個人情報保護に対する今後の対策と方向性

- ① 職員に対する教育、研修の継続的实施により職員全員に個人情報保護の意識改革を浸透させていただきます。（動画を使用した全体研修を計画）
- ② 個人情報保護の厳重な対応、取扱いを着実に実施すべく、現場に即した取扱ルールを見直しながら策定します。
- ③ 常に個人情報保護に関する新しい情報収集に努めていきます。

診療情報提供委員会

委員長 橋詰 博行

個人情報保護法の発令以来、診療情報の提供は病院としての重要な事項です。「笠岡第一病院における診療情報の提供等に関する指針」に基づき、患者の皆様の大変な財産（データ）を善管義務によりお預かりしているとの基本的な考えで診療情報の開示を希望される方々にスムーズに情報提供を行っています。

過去5年間の年度別提供件数の推移を図1に示します。すべて診療情報の写しの交付希望でした。2023年

度の提供先は図2に示すように保険会社が17件(33%)と最も多くなっています。

個人情報保護と自己情報を管理する権利を重視し、患者および家族の皆様等の求めに応じて、今後とも診療情報を管理・提供も行います。それらの情報交換を通じて診療内容を十分理解され、協働して疾病を克服するためのより良い信頼関係を構築していきたいと思

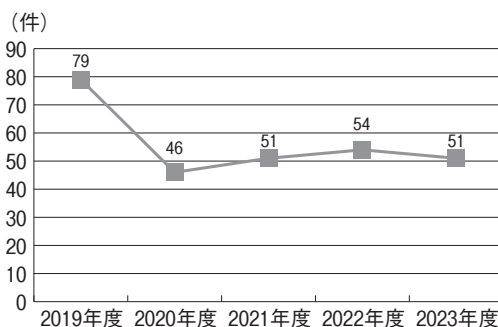


図1 診療情報開示の推移

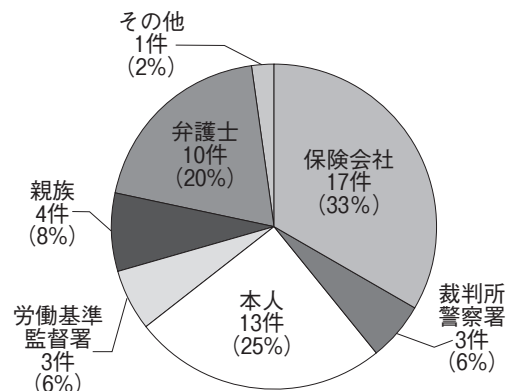


図2 2023年度 提供先内訳

倫理委員会

委員長 藤井 研介

2023年度における倫理委員会の活動を報告します。
当委員会は、ヘルシンキ宣言に基づく、ヒトを対象とした医学研究の倫理的審査を行い、個人情報の管理を含め、すべてのプロジェクトにおいて問題がないことを確認しました（下記審査7件：医師より3件、看護

部より2件、臨床工学部より2件）。さらに、昨年度から開始した「臨床研究に関するオプトアウト（情報公開）」の取り組みも継続し、当院のホームページ上で情報を提供しています。

表 2023年度 倫理審査結果一覧

受付番号	課 題 名	申 請 者		判定		承認日
229	ポケットLDFと超音波診断装置のシャント血流量の関係性	人工透析センター	小田 裕基	訂正後に承認	第157回	2023年10月12日
230	一般外来でのJTASを用いた院内トリアージの検証～当院独自の基準シートの作成に向けて～	外来	小見山ひと実	承認	第158回	2023年9月8日
231	A病院人工透析センタースタッフの防災意識調査ー防災マニュアル・災害時アクションカードの再考ー	人工透析センター	三國三寿恵	審査不要で承認	第159回	2023年9月1日
232	経口セマグリチドの有用性（効果と副作用）に関する研究	内科	原田 和博	承認	第160回	2023年11月17日
233	A病棟における急変対応の実態調査に関する研究～急変事例を用いての現状把握～	5階病棟	藤井 和恵	承認	第161回	2023年11月21日
234	上肢の腱滑膜複合体症候群に対するジクトル®テープの臨床成績	整形外科	橋詰 博行	承認	第162回	2024年2月26日
235	手関節背側ガングリオンによる橈骨神経深枝絞扼性神経障害の治療成績	整形外科	橋詰 博行	承認	第163回	2024年3月13日

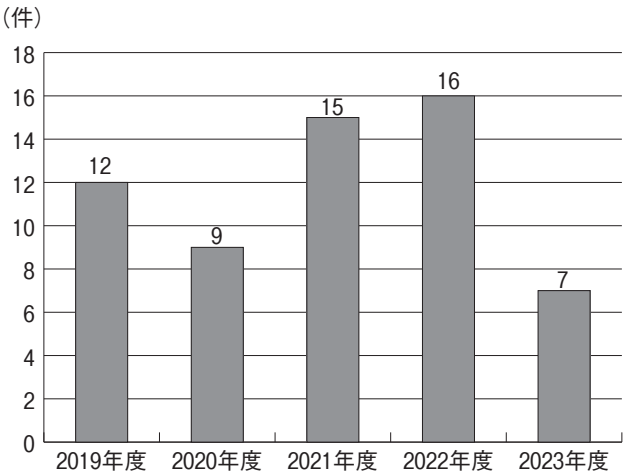


図 審査件数推移

我々は、医療・ケアチームと共に、臨時倫理委員会を開催することも重要な活動の一つと捉えています。この臨時委員会は、臨床現場だけでは解決しきれない諸問題、例えば「意思決定が困難な場合の治療方針」「DNAR」や「輸血拒否」に関わる課題への対応を目的としています。そのなかで今年度は、輸血拒否に関するマニュアル作成など、具体的な成果も挙げる事ができました。

倫理コンサルテーションについては、入院患者さんのケースでは、多職種からの情報提供により倫理的課

題を整理しやすく、課題が明確になりやすいことが特徴です。しかし、外来患者、特に小児科を含むケースでは、プライバシーへの配慮や、時間的制約の中で課題が見えにくいこともあります。

委員会としての目標は、院内で発生するあらゆる倫理的課題に対し、積極的に関わり、支援を拡げていくことです。倫理委員会は、医学研究のみならず、日常の医療においても、患者家族と医療提供者の双方にとって最適な倫理的判断が下されるようサポートを続けて参ります。

治験審査委員会

委員長 松前 大

この委員会は、医師、薬剤部、看護部、臨床検査科、法人事務局の他、医療関係者ではない院外委員で構成されています。

2017年7月を最後に、当院での治験審査委員会は開

催されていません。製薬会社が、治験の診査委託を中央に集中させる傾向になっているためと思われます。再度、当院に治験審査の依頼が来たときには招集されることになります。

8 安全管理

医療安全管理委員会

委員長 原田 和博

本委員会は、専従医療安全管理者、医師、看護師をはじめ、院内各部署より選出された委員、計23名より構成されています。毎月第3金曜日に委員会が開催され、院内全体での医療安全に対する認識の共有化が図られています。特にアクシデント報告に関しては、各部署であらかじめ要因分析と対策が検討され、委員会の場で討議されています。

加えて表に示すように、部署でのカンファレンス、会議、ラウンド、研修会などを行い、医療事故、アクシデントの予防に取り組んでいます。

院内研修会は年2回の動画配信によるものに加え、2023年度は周術期深部静脈血栓症と肺血栓塞栓症について集合研修を行いました。

表 2023年度 医療安全管理委員会活動内容

項 目	内 容	備 考
医療安全管理委員会	・インシデント・アクシデント事例に関する報告と対策の検討 ・各部署の医療安全の現状や取り組み、問題について協議 ・医療安全の課題に対して部署間での協議 ・各種医療安全活動の協議・運営 ・院外研修会の案内、受講後の情報共有	第3金曜日 午後1時～
看護部医療安全カンファレンス	・看護部関連の月毎のインシデント・アクシデント事例について、医療安全委員間で協議・情報交換を行う。 ・転倒事故・予防対策の情報共有 ・院内外の医療安全情報の共有	第2水曜日 午後1時～
医療安全部門会議	・施設全体の報告事例に関する報告と検討 ・委員会運営に関する協議	第3金曜日 午後2時～
医療安全ラウンドカンファレンス	・医療安全委員3名で各部署をラウンドし、現場の状況を視察したり、スタッフにインタビューして状況を把握する。 ・設備の不備に関する気づきをまとめ改善を図る。 ・ラウンド後にメンバーでカンファレンスを行い、結果を現場にフィードバックし、療養環境の改善に役立てる。	第2金曜日 午後2時～ 第4金曜日 午後2時～
院内合同研修会	1. 6月 動画配信 ・院内の医療安全の動向 ・手術室での医療安全の取り組み ・チーム医療の基礎 ①Team STEPPS とは？ ②Team STEPPS のツール紹介 2. 8月18日 集合研修と動画配信 (倫理委員会・医療安全管理委員会共催) ACPについて考える 3. 9月15日 集合研修 周術期深部静脈血栓症と肺血栓塞栓症 川崎医療福祉大学 特任教授 種本和雄先生	参加率 1. 96.3% 2. 98.6% 3. 26.3%
その他学習会	1. 新入職員のための医療安全研修 2. 新人看護師研修①②	1. 4月4日 2. 4月24日 11月13日
各種委員会との連携	・他の委員会・他職種で連携を図り、医療安全の向上を目指す。	・医局診療委員会 ・医療機器安全管理委員会 ・医療放射線安全管理委員会 ・倫理委員会
医療安全ニュース等の発信	・院内事例、院外事例（日本医療機能評価機構等）を関連部署に発信し、情報の共有化を図る。 ・医療機能評価機構・医療安全情報、医療事故の再発防止に向けた提言を院内ホームページに掲載	・関連する各部署に情報提供

項 目	内 容	備 考
転倒・転落 防止の取り組み	・報告書の集計と考察 ・病棟への状況報告、フィードバック ・ラウンド等で対策の実施状況の把握	・看護部医療安全カンファレンスで月毎の状況を共有
医療安全管理指針 事故防止対策 マニュアル等の改訂	・2年毎に改定 ・業務改善に必要な手順書の作成	当院の主な鎮静薬と使用基準を院内ホームページ「診療の手引き」に掲載
医療事故調査 委員会の活動	・重大事故の把握・分析・対策の検討 ・医療事故調査センター等への報告 ・調査中の事例の情報提供の対応	検討会議の開催なし
その他	・医療安全委員のリスク感性の向上のため、研修会情報の共有 ・日本医療機能評価機構、県民局等の監査、アンケート等の対応 ・適宜インシデント・アクシデント・オカレンスの事例分析・協議・フィードバック	・外部研修会参加委員：3名

医療事故調査委員会

委員長 原田 和博

2015年10月から施行された医療事故調査制度に対応して、当院においても医療事故調査委員会が設置されました。これは、必要に応じて院長が招集する委員会で、本年度は該当事例はなく、会の開催はありませんでした。

毎月2回（第1・3水曜日）、医局カンファレンスの際に死亡症例検討会を開き、診療、病状説明などに問題がなかったか、どのように対処すべきかなどの討議を行っています。2023年度は、日本医療安全調査機構に報告すべき問題となる事例はありませんでした。

MR 安全管理委員会

委員長 笹井 信也

2024年3月開催

MR 検査を安全に運用するための検査前チェックリストの管理について検討を行いました。現在は紙ベースの運用で、過去のデータは参照しにくく、新たにす

べての磁性体についての確認が必要で無駄が多いことが問題でした。紙媒体のチェックリストを電子カルテに取り込み検索できるようにすることにして改善をはかりました。

医療ガス安全管理委員会

委員長 橋詰 博行

医療ガス安全管理委員会は医療ガス設備の安全管理と医療ガス使用時の患者の皆様への安全確保を目的として組織された委員会です。医師、薬剤師、看護師、事務、医療ガス供給業者で構成され、年に1回会合を行い、前年の総括と今年の方針性を議論します。

新型コロナウイルスの感染拡大により当院で保有している酸素タンクでは有事の際に心許ないことが分かり、今よりも大きな酸素タンクの設置を検討して参りましたが、今年度は具体的な設置場所が決まり、2024年6月を目処に設置を行うべく工事計画を立てており

ます。この酸素タンクの新設は、感染拡大時だけでなく災害時においても当院の医療の安全性を確保する重要なツールになると考えております。さらに医療ガス供給体制の強化として、医療ガス業者と感染拡大時、災害時の提携を行いました。これにより許容量を超える医療ガスの需要があっても迅速に補充が行われる体制を整えることができたと考えております。医療ガス安全管理委員会は引き続き、患者の皆様の安全を第一に考え、医療ガスの適切な管理と供給体制の確立に努めてまいります。

病院感染防止委員会（ICTを含む）

委員長 橋詰 博行
副委員長 中村 淳一

委員会の定期的な活動として分離菌の動向のチェック届け出が必要な抗菌薬の使用状況のチェック、毎週のICTによるラウンドの実施と報告を行いました。

2023年度は新型コロナウイルス感染症が感染症法上、第5類感染症に変更されたことに伴う院内感染対策の変更について討議、対応をおこないました。

院内の職員を対象にした勉強会は「感染症対策の基

本」と「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）について」を実施しました。

院外での研修は川崎医科大学附属病院での感染防止対策に関する連携医療機関カンファレンスにICTのメンバーの内の医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師の4～5名が年4回参加し、新しい知識を得て、日々の感染防止対策に活かすようにしています。

医療廃棄物処理委員会

委員長 橋詰 博行

医療廃棄物処理委員会は当法人における廃棄物処理を適切に行うための委員会であり、医師、看護師、臨床検査技師、瀬戸いこい苑スタッフ、法人事務局スタッフ、クリーンキープ課スタッフを構成委員としています。委員会は3ヵ月に一回開催され、主な活動はマニュアル、指針に基づき、適切な廃棄物処理が行われているかを監査し、必要に応じて指導を行うことです。また、廃棄物処理量の監査を行い、大幅な増減がある場合はその原因を調査することも重要な活動のひとつです。医療廃棄物処理における適切な指導や監査を行うことで、当法人における環境保全や公衆衛生の向上に貢献していると考えております。

今年度は新型コロナウイルス感染症が依然として油

断ができない状況にあり、当院でも積極的にPPEの着用を行っているため医療廃棄物の処理量は高いところで推移しております。

また、2023年度は他施設で発生したバッテリーを含む医療廃棄物の処理過程で発生した火災の事例から当院でもケースワークを行いました。当院でもバッテリーを含む医療廃棄物は他の医療廃棄物と処理方法が変わらなかったため、これらの処理と区別し、院内や業者と情報を共有しました。

医療廃棄物処理委員会は引き続き、安全かつ環境に配慮した医療廃棄物処理の実施に向け、効果的な指導や監査を行い、公衆衛生の確保に貢献してまいりたいと考えております。

物品管理委員会

委員長 赤迫 圭太

医療機関における物品管理は、患者の皆様の安全と医療の質を確保する上で極めて重要な役割を果たしています。正確な在庫管理や適切な物品の供給は良質な医療サービスの提供に直結し、患者の皆様信頼と安心を築く上で欠かせない要素です。当委員会は「物品の適正使用を促し、物品管理に与する業務の円滑を図る」ことを目的に2018年に設立されました。以来、部署の垣根を越えて連携し、物品管理の効率化と品質向上に取り組んでおります。

2023年度は昨年度に引き続き様々な物品が値上がりし、物品管理におけるコストの課題が一層顕在化して

います。このため当委員会では、より効率的な購買戦略の構築や価格交渉の強化を図りました。また、新型コロナウイルス感染症等の感染拡大に備え、PPEの品質管理や在庫管理も徹底しました。

来年度は物品の値上りによる経済的な負担は更に増す、という見方もされており、この課題に対処するため、さらに知恵を結集する必要があると考えています。また、新しい施設の運用に伴う物品管理の動線の変更なども予測されるため、柔軟に対応していきたいと考えております。

防災防水管理委員会

委員長 畑中 真一

防災防水管理委員会の主な活動内容は、毎年度2回（法定義務）の防災訓練の企画及び実施、有事の際の連絡網の整備、台風や豪雨、積雪時に患者や職員の安全を守るための環境整備活動など、「自分たちの病院・施設は自分たちで守る」という意識の下、幅広く活動しています。

【2023年度主な活動】

1. 防災訓練の実施

- (1)各施設合同で消火設備の取扱説明及び操作訓練：
2023年4月15日（主に新入職員）
災害対策本部設営訓練：2024年1月30日
（災害対策本部要員及び当委員会メンバー、各部署必要スタッフ）…BCPワーキンググループを中心とした活動訓練の一環。

- (2)瀬戸ライフサポートセンターでの瀬戸いこい苑と瀬戸内荘による合同訓練の実施
夜間出火想定訓練：2024年3月27日

2. BCP計画の策定作業

- (1)「BCPワーキンググループ」を中心に、BCP計画策定と並行して訓練実施等を活動。
※BCP…Business Continuity Plan（事業継続計画）震災など緊急時に低下する業務遂行能力を補う非常時優先業務を開始するための総合

計画（遂行指揮命令系統の確立、必要な人材・資源の配分を準備し、タイムラインに乗せて確実に遂行できる計画）

- (2)職員安否確認システム導入。非常時の訓練に加え院内研修会等のアンケート回収にも利用。
- 3. 台風や豪雨、積雪等悪天候に備えた安全確保の準備、アナウンスの実施。

【2024年度の目標】

- 1. BCPの策定及び訓練
部署毎のアクションカード等の策定作業をはじめとして当院全体のBCP策定を継続して進めて引き続き各種及び全体訓練を実施していきます。
- 2. 施設内における非常時の安全確保
院内連絡体制、院内設備の点検改善、防災用品の整備、職員啓蒙等の活動により非常時の安全確保に努めます。
- 3. 防災訓練の実施
消火訓練、避難訓練を継続して実施します。

病院や介護老人保健施設は大規模な災害時には近隣地域に居住の方々の暮らしを守る最後の砦にもなります。当委員をはじめ、職員全員にその意識を常に啓発できるよう委員会として活動していきます。

医療放射線安全管理委員会

委員長 笹井 信也

2024年2月開催

線量管理を担当する赤澤がメンバーに加わりしました。CT検査線量管理実施記録が報告され、すべての検査で適切な線量管理が行われていました。線量が多

い傾向にある冠動脈CT検査については、検査プロトコルの検討が必要とされています。

放射線従事者等に対する安全管理のための研修会は2月の業務推進発表大会内で行いました。

9 労働安全衛生

労働安全衛生委員会

委員長 高橋 正弘

労働安全衛生委員会は労働安全衛生法により、職員の労働の安全及び健康の確保を図り推進することを目的に組織された委員会です。

委員会は毎月第1金曜日の午後1時30分から開催しています。構成メンバーは病院長、産業医、衛生管理者、職員代表者、公認心理師、リスクマネージャー、今年度より新たに職員代表者2名加わって頂き運営を行っています。毎月各委員より部署からの安全衛生に関する調査報告事項を議題として、問題点や今後の方針を話し合い決議しています。

2023年度は職員の有給取得率の把握や労災事例の報告、職場環境維持・改善の報告、職員健診の受診状況の報告、協会けんぽ特定保健指導の受診状況の報告が

行われました。また、今年度はパワハラの研修会を開催致しました。開催後の簡単なアンケートでも半数が間違えるほど正しく理解されていないことが判明致しました。言葉ばかりが先行してしまい、その内容が非常に難しい事を再認識致しました。そのために悩みを抱えながら業務に携わっている方も居られると思います。今後も繰り返し研修会を開催して正しい理解が得られるように委員会としても取り組んでいきたいと考えています。

今後も職員の安全、衛生に十分配慮し、より働きやすい職場となるように当委員会で引続き活動していきます。

ハラスメント防止委員会

委員長 橋詰 博行

2016年度より立ち上げたハラスメント防止委員会は、ハラスメント関連の事柄の発生時に迅速な対応を取ることを目的としています。委員は院長・副院長・看護部長・法人事務局長・相談員などで構成されてい

ます。ハラスメント事案の発生に公平かつ迅速に対応するためにはプライバシーを守り、情報源の安全確保を担保するなど全ての職員が相談しやすい環境を作り上げることが重要と考えています。

10 タカヤ クリニック運営委員会

委員長 和田 佳久

タカヤ クリニック運営委員会はタカヤ クリニックの運営が円滑かつ的確に行われるための施策について笠岡第一病院人工透析センター、臨床検査科、看護部、放射線科、医事課、栄養管理科、法人事務局と審議する事を目的とし、サービス向上のための施策立案や患者さんに安心した治療が提供できるように、スタッフ間・病院間とで情報交換を密に行い運営しています。

WEB 会議システムを使用しての、病院の各部署との連携を行っております。2023年度は、2022年度に引き続き COVID-19感染症の流行に伴い、病院間の感染状況や透析室ベッドの利用状況など密に連絡を取り合いました。幸い、感染の流行も次第に収束を迎え、パンデミックなどなく対応することができました。

11 瀬戸いこい苑運営委員会

委員長 宮島 厚介

瀬戸いこい苑運営委員会は矢木副施設長をはじめ、瀬戸いこい苑入所看護師・介護士・通所リハビリテーション・居宅介護支援事業所・訪問看護ステーション・栄養管理科・支援相談員等で構成され、毎月第3水曜日の午後3時から開催しています。

各部署・職種間で連携を図りながら、医療・介護・福祉の視点で利用者の在宅復帰、自立した生活の継続を目的に協議を行っています。

2023年度は科学的介護情報システム LIFE を導入して2年経過し、事業所別フィードバックが送られてきました。全国と比較すると介護度・医療依存度共に高

い事が示されており、年々在宅復帰支援が難しい事を示しています。また、病院併設の施設の強みとして栄養マネジメント・口腔衛生・褥瘡対策管理面では支援の対応が早く改善されている事が示されていました。今後も井笠地域の状況を把握し、各部署と連携を深め利用者の支援・サービス向上に取り組んで参ります。

2024年度は介護報酬改定が行われます。地域包括ケアシステムの中で、在宅復帰、在宅療養支援がより求められています。自立支援の充実を図り地域で生活ができる様に施設運営に取り組んで参ります。

第4章

院内トピックス

1 池田清明ふるさとギャラリー

理事長 宮島 厚介

2003年から笠岡市出身の洋画家池田清明画伯が、天満屋福山店で定期的に行われている画伯の特別展のために移送した120号～100号の大作（多くは絵画展に出展されて受賞された作品）を、地元の病院に「生まれ育った地域の患者さんのこころの休まるホールに」と外来待合ホール壁面に展示して頂いていました。そして数年ごとに大作を掛け替えして頂き、温かいまなざしで描かれた人物像（多くは2人のご令嬢）、海を隔てた神島、そしてホールに降り注ぐ光が相まって、柔らかな雰囲気多くの患者の皆様こころ温まる一時を感じて頂いていました。時々帰郷される際、画伯のお話から「郷土への思い」を強く感じており、これからもこの柔らかな雰囲気を維持していきたいと強く感じていました。私の勝手に病院費用で絵画を購入することはできません。以前より訪れたことのある美術館では著明な芸術家のアトリエを移設した展示施設は見学したことがありましたが、「活躍中の実在画伯のアトリエなど到底…」と思いながら、ある日思い立っ

て副理事長を誘って、日帰りで鎌倉の池田画伯のアトリエを訪ねる決心を致しました。ご家族で温かく迎えて頂きました。院内待合ホールに「池田清明ふるさとギャラリー」としてお名前をお借りし、いくらか私費で購入させて頂き病院に寄贈してギャラリーを設立したい旨を伝えました。画伯やご家族も喜んで賛同して頂き、「郷里の患者さんも同じ絵では飽きてしまいます。ギャラリーであれば掛け替えが必要でしょう。私も協力します。お好きな物をお選びください」とご返事をいただき先生の郷土の思いに感動いたしました。このような経緯で「ギャラリー」開設となりました。そのお披露目会を2023年10月28日開催し、前笠岡市立竹喬美術館館長上蘭四郎先生に「池田清明の芸術」のご講演、また画伯ご自身に郷里への思いを語って頂き多くの方々に感銘していただきました。池田画伯始め関係の皆さまにこころより感謝いたします。笠岡第一病院広報誌「瀬戸の風」No.75の掲載記事を年度報の記録に残させて頂きます。



母子像



村娘の衣装で

「池田 清明 ふるさとギャラリー」お披露目会を開催しました

理事長 宮島厚介 ごあいさつ

池田清明画伯は現在鎌倉にアトリエを構えられ、一水会運営委員、日展特別会員など中央画壇で高い評価を受け、ご活躍されています。画伯はここ笠岡市神島のご出身で、高校時代に当院創設者・藤井大輔とも絵画を通じての交流がありました。故郷への熱い思いを常に持たれている画伯から2003年に「ふるさとで病む方々に、絵画でひとときの潤いを」と絵画展示のご提案があり、病院待合に大作の展示が始まりました。その後も近隣で個展を開かれる機会ごとに、次々に作品を掛け替えしていただき皆様にご鑑賞頂いています。

このたび先生のご厚意により笠岡第一病院待合ロビーを「池田清明 ふるさとギャラリー」として、画伯の作品を展示させていただくことになりました。長い待ち時間、ひとときのお寛ぎが出来ますれば幸いです。



プログラム

挨拶	理事長 宮島 厚介
講演「池田清明の芸術」...	笠岡市立竹喬美術館 前館長 上 蘭 四郎
展示絵画紹介	池田 清明
記念ピアノコンサート	石本 大斗

池田清明 画歴

- 1951 笠岡市神島に生まれる。
- 1976 一水会展に初入選
(一水会賞、文部大臣奨励賞など受賞多数)
- 1987 日展に初入選(特選2回、審査員4回)
- 2001 郷里岡山県笠岡にてワコー文化賞受賞
(記念展開催)
- 2015 笠岡市立竹喬美術館企画
池田清明展が同館にて開催
- 2016 大阪芸術大学教授就任
一水会運営委員、日展特別会員
神奈川県鎌倉市在住

展示絵画



「お手てつないで」



「鞆の浦」



「窓辺のバラ」



「クリスマスローズ」



「柚子」



「椿」



「葡萄」



「桃」

「池田 清明 ふるさとギャラリー」お披露目会

2023年10月28日 病院5階多目的ホールにて多数の地域の皆様のご参加をいただきお披露目会を開催いたしました。

笠岡市立竹喬美術館前館長 上藺四郎氏による演題「池田清明の芸術」の講演がありました。池田画伯の日展、一水会の活躍の紹介、そして画伯の「自然のままを」を写し取る、「人物という自然」を捉えた人物画について美術学者として解析解説された素晴らしい講演でした。



そして、池田画伯からロビーで

展示されます数々の絵画の説明や代表作の『高原の夏』（以前当院での展示して頂いていました）の製作現場の状況の写真など、私たちには知り得ない興味深いお話でした。

この講演から先生のふるさとへの思いを込めた愛情あふれるお話を聞かせていただきました。



記念ピアノコンサート

講演の盛り上がりで開演時間が遅れました。演者は大安寺中等教育学校6年生の石本大斗さんのピアノ演奏でした。

石本さんはドイツ留学を経て数々のコンサートに出演されています。力強いタッチのダイナミックな演奏でした。「医師への道も考えています」と漏らされていましたが、医学部入学が決まったようです。二刀流での活躍を願っています。



心温まる“美術ギャラリー”に…待合ロビーを楽しく寛げる空間へ

講演の後、待合ロビーにて展示作品を前にして池田画伯からの御説明をいただき聴講者は先生のお人柄にも触れる機会となりました。絵画会で評価の高い人物像を前にして、実物のモデル（先生のご子女）と絵画を重ねた楽しいお話に子供たちも大喜びでした。貴重な体験でより身近な親しみのある絵画になりました。



笠岡第一病院 **ホスピタルアート**

当院では、皆様の医療環境がより快適な癒やしの空間となる取り組みとしてホスピタルアートや豊かな自然景観、アメニティなど様々な工夫を重ねてきました。その一部をご紹介します。



① 池田清明ふるさとギャラリー（2023 年）

2003 年より郷土出身の洋画家 池田清明画伯のご厚意により絵画を展示していただいておりますが、2023 年「池田清明ふるさとギャラリー」を 1 階ロビー全体に開設致しました。

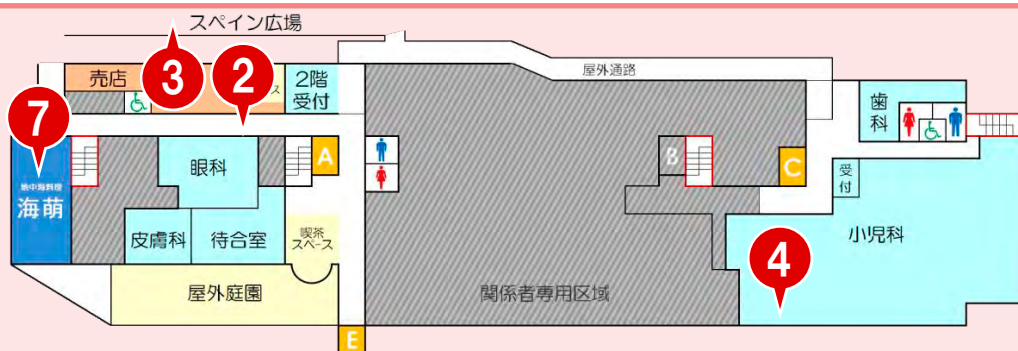


母子像



村娘の衣装で

病院 2階



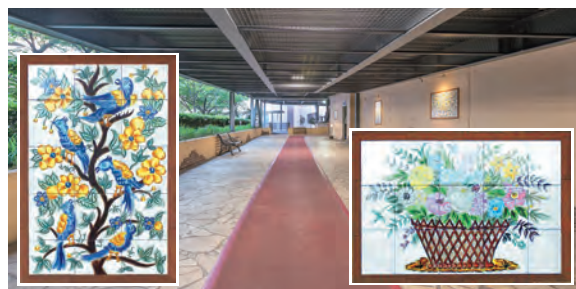
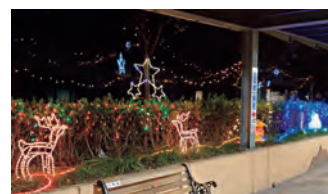
② きらぼしアートギャラリー（2022 年）

岡山障害者文化芸術協会と提携し、アーティストを目指す皆様の個性あふれる絵画を展示しています。



③ スペイン広場（2006 年）

立体駐車場から病院への通路には休憩用のベンチを置き、壁面にタイル工房に特注したスペインタイル絵画 3 点を飾りました。春には桜、冬にはクリスマスイルミネーションが点灯し、鳥のさえずりと共に心の温まる散歩路になれば幸いです。



④ 小児科外来 ホスピタルアート (2007 年)

小児科外来には、ふくだ としお・あきこ夫妻によるホスピタルアート「つなぐ」。広い待合一面に線路が壁や円柱、天井、はたまた窓の外にまで縦横無尽に延び、約 30 種類の動物をのせた列車が走っています。多様な人たちが様々な環境・時間をつないで子ども達が心身共に健やかに成長するように願いをこめて。。



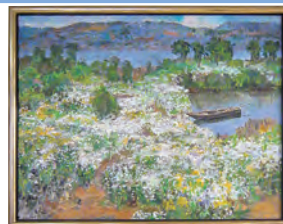
⑤ 連作リトグラフ (1995 年)

ロシアの画家兼版画家の André Lansky 氏の連作リトグラフを病棟ロビーなどに 30 枚飾っています。



⑥ もり かずなり 一就画伯 絵画展示

健康増進クラブ ONE に毛利一就画伯の絵画を展示しております。



⑦ 地中海料理 海萌 (2016 年開店)

南全面の広い窓から、四季折々の空と水面の移りゆく輝きや神島瀬戸の風景を楽しんでいただけます。インテリアには、水面を模した壁面や地元のステンドグラス作家にお願いしたランプなどシェフの細やかな料理と共に憩いのひとときを楽しんでいただいております。



皆様に当院のホスピタルアートやアメニティをご紹介させていただきましたが、当地の自然の豊かさに勝るものはないと思います。病院の面前に広がる神島・瀬戸の風景や、風の音、鳥の声、移ろいゆく多彩な輝きの水面等々により心が静まり、生きていく活力と万物への感謝の念が湧き出てくることでしょう。

※見学の際は職員にお声かけ下さい。
また感染防止対応時にご遠慮いただく場合もある旨ご了承をお願いします。

井笠おかやま

笠岡第一病院内で安らぎを 洋画で

神島出身 日展特別会員の池田さん

人物や静物画 ギャラリー開設



大作の「姉妹」を見る池田さん（左）と宮島理事長

笠岡市出身で日展特別会員の洋画家池田清明さん（72）＝神奈川県鎌倉市＝のギャラリーが、笠岡市横島の笠岡第一病院内に開設された。1階の待合ロビーに、人物画や静物画計14点が掲げられている。

（谷本和久）

同病院近くの同市神島出身の池田さんは、2003年から同病院内で作品数点を展示してきた。「外来患者が診療を待っている間の心の安らぎにつなげたい」との思いを常々抱いていた同病院の宮島厚介理事長の依頼を

改めて受け、応諾した。待合ロビーに加え、1階の各診療科横の壁などにも掲示して「ふるさとギャラリー」とした。展示作品はいすに座った洋装の少女「村娘の衣装で」、娘と孫を描いた「おててつないで」、娘

2人をモデルにした「姉妹」などの大作と、果物やバラなどの静物画が並んでいる。

池田さんは同病院を創設した故藤井大輔さん（1993年死去）と生前に交流があり、高校生

の頃に藤井さんが所有する絵を見せてもらい、影響を受けたという。古里への思いも加わり、今回のギャラリー開設となった。

同病院の外来患者は1日平均約500人に上る

という。池田さんは「ギャラリーの開設はありがたい。患者さんがいて毎日多くの鑑賞者がある美術館のようで、みなさんが楽しんでくれればうれしい」と話していた。作品は同病院が春夏と秋冬の季節ごとに入れ替える。宮島理事長は「診療を待つ患者さんにとって待合ロビーが楽しい空間になるよう池田さんの絵でくつろいでほしい。絵の入れ替えで、季節の移り変わりも感じてもらえれば」と願っている。

（中国新聞社提供）



笠岡第一病院1階に開設 地元出身洋画家のギャラリー 明るく美しい絵で患者に憩いを

池田さんは同院から近い同市神島の生まれ。大阪芸術大に進学後、大阪府内で美術担当の高校教員として働く傍ら制作に励んだ。1976年に公募美術団体の「一水会」展で初入選、87年には日展で初入選した。

医療法人社団清和会（宮島厚介理事長）は運営する笠岡第一病院（笠岡市横島一九四五）の一階待合ロビーに、地元出身の洋画家・池田清明さん（72）の作品を展示する「池田清明ふるさとギャラリー」をオープンした。10



池田清明ふるさとギャラリー

以後も数々の受賞歴があり、大阪・東京のほか天満屋福山店でも個展を開くなど活躍。大阪芸大教授を務めた後、2010年からは鎌倉にアトリエを構えている。15年には市立竹喬美術館（笠岡市六番町）で回顧展が行われた。写実的で明るく透明感のある画風が特徴で、風景画や静物画は大胆な省略を生かし、受けた印象をそのまま描き出している。幼い頃には同院創設者の故・藤井大輔氏に往診してもらうなど関係が深く、「病院を潤いのある場所にしたい」という宮島理事長の依頼を受け



瀬戸内海を描いた作品に見入る宮島理事長

「故郷はとても大事な存在で、私の絵の原点。ギャラリーを作っていたいたのは願った。同院ではギャラリー開設に合わせて、小品も新たに収蔵。計二〇点ほどの中から季節に応じて入れ替えつつ、一〇数点を待合や診察室入り口の壁面に飾る。」



大作「アヴェ・マリア」と池田さん

「自然の光が先生の絵の魅力。待合から見える瀬戸内海の景色と合わせて、ギャラリーが患者さんの憩いの場になつてくれたら」と宮島理事長。池田さんは「これからも、健康的で多くの人に愛される絵を描いていきたい」と話していた。

でもないことで、本当にありがたい」と池田さん。展示作品には病院前の海を描いた「神島大橋の見える風景」、鞆町を象徴する眺めを写し取った「鞆の浦」などもある。

お披露目会では、娘をモデルにした「アヴェ・マリア」や「姉妹」、バラなどを描いた静物画に来場者が見入り、作者から直接説明を聞いた。



池田清明氏(地元出身) ギャラリー開設

笠岡第一病院1階待合ロビー



「姉妹」を鑑賞する池田氏(右)と宮島理事長

笠岡第一病院(笠岡市横島)は、同市神島出身の洋画家池田清明氏(72)の「神奈川県鎌倉市」の作品を飾る「ふるさとギャラリー」を1階待合ロビーに開設した。

池田氏は笠岡高卒。大阪府で高校の美術教諭を務めながら制作を続け、2000年から画業に専念。ワコースポーツ・文化振興財団(笠岡市)の「ワコー文化賞」を01年に受賞。写実表現を追求した清澄な人物画で知られ、大阪芸術大の教授も務めた。

一水会運営委員、日展特別会員でもある。母校の神内小(同市)では図画工作を頑張った児童をたたえる「清明賞」が設けられている。

同院は、池田氏が創設者・藤井大輔氏(1922〜93年)と絵画を通じた交流があったことが縁で、2003年から作品を提供してもらい、常時、5点を入れ替え展示してきた。今回、20周年を迎えたのを機に、1階の待合ロビー全体に作品を公開するこ

大作や静物画など13点



大勢の美術ファンらに囲まれ笑顔を見せる池田氏



同院の宮島厚介理事長は「画伯の絵は、患者にとって必ずしも楽しい空間とはいえない病院のホールに潤いを与えてくれる。多数の作品を提供していただき、ご厚意に感謝している」と言う。

池田氏は「ワコー賞をいただいたり、竹喬美術館が個展を開いてくださったり、古里の温かい支援は創作の励みになっている。毎日、何百人もの通院者の方々に作品を見ていただけるなんて、うれしい限り。ここは最高の「美術館です」と話した。

同院は近年、患者に安らぎを感じてもらうためホスピタルアートに力を入れている。小児科外来には他の画家の協力を得て動物の乗った列車や線路が壁面一面に描かれるなど、院内各所にさまざまな絵画が公開されている。(二羽俊次)

談笑する宮島理事長(右)と池田氏。作品は右から「村娘の衣装で」「お手つないで」

作品は「姉妹」「村娘の衣装で」といった大作や、季節感が漂う静物画など13点。今後も寄贈を受け、春夏秋冬の年2回、季節にマッチした作品に掛け替える予定。

池田氏を招いた作品のお披露目式が10月28日、通院患者や絵画愛好者ら170人が出席して院内の多目的ホールで開かれた。市立竹喬美術館の上蘭四郎前館長が代表的な作品の特徴について講演。池田氏が家族と共にお礼を述べた。式の終了後、出席者は作品をじっくり鑑賞していた。

(山陽新聞社提供)

2 災害支援活動報告：JMATに参加して

外科 藤井 研介・救急科 田邊 綾

この度の能登半島地震に対する災害支援活動の一環として、我々は日本医師会災害医療チーム（JMAT）に2隊を派遣しました。岡山 JMAT 第5・6班として、医師2名、看護師2名、薬剤師1名、臨床工学技士1名からなるチームで現地支援にあたり、以南西部災害本部運営にも携わりました。

JMAT の活動は、自衛隊や DMAT、各災害支援団体の初動対応に続き、被災者を安全かつインフラが整った避難所へ誘導することから始まります。我々の使命は、災害前に提供されていた医療の継続、災害関連死の予防、Covid-19やインフルエンザなどの感染症対策、そして自治体や福祉、地元医師会との連携を図ることでした。初めての地で、限られた資源の中での多職種協働の指揮をとることは困難でしたが、貴重な学びも多くありました。迅速な情報整理と共有がステップ1、各隊の役割明確化がステップ2、そして情報や伝達方法が整理されることで、アイデアが生まれ各チームが一体となるステップ3に繋がります。



日本では地震や豪雨などの災害が起こり得るため、準備と訓練が不可欠です。特に今回の支援活動で制限されたのは被災地へのアクセスであり、災害が起きた場合、特に半島や海岸地域では支援が困難になることを痛感しました。この経験から、我々の地域と病院も災害への備えを再検討する必要があると再認識しました。

災害支援活動は、非被災地の人々が被災地を支援する相互支援の精神を示しています。学んだことを地域に持ち帰り、共有し、今後の災害に備えることが重要です。病院は、患者や被災者を守る要となり、行政や消防、支援部隊との連携役を果たします。そのため今後も、院内外での災害訓練活動に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

最後に、能登半島地震で被災された皆様、および今なお支援活動に従事されている皆様へ、心からの敬意と感謝を表します。一日も早く平穏な日々が戻り、現地の復興が進むことを心から願っています。



3 臨床工学部の設立 ～CEセンター：Clinical Engineering Center～

部長 藤井 研介

日本の医療業界は、高齢化社会の進展とともに、未曾有の変革期を迎えています。特に高齢者の医療ニーズの増大と、若手医療者の不足が顕著な課題として浮上しています。このような状況において、効率的かつ効果的な医療サービスの提供は、一層の創意工夫と協力体制が求められています。当院ではこの課題に積極的に取り組み、地域医療の担い手として、2023年度10

月より臨床工学部が立ち上がりました。

現在、臨床工学部は臨床工学技士（Clinical Engineer: CE）31名（人工透析センター20名、タカヤ クリニック7名、手術室4名）から成り、自主性と教育を大切に各種プロジェクトに取り組んでいます。本年度報では、特に力を入れている各種プロジェクトと導かれるタスクシフトにスポットライトを当てたいと思いま

す。臨床工学技士を中心に、透析治療のほか、救急医療、内視鏡検査治療やカテーテル治療の支援、医療機器管理、さらには防災活動まで、幅広い分野での業務拡大と多職種連携の推進に成功しています。

【人工透析センター】

人工透析センターには個人用透析装置が52台（隔離室2台）あり、使用年数に応じた機器メンテナンスを行い、2023年度は11台を機器更新しました。これまで装置オーバーホールはメーカーに依頼していましたが、今後はCEがメンテナンスを行うことで、より安全な治療の提供および費用削減を目指します。

【タカヤ クリニック】

患者さんごとに血管走行や狭窄部位などを記したシャントMAPを作成しています。MAPを用いた穿刺ポイント修正など、カンファレンスでのスムーズな情報共有を通じて、患者さんへの疼痛軽減に役立っています。

【水質管理】

水処理装置の残留塩素、軟水チェックを毎日点検します。これからも水質清浄化を保ち、安全な透析治療が行えるよう心がけます。

【手術室】

手術機器点検管理、中材機器メンテナンス、手術清潔介助などを行います。今後もより安全で、活動的な手術室運営に携わります。

【カテーテル室】

カテーテル室内の機器点検管理、更新などを行います。また、医師指導の下、カテーテル検査・治療における清潔介助も積極的に行っています。

【内視鏡室】

医師・看護師と連携を図り、検査の操作介助を行います。内視鏡機器点検に関しては、計画的なメンテナンスを行うことで、エラーの早期発見とより安全な診療を提供できるようになりました。

【睡眠時無呼吸症候群検査】

入院でのPSG（終夜睡眠ポリソムノグラフィー検査）装着を行います。またPHILIPS PSG解析応用コースの講習を経て、当院では院内データ解析を行っています。



【医療機器】

医療機器の安全使用における管理だけでなく、使用に関して部署や職種を越えた横断的指導を行っています。2023年度は、呼吸療法について院内呼吸サポートチームRST（プロジェクト）を立ち上げ、患者さんに合わせたモードやデバイスの提案、ウィーニングや離脱時期の検討など、医師と共に多職種カンファレンスでの中心的役割を担います。

【当直・オンコール体制・在宅支援】

救急および在宅診療における業務支援と医療機器管理を行います。

いずれの業務に関しても、多職種と連携することで、安全でより質の高い医療提供を目的とします。そのためCE業務においても、習得にむけたキャリアラダーを設けるとともに、バックアップ体制を構築しています。

＜告示研修：臨床工学技士の業務範囲追加に伴う厚生労働大臣指定による研修＞

31名中 16名受講

＜日臨工／県技士会活動＞

2023年6月30日 岡山県臨床工学技士会主催 第3回 web 病院説明会

病院紹介（動画提供あり）

＜学会活動＞

2023年7月22日 第33回日本臨床工学会

ポスター発表：臨床工学技士が消化器内視鏡業務に携わって

2023年12月3日 第32回中国腎不全研究会学術集会
座長：バスキュラーアクセス関連

ポスター発表：洗浄剤の変更によるコスト変化の実際

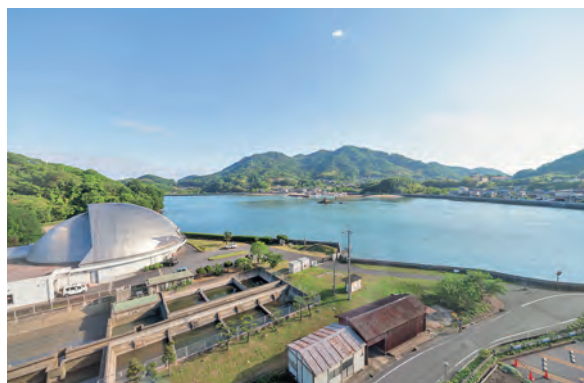
ポスター発表：ポケットLDFと超音波診断装置のシャント血流量の関係性

ポスター発表：シャントマップ作成前後の穿刺評価および使用感のアンケート

＜災害訓練活動＞

2023年10月7日－8日 おかやまDMAT隊員育成研修

2023年11月25日 金光病院災害訓練参加



2024年2月3日－6日 岡山 JMAT(能登半島地震)
2024年2月11日 おかやま災害医療スキルアップ研
修会

これらの取り組みは、医療提供体制の最適化だけで
なく、地域医療の質の向上にも大きく貢献しています。
私たちの目指すのは、限られたリソースの中で最大限
の効果を発揮する医療の実現です。医療従事者間の役

割分担の見直しや、新たな技術の導入により、患者さ
ん一人ひとりに寄り添った安全かつ質の高い医療を提
供すること。それが、当院臨床工学部が地域社会に貢
献する方法です。

この報告を通じて、医療関係者のみならず、地域の
皆様にも当院の取り組みと成果を知っていただき、今
後も変わらぬご支援とご理解を賜りたいと考えていま
す。これからもどうぞよろしくお願い致します。

4 日本医療機能評価機構審査にむけた取り組み

藤井 研介

当院は2003年度より、日本医療機能評価機構の審査
を受けており、5年ごとの更新を通じて、地域医療の
質を向上させ、健全な病院機能の維持に努めてまいり
ました。2023年は、この取り組みが始まってから5回
目の審査を迎える重要な年となりました。訪問審査
(2023年10月17・18日)の結果、日本医療機能評価機
構から「認定」の判定結果を頂きました。年度報では、
2023年度病院全体で注力した活動をご紹介します。

審査の目的と背景：公益財団法人日本医療機能評価機
構による審査は、医療の質の向上と信頼できる医療の
確保に焦点を当てたもので、医療機関が提供するサー
ビスの質を第三者の視点から評価するものです。また、
その結果を公開することで、医療機関の透明性を高め、
国民の健康と福祉の向上に貢献する目的があります。

審査の準備：審査に向けた準備について、その概要を
ご説明いたします。審査準備のための委員会を2022年
12月に設立し、計画を策定するとともに、院長が提唱
するスローガン「全員参加、イージーアクセス、患者
中心の医療」を掲げて、病院全体に動きを起しました。
このスローガンに沿って、各部門や部署では、自
部署の医療とサービスを再評価し、マニュアルや指針
の更新作業を行いました。進捗状況は病院の内部ホー
ムページを通じて共有され、見えてきた課題について

は、準備委員会を通して各委員会を中心に議論を深め
ていきました。もちろん審査結果は重要ですが、準備
の過程とそれに伴う内部評価（自己評価と課題抽出）
こそが最も大切なポイントです。ケアプロセスシミュ
レーションをはじめ準備を進める中で、各部署の機能
強化、部署間の連携強化、そしてこれらが融合するこ
とで生まれる総合力が院内で育まれました。

審査プロセス：3名のサーベイヤーに訪問頂き、「患
者中心の医療の推進・良質な医療の実践・理念達成に
向けた組織運営」

に関する書類確認
と質疑応答が行わ
れました。また病
棟・外来のほかに
各部門・部署の訪
問および面接、カ
ルテレビューだけ
でなく、90分間の
ケアプロセス調査
などが行われまし
た。この厳格な審
査プロセスを全員
参加で歩めたこと
も非常に貴重な経



験でありました。

審査の結果とフィードバック：審査の結果とフィードバックに関して、約90項目にわたる審査が4段階評価（S, A, B, C）で実施され、良い点から改善が必要な点まで幅広くフィードバックを頂きました。最終的に「認定」という喜ばしい審査結果を頂きましたが、審査後も35の委員会と23の部署がそれぞれ受けた具体的なフィードバックについて協議を進めています。ポジティブな評価を受けた点だけでなく、改善が求められたポイントに対しても現場がしっかりと向き合うことが重要です。さらに、これらのフィードバックを踏ま

え、継続的な改善に向けた具体的な計画や目標を設定することに努めたいと思います。

総括：この審査を通じて得た学びと成長に深い感謝の意を表します。特に、公益財団法人日本医療機能評価機構のサーベイヤーの方々には、その専門的な知見と指導に対し、心から感謝申し上げます。また、計画立案から準備、そして総括に至るまで、審査の全過程にわたって協力してくださった全てのスタッフおよび関係者の皆様に、深い感謝の意を表します。この経験と審査結果は、当院のさらなる成長の礎となります。誠にありがとうございました。

5 令和5年度岡山県保健衛生功労者表彰

へき地医療事業功労・県知事表彰を受章して

院長 橋詰 博行

文字通り、身に余る光栄です。個人としては真鍋島を月一回診療しているのみで特に貢献していません。賞状の文面をみると、「あなたはへき地医療の重要性を深く認識し多年にわたりその向上に尽くされた功績が顕著」とあります。笠岡に赴任してから18年経過し

ており、確かに多年と言えるかなと思いますが、何よりも病院のスタッフの地域の方々、特に医療機関にすぐにアクセスできない島嶼部の方々に対する温かい支援が評価されたもので私個人よりも病院全体で受けたものと解釈しています。このようなメンバーと一緒に仕事ができることを感謝すると共に今後ともそのエネルギーを患者さんの支援に向けたいと思います。



6 業務推進発表大会

法人事務局長 赤迫 圭太

2024年2月17日(土)午後2時より、第16回目となる2023年度業務推進発表大会が開催されました。

2006年より開催されているこの発表大会は、医療法人社団清和会の現在や今後のあり方などが当地域の事情や環境を踏まえながら示される場であると同時に、各部署や各委員会などの取り組みを職員が知ることのできる貴重な場でもあります。

今回は10月に日本医療機能評価機構による更新受審

が実施されたため、恒例の7月実施から大きく遅れての開催となりましたが、昨年度と同様に会場となる5階多目的ホールの他に、リモートでつないだ2つの会場を設けるなど厳重な感染対防止策を講じ、2022年度開催を超える職員286名が参加しました。

発表は内容の濃い聞き応えのある演題ばかりで、参加した職員は真剣に傾聴し、充実した発表大会となりました。

業務推進発表大会プログラム

- ① コロナ禍の運営状況とこれからの病院

② 地域医療の明日に向けて

③ 岡山 JMAT に参加して

④ MRI の安全管理について／当院における被ばく線量管理・STAT 画像報告の現状

⑤ いこい苑での看取りの取り組み

⑥ 下肢浮腫の圧迫療法とドレナージ治療を開始して
- ⑦ インフォームド・コンセントの実践

⑧ 廃用・誤嚥性肺炎予防に対してリハ科からの提案

⑨ 働きやすい職場を目指して

⑩ 若葉会総会

⑪ 終わりのことば
- 理事長

院長

医局・看護部・薬剤管理科・人工透析センター

放射線科

瀬戸いこい苑
- 副院長

リハビリテーション科

副理事長・看護部・法人事務局

若葉会事務局

副院長

7 医師研修・学外実習受け入れ

院長 橋詰 博行

新専門医制度発足直後はほとんど受け入れがなかった研修医の先生方も、最近では私ども地域の中小病院にもコンスタントに来ていただけるようになりました（表1）。

2023年度も当院で2人目の岡山県地域枠卒業医師の田邊綾医師に救急科の常勤医として勤務していただきました。笠岡出身の地の利も生かし、3年間にわたり救急の現場にとどまらず、若いスタッフの指導的役割も果たしていただきました。

後期研修・専攻医の先生方は倉敷中央病院から2名、岡山大学より1名に研修に来ていただきました。初期研修医は倉敷中央病院から1名、川崎医科大学附属病院からは3名、1ヵ月という地域枠の中で研修をしていただきました（図1～3）。さらに、岡山大学医学部学生を地域医療体験実習として各5日間受け入れました（表2）。

今後も地域の病院として大学や大病院では経験できないことを提供しつつ、研修体制を維持します。

表1 地域枠卒業医師 / 研修医受け入れ状況（2023年度）

地域枠卒業医師		後期研修・専攻医		初期研修（医師2年目） 地域医療研修	選択制クリニカルクラークシップ （6学年）
地域枠卒業医師 後期研修・専攻医 医師6年目 岡山大学病院 救急科 田邊 綾	4月				川崎医科大学 3/27(月)～4/21(金) 松谷 由美
	5月			倉敷中央病院 初期研修 中西 光歩	
	6月			川崎医科大学 初期研修 (5/29(月)～6/24(土)) 平木 龍太郎	
	7月	医師4年目 倉敷中央病院 内科 岡田 あずさ			
	8月			川崎医科大学 初期研修 (7/24(月)～8/19(土)) 高田 佳輝	
	9月				
	10月	医師4年目 倉敷中央病院 内科 坂東 岳人	医師4年目 岡山大学 救急科 山本 隼究		
	11月				
	12月				
	1月			川崎医科大学 初期研修 (1/8(月)～2/3(土)) 坪井 証	
	2月				
	3月				



図 1

2023年 7 月～ 9 月 岡田あずさ医師（前列左から 5 人目）



図 2

2023年10月～12月 坂東 岳人医師（前列左から 4 人目）



図 3

2023年10月～2024年 3 月 山本 隼究医師（前列左から 4 人目）

毎朝、全科合同の症例カンファレンスを開催しています。診療科の垣根を越えた症例検討は専攻医・研修医の学びの場と評価されています。



表 2 学外実習受け入れ

実習依頼元	実習期間	人数	部署
岡山大学（医学部医学科）	2023年 6 月12日～ 6 月16日	2 名	医局
岡山大学（医学部医学科）	2023年 7 月31日～ 8 月 4 日	2 名	医局
岡山大学（医学部医学科）	2023年 9 月 4 日～ 9 月 8 日	2 名	医局
岡山大学（医学部医学科）	2023年 9 月11日～ 9 月15日	1 名	医局
岡山大学（医学部医学科）	2023年 9 月25日～ 9 月29日	2 名	医局
くらしき作陽大学（食文化学部 栄養学科）	2023年11月 6 日～17日	2 名	栄養管理科
おかやま山陽高等学校（調理科）	2024年 3 月20日～27日	2 名	栄養管理科
倉敷翠松高等学校（看護専攻科）	2023年 7 月 3 日～ 9 月 1 日	8 名	看護部
川崎医療福祉大学リハビリテーション学部視能療法学科	2023年 4 月 3 日～ 4 月28日	1 名	外来（眼科）
川崎医療福祉大学リハビリテーション学部視能療法学科	2023年 5 月15日～ 6 月10日	1 名	外来（眼科）
専門学校岡山情報ビジネス学院（診療情報管理士学科）	2023年 9 月25日～29日	1 人	医事課
専門学校岡山情報ビジネス学院（医療福祉事務学科）	2023年10月10日～11日	1 人	医事課
専門学校岡山情報ビジネス学院（医療福祉事務学科）	2023年10月12日～13日	1 人	医事課
川崎医療福祉大学（医療福祉マネジメント学部医療福祉経営学科）	2023年 9 月26日～10月12日	1 名	法人事務局、医事課
川崎医療福祉大学（医療福祉マネジメント学部医療福祉経営学科）	2023年10月30日～11月16日	1 名	法人事務局、医事課

8 子育て支援・ワーク・ライフ・バランス

副理事長・小児科 宮島 裕子

子育て支援

当院職員440人（19歳～73歳）のうち女性が329人（75%）でその内15歳以下の子どもを育てている職員が141人（32%）在籍し、その子ども達の総数は237人にも上ります。この237人の子ども達が心身ともに健やかに成長する子育て支援の充実した社会づくりの一端を担える企業でありたいと考えています。子育てはまず親育ちから始まります。若い両親が子どもを育てながら働く状況は厳しい現状と共に大きな喜びも体験し人としても成長します。女性の比率が高く24時間途絶える事なく業務が続く医療現場では子どもの存在を意識して子育て支援を構築し続けて参りました。当院では物心共に実情に即した包括的な支援を目指しています。

まず、当院では年間120日の年休を設け、下記の時間的、経済的支援を実施すると共に、一人ひとりがそれぞれ親育ち・子育てに前向きに取り組み、それを楽しめるようソフト面での包括的支援（子どもの職場体験、病児保育、個々の子育て相談）にも力を注いでいます。育児休業後の復職率も100%です。「お互いさま」の精神でライフサイクルに応じて、順次お互いに仕事をカバーしあう風土を目指したワーク・ライフ・バランスを構築していきたいと考えます。又、近年の傾向として男性の育児休業取得も増加傾向で家族の絆がより深まる経験となっています。

(1) 勤務に関して

・育児休業：2023年度取得者 女性：19名（100%）、

男性：5名

- ・育児休業復帰時：勤務部署・形態の考慮（外来勤務、パートへの変更など）
- ・復帰後の時間短縮（育児介護休業規定第13条）
- ・復帰後の勤務内容考慮（一定期間の夜勤の免除、減免、時短勤務など）

(2) 休日希望の優先：リフレッシュ休暇(年間7日間)

- ・学校、幼稚園、保育園行事に休日や有給休暇を優先的に当てています。

(3) 保育料の援助：予防接種料金の援助

- ・5歳以下の子供を持つ女子職員と父子家庭男子職員に保育料の半額（月額20,000円を限度：パートは半額）を援助しています。2005年3月までは院内保育でしたが、若い父母がこども園活動や地域での交流を通じて、親として社会人としての視野や経験を積めるように親子が育ちあう保育料援助に変更しました。
- ・予防接種料金は、0歳～18歳まで半額を補助しています。

(4) 病児保育～すこやかキッズルーム～

※詳細は病児保育（p.75）参照

(5) 家族手当

- ・15歳以下の扶養家族において一人月額6,000円の子育て支援を実施しています。

介護支援

少子高齢化が進行し、高齢化比率が30%を超える当地域では職員の親世代の介護の問題が緊迫してきています。女性の多い職場で、まだまだ親の介護は女性の役割と考える風潮が根底にあり（仕事に於いては男女平等と言われながら）夫を含めた家族全員で取り組み、社会資源の充実も図るなど意識改革が望まれます。当法人では疾病・認知予防に努め、親の疾病、介護、看取りの時期に介護相談や勤務形態での時間短縮・介護休暇（育児・介護休業規程 第14条）の実践に力を入れています。子育て支援は年齢枠で区切ることが可能

で時間的にも人事面の計画が立てやすいのに比して、介護支援は起点も終着点も未定で多くの解決すべき問題を抱えています。しかし現場と相談して理解を得て介護・看取りを成し遂げる事はワーク・ライフ・バランスの究極の一面であります。介護・看取りを通じて家族の分かち合う心の関係や負担軽減と自身の納得、同僚への感謝などの上に仕事への新たな意気込みを持って職場復帰される人が多くいられます。

- ・介護休暇：2023年度取得者 3名（内訳：親の介護2名、子どもの疾病介護1名）

9 地域での講演活動（出前講座）

当院では、地域に出向いての講演活動も積極的に行っています。幼稚園や小学校での保護者・教員を対象にした講演や、高校生を対象とした病院食の調理実習の出前講座など、疾病予防や健康管理、病院という

独自性を活かした内容で、幅広い年代の地域の皆様のお役に立てるよう、日々研鑽しています。その活動を紹介させていただきます。

テーマ	開催日	派遣先	講師
70代の健康維持についてー人生100年時代への挑戦ー	2023年 8 月27日	第12回健康講座笑いヨガ免疫 UP! 大会 in 岡山	橋詰博行
心と体の健やかな成長を育む 1) 生活リズム「食べる・眠る・遊ぶ」 2) 心の発達とメディア接触の注意点	2023年 6 月 6 日	井原市立木之子幼稚園 子育て講座	宮島裕子
70代の健康維持についてー人生100年時代への挑戦ー	2023年 8 月27日	第12回健康講座笑いヨガ免疫 UP! 大会 in 岡山	橋詰博行
「若い世代の子育て意識啓発事業」 …高校生の君たちへ… 自立し社会人になる事とやがて親となり子どもを持つことについて 考えてみよう	2023年12月19日	岡山県立笠岡商業高等学校	宮島裕子
心と体の健やかな成長を育もう 1) 子どもの脳の発達の特性と基本的な生活リズム・生活習慣の自立 2) メディア接触の注意点	2023年10月27日	笠岡市立北川小学校	宮島裕子
心と体の健やかな成長を育む 1) 生活リズム「食べる・眠る・遊ぶ」 2) 心の発達とメディア接触の注意点	2023年12月 6 日	井原市立出部幼稚園 子育て講座	宮島裕子
アナフィラキシー出現時の対応 エピペンの使い方	2024年 2 月28日	太陽の森認定こども園	すこやかこどもプロジェクト
「体と心の自分育て」 自分の成長を楽しみながら「折れない心」を育てましょう	2024年 3 月 6 日	笠岡市立神内小学校 学校保健委員会	宮島裕子
わかりやすい食物アレルギーの知識と緊急時の対応について・エピペン実習	2023年 9 月17日	アレルギーサークル「ハッピースマイル」浅口医師会	林 知子、湯本悠子
看護の出前講座	2023年12月12日	岡山龍谷高等学校	看護部

笠岡市：若い世代の子育て意識啓発事業（岡山県立笠岡商業高校）

「高校生の君たちへ：

自立し社会人になる事と、やがて親となり子どもを持つことについて考えてみよう」

副理事長（小児科） 宮島 裕子

笠岡市の少子高齢化対策の一環として高校生に将来、社会人として地域に生き親となることなど想起できるよう2016年より市内の高校に出前講座を始めました（2016年笠岡高等学校 2年135名、2017年笠岡工業高校全学年460名、2018年笠岡商業高校 3年156名）。コロナ禍にて4年間休止していましたが、2023年12月19日に笠岡商業高校 3年生107名に1時間20分の講演、質疑応答を再開しました。

まず海外からみた日本国、郷土岡山について：出生数の推移と人口構成：妊娠出産、年齢と卵子・精子の

関係など：自立とは（自分育て、自己肯定感）：子育て親育ちの醍醐味、子育て支援など日頃から診療現場で高校生達に考えて欲しい点も交えました。IT設備の整った多目的室で真剣な眼差しで聞く姿に将来への強い意欲が伝わってきました。後日、個人のパソコンから提出した前向きな感想の数々をいただき、これからの若者達が生き生きと活躍できる社会、会社、子育て支援を物心両面から構築すべき我々の責任をあらためて痛感しました。

自立し社会人になる事と やがて親となり子どもを持つことについて考えてみよう

・・・まず最初に日本国、郷土岡山について・・・

- ① 少子高齢化の現状
～～出生数の推移と人口構成
- ② 妊娠・出産について
～～妊娠適齢期は？ 年齢と卵子・精子の関係
- ③ 人類の特性・社会人となり自立するとは？
～～自分育てを続けよう
- ④ 子育て親育ちの醍醐味

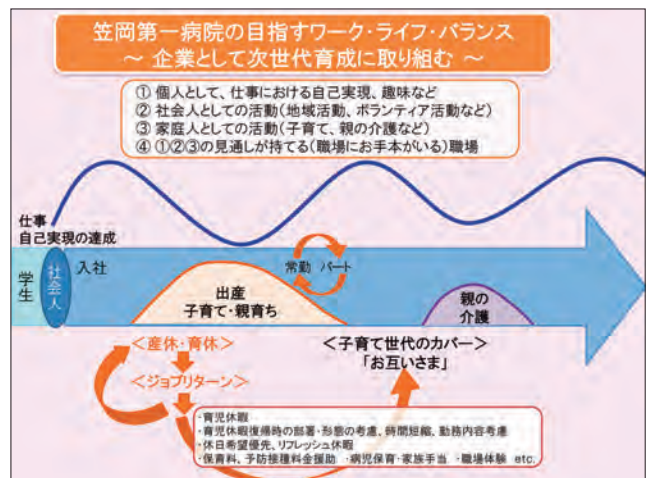
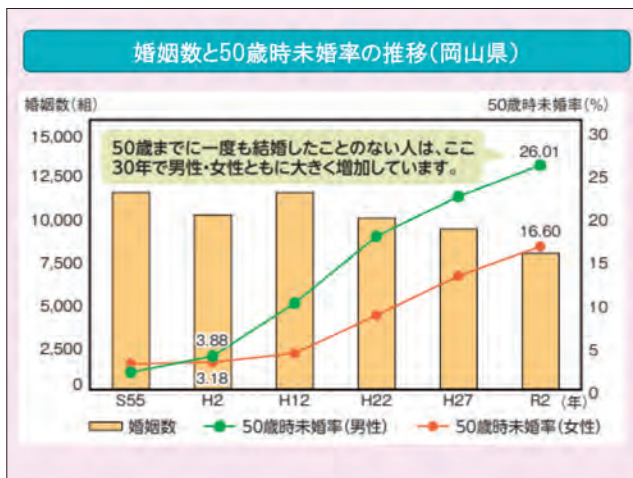
日本の自然・人・国について

国土・自然
面積―― 61番目/194カ国(決して小さくはない)
位置―― 南北に長い:北緯40度～亜熱帯:夏に雨: 植物生産性、生物多様性
→自然回復力、自然治癒力が豊か ⇔ 自然を守る政策が乏しい
周囲を海で囲まれた島国→水が豊富 海岸線が長い(農業、漁業の成立)

長い歴史
*縄文時代から4000年 奈良・飛鳥時代からの文化遺産の存在
*江戸時代の長い鎖国から明治で急速に国際化
*天災・災害の歴史 戦争(侵略)の歴史

国民性
人口―― 12番目/194カ国(1億2,330万人)
植物原理(植物+魚:囲い込まない) ⇔ 動物原理
言論の自由。宗教の自由
戦後の目覚ましい復興:季節や風土の豊かさ×民族性
日本ブランド(教育・器用さ・上昇志向=開発・工夫)
新しい価値観(頭から生み出す資源=アニメ、科学、文学)

若い君達に期待すること:
世界に羽ばたき “鳥の目、虫の目”を駆使して
自分の未来設計や自分育ての糧となる多くの経験を進んでしよう!



④子育て親育ちの醍醐味 ―― 子どもを持つことはリスクでしょうか？

マイナス面

時間的な負担 経済的な負担 精神的な負担
 ～～自分の自由が奪われる
 ～～子育てに掛かる時間、費用などの負担が心配
 ～～子育ての責任(病気・事故など)が不安
 ～～子どもの教育や将来に責任が持てない不安

プラス面

～出産・育児という新しい経験と知識
 ～私達が育てなければ。。。責任・全面的に頼られる立場
 ～人との関わり、社会との関わりが広がり(PTA、子育て支援課)
 ～子育て親育ちの経験の積み重ねが自分育てとなる。
 しんどくても楽しい。そして、子ども達から
 未来につながる元気と勇気をもらう →それが子育てです。

～まとめ

- ① 少子高齢化の現状
～～出生数の推移と人口構成
- ② 妊娠・出産について
～～妊娠適齢期は？ 年齢と卵子・精子の関係
- ③ 人類の特性・社会人となり自立するとは？
～～自分育てを続けよう
- ④ 子育て親育ちの醍醐味

世界の中の日本人として社会の問題点などに関心をもちましょう。

人生設計において、それぞれの適齢期があることも知しましょう。

よかった探をして自己肯定感や自分育てを続け自立しましょう。

子どもを持ち親になる経験は、喜びが多く、世界も広がります。

今日、帰って親御さんにあなたの存在を聞いてみましょう。
 きっと、「あなたがいてくれて良かった。あなたの親であることが幸せな喜びです」と答えて下さるでしょう。

最後に皆さんの未来予想図が
 自分色に輝き実現するよう心からお祈りします。

＜笠岡商業高校3年生からの感想より抜粋＞

- ・子どもを育てることは大変な事だが、自分にとっての成長もあり良い事たくさんあるんだと思った。
- ・親がどんな気持ちで子どもを育てているのか知ることができ、親への感謝を感じた。
- ・少子高齢化で、岡山県の具体的な数字が知れたことが印象に残っている。
- ・妊娠、出産は女子だけの問題でなく男子も考えていけないといけないと改めて感じた。

- ・もし将来子どもができれば、しっかり親に育ててもらった分、自分の子どもにも愛情を注ぎたいと思った。
- ・晩婚化や晩産化が進んでいるが、一人一人が積極的に子育てに携わることが重要だと感じた。
- ・始めて知ることが多くて講義を受けてとてもためになったと思う。言い訳をすぐしてしまったりするのでそれを止めて、「やれない理由」を探すより「やれる方法を考え」ようと思った。

看護の出前講座（岡山龍谷高等学校）

2023年12月12日(火)に岡山龍谷高等学校で「看護の出前講座」を行い、2年生と3年生の21名（男子5名、女子16名）が参加されました。

ミニ看護体験では包帯法・聴診・血圧測定を行いました。聴診器で呼吸音や心音を聞いたときは「聞こえる、聞こえる」と伝え合ったり、包帯体験では「固定できている感じがする」「こんな巻き方で合っています？」など質問も聞かれ、意欲的に取り組む姿がみられました。

座談会では、将来になりたい職業とその理由やきっかけを看護師から尋ねました。

今回参加した生徒の皆さんのうち、看護師や理学療法士、作業療法士、消防士、言語聴覚士、医療事務などを目指している方は約6割で、「担当してもらった看護師さんが優しかった」「家族がしているから」「家族に勧められた」という回答がありました。

また、「仕事をしていてしんどい事があった時、気持ちの切り替えはどうしていますか？」など質問があり、将来について真剣に考えていることがわかりました。

4 階病棟 水ノ上かおり・三宅 香織

コロナ禍で看護体験などの行事開催が困難な時期が続きましたが、少しずつ行事が行われるようになりました。これからも地域医療を支える病院の看護師として生徒の皆さんの進路選択のお手伝いができればと思っています。

1. 講師自己紹介・病院紹介

2. 看護の仕事について

- ・岡山県看護協会発行「Nursing Path」供覧し看護の仕事、看護の道について説明

- ・日本看護協会「キラリ！看護のシゴト」動画視聴

3. ミニ看護体験（包帯法・聴診・血圧測定）

生徒が2人1組になって、包帯法・聴診・血圧測定を体験

4. 座談会

- (1) 生徒に質問：将来になりたい職業はあるか、何かきっかけやエピソードがあるか
- (2) 看護師より：看護師としての経験談、学生生活で大切なこと



10 プロジェクト

すこやかこどもプロジェクト

長期間にわたるコロナ感染症の制限の多い生活下で成長期の子ども達は心身ともに様々な影響を受けてきました。特に0歳から15歳までの脳や身体機能が大きく成長する小児期の子ども達への影響は大きく、今後社会問題の一つになりそうです。私達小児に携わるスタッフは今年度下記の①②③を主軸とした「すこやかこどもプロジェクト」を立ち上げ、子ども達の多彩な声なき声を小児科診療の現場でキャッチし、保護者や地域、教育現場の皆様と共にその対応を学び実践して、子ども達一人ひとりに適した心と体の回復と成長を一步一步サポートしていきたいと願っています。

昨年度まで食育プロジェクト・絵本プロジェクト、また小児科チームによる家庭看護力向上など、各々で院内外での啓蒙活動を行ってきましたが、今後は少しずつ織り交ぜながら1つの小児科プロジェクトとして統一し多職種で意見を出し合いながら地域の皆様へ発信できるチーム作りを目指せたらと日々邁進しております。

①外来診療では様々な疾患対応や注意点など幅広いサポートを行います

子どもたちにきちんと分かりやすく説明をすることで、「自分の体に興味を持ち、自分の健康を自分で守る大人」に成長するよう心がけています。また子どもだけでなく家族の不安にも目を向けた医療・看護が重要と考え、日頃の健康のチェックポイントや心の不安・しんどさの身体表現やその対応など、保護者の皆様への子育てサポートもしたいと考えています。

具体的な対応としてアレルギー診療では、スキンケア指導・吸入指導・エピペン指導・食物負荷試験の流れなどを動画や実技指導も踏まえて説明したり、小児肥満の診療では児の食事や運動指導など個別に行い、定期受診時に今後の見通しや次回までの食事・運動の目標を母子一緒に話し合い健康への意識付けに努めています。

また、外来待合では、日々の生活の気づきや注意の啓蒙等の掲示を行っています。季節に合わせ「子どものケガ」「熱中症」「食中毒」「アレルギー性鼻炎」などの掲示を行いました。

<待合掲示（患児・保護者への啓蒙活動）>

- ・こどもの誤飲事故（1月）
- ・熱中症（5月）
- ・9月9日は救急の日（9月）

小児科医師 湯本 悠子・小児科外来スタッフ一同

・乳幼児突然死症候群（SIDS）（12月）



②子どもの脳や身体の成長発達や社会性の発達も共に考えていきましょう

昨今スマホなど子どもの脳の成長発達に大きな影響となりメディアとの付き合い方が問題となっています。スマホ以外に子ども達が興味を持ち打ち込めるも

のを見つけ出すことが大切です。子どもの健やかな成長の手助けにと、待ち時間の親子時間に季節や各年齢に合った絵本を準備しています。言葉が分からずとも絵本を読んであげることによって子どもの言葉や認知能力・社会性の発達を促し、想像力・共感力・感受性を身に付けていきます。また人とのコミュニケーションの方法や、いろんな世界を学ぶツールとしてもぜひ手に取ってもらえたらと思います。

<待合掲示「えほんのこうか」7月>



<絵本読み聞かせ 2023年12月15日>



③「こども健康教室」「出前講座」「親子活動」「元気キッズ」では、情報を発信します

「子ども達の心と体の健やかな成長」を願って、子ども達及び、地域の皆様方、保護者の方々、子ども達に関わる先生や職員の方々に、日常よくある疾患対応、生活注意点、食育、事故防止、スキンケア、感染防止、食物アレルギー対応、食事など「こども健康教室」(web配信あり)、「出前講座」を実施しています。今年度の

出前講座（地域の小学校、こども園など）では、私達スタッフも子どもや皆様から学ぶ事も多く、日常診療につながるヒントをいただいています。

加えて今年度は、健康増進クラブ ONE で健康運動指導士や管理栄養士と連携して、運動習慣を身につけたり、楽しく運動したい子どもたちを対象に月2回土曜日に＜元気キッズ＞をはじめました。ワクワク・ドキドキしながら共に頑張る達成感や、一緒に運動する楽しさを子ども達と共に体験して心と体の成長に役立ちたいと考えています。

<こども健康教室開催 2023年9月20日>

「日本でこれから心配な感染症は？」

－世界と比較して遅れているワクチンは何？－

【講師】小児科医師 寺田喜平

【参加人数】42名

【参加者感想】

- ・子どもの注射は大変だったなあとしながら思い出しました。子宮頸癌のワクチンは接種させたいなと思います。
- ・副作用があったなどの情報に惑わされずに正しい情報を知っていかなければと反省しました。
- ・とても参考になりました。予防接種の大切さについて住民に伝えていこうと改めて思いました。



<出前講座 2024年2月28日>

：太陽の森認定こども園>

「食物アレルギー

アナフィラキシー出現時の対応」

【講師】小児科医師 湯本悠子

小児科看護師 渡邊瑞穂・三鼓梨帆

【参加人数】16名

【参加者感想】

- ・医療者に食物アレルギーに関しての質問をできて疑問や不安が解消された。
- ・実際にエピペンのしくみや使用法を学べてよかった。



＜出前講座 2024年 3 月 6 日

：笠岡市立神島小学校 5・6 年生、保護者＞
「折れない心（レジリエンス）を育てましょう」

【講師】小児科医師 宮島裕子

【参加人数】40人

【参加者感想】

- ・先生の話聞いて勇気づけられました。心が折れそうになっても自分をほめて成長したいです。すごく心にひびきました。（小5女子）
- ・「スモールステップ」で少しずつでもチャレンジして、中学生になってもやれる方法を見つけて10回やるつもりで計画し中学生生活に活かしていきます。今

レジリエンス「折れない心」をつくる3つの習慣

①挑戦：小さなチャレンジをする習慣をもつ

ちょっと意識すればできる小さな目標をもちましょう。
毎日少しずつ、小さな挑戦やチャレンジをくり返し取り組んでいく習慣をつけましょう。

→チャレンジする心はストレス耐性を上げてくれます。

②一日をふりかえる習慣を持つ

チャレンジした自分をしっかり褒めてあげましょう。
できた・できないの結果にこだわらず、さらによくなるためにはどうすればよいかを振り返りましょう。

→一日をふりかえる事は自分の成長と心の整理につながります。

③自分の目的（ミッション）をしっかり持ちましょう

「何のために」頑張って取り組んでいるのか？

「どうして」その目的をかなえたいのか？をはっきりしましょう。

心が折れない人に共通する習慣

①最初から10回やるつもりで挑む

→10回やればだれでも成功する。

×10回やる前に止めてしまわないで。。。

＜止めてしまう理由＞

最初から1回でうまくいっていると思っていると、2-3回失敗でショックが大きく「もう無理、もうダメ」をあきらめてしまう。



②時間切れにならない工夫をする

最初から10回のもつりで計画

なんとかなる

ヘルプ！→助けてくれてありがとう

やってみよう

ありのままに

日は私達のために本当にありがとうございました。

（小6女子）

- ・「折れない心」をつくる3つの習慣や目標を持つ事を知りました。心が折れそうになったら今日の事を思い出したいです。（小6男子）
- ・「子供の心が折れてしまった時」親として不安がずっとありました。お話を聞き、折れた時でなく折れない心を家族全員が寄り添い意識してつくって行きたいと思いました。（保護者）

＜元気キッズ 2023年 8 月～月 2 回＞

【講師】健康運動指導士 石部豪・戸田駿也

【参加人数】のべ99名

子どもたちや保護者に興味がある話題に関して、健康運動指導士・管理栄養士・小児科看護師／医師のミニレクチャーも行っています。

☆2023年度 ミニレクチャー☆

管理栄養士 食事・おやつのお話

小児科看護師 こどもの生活注意点

健康運動指導士 運動について考えてみよう

【参加者感想】

- ・いろんな運動ができて楽しい！
- ・遊びに取り入れられる運動がたくさんあり、勉強になりました。家でもやってみます。
- ・お友達と体を動かしたり、お話を聴いて手を挙げたり、楽しそうな姿が見られてうれしいです。



がんチームプロジェクト – 3年目 –

外科 藤井 研介

現代社会において、がんは私たちの生活に密接に関わる疾患となっています。統計によれば、2人に1人ががん罹患するとも言われており、誰もががんという病と向き合う可能性を持っています。地域社会においては、がん診療を受けるためのアクセスの問題が浮き彫りになっています。高齢者をはじめ、移動に困難を抱える方々にとって、適切ながん検査や治療を受けることができるかどうかは、地域医療の水準に大きく左右されます。

このような背景のもと、当院は手術の受けられる病院であるとともに、がん患者さんとその家族をサポートするための総合的な取り組みとして、「がんチームプロジェクト」を推進しています。このプロジェクトは、医療の質の維持と向上、そして何よりも患者さんとその家族が地域で安心して生活できるよう支援することを目的としており、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、公認心理師、医療ソーシャルワーカー、歯科衛生士、医事課など、多職種が連携し、各側面からがん診療に取り組んでいます。2021年にプロジェクトを開始して以来、私たちは化学療法、緩和ケア、患者家族支援という3つの主要な活動領域に分かれて活動してきましたので、いくつか紹介します。

＜化学療法チーム＞

2023年4月から当院は日本がん治療認定医機構の認定研修施設として認可され、標準的ながん薬物療法の提供を続けています。さらに、チームカンファレンスを定期的に開催し、治療方針の確立に努めています。近年、免疫チェックポイント阻害薬の導入は多くのがん疾患において新たな治療の選択肢となり、注目されています。これらの薬剤は画期的な効果を期待できますが、免疫関連有害事象（irAE）への注意も必要です。我々は、専門的な知識を深め、地域の患者さんへの最大の利益を目指しつつ、安全な治療の提供に努めます。

がん薬物治療を受ける患者さんの体力維持は非常に重要です。そのため、栄養管理科や歯科のチームサポートを得て、食欲を促進させるための支援や補助薬に関する勉強会を開催しています。これは、患者さんが治療を継続する上で、体力を維持して治療を継続できることを目的としています。

2024年4月からは、当チームは「がん薬物療法レジメン委員会」として新たなステージに移行します。この変化を通じて、我々の活動をさらに発展させ、患者さんにとってより良い治療環境の実現を目指していきます。

＜緩和ケアチーム＞

2023年7月より、緩和ケアチームはチームラウンドを実施するようになりました。この取り組みは、各医師だけでなく、病棟看護師や理学療法士など、多職種からの支援要請に基づいています。ミーティングを通じて、支援の輪を広げ、患者さんの痛みを和らげるための鎮痛剤（オピオイド）の適切な使用や、生活の質を向上させる鎮痛補助薬の検討などを行っています。また公認心理師の介入を通じて、患者さんが求める緩和や環境を多職種で探求し、それに向けた支援をチームで提供しています。

2024年3月14日には、院内研修会として「緩和ケア事例検討会」を開催しました。この会は三原市医師会病院の助信わかな先生を講師として迎え、全職員を対象に行われました。グループワークを通じて、患者さんとその家族を中心とした緩和ケアについて再考し、深く学ぶ機会となりました。患者さんとその家族が最終的な時をより良いものにするため、継続したチーム活動を心掛けたいと思います。

＜患者家族支援チーム＞

患者家族支援チームの設立以来、症例検討やカンファレンスを通じて、多くの重要な課題が浮かび上が



りました。これらの活動を重ねることで、病院内において、患者さんとその家族に対する支援のあり方についての共有された理解が深まってきました。地域で闘病される方、終末期を迎える患者さん、そしてそのご家族が最も必要とするのは、迅速かつ安心できる支援です。

特にがん患者さんと、その家族の方々が何を求めているかを理解し、それに応じた支援を提供することの重要性を認識しています。介護申請やサービス調整など、必要な支援を迅速に提供するために、医療ソーシャルワーカーを中心としたチームでの連携を強化してい

ます。地域によってはホスピスのような専門施設はありません。このような環境下での治療継続や在宅復帰に際して、当チームが果たすべき役割は大きく、その自覚のもとで活動を続けています。

本年度報では、2023年度の各チームの活動内容と、私たちの取り組みが地域社会にもたらす影響について紹介しました。がんという病に立ち向かうすべての方々への支援を通じて、私たちのチームが築き上げる絆と、それによって広がる希望の輪を、これからも広げて参ります。

職場体験プロジェクト

宮島 裕子・吉水 由美・東山 裕美

第15回わくわく・Work・笠岡第一病院探検隊 !!

【実施日・開催場所】

2023年8月1日(火)午前8時30分～午後6時
医療法人社団清和会 笠岡第一病院・瀬戸いこい苑

【参加者】

プロジェクトスタッフ21名
当法人職員の子ども（小中学生）41名
あかグループ18名（小学1～3年生）
あおグループ23名（小学4年～中学生）



<活動18年を迎えて>

私達清和会の440人全職員のうち女性は329人と75%を占めます。又、全職員の中の32%（141人）が15歳以下の子どもを子育て中で、15歳以下の子どもの総数は237人にも及びます。この237人の仲間の子ども達の成長に責任の一端を担う企業でありたい、子どもが心身共に健やかに育つ社会環境づくりを行政や地域・学校のみ任せではなく、子育て支援も経済的支援・時間的支援を越えた包括的支援（子育て・親育ちを包括的にサポートする企業）を目指したいと2006年にプロジェクト活動が発足しました。

父母が毎日働く医療・介護現場は小中学生にとっては非常に興味深く“社会への扉”であります。親がどのような役割で仲間達とどんな仕事を造り上げているのか？現場での体験はワクワク・ドキドキに満ちています。そして参加した自分達を大人達が大切に思い温かく受け入れてくれている事を実感します。活動を通じて人間観察の妙やコミュニケーション能力や絡み合う困難さ・面白さなど貴重な経験となります。18年の活動を経て病院全体が「わくわく」の愛称で親しみを持って子ども達を迎えて下さり、活動内容の提案や医療体験の協力も次々に手を挙げて真に「子どもの存在が職場で当たり前になった子どもに優しい企業」にま

で育ちました。

また岡山県教育庁生涯学習課企画推進班作成のパンフレット『「おかやま☆子ども参観日」事業者募集～子どもたちの未来のために～』に当院の私達の活動内容が掲載されています。

<参加する子ども達への配慮>

- ①子ども達の自主性を育む・お客さん扱いしない：
 - ・参加希望・やりたい事なども子ども宛てに直接お手紙を送り自分で考えて決めて返事をもらう。
 - ・準備、後片付けなどもできる範囲で参加する。
- ②社会人としてのルールを守る：
 - ・活動時には「お願いします」「ありがとうございました」など挨拶をする。診療や患者の皆様の邪魔にならないように静かに安全に行動する。
 - ・初めてのお友達に名刺交換や自己紹介をして話合いながらチームで仲良く楽しく活動する。
 - ・活動終了後に参加した子と親から感想のお手紙をいただき今後の活動に活かす。
- ③スタッフは子ども達に平等に接し、しっかり話を聞き褒める点を見つける。礼儀や躾などの注意は我が子と思って対応する。
- ④参加の子どもに親の頑張っている所、長所、すばら

第15回 わくわく・Work・笠岡第一病院探検隊！！

<スケジュール>

- 開催日時：2023年8月1日（火） 8:30～17:30
- 参加者：当病院職員の小学生・中学生 42名
- 実行委員：笠岡第一病院職場体験プロジェクト 21名

8:30 9:00 10:00 11:00 12:00 13:00 13:30 14:00 14:30 15:00 15:30 16:30 17:00 17:30

あかグループ 18名(小学1年～小学3年)

開会式	グループオリエン	①湯本先生 「心臓のお話」	②工作 「聴診器を作ろう」	③運動 「運動後の心音を聞いてみよう」	昼食・質問タイム 看護部長・院長・専務部長・医学部長	エプロンシアター	お父さんお母さんの様子紹介	職場探検(外来部門) *スタンブラリー	裕子先生のお話	おやつ	名刺交換 〇×クイズ	本日のまとめ	片付け	閉会式
多目的	瀬戸ライブ5階				ラウンジ	小会議室	多目的	小会議室	食堂	多目的ホール				

あおグループ 24名(小学4年～中学3年)

開会式	グループオリエン	①事務長と看護部長のお話	②裕子先生のお話 (病院お仕事について)	「心と体について」 「なりきり医療人」	★専門職のお話 (看護・介護体験)	①血圧測定 ②包帯 ③食事介助 ④介護・車椅子体験	昼食・質問タイム	片付け	お父さんお母さんの様子紹介	医療技術部体験 放射線検査・薬局・リハビリ・栄養科	おやつ	名刺交換 〇×クイズ	本日のまとめ	片付け	閉会式
多目的ホール		ラウンジ				外来		職場探検(外来部門)		食堂		多目的ホール			

しきなど同僚からしっかり伝える。

病院・各部署と感染防止の検討を重ね4年ぶりに15回目の開催を迎える事が出来ました。活動メンバーも約3分の1が新しく加わり緊張と手探りの中協力して頑張り成し遂げることができました。

今回はコロナ感染防止の視点から入院・入所現場での活動は控え、外来部門での活動に制限しました。活動の基本となる親の職場訪問については、外来は従来通り現場で体験・見学しましたが、入院・入所部門では保護者の方に会場にお越し頂き、親の仕事の紹介や子どもからの質問タイムを設けるなどの配慮を行って活動の作り込みました。制限の多かった3年を一気に取り戻したかのような子ども達の弾ける笑顔や「めっちゃ楽しい！」の声に、充実したワクワクの一日の体験となりました。ご協力下さった各部署の皆様方に感謝すると共に、4年ぶりに新メンバーも加わり緊張の多い、改めて活動の意義を痛感する一日になりました。

【参加した子ども達からの手紙】

- ワクワク体験を自主勉強にいかそうと思った。
もっと病院にいたかった。来年も行きたい！100回でも行きたい！
- 病院のお仕事は毎日患者さんが来て治療しなければ

ならなかったり、時には早くしないと命があぶないという人も来ていると分かりました。でもどんなに大変でも苦しむ人に寄り添い、大切な命を毎日救っているのはスーパーマンみたいでかっこいいと思いました。

【保護者からの手紙】

○帰り道で「今日ね心臓の音を聞いたんよ。ネズミは300回も動くんだって」と目をキラキラさせながら話してくれました。家に帰って夕食後にお皿洗いをしてくれていました。「どうしたの？ありがとう」と言うと「宮島先生がね、ゲームや携帯はあまり見たらいけないよ。お母さんのお手伝いできることをしてあげてって言われたんよー！」とすました顔をしながら教えてくれました。

○子どもの事は私から聞くことは多いですが、私自身の事を話す事があまりありませんでした。

今回「わくわく」に参加して「親の仕事を知りたい」という思いを持ってくれている事が分かり、仕事の話等交えながら社会についても伝えていけたらいいと思いました。

○始めてのお友達とも話しができて仲良くなれたそうです。人との関わり、将来の夢への選択肢がふえると嬉しいです。

○グループ別の活動は分かりやすく楽しかったようです。職場訪問やなりきり医療人の活動をもっとしたかったと話していました。
○忙しい仕事の中、前々からいろいろと準備をしてく

ださって、子供目線で取り組んでくださることに感謝です。ありがとうございました。
○親としても子どもとしてもいろんな人に支えられて育てられていると改めて感じました。

あかグループ（小学1－3年生）
心臓のお話・聴診器作り



エプロンシアター：ウンチの話・食べ物のお話・生活リズム



あおグループ（小学4年～中学生）
なりきり医療人（看護・介護体験）



医療技術体験（栄養管理科・薬剤管理科）



【活動への思い：～子ども達に体験の場を～】

だれもが子ども達が「心身ともに健やかに、自分らしく生き生きと育つ」ことを願っています。

小さな心がワクワクする体験の積み重ねにより、じっくりゆっくり醸成される「小児の心と体の成長」は現代社会の複雑化、スピード化の中で気付かないうちに押しつぶされ歪められてしまいがちです。

とりわけパンデミックコロナ感染症は、行政・家庭・教育機関・企業等世界規模で、子どもの成長への配慮が後回しにされた4年間でした。

「子どもの体験活動が成長にもたらす影響に関する調査(2020年文部省調査)」によると、自然体験(キャンプや登山・ハイキング)、社会体験(職業体験やボランティア)、文化的体験(博物館・美術館見学や音楽観賞)などの体験活動は「自分に対して肯定的になったり」「授業が楽しい、学習意欲」「新しいことに興味を

持つ」など子どもの成長によい影響をもたらす。と体験活動の重要性を明らかにする報告があります。

18年前から始めている私達のこの活動が図らずも参加した子ども達に上記体験活動の一助となってくれていればこれほどありがたい事はありません。

また院内での活動を通じて、職員の意識の中に「子どもの成長に対する意識や社会的責任の醸成」「職員同士の思いやりやお互いへの感謝の気持ち」が育まれてきたことをとてもうれしく思います。

この活動を支えるプロジェクトスタッフ全員と、活動の続行を許し見守り協力してくださる職員の皆様および企業に感謝致します。

多くの人の協力の元に18年間積み重ね続けて、当院の特徴でもあるこの活動が、「子どもたちの生きる力」の礎のプレゼントの一つになるよう、可能な限り続いてほしいと願っています。

糖尿病サポートチーム

【構成メンバー】

内科：原田和博医師 糖尿病内科：浜本純子医師

糖尿病看護認定看護師：水ノ上 かおり

日本糖尿病療養指導士(CDEJ)：簗 美晴、吉田君子(看護師)、松田 桂(理学療法士)、大島 渉(薬剤師)

おかやま糖尿病サポーター：田口浩子(保健師)、小川真野(看護師)、操田結花(理学療法士)他チームメンバー以外で10名が取得

その他：奥野理恵(看護師)、石田陽子(視能訓練士)、石部 豪(健康運動指導士)、前田晶子(歯科衛生士)、福永実加(公認心理師)、笠原萌々華(管理栄養士)

【活動内容】

- ・月2ヵ月ごとの定期カンファレンス(情報交換、ミニ勉強会、事例検討)
- ・糖尿病教育入院や外来糖尿病患者の療養指導
- ・糖尿病教室、世界糖尿病デーイベントの開催

糖尿病看護認定看護師 水ノ上 かおり

糖尿病サポートチームでは2ヵ月毎にチームカンファレンスを開催し、情報交換やミニ勉強会を行いスキルアップに努めています。2023年度は各部署持ち回りで事例紹介を行い、意見交換や医師から病態を学び、糖尿病治療に関する知識を深めることができました。

また今年度はチーム力向上のために、11月2日に渡辺胃腸科外科 薬剤師 大西順子先生をお迎えし、院内スキルアップセミナーを開催しました。サポートチーム以外のスタッフを含め20名が参加し賑やかな勉強会になりました。

組織横断的に活躍されている大西先生ですが、薬剤師外来、在宅医療センターでの薬剤師業務、管理栄養士との定期的な勉強会・症例検討など幅広く活躍され、細やかな支援をされている様子がよく分かりました。また機会があればこのような勉強会を開催したいと思います。

チーム活動として、病棟では血糖マネジメントの必



要な方が入院されると必要に応じてカンファレンスを開催し、治療方針に沿って支援方法を多職種で考えます。ここ数年、以前に増して介入困難な方が増えているのを感じ、カンファレンスでも支援に難渋するケースが増えています。退院後は糖尿病看護認定看護師が外来で面談を行い、継続支援を行っています。

外来では24時間グルコースモニタリング（リブレ）を使用し血糖管理を行う方が増えたため、看護師だけでなく「タスクシフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会」を受講した臨床検査技師が導入指導を実施するようになり、活躍の場が増えました。薬剤師は

自己注射、血糖自己測定指導を担うなど、看護師と連携をとりながら実施しています。

糖尿病教室は現在休止中ですが、今年度は病院の健康教室が再開となったため、11月の糖尿病月間に「正しく知ろう！糖尿病のコト」というテーマで、サポートチームで健康教室を開催しました。久しぶりの対面での糖尿病健康教室でしたが、皆さん展示物を見たり、質問されたり熱心な様子うかがえました。また、以前のような体験コーナーも少しずつ検討していきたいと思っています。

笠岡第一病院
健やかライフメンバーズ

予約不要！参加無料！

11月は糖尿病月間

健康教室

11/15 水曜日

正しく知ろう！糖尿病のコト

今や、糖尿病に関する情報はテレビや雑誌など世の中にあふれています。中には誤った情報や誤解もあり、治療や食事療法の妨げになっていることもあります。この機会に糖尿病について正しく知り、健康作りに役立てていただきたいと思います。

① 正しく知ろう 糖尿病のコト 糖尿病内科医師 浜本 純子

② そうだったのか?! 食生活の見直しと改善のポイント 管理栄養士 笠原 萌々華

※ 新型コロナウイルス感染症の発生状況により中止となる場合があります。その際にはYouTube で配信の『おうちで健康教室』に変更させていただきますのでご了承ください。

日時: **11月15日(水) 午後1時30分～2時30分**

場所: **笠岡第一病院5階 多目的ホール**

★ 感染症対策として、マスク着用にてご来場ください

午後1時開場

(お問い合わせ) ☎ 0865-67-0211

『おうちで健康教室』を開設しています。健康情報を左記コード、当院ホームページからご覧ください。

おうちで健康教室 検索

健やかライフメンバーズ活動目的

① ひとりひとりに合った豊かな健康を医療者と共につくり上げる、自分の健康は自分で守る

② 病気の知識を学び、その予防をする

③ 医療機関と上手に付き合う



11 職員研修旅行

当法人では福利厚生の一環として2年ごとに研修旅行を行っております。コロナ禍により2021年度の研修旅行は中止となりましたが、2023年度には4年ぶりに実施されました。

日程やコースは職員に複数回のアンケートをとりな

がら、なるべく多くの職員が参加できるように企画しています。2023年度の研修旅行は17コース20グループに分かれ、229名が参加しました。普段なかなか接することのない職員とも部署・職種を超えて交流を図ることができました。

行き先	期間	参加人数	行き先	期間	参加人数
北野ホテル世界の朝食(神戸)	11月9日	12名	足立美術館とかに	12月10日	24名
	11月12日	9名	蒜山グランピング	12月16日～17日	17名
大阪とさんふらわあで行く別府	11月11日～11月13日	8名	ジブリパーク(愛知)	1月12日～13日	11名
沖縄(宮古島)	11月14日～11月17日	14名	銀山温泉と蔵王	1月16日～18日	8名
長崎・五島列島	11月18日～20日	8名	劇団四季(大阪)	1月19日	12名
下関とふぐ	11月19日	16名		2月4日	6名
	12月7日	21名	東京	1月21日～23日	8名
東北縦断(青森・岩手・宮城)	11月21日～24日	18名	富士山と河口湖	1月26日～28日	8名
日光東照宮と浅草	11月26日～28日	9名	伊勢志摩	1月29日～30日	13名
高知	12月8日～9日	27名	東京ディズニーリゾート	2月12日～14日	8名

伊勢志摩



下関



劇団四季(大阪)



高知



大阪・別府



東北縦断



銀山温泉と蔵王

2泊3日で銀山温泉と蔵王温泉の旅へ男性8人で行ってきました。

1日目、早朝に岡山駅の新幹線改札口前に集まりました。東京までの約3時間、富士山を横目に朝食をとり、ようやく東京までたどり着きましたが、ここから東北新幹線に乗り換え3時間半の旅です。東北新幹線で昼食を摂り、途中、福島からは在来線の線路を走るため、新幹線のスピードは劇的に遅くなり在来線並のスピードでした。山形に近づくにつれ世界は雪化粧へと変わっていき、終点の新庄駅では少し吹雪いていました。新幹線の旅がここでようやく終わりを告げたのも束の間、ここからタクシーで銀山温泉まで約1時間の移動です。銀山温泉は電球色の明かりが灯り、雪も舞い落ち、本当に幻想的で美しい場所でした。



2日目、立石山寺を訪れました。立石山寺に登る1,000段の階段は前日の雪で滑りやすく、また木に積もった雪が溶けて落ちてくるため、みんなビチョビチョになりながら慎重に登って行きました。この日は本当に良い天気で寒くもなく、全段登った寺からは、雪化粧をまとった山々を望めました。

続いて蔵王に移動。本当はロープウェイで標高1,800メートル地点まで行くはずでしたが、ロープウェイの点検のため、標高1,300メートル地点までの旅となりました。みんな、「樹氷が見れるのかなあ」と心配していましたが、標高1,000メートル地点を越えたあたりから木々は凍り付き岡山ではおよそ見ることはできない幻想的な光景が浮かんでいました。夕食後、部屋に集まり宴会を開催。いろいろと先輩方の話が聞けて、楽しい夜を過ごすことができました。



3日目、9時半に出発し山形駅に向かいました。10時半に山形駅に到着し2時間半のフリータイムです。お土産を買い、昼食を食べ、いよいよ出発の時間を迎えました。こうして、旅は終わりを迎え帰路につきました。

私は初めて笠岡第一病院の職員旅行に参加させていただきましたが、大変楽しく有意義な時間を過ごさせていただきました。次回も参加させていただきたいと思います。

(旅行記より抜粋)

長崎・五島列島旅行記

女性8人旅の始まり！笠岡から在来線で福山駅へ→福山駅から新幹線で博多駅へ→博多駅から特急「リレーかもめ」に乗って武雄温泉駅へ→武雄温泉駅から西九州新幹線「かもめ」に乗って長崎駅にやっと到着。

昼頃に到着して、そこからは各自、自由行動！それぞれ長崎の街を堪能しました。美味しい物をたくさん食べました。

2日目、長崎港へ。前日は強風の影響で、船は欠航だったそうですが、この日は出港するとのこと。なんという幸運。誰が強運の持ち主なのでしょう？ありがたや、ありがたや。いざ、五島列島へ。九州の最西端に位置する五島列島には大小合わせて140もの島があります。そして、島々には50ほどの教会が点在しているそうです。「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として世界文化遺産に登録されました。



3日目、福江島を観光しました。

タクシーの運転手さん、いろんな場所へ連れて行ってくれて、歴史や土地のことをたくさん教えてくれました。五島列島も過疎化がすすみ、かくれキリシタン(学術的には、キリスト教解禁後もカトリックに復帰せず引き続き禁教時代の信仰形態を続けているキリシタンのことをいう)の人数も減ってきているとのこと。タクシーの運転手さんも潜伏キリシタンの末裔だけど、自分は神道を信仰していると言われていました。

厳しい時代の歴史を経て、現在は仏教や神道、カトリックや禁教時代の独自の信仰形態を続けている人など、たくさんの宗教が混ざっている場所でした。

今回の旅は大きなトラブルもなく(お風呂の浴槽で転倒したり、砂浜で尻餅をついた方はいましたが)、天気にも恵まれ本当に楽しい旅でした。



(旅行記より抜粋)

12 院内行事

4月1日

新入職員入社 (19名)

看護師 7名・臨床検査技師 1名・臨床工学技士 1名・
管理栄養士 1名・調理師 1名・社会福祉士 1名・理学
療法士 3名・作業療法士 1名・調理員 1名・病棟アシ
スタント 1名・公認心理師 1名 (パート)



4月3日・4日・15日

新人研修会

(新入職員18名参加)

5月12日

永年勤続表彰

(20年表彰 4名・10年表彰 9名・5年表彰14名)

5月18日

防災防水管理委員会・救急委員会合同研修

「災害医療～あなたは何をしますか？」

NPO 救命おかやま 石井 史子先生

(職員451名参加)



7月20日

新入職員交流会・健康増進クラブ ONE 体験会

(新入職員14名参加)

新入職員のメンタルヘルスの不調やそれに伴う離職を予防する対策の一つとして、初めて新入職員交流会を企画、開催しました。健康増進クラブ ONE の健康運動指導士による軽い運動やレクリエーション、公認心理師から「1人で悩むときのコツ～悩みと“付き合う”か“向き合う”か」の話がありました。

7月26日

健康教室 (サービス向上委員会 P.103参照)

「健康づくりのための運動新常識」

健康増進クラブ ONE 健康運動指導士 石部 豪
(患者の皆様70名参加)



7月29日

第18回上肢外科サマーセミナー in Kasaoka (P.58参照)

「手外科と運動能力を左右する腱の遺伝子」

東京医科歯科大学 システム発生・再生医学分野

教授・スクリプス研究所 浅原 弘嗣先生

「Orthoplastic Hand Surgery を目指して」

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 展開医療科学講

座 形成再建外科学 教授 田中 克己先生

(院内・院外35名参加)



8月1日

職場体験プロジェクト

わくわく・Work・笠岡第一病院探検隊 !! (P.146参照)

(職員の子ども43名参加)



8月18日

倫理委員会・医療安全管理委員会合同研修会

「ACPについて考える」外科 藤井 研介医師
(職員425名参加)



8月19日

健康教室

「もしかすると睡眠時無呼吸症候群かも？」
臨床工学技士 浅尾 昌彦
臨床工学技士 馬場 健人
(患者の皆様31名参加)

9月1日

辞令交付式

9月11日

第28回笠岡症例検討会

年2回、病院と近隣の救急隊との症例検討会を行っています。医師・看護師と救急救命士が実際の症例について双方の立場から活発な意見交換をしています。

9月15日

院内研修(医療安全管理委員会)

「周術期深部静脈血栓症と肺血栓梗塞症」
川崎医療福祉大学 特任教授 種本 和雄先生
(職員109名参加)



9月20日

こども健康教室

「日本でこれから心配な感染症は？世界と比較して遅れているワクチンは何？」
予防接種センター 小児科 寺田 喜平医師
(患者の皆様42名参加)

9月21日

院内研修(禁煙・褥瘡対策委員会)

「けむりの正体はこれだ！煙の中の有害物質」
「DESIGN-R2020と症例検討会」
(職員379名参加)

10月17日・18日

日本医療機能評価受審 (P.133参照)

10月28日

池田清明ふるさとギャラリーお披露目会 (P.123参照)



11月8日・9日

BLS(一次救命処置)研修(救急委員会)

(職員(医師・看護師以外)120名参加)



11月15日

健康教室

「正しく知ろう！糖尿病のコト」
糖尿病内科 浜本 純子医師
「そうだったのか?! 食生活の見直しと改善のポイント」
管理栄養士 笠原 萌々華
(患者の皆様34名参加)

11月25日

大忘年会 (P.156参照)

(職員306名参加)



12月20日

健康教室

「おしりの疾患」
外科 藤井 研介医師
(患者の皆様40名参加)

1月31日～2月3日

令和6年能登半島地震災害医療チーム(JMAT おかやま)第1班派遣(医師・看護師・薬剤師)(P.131参照)

2月3日～6日

令和6年能登半島地震災害医療チーム(JMAT おかやま)第2班派遣(医師・看護師・臨床工学技士)
(P.131参照)

2月17日

業務推進発表大会 (P.134参照)
(職員286名参加)



3月14日

緩和ケア事例検討会 (P.144参照)

三原市医師会病院 助信わかな先生
(職員107名参加)



3月27日

健康教室

「下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術『大きな静脈瘤も無傷で消えます』」
血管外科 松前 大医師
(患者の皆様37名参加)

3月3日

笠岡 ICLS コース

(受講生：職員14名、院外4名、インストラクター：職員9名、院外10名参加)

岡山大学学術研究院医歯薬学域 地域医療人材育成講座
救命救急科 野島 剛先生・救急科 田邊 綾医師に笠岡 ICLS (蘇生教育) コースを開催していただきました。
楽しく学ぶことができたという好評でした。



3月11日

第29回笠岡症例検討会



13 若 葉 会

会長 石部 豪

本会は医療法人社団清和会職員相互の親睦、文化の向上、体育の振興を計ることを目的としています。清和会からの補助金と職員の皆様から会費を徴収させて頂き、事業を行っております。

事業は、1) 慶弔に対する慶弔金の贈呈、2) 文化、体育などの親睦活動として、部活動に対する予算の支

給、3) その他の行事として、職員親睦のイベントの開催、年末の大忘年会の開催、となります。2023年度の部活動として、登山部、軽音楽部、バレーボール部、アウトドア部の4団体の活動がありました。今後も清和会職員相互の親睦活動を中心に支援、推奨していきます。

14 大 忘 年 会

若葉会会長 石部 豪

2023年11月25日福山ニューキャッスルホテルにて医療法人社団清和会大忘年会を開催しました。コロナ禍で自粛を余儀なくされていたこともあり4年ぶりの開催となった忘年会には総勢306名の職員が参加し、マスク越しとは違う笑顔や表情を直に見ながら歓談できる喜びを感じました。

新入職員有志による出し物や軽音楽部のライブ、リ

ハビリテーション科メンバーの会場全体を巻き込むゲームコーナーなどの楽しい余興と、美味しい料理を堪能しながら、部署や職種を越えて親睦を深めました。

久しぶりに清和会職員が一堂に会し、今年一年の締めくくりとして労をねぎらい、来年に向け新たな意欲を高める会となりました。



15 設備（アメニティ）・施設改善

赤迫 圭太

1) 安否確認システム

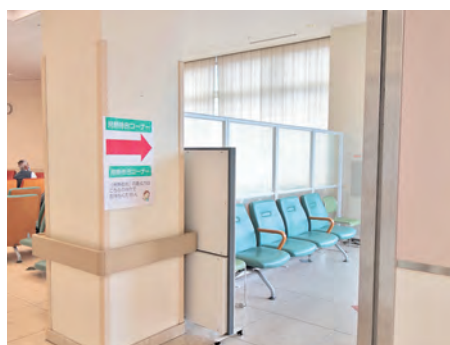
災害時には医療の提供が困難となるケースがあります。災害時に通信インフラが被災し、連絡がとれなくなり、十分な数の職員の確保が困難になることがその主な原因です。そこで今回安否確認システムの採用を行いました。東日本大震災や能登半島地震でも多くの電話回線が不通となりましたが、インターネット回線は比較的繋がりがやすかったという結果を踏まえて、ネット回線による安否の確認や情報の共有を行うシステムです。災害時は気象庁の地震情報や気象警報と連動し、自動で職員へ安否確認を行うことができるようになりました。これにより災害時でも、病院機能の継続が行いやすくなったと考えております。

2) 売店冷蔵ショーケース

売店の冷蔵ショーケース2台を新しいものに更新を行いました。冷蔵効率がよくなり無駄な電力消費が抑えられると期待しております。

3) 1階発熱外来パーテーション

1階夜間出入口前に設置している発熱待合について、仕切りを設置し発熱者のプライバシーの保護と感染拡大防止を図りたいと考えております。



4) 2階ラウンジパーテーション

2階のラウンジでは外来受診の際の休憩や飲食などに利用いただいておりますが、比較的人の通りが多くプライバシー保護の観点から、目隠しのためパーテーションの設置を行いました。



5) 1階ふるさとギャラリー絵画掲示用パネル

1階の池田清明ふるさとギャラリー開設に伴い、絵画がより際だって見えるパネルの設置を行いました。また、照明も絵画用のものに更新・調整を行っております。

6) 磁気活水处理装置

今後、病院配管の劣化が起こる可能性を考慮し、配管内の錆やスケールが発生しにくくなる磁気活水处理装置を試験的に導入しました。今後効果を検証し有用性が認められれば運用の拡大を行いたいと考えています。

7) デジタルサイネージ

2023年10月に行われたピンクリボン月間に合わせて、スポットで設置ができるデジタルサイネージを導入しました。今後、同様のキャンペーンや告知などに利用していきたいと考えています。

8) 健康管理センター翻訳機

年々増加する海外の健診受診者に対応するため、健康管理センターにポータブルの翻訳機を設置しました。

9) タカヤ クリニック照明LED化

省エネとカーボンニュートラルの観点から、タカヤ クリニックの照明を全面的にLEDに変更しました。

10) 病棟掲示板増設

病棟デイルームに設置している掲示板だけでは掲示場所が足らず、掲示物が掲示板からはみ出るなどしていたため増設を行いました。

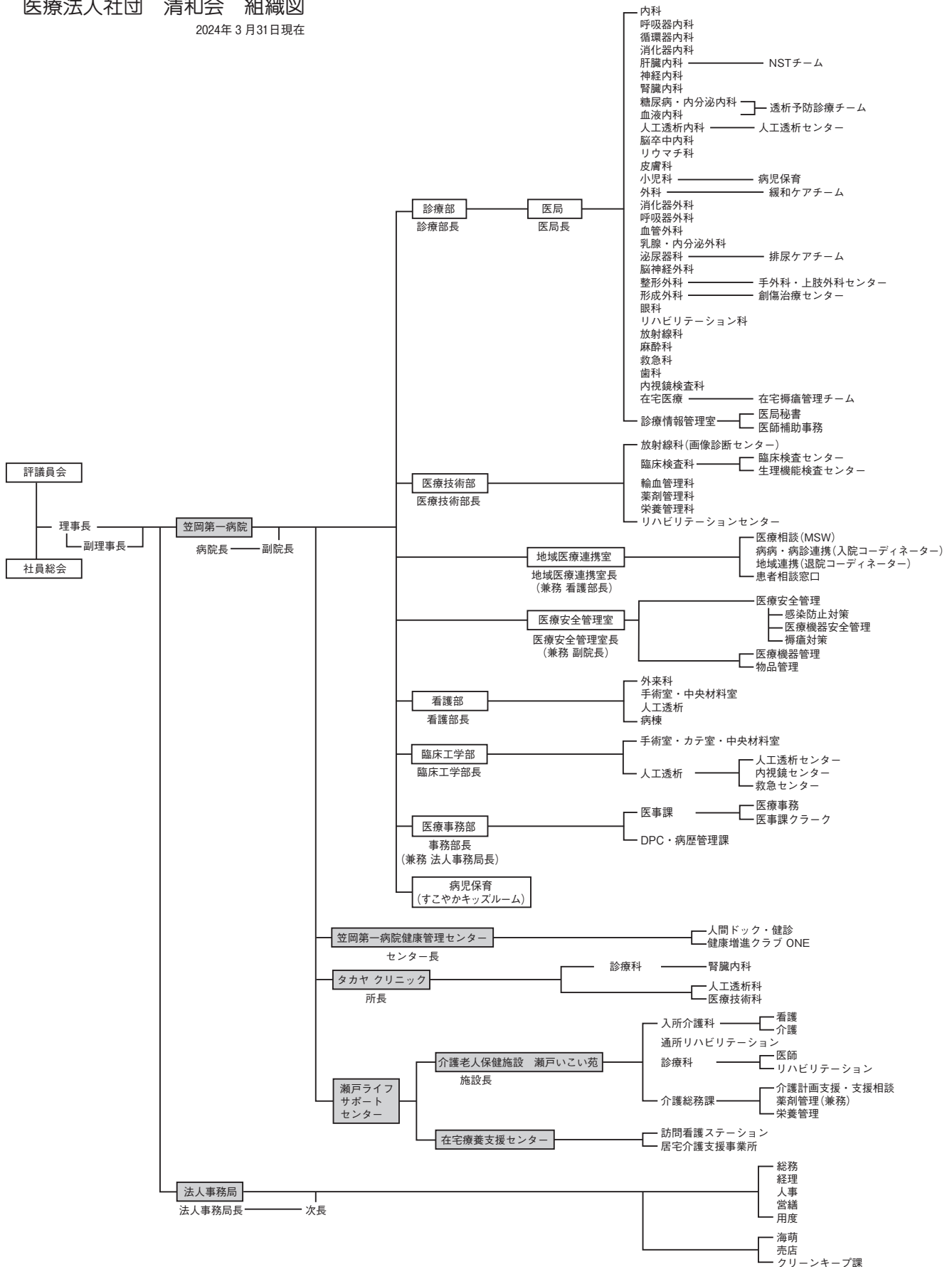


資料

1 組織図

医療法人社団 清和会 組織図

2024年3月31日現在



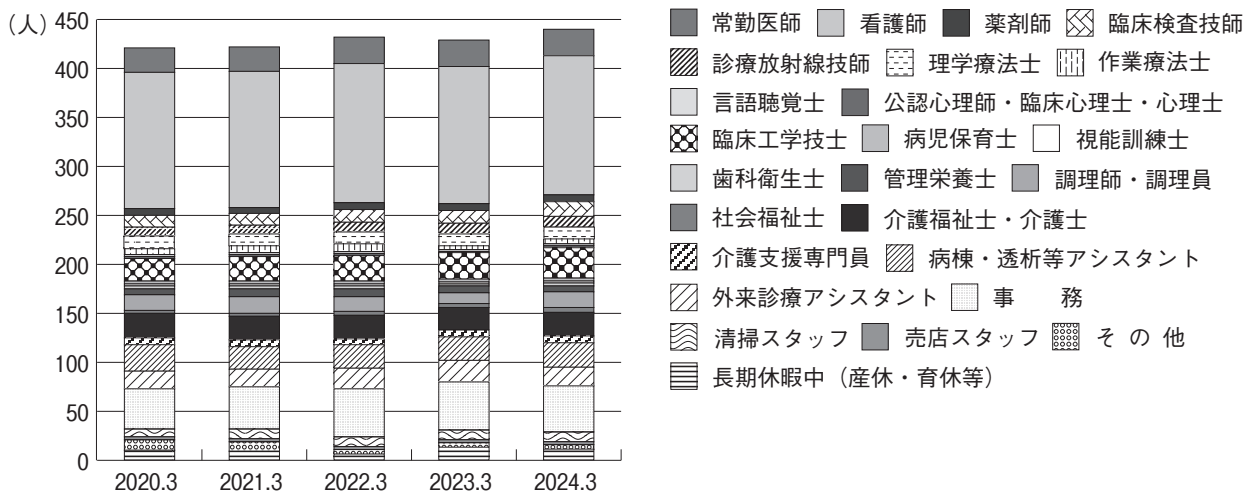
2 職員数変遷

★職種別職員構成の推移と現況（2024年 3月31日現在）

2023年度は臨床工学技士の増員、調理師・調理員の増員がありました。調理師・調理員は減員の補充をしました。臨床工学技士は増員を行い、人工透析センターや手術室以外の業務も開始しました。

	2020年 3月31日	2021年 3月31日	2022年 3月31日	2023年 3月31日	2024年 3月31日	
	職員数	職員数	職員数	職員数	職員数	割合
常勤医師・歯科医師	25	25	27	27	27	6.1%
非常勤医師 実人数	58	57	53	55	54	-
非常勤医師 常勤換算数	8.2	8.7	7.6	8.0	7.6	-
看護師 (保健師・看護師・准看護師)	139	139	142	140	142	32.3%
薬剤師	7	6	7	7	7	1.6%
臨床検査技師	12	12	13	13	15	3.4%
診療放射線技師	9	9	10	11	11	2.5%
理学療法士	13	12	12	12	12	2.7%
作業療法士	6	7	8	4	5	1.1%
言語聴覚士	2	2	2	2	2	0.5%
公認心理師・臨床心理士・心理士	2	2	2	1	2	0.5%
臨床工学技士	23	25	26	27	31	7.0%
病児保育士	3	3	3	3	3	0.7%
視能訓練士	2	2	2	2	2	0.5%
歯科衛生士	3	3	3	2	3	0.7%
管理栄養士	6	8	8	7	6	1.4%
調理師・調理員	16	17	15	11	16	3.6%
社会福祉士	3	3	4	4	5	1.1%
介護福祉士	25	24	24	23	24	5.5%
介護支援専門員	7	7	6	7	7	1.6%
病棟・手術室・透析アシスタント	27	23	24	24	25	5.7%
外来診療アシスタント	18	18	21	22	19	4.3%
事務	41	43	49	49	47	10.7%
クリーンキーパー	8	10	10	10	10	2.3%
売店スタッフ	3	3	3	3	3	0.7%
その他	11	10	5	5	5	1.1%
長期休暇中（産休・育休等）	10	9	6	13	11	2.5%
合 計	421	422	432	429	440	

※非常勤医師は合計に含まれていません。

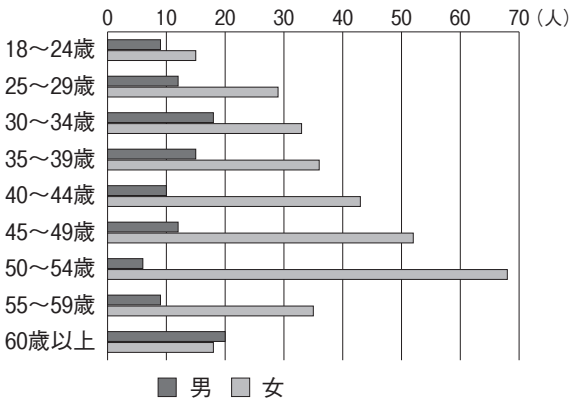
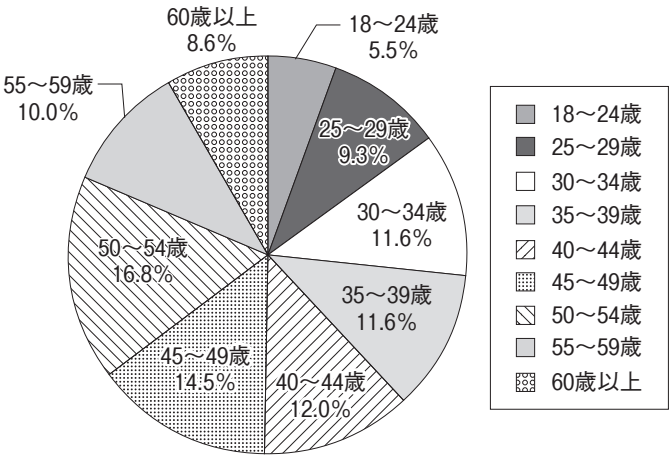


★部署別職員構成の現況（2024年 3月31日現在）

	人数	平均年齢	平均勤務年数
笠岡第一病院	336	42.7	10.7
医局	27	56.1	11.6
診療情報管理室	2	47.5	24.5
地域医療連携室	10	47.1	10.3
医事課（医事課クラークを含む）	27	42.4	11.0
薬剤管理科	8	40.9	13.0
臨床検査科	14	40.4	6.4
放射線科	11	43.5	14.0
栄養管理科	22	38.3	10.7
リハビリテーション科	20	36.3	8.7
歯科	3	43.3	8.0
人工透析センター	34	40.4	9.4
看護管理室（看護部 長期欠勤者を含む）	9	34.2	6.9
外来	56	44.7	12.8
3階	21	43.6	12.9
4階	32	43.7	10.7
5階	30	41.6	9.8
手術室	10	32.4	4.5
笠岡第一病院 健康管理センター	8	42.9	9.4
タカヤ クリニック	15	42.3	7.7
介護老人保健施設 瀬戸いこい苑	44	46.1	13.3
通所リハビリ	7	40.7	10.3
入所	37	47.1	13.9
居宅療養支援センター	9	52.7	12.7
法人事務局	12	48.8	11.8
院内レストラン「海萌」	3	65.0	7.0
クリーンキープ課	10	51.6	4.3
売店	3	54.7	13.3
合計	440	43.9	10.7

★年齢構成（2024年 3月31日現在）

年齢	男	女	人数	割合
18～24歳	9	15	24	5.5%
25～29歳	12	29	41	9.3%
30～34歳	18	33	51	11.6%
35～39歳	15	36	51	11.6%
40～44歳	10	43	53	12.0%
45～49歳	12	52	64	14.5%
50～54歳	6	68	74	16.8%
55～59歳	9	35	44	10.0%
60歳以上	20	18	38	8.6%
合計	111	329	440	



3 施設統計

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症へと移行されたが、発熱患者・感染患者は波があるものの、ゼロにはなっていない。そのような中、入院・外来共に患者数はコロナ禍以前に戻りつつある。科別にみると、2023年度は専攻医が2022年と比較し少なくなった事による内科の減少が目立つ。小児科は入院・外来共に大幅に患者数が増えた。介護部門である通所リハビリや訪問看護はスタッフ減少に伴う規模縮小により、利用者減となった。

患者数推移

1-1 在院患者数（月別）

	2022年度		2023年度		増減数	増減率(%)	平均在院日数	
	患者数	構成比(%)	患者数	構成比(%)			2022年度	2023年度
4月	2,961	8.1	3,113	8.0	152	5.1	12.8	15.1
5月	2,992	8.2	3,298	8.4	306	10.2	15.2	14.0
6月	2,881	7.9	3,211	8.2	330	11.5	11.8	12.9
7月	3,114	8.5	3,384	8.6	270	8.7	13.7	13.6
8月	3,062	8.4	3,310	8.5	248	8.1	12.5	13.3
9月	3,023	8.3	3,226	8.2	203	6.7	13.2	16.0
10月	3,031	8.3	3,259	8.3	228	7.5	13.0	16.0
11月	2,838	7.8	3,246	8.3	408	14.4	12.6	15.0
12月	2,968	8.1	3,235	8.3	267	9.0	13.4	14.0
1月	3,167	8.7	3,348	8.6	181	5.7	21.5	16.5
2月	3,047	8.3	3,190	8.1	143	4.7	15.0	14.7
3月	3,443	9.4	3,328	8.5	△ 115	△ 3.3	14.9	14.5
合 計	36,527	100.0	39,148	100.0	2,621	7.2	13.9	14.6
月平均	3,044		3,262					
一日平均患者数	100.1		107.3					

1-2 在院患者数（科別）

	2022年度		2023年度		増減数	増減率(%)	平均在院日数	
	患者数	構成比(%)	患者数	構成比(%)			2022年度	2023年度
内 科	7,423	20.3	5,439	13.9	△ 1,984	△ 26.7	17.9	19.4
呼 吸 器 内 科	6,066	16.6	7,351	18.8	1,285	21.2	25.5	27.1
循 環 器 内 科	3,239	8.9	3,846	9.8	607	18.7	14.1	16.4
肝 臓 内 科	629	1.7	432	1.1	△ 197	△ 31.3	28.0	17.6
小 児 科	398	1.1	700	1.8	302	75.9	2.1	2.5
外 科	3,417	9.4	4,144	10.6	727	21.3	11.3	12.4
血 管 外 科	672	1.8	664	1.7	△ 8	△ 1.2	5.3	5.9
泌 尿 器 科	1,654	4.5	1,920	4.9	266	16.1	8.8	8.7
整 形 外 科	9,645	26.4	10,883	27.8	1,238	12.8	15.6	17.7
形 成 外 科	884	2.4	1,044	2.7	160	18.1	25.3	22.2
眼 科	93	0.3	82	0.2	△ 11	△ 11.8	1.1	1.0
救 急 科	2,407	6.6	2,643	6.8	236	9.8	13.3	14.3
合 計	36,527	100.0	39,148	100.0	2,621	7.2	13.9	14.6

1-3 入院数（月別）

	2022年度		2023年度		増減数	増減率(%)
	患者数	構成比(%)	患者数	構成比(%)		
4月	232	8.8	198	7.4	△ 34	△ 14.7
5月	198	7.5	240	8.9	42	21.2
6月	246	9.3	250	9.3	4	1.6
7月	224	8.5	252	9.4	28	12.5
8月	248	9.4	247	9.2	△ 1	△ 0.4
9月	234	8.9	199	7.4	△ 35	△ 15.0
10月	225	8.5	205	7.6	△ 20	△ 8.9
11月	222	8.4	217	8.1	△ 5	△ 2.3
12月	220	8.3	224	8.4	4	1.8
1月	155	5.9	210	7.8	55	35.5
2月	212	8.0	217	8.1	5	2.4
3月	228	8.6	223	8.3	△ 5	△ 2.2
合 計	2,644	100.0	2,682	100.0	38	1.4
月平均	220		224			

1-4 入院数（科別）

	2022年度		2023年度		増減数	増減率(%)
	患者数	構成比(%)	患者数	構成比(%)		
内 科	453	17.1	296	11.0	△ 157	△ 34.7
呼 吸 器 内 科	209	7.9	220	8.2	11	5.3
循 環 器 内 科	228	8.6	226	8.4	△ 2	△ 0.9
肝 臓 内 科	21	0.8	13	0.5	△ 8	△ 38.1
小 児 科	193	7.3	277	10.3	84	43.5
外 科	307	11.6	347	12.9	40	13.0
血 管 外 科	128	4.8	111	4.1	△ 17	△ 13.3
泌 尿 器 科	179	6.8	229	8.5	50	27.9
整 形 外 科	593	22.4	591	22.0	△ 2	△ 0.3
形 成 外 科	37	1.4	44	1.6	7	18.9
眼 科	84	3.2	84	3.1	0	0.0
救 急 科	212	8.0	244	9.1	32	15.1
合 計	2,644	100.0	2,682	100.0	38	1.4

2-1 外来患者数（月別）

< 笠岡第一病院 >

	2022年度		2023年度		増減数	増減率（％）
	延べ患者数	構成比（％）	延べ患者数	構成比（％）		
4月	12,532	8.1	12,720	7.9	188	1.5
5月	12,438	8.0	13,235	8.2	797	6.4
6月	12,884	8.3	13,316	8.3	432	3.4
7月	12,888	8.3	13,624	8.5	736	5.7
8月	14,158	9.1	14,034	8.7	△ 124	△ 0.9
9月	13,178	8.5	13,418	8.3	240	1.8
10月	12,911	8.3	13,367	8.3	456	3.5
11月	13,028	8.4	13,619	8.5	591	4.5
12月	14,096	9.1	14,118	8.8	22	0.2
1月	12,164	7.8	13,198	8.2	1,034	8.5
2月	12,061	7.7	12,901	8.0	840	7.0
3月	13,323	8.6	13,169	8.2	△ 154	△ 1.2
合 計	155,661	100.0	160,719	100.0	5,058	3.2

< タカヤ クリニック >

	2022年度		2023年度		増減数	増減率（％）
	延べ患者数	構成比（％）	延べ患者数	構成比（％）		
4月	1,098	8.5	996	7.9	△ 102	△ 9.3
5月	1,145	8.8	1,108	8.8	△ 37	△ 3.2
6月	1,122	8.7	1,061	8.4	△ 61	△ 5.4
7月	1,083	8.4	1,062	8.4	△ 21	△ 1.9
8月	1,116	8.6	1,095	8.7	△ 21	△ 1.9
9月	1,076	8.3	1,019	8.1	△ 57	△ 5.3
10月	1,073	8.3	1,011	8.0	△ 62	△ 5.8
11月	1,061	8.2	1,020	8.1	△ 41	△ 3.9
12月	1,100	8.5	1,049	8.3	△ 51	△ 4.6
1月	1,068	8.2	1,099	8.7	31	2.9
2月	954	7.4	1,013	8.0	59	6.2
3月	1,065	8.2	1,085	8.6	20	1.9
合 計	12,961	100.0	12,618	100.0	△ 343	△ 2.6

2-2 外来患者数（科別）

<笠岡第一病院>

	2022年度		2023年度		増減数	増減率(%)
	延べ患者数	構成比(%)	延べ患者数	構成比(%)		
内 科	15,354	9.9	14,085	8.8	△ 1,269	△ 8.3
呼 吸 器 内 科	7,139	4.6	7,262	4.5	123	1.7
循 環 器 内 科	15,261	9.8	15,673	9.8	412	2.7
消 化 器 内 科	2,397	1.5	2,846	1.8	449	18.7
肝 臓 内 科	1,821	1.2	1,865	1.2	44	2.4
腎 臓 内 科	1,050	0.7	1,432	0.9	382	36.4
神 経 内 科	969	0.6	952	0.6	△ 17	△ 1.8
糖尿病内分泌内科	3,053	2.0	3,129	1.9	76	2.5
透 析	24,747	15.9	25,197	15.7	450	1.8
リウマチ内科	1,314	0.8	1,282	0.8	△ 32	△ 2.4
皮 膚 科	7,397	4.8	7,551	4.7	154	2.1
小 児 科	20,432	13.1	25,228	15.7	4,796	23.5
外 科	3,218	2.1	2,856	1.8	△ 362	△ 11.2
血 管 外 科	986	0.6	868	0.5	△ 118	△ 12.0
心臓血管外科	367	0.2	361	0.2	△ 6	△ 1.6
乳腺甲状腺外科	1,416	0.9	1,559	1.0	143	10.1
泌 尿 器 科	9,367	6.0	9,129	5.7	△ 238	△ 2.5
脳神経外科・脳卒中内科	1,438	0.9	1,041	0.6	△ 397	△ 27.6
整 形 外 科	17,823	11.4	17,457	10.9	△ 366	△ 2.1
形 成 外 科	4,583	2.9	4,144	2.6	△ 439	△ 9.6
眼 科	3,799	2.4	3,974	2.5	175	4.6
リ ハ ビ リ	2,869	1.8	3,517	2.2	648	22.6
救 急 科	2,416	1.6	2,764	1.7	348	14.4
歯 科	6,445	4.1	6,547	4.1	102	1.6
合 計	155,661	100.0	160,719	100.0	5,058	3.2

2-3 外来初診患者数（科別）

<笠岡第一病院>

	2022年度		2023年度		増減数	増減率(%)
	患者数	構成比(%)	患者数	構成比(%)		
内 科	1,847	10.9	1,696	9.7	△ 151	△ 8.2
呼 吸 器 内 科	375	2.2	575	3.3	200	53.3
循 環 器 内 科	596	3.5	869	5.0	273	45.8
消 化 器 内 科	352	2.1	654	3.7	302	85.8
肝 臓 内 科	247	1.5	244	1.4	△ 3	△ 1.2
腎 臓 内 科	11	0.1	20	0.1	9	81.8
神 経 内 科	7	0.0	14	0.1	7	100.0
糖尿病内分泌内科	27	0.2	21	0.1	△ 6	△ 22.2
透 析	8	0.0	6	0.0	△ 2	△ 25.0
リウマチ内科	26	0.2	30	0.2	4	15.4
皮 膚 科	1,490	8.8	1,512	8.6	22	1.5
小 児 科	4,915	29.1	5,555	31.7	640	13.0
外 科	542	3.2	300	1.7	△ 242	△ 44.6
血 管 外 科	97	0.6	88	0.5	△ 9	△ 9.3
心臓血管外科	85	0.5	92	0.5	7	8.2
乳腺甲状腺外科	153	0.9	166	0.9	13	8.5
泌 尿 器 科	819	4.9	621	3.5	△ 198	△ 24.2
脳神経外科・脳卒中内科	134	0.8	117	0.7	△ 17	△ 12.7
整 形 外 科	2,184	12.9	1,981	11.3	△ 203	△ 9.3
形 成 外 科	573	3.4	454	2.6	△ 119	△ 20.8
眼 科	233	1.4	222	1.3	△ 11	△ 4.7
リ ハ ビ リ			8			
救 急 科	833	4.9	986	5.6	153	18.4
歯 科	1,329	7.9	1,282	7.3	△ 47	△ 3.5
合 計	16,883	100.0	17,513	100.0	630	3.7

瀬戸いこい苑

<入所利用者数>

	2022年度		2023年度		増減数	増減率(%)
	延べ利用者数	構成比(%)	延べ利用者数	構成比(%)		
4月	1,998	8.6	2,008	8.6	10	0.5
5月	1,951	8.4	1,995	8.6	44	2.3
6月	1,921	8.3	1,870	8.0	△ 51	△ 2.7
7月	2,009	8.6	1,931	8.3	△ 78	△ 3.9
8月	1,970	8.5	1,899	8.2	△ 71	△ 3.6
9月	1,877	8.1	1,872	8.0	△ 5	△ 0.3
10月	1,873	8.1	1,985	8.5	112	6.0
11月	1,940	8.3	1,951	8.4	11	0.6
12月	2,081	9.0	1,948	8.4	△ 133	△ 6.4
1月	1,967	8.5	1,938	8.3	△ 29	△ 1.5
2月	1,692	7.3	1,890	8.1	198	11.7
3月	1,962	8.4	2,005	8.6	43	2.2
合 計	23,241	100.0	23,292	100.0	51	0.2
一日平均入所者数	63.7		63.8			

<通所リハビリ利用者数>

	2022年度		2023年度		増減数	増減率(%)
	延べ利用者数	構成比(%)	延べ利用者数	構成比(%)		
4月	467	2.0	326	1.4	△ 141	△ 30.2
5月	469	2.0	317	1.4	△ 152	△ 32.4
6月	504	2.2	347	1.5	△ 157	△ 31.2
7月	465	2.0	344	1.5	△ 121	△ 26.0
8月	503	2.2	394	1.7	△ 109	△ 21.7
9月	477	2.1	367	1.6	△ 110	△ 23.1
10月	503	2.2	382	1.6	△ 121	△ 24.1
11月	455	2.0	389	1.7	△ 66	△ 14.5
12月	429	1.8	397	1.7	△ 32	△ 7.5
1月	340	1.5	372	1.6	32	9.4
2月	342	1.5	397	1.7	55	16.1
3月	387	1.7	432	1.9	45	11.6
合 計	5,341	23.0	4,464	19.2	△ 877	△ 16.4
一日平均利用者数	14.6		12.2			

<訪問看護利用者数>

	2022年度		2023年度		増減数	増減率(%)
	延べ利用者数	構成比(%)	延べ利用者数	構成比(%)		
4月	271	1.2	238	1.0	△ 33	△ 12.2
5月	238	1.0	279	1.2	41	17.2
6月	271	1.2	215	0.9	△ 56	△ 20.7
7月	251	1.1	198	0.9	△ 53	△ 21.1
8月	257	1.1	180	0.8	△ 77	△ 30.0
9月	236	1.0	177	0.8	△ 59	△ 25.0
10月	233	1.0	173	0.7	△ 60	△ 25.8
11月	282	1.2	164	0.7	△ 118	△ 41.8
12月	263	1.1	160	0.7	△ 103	△ 39.2
1月	240	1.0	192	0.8	△ 48	△ 20.0
2月	224	1.0	145	0.6	△ 79	△ 35.3
3月	256	1.1	126	0.5	△ 130	△ 50.8
合 計	3,022	13.0	2,247	9.6	△ 775	△ 25.6
一日平均利用者数	8.3		6.2			

4 時事問題の集約

法人事務局 畑中 真一

2023年4月～6月

海外…（4月）フィンランドが北大西洋条約機構（NATO）に新規加盟することが決定。

（5月）世界保健機構（WHO）は新型コロナウイルスの「国際的な公衆衛生上の緊急事態」を解除し、世界的なコロナ脅威は緊急事態宣言から約3年3ヵ月で平時に戻りました。

（6月）テニス全仏オープン混合ダブルスで加藤未唯・ティムプッツ組が初優勝。車いす男子シングルスでは小田凱人選手（17歳）が四大大会史上最年少で初優勝。

国内…（5月）新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行。全国的に社会経済活動も正常化してきました。

（5月）G7サミットが広島市で開催。日本では7回目。ウクライナのゼレンスキー大統領も電撃的に広島を訪れ対面で出席しました。

（6月）出入国管理及び難民認定法改正、財源確保法、LGBT理解増進法が成立。

県内…（4月）倉敷市でG7労働雇用大臣会合が開催。

（4月）井原市の平櫛田中美術館がリニューアルオープンしました。また2024年2月より代表作の一つである「鏡獅子」が国立劇場より里帰りし、特別展で展示されています。

（5月）2023年度「SDGs未来都市」に備前市、福山市が追加選定されました。

2023年7月～9月

海外…（7月）TPP（環太平洋パートナーシップ協定）に英国の加入が正式決定。

（8月）米ハワイ州マウイ島で大規模な山火事が発生し約100人が死亡。西岸の町ラハイナ地区に壊滅的な被害をもたらしました。

（9月）北アフリカのモロッコ中部でマグニチュード6.8の大地震が発生し、2,900人以上が死亡しました。

国内…（7月）中古車販売・買取会社のビッグモーターで自動車保険金の不正請求が発覚しその後も数々の問題、体制の不備が指摘されました。

（8月）福島第一原子力発電所の処理水海洋放出（第1回）が開始となりました。

（9月）ジャニーズ事務所は、創業者が過去数十年にわたって多数の未成年者に性加害を繰り返してきた事実を認めました。

県内…（7月）笠岡市が島しょ部の救急体制を強化するため、新しく救急艇を導入しました。自動心肺蘇生装置などの医療機器を備えており、船内での救命処置が可能となりました。

（9月）岡山市に岡山芸術創造劇場ハレノワが

グランドオープンしました。

2023年10月～12月

海外…（10月）パレスチナのガザ地区を支配するイスラム組織ハマスがイスラエルに対し大規模な攻撃を行い、イスラエル軍は報復としてガザ地区の攻撃を開始しました。

（10月）メジャーリーグエンゼルスの大谷翔平選手が今シーズン44本塁打で日本人初の本塁打王を獲得。また史上初の2年連続「2桁勝利2桁本塁打」で2度目のMVPに選ばれました。

（11月）全世界で新型コロナウイルス感染による死亡者が500万人を超えました。

国内…（10月）将棋の藤井聡太六冠は、名人（6月）及び王座（10月）も奪取し八大タイトル独占を史上初で達成しました。

（10月）インボイス制度（売手が買手に対し正確な適用税率や消費税等を伝える制度）が開始しました。

（11月）自由民主党派閥の政治資金パーティーを巡り、パーティー券の販売ノルマ超過分を議員側に環流させ政治資金収支報告書に記載せず裏金としていたことが表面化しました。

県内…（10月）吉備中央町の浄水場で国の暫定目標値を大幅に超える有害な有機フッ素化合物が過去3年間に検出されていたことが判明しました。

（12月）全国中学校駅伝大会で岡山市の京山中学校が男女とも初優勝しました。

2024年1月～3月

海外…（2月）ロシアによるウクライナ侵攻後2年経過しました。しかし戦闘状態は続いており市民の死傷者、施設の被害状況は深刻です。

（3月）EUでAI規制法が可決、2026年にも施行されます。AIを包括的に規制する法律は世界初。

国内…（1月）正月に能登半島地震が発生。日本海沿岸の広範囲で津波が発生し、石川県珠洲市輪島市鳳珠郡穴水町などで土砂災害、火災、液状化現象など甚大な被害をもたらしました。

（2月）日経平均株価が39,098.68円となり、1989年バブル経済ピーク時につけた最高値を更新しました。

県内…（1月）全日本バレーボール高等学校選手権大会で、女子は岡山市の就実高校が優勝しました。

（3月）2018年西日本豪雨で被災した倉敷市真備町地区を流れる小田川と高梁川の合流点付替え工事が完了し、「真備緊急治水対策プロジェクト」の完成記念式典が開かれました。

5 福利厚生

- | | |
|--------------------|--|
| 1. 永年勤続表彰の実施 | 毎年5月12日の「病院の日・看護の日」に合わせ、永年勤続表彰を実施しています。2023年度は5月12日に20年表彰4名、10年表彰9名、5年表彰14名の職員を表彰しました。 |
| 2. 予防接種 | 職員の健康管理を考え、希望者全員にインフルエンザの予防接種を無料で行いました。感染リスクの高い職員を中心にB型肝炎ワクチン定期接種も無料で行いました。また職員の18歳以下の子女に対して予防接種（インフルエンザ・水痘・ムンプス）の半額を免除しました。 |
| 3. 医療費減免 | 職員及び職員家族（一親等まで）に対して笠岡第一病院にて受診した際の医療費を減免補助しています。（職員一人当たり50,000円／年を限度） |
| 4. 家族手当の支給 | 15歳以下の子女を扶養する常勤職員に対し子供各人6,000円／月を支給しました。（2023年度家族手当支給職員65名） |
| 5. 子育て支援手当の支給 | 5歳以下の子女を持ち保育料を負担している女性職員に保育料（認可保育園・認定こども園のみ）の半額を支給しました。（常勤職員20,000円／月、パートタイマー職員10,000円を限度、2023年度子育て支援手当支給職員20名） |
| 6. 育児休業制度 | 原則として子女が1歳に達するまでを限度として、育児休業制度を設けています。2023年度対象者は女性は19名で取得率は100%、男性5名です。 |
| 7. 病児保育の実施 | 当院の病児保育を利用し勤務する職員に対して保育利用料一人1,020円／回（一般2,050円／回）を補助しました。2023年度職員病児保育延べ利用者数396名。 |
| 8. 職員食 | 2017年6月より職員向け昼食として職員食を開始しています。職員食実費分に加えて毎回サラダ、汁物など一品を無料で提供しています。 |
| 9. 健康増進クラブ ONE の利用 | 健康増進クラブ ONE を利用する職員に対して、利用料を無料としています。また瀬戸ライフサポートセンター1階にもトレーニングルームを設置しており休憩時など気軽に利用できます。 |
| 10. テニスコートの利用 | 2018年11月より清和会、かぶと会職員用としていつでも利用できる人工芝テニスコートを整備しました。健康管理センター屋上より望む素晴らしい景色とともに、爽やかなテニスで心身ともリフレッシュできます。 |
| 11. 優待施設の案内 | 全国に点在するダイワロイヤルホテルメンバーズチケットを希望者に交付しました。 |

6 病院概要

2024年3月31日現在

名 称	医療法人社団清和会 カサオカダイイチビョウイン 笠岡第一病院 Kasaoka Daiichi Hospital
所 在 地	〒714-0043 岡山県笠岡市横島1945番地 1945 Yokoshima, Kasaoka, Okayama, 714-0043, Japan
電 話 番 号	0865-67-0211（代表）
FAX 番 号	0865-67-3131
理 事 長	ミヤシマ 宮島 コウスケ 厚介
院 長	ハシヅメ 橋詰 ヒロユキ 博行
事 務 局 長	アカサコ 赤迫 ケイタ 圭太
看 護 部 長	ナカオ 中尾 ルミ 留美
開 設	1952（昭和27）年9月
病 床 数	148床（一般病床 94床、地域包括ケア病床 54床） 一般病棟入院基本料 10対1
診 療 科	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、肝臓内科、腎臓内科、神経内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、人工透析内科、リウマチ科、皮膚科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、血管外科、乳腺・内分泌外科、泌尿器科、脳神経外科、整形外科、形成外科、眼科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、救急科、歯科
関 連 施 設	笠岡第一病院健康管理センター タカヤ クリニック 介護老人保健施設 瀬戸いこい苑 訪問看護ステーション 瀬戸いこい苑 笠岡第一病院いこい指定居宅介護支援事業所

笠岡第一病院
ホームページ



7 施設基準・施設認定

2024年 3月31日現在の施設基準届出状況

<笠岡第一病院>

基本診療料	機能強化加算
	初診料（歯科）の注1に掲げる基準
	歯科外来診療環境体制加算1
	一般病棟入院基本料（4）
	救急医療管理加算
	診療録管理体制加算1
	医師事務作業補助体制加算2（20：1）
	急性期看護補助体制加算（25：1）
	重症者等療養環境特別加算
	医療安全対策加算1
	感染対策向上加算2
	患者サポート体制充実加算
	後発医薬品使用体制加算2
	病棟薬剤実務実施加算1
	データ提出加算（2）
	入退院支援加算1
	認知症ケア加算（3）
	せん妄ハイリスク患者ケア加算
	精神疾患診療体制加算
	排尿自立支援加算
	地域包括ケア病棟入院料1
	看護職員処遇改善加算
特掲診療料	心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算
	糖尿病合併症管理料
	がん性疼痛緩和指導管理料
	がん患者指導管理料Ⅰ
	がん患者指導管理料Ⅱ
	小児運動器疾患指導管理料
	二次性骨折予防継続管理料1
	二次性骨折予防継続管理料2
	二次性骨折予防継続管理料3
	下肢創傷処理管理料
	院内トリアージ実施料
	夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算
	外来腫瘍化学療法診療料2
	ニコチン依存症管理料
	がん治療連携指導料
	外来排尿自立指導料
	薬剤管理指導料
	地域連携診療計画加算
	医療機器安全管理料1
	総合医療管理加算
	別添1の「14の2」の1の（2）に規定する在宅療養支援病院
	在宅時医学総合管理料及び施設入居時等医学総合管理料
	在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料

在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算	
BRCA1/2 遺伝子検査	
検体検査管理加算（Ⅱ）	
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	
ヘッドアップティルト試験	
小児食物アレルギー負荷検査	
前立腺針生検法（MRI 撮影及び超音波検査融合画像によるもの）	
有床義歯咀嚼機能検査1の口及び咀嚼能力検査画像診断管理加算2	
CT 撮影及びMRI 撮影	
冠動脈CT 撮影加算	
心臓MRI 撮影加算	
外来化学療法加算2	
無菌製剤処理料	
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）	
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）	
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	
がん患者リハビリテーション料	
歯科口腔リハビリテーション料2	
人工腎臓（1）	
導入期加算1	
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	
CAD/CAM 冠	
緊急整復固定加算及び緊急挿入加算	
仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術（便失禁）	
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	
大動脈バルーンパンピング法（IABP 法）	
膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術	
医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	
輸血管理料Ⅱ	
輸血適正使用加算	
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
胃瘻造設時嚥下機能評価加算	
歯周組織再生誘導手術	
麻酔管理料（1）	
保険医療機関間の連携による病理診断	
クラウン・ブリッジ維持管理料	

<タカヤ クリニック>

特掲診療料	CT 撮影及びMRI 撮影
	人工腎臓（1）
	導入期加算1
	透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算

<笠岡第一病院健康管理センター>

CT 撮影及びMRI 撮影
保険医療機関間の連携による病理診断

施設認定状況（2024年 3 月31日現在）

	日本医療機能評価機構認定病院
	臨床研修病院指定施設
	日本整形外科学会専門医研修施設
	日本手外科学会専門医研修施設
	日本リハビリテーション医学会研修施設
	日本リウマチ学会教育施設
	日本泌尿器科学会専門医教育施設
	日本臨床薬理学会専門医研修施設
	下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設
	日本麻酔科学会麻酔科認定病院
	日本外科学会外科専門医制度修練施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
病児保育関係	病児・病後児保育事業実施施設
健康診断関係	全国健康保険協会生活習慣病予防健診実施施設

編集後記

19冊目となる2023年度年度報が完成しました。2023年5月8日にCOVID-19が感染症法上5類となり、これまで控えていた歓迎会や忘年会、職員研修旅行など、マスクを外した笑顔が見られるイベントも再開されました。トピックスでも紹介させていただいたとおり、病院機能評価の更新があり、業務の見直しや再確認をするかたわら、池田清明ふるさとギャラリーが開設され、文化面でも大きく変化し、まさにコロナ後の再出発といえる一年でした。2024年冬には新しい手術棟が竣工されます。これからも地域の皆様に質の高い医療・福祉が提供できるよう、職員一同たゆまぬ努力をまいります。

年度報編集委員 渡邊昌江

<裏表紙について>

人工透析センターからは笠岡市立カブトガニ博物館に隣接する恐竜公園の木々の紅葉が一望できます。

<2023年度 年度報編集委員会 メンバー>

(医局) 橋詰博行、(人工透析センター) 俵 千紘、(薬剤管理科) 坪井里奈、(栄養管理科) 中野有季、(臨床検査科) 石黒雄飛、(リハビリテーション科) 木原智紀、(看護部) 西原知加子・兼武由美、(医事課) 濱田奈美、(法人事務局) 畑中真一、(健康管理センター) 赤澤絵美、(瀬戸いこい苑) 今井美智子、(診療情報管理室) 渡邊昌江



医療法人社団 清和会
笠岡第一病院 年度報

笠岡第一病院

健康管理センター タカヤ クリニック

介護老人保健施設

瀬戸いこい苑

2023年度

2024年5月25日発行

編集 医療法人社団 清和会
笠岡第一病院

笠岡市横島1945
TEL 0865-67-0211
URL <https://www.kasaoka-d-hp.or.jp>

笠岡第一病院
ホームページ



